弘前大学人文社会科学部シラバス　2019年度

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
1	1	人文社会科学総文化創生課程多文化共生コース	アジア地域学A (Asian Regional Studies A)	2	選択必修	2	後期	水曜日5-6時限	フール ト.V.M	–	レベル1〜3	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 3 学び続ける力	平和学の立場からアジア地域における国際関係と紛争の理解を深めること アジア地域における紛争の具体例について学び、その原因と解決策について考察する能力を身につけること	平和学のコンセプトを紹介し、アジア地域におけるあらゆる紛争の原因と背景を解説する講義です。直接的暴力だけではなく構造的暴力の問題も事例で取り上げます。	第1回　ガイダンス：講義の概要、単位取得と評価基準の説明 第2回　ノーベル平和賞について 第3回　平和学とは何か ― 直接的暴力を中心に 第4回　冷戦時代―般論と国連の理念と仕組み① 第5回　冷戦時代―般論と国連の理念と仕組み② 第6回　国連の紛争解決と平和構築メカニズムの概要 第7回　朝鮮戦争 第8回　ベトナム戦争 第9回　インドとパキスタン 第10回　ミャンマーのロヒンギャ問題 第11回　核兵器拡散問題 第12回　核兵器のレジーム 第13回　イランの場合（期末課題の提示） 第14回　北朝鮮の場合 第15回　まとめと展望	予習：講義時に予告される次回のテーマについて、自習的に新聞・TV・インターネットなどの国際関係関連報道も注意深く見まもってください。 復習：毎回の講義の最後に、講義についてのコメントペーパーを出提出してもらいます。。	政治学関連	歴史学関連	地理学関連	–	教科書は使用しません。講義中適宜資料を配布します。	参考文献は、講義中に適宜指示します。	毎回のミニレポート(コメント・ペーパー)(60点)+期末課題(40点)を総合して評価します 期末課題では第13回で提示されるテーマで論述試験が課されます。 詳しくは第1回のガイダンスに説明されます。	講義	提示資料、ビデオ、学生の質問・コメントなどを織入した講義です。	テーマの理解を深めるために、講義を聞くだけではなく自習的に新聞・TV・インターネットなどの国際関係関連報道も注意深く見まもることが必要です。	木曜日3-4時限(是休みを含む)または予約で随時	fuhrt(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし
2	2	人文社会科学総文化創生課程多文化共生コース	アジア地域学B (Asian Regional Studies B)	2	選択必修	2	後期	火曜日5-6時限	城本 るみ	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 3 学び続ける力	私たちの生活や働き方など、身近な問題と中国がどのように関わっているかを知り、その背景が理解できていること 市場経済導入後の中国が、現在どのような課題を抱えているかを理解できていること	○改革開放政策以降の中国社会を扱い、中国がどのように私たちの生活と関わっているのかを考えます。 ○現在の中国がどのような問題を抱えているのかを概観し、日本社会のあり方との比較によって、自分たちの課題を考えます。	第1回：導入（中国の特徴を知る） 第2回：改革開放政策について①⇒改革開放政策以降の中国社会の特徴とその影響を知る 第3回：改革開放政策について② 第4回：改革開放政策について③ 第5回：格差と競争社会①⇒格差と競争社会の様相とその影響を知る 第6回：格差と競争社会② 第7回：格差と競争社会③ 第8回：格差と競争社会④ 第9回：人口問題①⇒少子高齢化の実相とその影響を知る 第10回：人口問題② 第11回：人口問題③ 第12回：民族問題①⇒多民族国家の抱えるさまざまな課題について知る 第13回：民族問題② 第14回：民族問題③ 第15回：総括（授業の振り返りと理解度の確認） ＊授業の進行状況や受講者の関心動向等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	（予習）事前に予告された次回のテーマについて、キーワードを中心に論点を調べておく。 （復習）学習した事柄について、さらに情報を収集して理解を深める。	社会学関連	–	–	–	使用しません。	授業中に適宜紹介します。 中国に関する報道全般に関心をもってください。	平常評価（授業へのとりみと毎回提出してもらうペーパー内容）50% 期末評価（理解度の確認）50% 上記を合算して最終的に評価します。	講義	教員による講義と必要に応じてその内容に関する映像確認を行います。 授業終了時に毎回ミニレポートを作成してもらい、それを平常評価の対象とします。	第1回目から90分講義を行います。 授業方針・注意事項の説明も初回に行いますので、履修を希望する人は初回授業からきちんと出席してください。	火曜・水曜：12:00-12:40 ＊事前にメールで連絡があれば、他の時間帯でも調整可能です。	rumi(at)hirosaki-u.ac.jp ＊(at)を@に置き換えてください。	特になし。
3	3	人文社会科学総文化創生課程多文化共生コース	アメリカ・オセアニア地域学A(North America・Oceania Regional Studies A)	2	選択必修	2	後期	木曜日3・4時限	南 修平	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 3 学び続ける力	アメリカ最大の都市であるニューヨークの地理や歴史、文化に関する基本知識を身につけること 多様性を認め合うことを目指す多文化社会の現実と課題への理解 受講に関連する具体的な課題を通して実際に留学生や外国人教員と交流し、異文化に対して体験的に理解すること	本講義では大西洋側の「玄関」として多くの移民が出入りし、アメリカを代表する都市として存在し続けるニューヨーク(コファーカス)。この街に生きる人々の営みを学びます。そして、異なる文化を持つ人々同士の関係―コミュニケーションをとる中に現れる厳しい現実にも目を向け、ニューヨークを通して世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題、そして21世紀社会のあり得るべき秩序について考察をめぐらせていきます。	第1回　イントロダクション―ニューヨークを知る 第2回　世紀転換期のニューヨーク―大量移民の流入 第3回　働くニューヨーク―移民労働者の生活世界 第4回　消費するニューヨーク―大衆消費社会とコニー・アイランド 第5回　キュリオシティから浮かぶ人種主義―具体的経験から学ぶ 第6回　Goodbye Dodgers: 変わりゆくブルックリン 第7回　ブラック・ニューヨーク―都市に生きる黒人 第8回　「いかなる手段を取ろうとも」―ハーレムのマルコムX 第9回　異文化を体験的に学ぶ―留学生・外国人教員との交流 第10回　マジソン・スクエア・ガーデン―大衆文化の街ニューヨーク 第11回　セクシャル・ニューヨーク―性的マイノリティの声を聴く 第12回　ストリートに生きるアーティスト―キース・ヘリングから見たニューヨーク 第13回　マイノリティとして生きる―留学生・外国人教員との対話から 第14回　ラディカル・ニューヨーク―抵抗する人々 第15回　まとめ―世界の文化の多様性と異文化コミュニケーションの現状と課題 期末テスト	講義では、その回に扱った課題あるいは今後扱う課題に関する様々なタイプの参考資料を適宜紹介します。更に理解を深めていくよう以下のような復習と予習の方法はとても役に立つと思います。 予習：文献資料の他、視覚資料も活用し、自分なりにその課題に対する具体的で立体的なイメージをつかんでみること 復習：紹介した文献やウェブサイトを実際に手に取って中身を見て読む、そのサイトにアクセスしてみること	歴史学関連	社会学関連	芸術関連	–	特定の教科書は使用しません。	貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』（岩波書店、2018年） 荒このみ『マルコムX』（岩波書店、2009年） 中村寛『残響のハーレム―ストリートに生きるムスリムたちの声』（夫和国、2015年）	平常評価50%（講義内で課された各種課題への取り組み、授業への参加度）、期末試験50%を総合して評価します。 規定の回数以上講義を欠席した人は自動的に単位取得条件を失います。遅刻2回で欠席1回に換算します。	講義	講義形式を基本としますが、異文化理解を促す上で、受講生にはいくつかのリサーチや課題が与えられ、その結果に基づいた議論やレヴュー等の時間が設けられます。	予備知識は必要としませんが、専門的な内容を扱うので、これまでに担当教員によるアメリカ関連の講義を受講していれば、より理解がしやすいと思います。	火曜日9・10 時限です。ただし、不在の場合もあるので、事前にアポイントメントをとることをお勧めします。	初回の講義にお伝えします。	特になし。
4	4	人文社会科学総文化創生課程多文化共生コース	アメリカ・オセアニア地域学B(North America・Oceania Regional Studies B)	2	選択必修	2	後期	火曜日9-10時限	澤田 真一	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 3 学び続ける力	「共生」をキーワードに、「差異」が「差別」やイデンティティ・クライシスとならない社会を構築するための様々なアイディアと思想を、オセアニアの事例から学ぶこと 講義で取り上げるテーマについて、まず当事者（マイノリティ）の声に耳を傾けることを通じて理解を深め、新たな視点を持って南半球から日本を批判的に捉え返すことができるようになること	この講義は、受講者に「驚き」を提供します。南半球から日本を眺めれば、私たちが世界から見たナンセンス(コモン・ナンセンス)に他ならない常識(コモン・センス)に囚われている現状が見えてきます。「世界で一番平和な国」に選ばれたことがあるニュージーランドを共生の主なモデルとして、オセアニア全体を捉えていきます。講義では主にふたつの「差異」の問題を取り上げます。まず初めに民族の問題について論じ、二文化（先住民族マオリと白人）の相克から共生に至る末での道のりをたどります。次にセクシャル・マイノリティの問題を取り扱います。ニュージーランドが多文化共生社会を実現していく過程で妨げ出された共生の思想を学び、それがどのように実践に移されていったのかを紹介します。 If my lecture is boring, please feel free to take a nap!	第1回　イントロダクション：自己を世界の中で捉え直す 第2回　映画「クジラの島の少女」：鑑賞 第3回　映画「クジラの島の少女」：解釈　伝統と個人の才能 第4回「差異」と「差別」アルベール・メンミによる「人種差別」の定義をめぐって 第5回　多民族国家と共生（1）：植民地主義と同化政策、そしてHealing Historyへ 第6回　多民族国家と共生（2）：思考の枠としての「聖書」と「マオリ神話」 第7回　多民族国家と共生（3）：白人とマオリの文化的弁証法 ・ニュージーランドの環境政策 第8回　多民族国家と共生（4）：白人とマオリの文化的弁証法 ・ニュージーランドの非核政策 第9回「他者」はいかにして作り出されるのか：サイードとクリステヴァから 第10回　セクシュアリティと共生（1）：ニュージーランドのゲイ・ディベート ・1960年代〜1986年 第11回　セクシュアリティと共生（2）：ニュージーランドのゲイ・ディベート ・1986年〜現在 第12回　セクシュアリティと共生（3）：ホモフォビアとホモソーシャル ・フーコーとセジウィックから 第13回　共生の思想（1）：マオリ思想とキリスト教 第14回　共生の思想（2）：生の偶然性の自覚 ・神谷美恵子とジョン・ロールズから 第15回　Celebrating Diversity: ニュージーランドの多文化教育から 定期試験	予習：講義時に配布する資料は必ず前もって読んでくることが求められます。 復習：講義では毎回扱ったテーマに関連した課題（200字程度）を出し、次回に提出してもらいます。	思想関連	文学関連	–	–	講義時にプリントを配布します。	随時講義で紹介していきます。	平常評価（授業への参加度、コメントペーパー）：40% 期末評価（期末試験）：60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行います。	講義	講義形式になりますが、学生の皆さんはコメントペーパーを通じて質問したり、自分の意見を表明することができます。	新たな視座を獲得したい、あるいは海外留学を考えている学生の皆さんは、ぜひ受講してください。	金曜日7〜8時限、昼休み	ssawada@hirosaki-u.ac.jp	特にありません。
5	5	人文社会科学総社会経営課程企業戦略コース	インターンシップA (Internship A)	3	選択必修	2	前期	集中	森 樹男、高島 克史	地域志向科目	レベル3	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 2 解決していく力	地域企業の地域における意義を実践を通じて理解すること 地域企業に潜む経営課題を発見すること 自ら発見した経営課題の解決策を提案すること	本講義は、事前研修・インターンシップ・事後研修からなっています。 事前研修では、地域内にどのような企業があるのか調査します。次に、自らの将来キャリアをふまえて、インターンシップ先を選定します。 インターンシップ先については、「自ら開拓する」もしくは「キャリアセンターを通じて紹介を受ける」のいずれかで決定します。業者から紹介を受けたインターンシップ先を選定した場合、本講義の評価対象とはなりません。 自ら開拓したインターンシップ先で1週間以上の実習を行います。 実施は基本的に8月から9月の間で実施してもらいます。 事後研修として「インターンシップの結果報告」「インターンシップを行った企業が抱える経営課題とその解決策」を発表してもらいます。	第1回　オリエンテーション 第2回　事前ガイダンス 第3回〜第15回　各自インターンシップを実施 第16回　成果報告	本講義は、自ら考え、行動する姿勢を求めていきます。 従って、予習復習において、インターンシップ先の担当者と一緒に活動の振り返りやフィードバックを得るなど自主的積極的に取り組むことを求めます。 また、機会を見つけて、青森県内で開催される地域や地域企業に関するシンポジウムや報告会・勉強会に積極的に参加するようにしてください。	経営学関連	–	–	実務教員	特になし	必要に応じて紹介します	「事前事後研修の参加度」「インターンシップの活動状況」「事後報告とレポート内容」をふまえて総合的に評価します。	講義	実習形式です。 教室での活動に留まらず、フィールドに出て調査をするなど、学外での活動が多い、実践的な授業です。	・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります ・この授業は、与えられた課題を受け身的にこなすだけでは達成できません。よりよい結果を出すためには、自ら考え行動する姿勢が求められます。また、最後までやり抜くという気持ちを持つことも必要です。オリエンテーション・事前ガイダンス・事後報告会の日時については、掲示板で連絡します。書投から掲示には注意しておいてください。	木曜日8時40分〜10時10分	katsushi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	受講希望者多数の場合は、履修者を制限します。 受講希望者はかならず第1回講義オリエンテーションに出席してください。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
6	6	人文社会科学部社会経営環境企業戦略コース	インターンシップB(Internship B)	3	選択必修	2	後期	集中	森 樹男、高島 究史	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	座学で学んだことが、実際の企業でどのように活かされているかを理解できるようになること 企業での就業体験を通じて、自らのキャリアを考えることができるようになること 企業での就業体験を通じて、社会人として必要な能力が何かを理解できるようになること 国内と海外のビジネスの違いについて理解できるようになること	本授業は、海外での就業体験を通し、大学の授業で学びと企業での実践がいかにつながっているかを理解するとともに、自らのキャリアを考える きっかけ作りを目的に実施するものです。また、就業体験から、社会人として必要な能力を知ることも目的としています。 インターンシップ先の開拓は自ら行ってもらいます。自ら開拓したインターンシップ先で1週間以上の実習を行います。インターンシップは12月から2月中旬の間で実施してもらいます。 事後研修として「インターンシップの結果報告」「インターンシップを行った企業が抱える経営課題とその解決策」を発表してもらいます。	第1回　オリエンテーション 第2回　事前ガイダンス 第3回～第15回　現地でのインターンシップ 第16回　事後成果報告 なお、インターンシップの実施については、本学のプログラムの他、学外のプログラムに参加することでも単位の認定をおこなうものとします。単位認定を希望するものは、学期のはじめに事前に相談してください。	本講義は、自ら考え、行動する姿勢を求めていきます。 従って、予習復習においても、自主的積極的に取り組むことを求めます。 また、機会を見つけて、青森県内で開催される海外ビジネスに関するシンポジウムや報告会・勉強会に積極的に参加するようにしてください。	経営学関連	–	–	実務教員	特になし	必要に応じて紹介します。	「事前ガイダンスの参加度」「インターンシップの活動状況」「事後報告とレポート内容」をふまえて総合的に評価します。	講義	講義	実習形式です。 教室での活動に留まらず、フィールドに出て調査するなどなど、学外での活動が多い実践的な授業です。	・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります ・この授業は、与えられた課題を受け身的にこなすだけでは達成できません。よりよい結果を出すためには、自ら考え行動する姿勢が求められます。また、最後までやり抜くという気持ちを持つことも必要です。	木曜日8時40分～10時10分	katsushi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
7	7	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	英語学A(English Linguistics A)	2	選択必修	2	後期	水曜日5・6時限	木村 宣美	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	生成文法理論の哲学的基盤(心理主義に基づく言語と人間の関係)を理解すること 統語論、意味論、音声学・音韻論、形態論、語用論、英語の歴史的変遷、国際共通語としての英語の実態、心理言語学(言語習得)の英語学の各領域の基本・基礎を身につけること コミュニケーション・ツールとしての英語の読解力の向上を図ること	英語の運用能力の向上を図るために、生成文法理論の哲学的基盤、統語論、意味論、音声学・音韻論、形態論、語用論、英語の歴史的変遷、国際共通語としての英語の実態、心理言語学(言語習得)の英語学の各領域の基本・基礎を学びます。	第1回:導入 第2回:普遍文法と媒介変数に基づく言語獲得:生成文法理論入門 第3回:英語学入門 第4回:英語の歴史的変遷 第5回:形態論:形態素、複合 第6回:形態論:派生、屈折 第7回:意味論:意味のネットワーク、同義と反義、多義性 第8回:意味論:環境変異、意味役割、選択制限、語順と情報 第9回:統語論:構成素性、補部と付加詞、句構造 第10回:統語論:動詞句削除、移動、節の構造 第11回:語用論 第12回:音声学・音韻論 第13回:社会言語学:国際共通語としての英語の実態 第14回:社会言語学:社会と英語 第15回:第二言語獲得(心理言語学) ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	[予習][授業の内容予定]に従い、授業が進められます。内容を深く理解するために、予習段階での精読及び練習問題の解答が求められます。 [復習] 内容の理解度を確認するために、課題レポートの提出が求められます。課題レポートの作成に向けて、復習することが求められます。	言語学関連	–	–	–	彭山太郎/ブレンド・デ・シェン/日比谷潤子著 First Steps in English Linguistics [2nd Edition](英語言語学の第一歩) 2004年くろしお出版	必要に応じて、適宜授業で紹介されます。	平常評価(授業への参加度)(20%)及び課題レポート(80%)の結果を総合して、授業としての具体的到達目標に基づき、評価されます。	講義	講義/演習形式(教科書の内容の報告及び解説;練習問題の解答/解説)	1. 読解力の向上を図り、英語学の基礎知識を修得するためには、文献の精読が求められます。 2. 授業で指示された参考文献を積極的に活用し、英語学の知識の充実が求められます。	火曜日5・6時限 [12:40-14:10]	hukimura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
8	8	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	英語学B(English Linguistics B)	2	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	木村 宣美	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	英語学(統語論・意味論)の基本・基礎を身につけること 構造と範疇を意識した文献の精読を通じて、コミュニケーション・ツールとしての英語の読解力の向上を図ること	文法書(Huddleston, Rodney & Geoffrey K. Pullum (2005) A Student's Introduction to English Grammar, Cambridge University Press)の第3章と第4章を読み、読解力の向上を図るとともに、英語学の基礎を学びます。	Chapter 3. Verbs, Tense, Aspect, and Mood 1. The Presnt Perfect 2. The Preterite Perfect 3. Progressive aspect 4. Uses of the Modal Auxiliaries 5. Futurity, Mdality, and Will　及び小テスト(Chapter 3) Chapter 4. Clause structure, complements, and adjuncts 6. Predicates and Predicators; Diagramming Clause Structure 7. Complemets and Adjuncts 8. Distinctive Syntactic Properties of the Subject in English 9. Subject and Actor; Subject and Topic 10. Distinctive Synracitc Properties of the Object in English 11. Direct and Indirect Objects 12. Syntactic Differenes between Predicative complements and Objects 13. Ascriptive and Specifying Uses of the verb be 14. Five canonical clause structures 15. Adjuncts 及び小テスト(Chapter 4) ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	[予習] 文献講読用の資料は配布され、次回の授業までに読んでおくべき範囲が指定されます。内容を深く理解するために、予習段階での精読が求められます。 [復習] 内容の理解度を確認するために、2回の試験(Chapter 3;Chapter 4)が行われます。試験に向けて、復習することが求められます。	言語学関連	–	–	–	教科書は指定されません。文法書の第3章と第4章は、授業用資料として配布されます。	必要に応じて、適宜授業で紹介されます。	平常評価(授業への参加度)(20%)及び文献の内容の理解度を確認するために行われる2回の小テスト(80%)の結果を総合して、授業としての具体的到達目標に基づき、評価されます。	講義	講義/演習形式(文献の内容の報告及び解説)	1. 読解力の向上を図り、英文法及び英語学の基礎知識を修得するためには、文献の精読が求められます。 2. 授業で指示された参考文献を積極的に活用し、英文法及び英語学の知識の充実が求められます。	火曜日5・6時限 [12:40-14:10]	hukimura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
9	9	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	英米文学A(British and American Literature A)	2	選択必修	2	後期	金曜日5・6時限	小野寺 進	–	レベル1～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	イギリス文学の大まかな流れを理解するとともに、主要な作家とその作品に触れること さらにはイギリス文学を理解するために必要な基本的な概念を知ること	英語文学の特色を時代背景と共に歴史的な観点から考察し、欧米文化の基層を明らかにすることを目的とします。英米文学Aは、主にイギリス文学(イギリス文学史)を扱います。	授業計画 第1回:文学とは何か？ 第2回:Geoffrey Chaucer（ジェフリー・チョーサー） 第3回:William Shakespeare（ウィリアム・シェイクスピア） 第4回:John Donne（ジョン・ダン） 第5回:John Milton（ジョン・ミルトン） 第6回:Daniel Defoe（ダニエル・デフォー） 第7回:Jonathan Swift（ジョナサン・スウィフト） 第8回:Laurence Sterne（ロレンス・スターン） 第9回:William Wordsworth & William Blake（ウィリアム・ワーズワス　&　ウィリアム・ブレイク） 第10回:Jane Austen（ジェーン・オースティン） 第11回:Charles Dickens（チャールズ・ディケンズ） 第12回:Charlotte Bronte（シャーロット・ブロンテ） 第13回:James Joyce（ジェームズ・ジョイス） 第14回:W.B. Yeats（ウィリアム・バトラー・イェイツ） 第15回:George Orwell & William Golding（ジョージ・オーウェル　&　ウィリアム・ゴールディング） 第16回:定期試験	各回の授業終了後に復習点と、次回の予習点についてお知らせします。	文学関連	芸術関連	思想関連	–	事前に作品および作品の要約したプリントを配布します。	特にありません。	授業でのパーティシペーションと小テスト(20%)+レポート(20%)+定期試験の成績(60%)で評価します。	講義	スライドを用いた授業を中心に、文芸作品を読んだり、映画で作品に触れることも平行して行います。	毎回の出席が大切です。ミニクイズを実施しますので、授業中も気を抜かずに集中してください。	水曜日5・6時限	susumu(at)hirosaki-u.ac.jp　※(at)は@に置き換えてください。	なし
10	10	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	英米文学B(British and American Literature A)	2	選択必修	2	後期	火曜日7・8時限	堀 智弘	–	レベル2～4	CP・DP 1 見通す力	独立革命期から20世紀までのアメリカ文学の基本的な流れを把握すること アメリカ社会と文学がどのように連動して発展してきたかを理解すること	時代順にアメリカ文学の歴史的発展について講義します。	第1回　イントロダクション(授業の概要とChapter 1: Colonial Beginnings) 第2回　Chapter 2: The Birth of a Nation 第3回　Chapter 3: The Rise of a National Literature 第4回～第5回　Chapter 4: An American Renaissance 第6回　Chapter 5: The Boston Brahmins 第7回　Chapter 6: The Civil War and the "Gilded Age" 第8回　Chapter 7: The Era of Realism and Naturalism 第9回　Chapter 8: At the Turn of the Century 第10回　Chapter 9: The Turning Point of American Literature 第11回　Chapter 10: Poetry from 1900 through 1930s 第12回～第13回　Chapter 11: The Writers of the "Lost Generation" 第14回　Chapter 12: The Thirties 第15回　Chapter 13: The Forties and Fifties 第16回　期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	[予習] 毎回のテキストの指定された範囲(英文)をあらかじめ読んだうえで授業に臨んでください。 [復習] 毎回の内容を自分なりに整理して復習することが必要となります。	文学関連	思想関連	芸術関連	–	An Outline of American Literature (Peter B. High著、Longman)	授業時に適宜紹介します。	期末試験を中心として(50%以上)、平常点(授業参加等)と作品レポートを勘案して評価します。	講義	主に講義形式で、適宜演習を盛り込みます。	「文学基礎論B」を履修済みであることが望ましいです。 英語の教職のための必修科目です。	水曜日12:00〞13:00	horitomo(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
11	11	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	沿岸アジア史(History of Asian Coastal Areas)	2	選択必修	2	後期	集中	弘末 雅士(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	アジア海域に来航した外来者がいかなる海域像や地域像を形成したのか、現地人インフォーマント(情報提供者)の役割を通して理解すること 広域経済世界と個別的な地域世界が相互的に形成される過程を、外来者と地元住民を仲介した存在から把握する視点の重要さを理解すること	○東西海洋交通路の要衝に位置した東南アジアの港市住民と外来者との交流を通して、いかなる交易ネットワークや社会が構築されたのか考察する。 ○近世期(14～16世紀)から20世紀までを対象として、外来者の記録と現地側の語りや史料を比較検討する。	○東西海洋交通路の要衝に位置した東南アジアの港市住民と外来者との交流を通して、いかなる交易ネットワークや社会が構築されたのか考察する。 ○近世期(14～16世紀)から20世紀までを対象として、外来者の記録と現地側の語りや史料を比較検討する。 第1回: 授業のテーマについての全般的な説明 第2回: 前近代の海域アジア世界の特質 第3回: 海域東南アジア世界の展開―王統記から見た建国神話 第4回: 海域東南アジア世界の展開―水先案内人・港務長官・港市支配者 第5回: 海域東南アジア世界の展開―外来者と現地人妻妾 第6回: 海域東南アジア世界の展開―ヨーロッパ人が拠点を構えた港市 第7回: 海域東南アジア世界の展開―文明と野蛮を仲介する港市支配者 第8回: 海域東南アジア世界の展開―後背地の食人風聞の展開 第9回: 東南アジアの海域秩序の変遷 第10回: ヨーロッパ人の持ち込んだ海域秩序と「海賊」 第11回: 植民地体制下の港市・後背地関係の変容 第12回: ヨーロッパ人の東南アジア観 第13回: 二重貢語者の自画像 第14回: 日本占領期の東南アジアとその後の国民統合 第15回: 授業テーマの総括-海域が形成する東南アジア世界の現在　後半時間で期末試験を行う	[予習]特段ありません。 [復習]授業で提示した内容をしっかり復習して下さい。	歴史学関連	–	–	–	授業と関係する資料は、プリントにして配布します。	弘末雅士『東南アジアの港市世界』2004年、岩波書店 弘末雅士『東南アジアの建国神話』2011年、山川出版社	平常評価(リスポンス用紙):35% 期末評価(試験):65% 以上を合算して最終的な成績評価を行う予定です。	講義	講義形式	特段ありません。	なし	なし	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
12	12	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	欧米文化論A (European and American Cultural Traditions A)	2	選択必修	2	後期	木曜日5・6時限	泉谷 安規	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	芸術というジャンルにおける、文学と美術の違いと共通点を理解すること 文学と美術の関係が、19世紀のフランスにおいて、どのような要因と背景で劇的な変化をとげたかを理解すること この二つの芸術(あるいはその他の)ジャンルの相互的影響を通して、芸術というものの人間にとっての意義を学ぶこと	「ルーゴン・マッカール叢書」全20巻の作者として知られている「自然主義」作家エミール・ゾラ(1840–1902)は、また多くの美術批評を書き残した評論家でもあります。この授業ではまず、美術批評家としてのゾラに焦点を当てて、彼の書いた美術評論を読んでいます。ゾラが活躍した時代は、印象派が誕生した時代と重なっていますので、エドゥアール・マネが画壇にデビューしてスキャンダルを巻き起こしたのを目撃しています。ゾラはマネ論(『エドゥアール・マネ――伝記批評研究』(1867)他)を書き、その中で、世間の無理解や嘲笑に対抗して、マネもして印象派を擁護しています。また、画家ポール・セザンヌは南仏時代からのゾラの幼馴染で、パリに上京してからも二人は親しい付き合いを続けていました。このように何かと美術と関係が深いゾラですが、それを利用したのか、「ルーゴン・マッカール叢書」の中の一冊の小説『制作』(『作品』)で、主人公を画家に設定して物語を書いています(この主人公クロードのモデルは、セザンヌともいわれています)。この小説を読むと、当時の美術界の様子、印象派の誕生とスキャンダル、絵画を求めて官展に群がる大衆、そして若がありながらそれを閉而させられずに消えていった、あるいは権力にこびて俗化した多くの画家たち、そして絵画に殉じて破滅していった天才(クロードもその一人です)などがよくわかります。 この授業では、ゾラの書いた美術評論、小説『制作』、書簡集、そしてマネやセザンヌの絵画を見ながら、19世紀後半の小説と絵画の関連性を再視、考察していきたいと思います。	1. イントロダクション 2. ゾラと第2帝政期について 3. マネとセザンヌ 4. ゾラと美術、そして当時の画壇について 5. ゾラの美術批評:『エドゥアール・マネ――伝記批評研究』を読む(1) 6. ゾラの美術批評:『エドゥアール・マネ――伝記批評研究』を読む(2) 7. ゾラの美術批評:『エドゥアール・マネ――伝記批評研究』を読む(3) 8. 『ルーゴン、マッカール叢書』と『制作』 9. ゾラの小説『制作』を読む:主人公クロードの制作作品 10. ゾラの小説『制作』を読む:小説に描かれた官展と大衆 11. ゾラの小説『制作』を読む:クロードの描いた架空の絵画は再現できる(?) 12. 書簡集から読む画家との交流(1) 13. 書簡集から読む画家との交流(2) 14. 印象派に決別を告げるゾラ(?) 15. まとめ(写真家ゾラ)	準備や予習はさほど要求されませんが(こちらで必要な内容は説明します)、事前に配布した資料には必ず目を通して、こちらで指示した次回の授業に必要な事柄については、よく考えて授業に臨んでください。復習については、毎回学んだことの積み重ねが授業の理解につながりますので非常に重要です。	文学関連	芸術関連	–	–	使用しません。必要に応じて、授業内で資料を配布します。	授業内で、必要に応じて指示します。また、参考文献一覧の資料を配布します。	平常評価(授業への積極的参加)50パーセント、そして期末時のレポート(2000パーセントを総合して評価します。	講義	基本的に講義形式で行いますが、事前に配布した資料を中心に、質疑や討議を行うこともあります。	扱う対象がフランス関係のものなので、時々フランス語が出てくるかもしれませんが、履修者にはフランス語の既習の有無は問いません。これまでフランス語を履修していない人にもわかるようにエ夫して、授業を進めていきます。	木曜日7・8時限。	–	なし
13	13	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	欧米文化論B (European and American Cultural Traditions B)	2	選択必修	2	後期	火曜日7・8時限	熊野 真規子	–	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	映像文化についてのより高いリテラシーを身につけること ヨーロッパ映像文化の考察を通して、アジア、日本、あるいは地域社会を捉える新たな問題意識をもつこと	欧(米)諸国の映画作品を紹介／鑑賞していきます。アメリカとは異なるヨーロッパ映像文化の考察を通して、受講生が「ヨーロッパ性」をとらえ、アジア、日本、あるいは地域社会を捉える新たな視点をもつことを めざします。レポート課題や問題考察に必要な映像文化理解の知識は随時講義に交えて行きます。	第1回　導入(全体の流れの説明)、映画史概説1、初期映画I:初期映画1紹介＋課題 第2回　初期映画II:前回課題解説と初期映画をめぐる現代映画1紹介＋課題 第3回　初期映画III:前回課題解説、初期映画2紹介＋課題 第4回　初期映画IV:前回課題解説、初期映画をめぐる現代映画2紹介＋課題 第5回　初期映画V:前回課題解説、初期映画まとめ 第6回　映像を読む1:映画史をめぐる映画前半紹介＋課題 第7回　映像を読む2:映画史をめぐる映画後半紹介＋課題 第8回　映像を読む3:解説、映画史概説2(ハリウッド黎創期) 第9回　映画をつうじて考えるヨーロッパ:長編映画1前半紹介＋課題 第10回　映画をつうじて考えるヨーロッパII:長編映画1後半紹介＋課題 第11回　映画をつうじて考えるヨーロッパIII:長編映画2前半紹介 第12回　映画をつうじて考えるヨーロッパIV:長編映画2後半紹介 第13回　映画をつうじて考えるヨーロッパV:長編映画3前半紹介 第14回　映画をつうじて考えるヨーロッパV:長編映画3後半紹介 第15回　まとめ:解説とレポート課題 上記の回数は15回分にしめるおよその配分を示しています。 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	〔予習〕作品鑑賞の際、注意深く集中して鑑賞し歴史的視点などを明なかめ、次回鑑賞までに各自で調べて作品理解度を高める予習が必要です。 〔復習〕授業で出された宿題の課題に取り組み、知識を蓄積することで最終レポートの考察に取り組めます。 予習、復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。	芸術関連	思想関連	歴史学関連	–	資料としてのプリント、作品コメントのためのプリントを配付します。	必要があれば、講義の中でそのつど紹介します。	平常点(各回授業参加度をはかるためのコメント用紙、授業中の提出物をファイルした簡易ポートフォリオと自己評価点を提出)30%＋レポート課題70%によって総合的に評価します。	講義	・基本は講義形式ですが、コメント提出など演習的な要素も含まれます。 ・人数によっては一部でグループワークをおりまぜることもあります。 ・簡易ポートフォリオを導入し、受講生自身が提出した発見・考察のコメントを振り返ります。	・前期の多文化基礎(2)で習得した知識を前提とする授業です。 ・作品鑑賞の主たる機会が授業時間になり、鑑賞作品は通常レンタルされていない作品のため、遅刻や欠席で作品鑑賞の機会を逃さないようにしましょう。 ※鑑賞に時間を要する作品については、冬季休業直前の講義(昼休み時間～3コマ)の作品鑑賞になる場合がありますので、授業での告知／掲示に注意して下さい。	火曜17:30–18:30	kumano(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は半に置き換えてください。	なし
14	14	人文社会科学部	会計学入門 (Introduction to Accounting)	1	選択必修	2	前期	月曜日7・8時限	内藤 周子	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力	会計情報が数値として財務諸表に集約される仕組みが理解できること 会計学の基礎的な理論を修得し、教科書に挙げられているキーワードについて説明できること	授業では、会計学の基礎概念及び会計処理について扱います。まず、財務会計の基礎として企業会計の原理・原則について概説します。そして、財務諸表の仕組みについて説明し、構成要素別に整理をして講義をすすめます。基礎概念を踏まえて、会計基準に関連する論点について授業を行う予定です。	第1回:イントロダクション、会計の意義 第2回:財務会計の基礎 第3回:損益計算と資産負債の関係 第4回:会計制度 第5回:財務諸表 第6回:会計基準 第7回:金融商品に関わる取引 第8回:棚卸資産に関わる取引 第9回:有形固定資産に関わる取引 第10回:無形固定資産に関わる取引 第11回:引当金等に関わる取引 第12回:法人税等に関わる取引 第13回:純資産に関わる取引 第14回:企業結合に関する取引 第15回:外貨建取引 第16回:期末テスト	(予習) 教科書の該当する範囲を読み、夏末の練習問題について自分なりに考えてくること。 (復習) 教科書の問題を、電卓を用いて自らの手を動かして解けるようになること。 教科書でキーワードとなっている用語を理解し、説明できるようにすること。	経営学関連	経済学関連	–	–	齋藤真哉他『財務会計新世社、2014年。	授業内容に応じて案内します。会計基準については、以下が参考になります。 WEB:企業会計基準委員会(https://www.asb.or.jp/asb/top.do)『会計諸則集』(税務経理協会)、『会計法規集』(中央経済社)などの最新版。	小テスト・レポート等(100%)と期末テスト(90%)により評価します。	講義	講義を中心に行います。随時、計算問題を解きます。 授業で用いるパワーポイントの内容を印刷して配布することもありますが、各自でノートをとることが大切です。	簿記や会計学に関連する科目も同時に履修することを希望します。	金曜日5.6時限目	naito-s(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
15	15	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	環境地理学A (Environmental Geography A)	3	選択必修	2	前期	水曜日7・8時限	高橋 未央(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	地表動態の成り立ちを理解し、それらを関連づけて考察できること	世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを理解できるようにします。また、地形図の読図、空中写真判読を学び、実際に野外に出て、フィールドワーク技術を習得できるようにします。	講義(12回分) 1　ガイダンス 2-4　第四紀とは、氷期 ―間氷期サイクル 5-6　世界の平野 ―侵食平野・堆積平野 7-9　身近な平野 10-12　地形図の読図、空中写真の判読 フィールドワーク(3回分) 13-15　弘前の地表を読む(開析谷・旧河道・湧水地) ※授業の進行状況などにより、内容を変更することがあります。	講義の中で理解できなかった用語や内容の復習を各自行ってください。	地理学関連	–	–	–	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を、毎回持参してください。 教科書は特に指定しません。授業時、必要に応じて資料を配布します。 地形図判読の際、色鉛筆を使用します。3色程度、用意してください。	授業で適宜紹介します。	レポート(フィールドワークの内容)、試験	講義	講義(12回)、フィールドワーク(3回)	・フィールドワークは、集中授業です。日程は、第1回目の授業で決定しますので、必ず第1回目の授業に出席してください。	–	tamio(at)hirogaku-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし.
16	16	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	環境地理学B (Environmental Geography B)	3	選択必修	2	後期	水曜日7・8時限	高橋 未央(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	自然災害の成因を理解し、自然地理を防災に活用できること	世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを理解できるようにします。また、地形図の読図、空中写真判読を学び、実際に野外に出て、フィールドワーク技術を習得できるようにします。	講義(12回分) 1　ガイダンス 2-3　高台の形成(海成段丘、河成段丘) 4-7　自然災害のしくみ(地震、火山) 8-10　地理学を活かした防災 11-12　地形図の読図、空中写真の判読 フィールドワーク(3回分) 13-15　鰺ヶ沢町における防災(海成段丘・旧河道) ※授業の進行状況などにより、内容を変更することがあります。	講義の中で理解できなかった用語や内容の復習を各自行ってください。	地理学関連	–	–	–	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を、毎回持参してください。 教科書は特に指定しません。授業時、必要に応じて資料を配布します。 地形図判読の際、色鉛筆を使用します。3色程度、用意してください。	授業で適宜紹介します。	レポート(フィールドワークの内容)、試験	講義	講義(12回)、フィールドワーク(3回)	・前期に開講する自然地理 A を履修した前提で授業が展開されます。 ・フィールドワークは、集中授業です。日程は、第1回目の授業で決定しますので、必ず第1回目の授業に出席してください。 ・フィールドワークでは鉄道を利用する可能性もあります。電車賃は自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。	–	tamio(at)hirogaku-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし.

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
17	17	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	漢文学A(Classical Chinese A(Kanbun))	2	選択必修	2	前期	木曜日3・4時限	植木 久行(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	唐詩集、唐代の詩人、漢詩の詩形・韻律・平仄・題材などを理解すること 唐詩が生まれた風土に対して理解を深めること 具体的な作品を通して、漢詩の読解力と鑑賞力を習得すること	まず唐詩を読むための基礎知識を、配付教材(プリント)を通して広く学びます。続いて唐詩の主な風土(長安・洛陽・塞外・江南・嶺南)の特色を講義し、その地で誕生した詩を読み解きます。唐詩を生んだ多様な風土が理解できます。	第1回　唐詩の読まれかた～音読と訓読 第2～第3回　唐詩集の構成(別集・総集)と唐詩四変説 第4～第5回　詩形と韻律 第6～第7回　題材と心象、中間テスト 第8～第9回　大唐の都・長安 第10回　繁華な副都・洛陽 第11～第12回　風沙の地・塞外 第13～第14回　佳麗の地・江南 第15回　瘴癘の地・嶺南、および期末テスト・レポート提出	授業で各回使用する配付教材(プリント)の該当箇所を事前に予習し、授業実施後には復習して下さい。	文学関連	–	–	–	教科書は使用せず、教材のプリントを配付します。	植木久行『唐詩の風景』『唐詩の風土』、松浦友久編『漢詩の事典』、植木久行編『中国詩跡事典―漢詩の歌枕』。いずれも弘前大学附属図書館所蔵。	平常評価(授業への参加度、評価全体の15%)、中間評価(中間テスト、評価全体の20%)、期末評価(期末テスト・レポート、評価全体の65%)を合算して、最終的な評価を行う予定です。	講義	各回使用する配付教材(プリント)の該当箇所を、受講生に少しずつ読んでもらいながら、解説を加えます。	特になし	なし	なし	なし
18	18	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	漢文学B(Classical Chinese B(Kanbun))	2	選択必修	2	後期	木曜日3・4時限	植木 久行(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	唐代の年中行事や旧暦(太陰太陽暦)を理解すること 唐詩を読解して、四季を彩る動植物のイメージを理解すること 唐詩に詠まれた勝都長安の春夏秋冬を習得すること	唐詩の理解を深めるために、中国の歳時記や旧暦(太陰太陽暦)・二十四節気、および唐の都長安の名所を学びます。続いて都長安を彩る年中行事や四季の風物描写を通して季節感を探り、他地域での作もまじえて詳しく講義します。中国古典世界の季節感がよく分かります。	第1回　中国歳時記の起源とその展開 第2回　旧暦(太陰太陽暦)・二十四節気、四季別類題詩集 第3～第4回　唐都長安の形態と名所 第5回　沈淪する詩人の風景と題壁詩 第6回　中間テスト、中国の春夏秋冬のイメージ 第7～第9回　長安の春の詩～元日・人日節・上元節・寒食節・壮丁・遊糸 第10回　長安の夏の詩～更衣・端午節・夏至・三伏・蓮花 第11～第13回　長安の秋の詩～七夕・颯糸・蟹・中秋観月・重陽節・菊花 第14～第15回　長安の冬の詩～小春・冬至節・至除夜・除夕・守歳、および期末テスト・レポート提出	授業で各回使用する配付教材(プリント)の該当箇所を事前に予習し、授業実施後には復習して下さい。	文学関連	–	–	–	教科書は使用せず、教材のプリントを配付します。	植木久行『唐詩の風景』『唐詩の風土』、松浦友久編『漢詩の事典』、植木久行編『中国詩跡事典―漢詩の歌枕』。いずれも弘前大学附属図書館所蔵。	平常評価(授業への参加度、評価全体の15%)、中間評価(中間テスト、評価全体の20%)、期末評価(期末テスト・レポート、評価全体の65%)を合算して、最終的な評価を行う予定です。	講義	各回使用する配付教材(プリント)の該当箇所を、受講生に少しずつ読んでもらいながら、解説を加えます。	特になし	なし	なし	なし
19	19	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	管理会計(Management Accounting)	2	選択必修	2	後期	火曜日1・2時限	小杉 雅俊	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	管理会計についての学識を得ること 上記学問の知識や理解に基づいて、管理会計理論が理解できるようになること 管理会計の学識を、経営管理を前提とした情報利用者としての観点から実践の場に活かす能力を習得し、現代企業が直面するさまざまな課題を解決していく力を身につけていること	○ 管理会計のベーシックな理論を理解するとともに、計算問題が解けるようになる ○ 管理会計情報を経営管理に活用するための考え方を身につける ○ 管理会計情報の作成者としての視点だけではなく、経営管理を前提とした情報利用者としての観点から、管理会計が企業管理のどのような場面で、どのように機能するのかについて学ぶ ○ 各ツールについて、誤せられた目的を果たすために、計算構造がどのように考えられたのかという視点を提供し、その上で問題演習を取り入れ、理解を深めていく	以下のトピックスを中心に学習する。 第1回　ガイダンス・財務会計と管理会計 第2回　管理会計のフレームワーク 第3回　原価概念 第4回　標準原価管理 第5回　利益計画 第6回　予算管理 第7回　事業部制会計 第8回　設備投資の経済計算(1): 貨幣の時間価値について 第9回　設備投資の経済計算(2): DCF法を中心とする経済計算 第10回　ABC/ABM 第11回　原価企画 第12回　品質原価計算 第13回　環境管理会計 第14回　BSC 第15回　アメーバ経営 第16回　期末試験	各回の授業終了時に計算問題を主体とする復習点や、予習についてお知らせします。各2時間程度になります。復習の際は、授業中に行う練習問題を中心に、論点をしっかりと整理しましょう。授業中に配布するレジュメや、紹介する参考文献を図書館などで読み込むことで、さらに理解が進むと思います。	経営学関連	–	–	–	高柏真一(編著)(2012)『管理会計入門ゼミナール(改訂版)』創成社。 『弘前大学附属図書館 開架図書(本館2F)。336.84[Ka58]	村田直樹・稲川奈美(編著)(2012)『会計による経営管理』秀英経理協会。『弘前大学附属図書館 開架図書(本館2F)。336.84[Mu59k] 吉田康久(2016)『管理会計基礎論』中央経済社。『弘前大学附属図書館 教科図書(第1書庫2F～5F)。336.84[Y86k] 他にも、授業中に適宜紹介します。	平常評価(授業への参加度):10% 小テスト:40% 期末試験:50% 上記により総合的な成績評価を行います	講義	基本的に講義形式です。	前期授業「原価計算」で学習した内容の復習をしましょう。ただし、熱意ある初心者の受講を妨げるものではありません。会計学が好きな方、ビジネスに関する興味がある方、経済や経営の勉強が好きな方の受講も歓迎します。また、授業内で電卓を使用することがあります。12桁以上の電卓を用意してください。	火曜日12:00-12:30、その他表敬に対応しますので、授業前後に気軽にご相談ください。	k*os*ug*i[at]hirosaki-u.ac.jp 上記の*を全て削除し、[at]をアットマークに置き換えてください	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
20	20	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	企業経営史II(History of Business Enterprise Management I)	2	選択必修	2	前期	集中	梅野 巨利(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	日本企業の歴史を通して、日本企業の経営の特徴とその変遷について理解でき、その内容を日本語と英語の両方で他者にも説明できるようになること	日本経営史の基礎知識を得ることが講義の目的です。詳細な歴史事実を覚えるような無味乾燥な学習を行うのではなく、時代の大きな流れの中で、日本企業の経営がどのように変化してきたのかについて、その変遷過程を大まかにでも理解することを重視します。むしろ、受講者には、講義で学んだ内容を日本語と英語の両方で他者に説明できることが重要であると認識してもらいたいと考えています。	扱うテーマは以下の通りです。授業回数とは必ずしも一致しないことに留意してください。 1.　経営史という学問 2.　江戸時代の商家経営 3.　明治時代の企業経営 4.　財閥の形成 5.　工業化の進展と第2次大戦前の企業経営 6.　第2次大戦期の企業経営 7.　第2次大戦後の企業経営 8.　高度経済成長期の企業経営 9.　安定経済成長から低成長経済時代の企業経営 10.　バブル経済の崩壊と日本的経営の再編成 11.　歴史から見る日本企業にとっての課題 12.　学生プレゼンテーション1 13.　学生プレゼンテーション2 14.　学生プレゼンテーション3 15.　総復習	予習よりも復習に重点をおいてください。とくに、学習した内容を英語で他者に説明できる練習をしてもらいたいと考えます。	経営学関連	経済学関連	–	–	使用しない	宮本ほか(2007)『日本経営史　新版』有斐閣 経営史学会(2004)『日本経営史の基礎知識』有斐閣	授業中に実施する小テスト(30点)、レポート(50点)、プレゼンテーション(20点)の3つの合計で判定します。詳細は初回講義時に説明します。	講義	講義形式を基本としますが、受講生に質問を投げかけたり意見を問うことも、あるので積極的に対応してほしいと考えます。日本語だけでなく、英語による解説も適宜交えることとします。	なし	担当者は非常勤講師であるため、集中講義期間中のみの大学滞在である。期間中はいつでも気軽に声をかけてほしい。	umeno(at)daishodai.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
21	21	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	企業経営史III(History of Business Enterprise Management II)	2	選択必修	2	後期	集中	梅野 巨利(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	多国籍企業の経営史をグローバリゼーションとの関係で理解できるようになること	国際的な活動を行っている企業(多国籍企業)の歴史をグローバリゼーションとの関係において理解することが本講義の目的です。多国籍企業の理論、歴史、経営、そして国家の政策の4つの視点から、グローバリゼーションの流れに乗っている多国籍企業の歴史と国家の役割について学習します。	扱うテーマは以下の通りです。授業回数とは必ずしも一致しないことに留意してください。 1. 多国籍企業とは何か 2. グローバリゼーションとは何か 3. 多国籍企業の理論 4. 天然資源産業の多国籍企業の経営史 5. 製造業の多国籍企業の経営史 6. サービス産業の多国籍企業の経営史 7. 多国籍企業と国家の関係の歴史 8. 本国と多国籍企業の相互関係の歴史 9. 受入国と多国籍企業の相互関係の歴史 10. 学生プレゼンテーション1 11. 学生プレゼンテーション2 12. 学生プレゼンテーション3 13. 総括	予備知識は不要です。講義で学習した内容を英語で発表できるよう、復習に力を入れてください。	経営学関連	経済学関連	–	–	G.ジョーンズ著、安室・梅野訳(2007)『国際経営講義』有斐閣	授業で紹介します。	授業中に実施する小テスト(30点)、レポート(50点)、プレゼンテーション(20点)の総合で評価します。詳細は初回授業時に説明します。	講義	講義形式を主体としますが、受講生に質問を投げかけたり意見を問うことも、あるので、積極的に対応してもらいたいと考えます。授業内容を適宜、英語で解説します。	予備知識は不要です。講義で学習した内容を英語で発表できるよう、復習に力を入れてください。	担当者は非常勤講師であるため、集中講義期間中のみの大学滞在である。期間中はいつでも気軽に声をかけてほしい。	umeno(at)daishodai.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
22	22	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	基礎地理学A(The Basics of Geography A)	2	選択必修	2	前期	火曜日9・10時限	高橋 未央(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	人文地理学的な見方を身につけ、それぞれを関連付けて考察できること	人文地理学の基礎的な概念や、諸地域で展開される人文地理要素を学びます.	第 1 回目　ガイダンス 第2・3回目　地図の起源 第4・6回目　地図からみたる町の変遷 第7・9回目　村落地理学 第10・11回目　都市地理学 第13・15回目　村落・都市における治水と利水 第 16 回目　試験 ※授業の進行状況などにより, 内容を変更することがあります.	講義の中で理解できなかった用語や内容の復習を各自行ってください.	地理学関連	–	–	–	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を, 毎回持参してください. 教科書は特に指定しません. 授業時, 必要に応じて資料を配布します. 地形図判読の際, 色鉛筆を使用します. 3色程度, 用意してください.	授業で適宜紹介します.	試験, 小レポート	講義	講義形式	特になし	—	tamio(at)hirogaku-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください.	なし.

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員（所属）	(11)地域志向科目	(12)難易度（レベル）	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習（予習・復習）等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
23	23	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	基礎地理学B(The Basics of Geography B)	2	選択必修	2	後期	火曜日9・10時限	高橋　未央（非常勤講師）	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力	人文地理学的な見方を身につけ，それぞれを関連付けて考察できること	人文地理学の基礎的な概念や，諸地域で展開される人文地理要素を学びます．	第　1　回目　ガイダンス 第2・5回目　農業地理学 第6・7回目　環境地理学 第7・10回目　観光地理学 第11・15回目　ツインタイムトラベル 第　16　回目　試験 ※授業の進行状況などにより，内容を変更することがあります．	講義の中で理解できなかった用語や内容の復習を各自行ってください．	地理学関連	–	–	–	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を，毎回持参してください． 教科書は特に指定しません．授業時，必要に応じて資料を配布します． 地形図判読の際，色鉛筆を使用します．3色程度，用意してください．	授業で適宜紹介します．	試験，小レポート	講義	講義形式	なし	—	tamio(at)hirogaku-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください．	なし
24	24	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	行政学(Public Administration)	2	選択必修	2	前期	金曜日3・4時限	兜山　正史	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力	日本の行政について理解すること	○日本の行政の内部や、行政と政治の関係について学びます。	序章　講義の概要（第1回） 第1部　行政の内部 　第1章　組織 　　第1節　省庁の編制、第2節　省の内部（第2回） 　　第3節　関連用語（第3回） 　第2章　人事 　　第1節　省別人事、第2節　試験による区別（第4回） 　　第3節　天下り、第4節　人事院（第5回） 　第3章　意思決定過程 　　第1節　調整、第2節　省内の意思決定（第6回） 　　第3節　各省協議（第7回） 　　第4節　予算編成（第8回） 　第4章　行政管理（第9回） 　第5章　官民の境界領域 　　第1節　外郭団体 　　（1）特殊法人・認可法人（第10回） 　　（2）独立行政法人、（3）社団法人・財団法人（第11回） 　　第2節　民営化（第12回） 第2部　行政と政治 　第1章　歴史（第13回） 　第2章　内閣（第14回） 　第3章　大臣（第15回） ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合があります。	毎回の授業の後や小テストの前に復習する必要があります。	政治学関連	–	–	–	教科書は使用せず、レジュメ資料を配布します。	授業中に配布するレジュメで適宜紹介します。	小テストの点数を合算して成績評価を行います。小テストの実施日・範囲は、前の回の授業や掲示で予告します。 授業で習ったことがどのくらい身についたかを基準に採点します。	講義	基本は講義形式です。レジュメの最後に掲載している問題の答えを発表してもらいます。	特にありません。	金曜日7・8時限（他の曜日・時限でも可）。	koyamatd@hirosaki-u.ac.jp	特にありません。
25	25	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	行政法(Administrative Law)	2	選択必修	2	前期	集中	春日　修（非常勤講師）	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	行政法に関する論点について，自分の頭で考察することができること 行政法に関する簡単な紛争事例につき，自分で解決策を提示することができること	行政法の主要項目について説明し、簡単な事例問題に答えられるようにします。	【第1日】 1. はじめに 2. 行政行為①　概念 3. 行政行為②　効力 【第2日】 4. 行政行為③　救量 5. 行政行為④　手続 6. 行政立法 【第3日】 7. 行政計画、行政指導、行政契約 8. 行政上の義務履行確保 9. 行政救済法総説 【第4日】 10. 抗告訴訟総説 11. 取消訴訟①　総説、処分性 12. 取消訴訟②　原告適格、その他訴訟要件 【第5日】 13. 取消訴訟③　執行停止、判決 14. 行政上の不服申立て 15. 国家賠償	予習：事前に配布するテキストを熟読しておいて下さい。 復習：授業で取り上げられた事項を、理解し、事例問題に答えられるようにしておいて下さい。	法学関連	–	–	–	pdf形式のテキストを配布します。 『ポケット六法』（有斐閣）などの最新版かそれに準じた六法は必携でお願いします。	塩野宏『行政法Ⅰ【第6版】』『行政法Ⅱ【第5版補訂版】』（有斐閣）―初学者には難しいかも知れませんが、授業で学んだことをより深く知りたいという人向けです。	3回の授業ごとに30分程度の小テスト（配布した資料や本などを見ながら答える形式）を行い、それを合算して評価します。ただし、出席が全体の授業回数の3分の2に満たない者は、試験結果にかかわらず、不可となります。	講義	テキストを配布したうえで、講義への集中力を高めるため、板書も用いつつ口頭で説明します。	公法学を履修済みであることを前提とします。	特になし	kasuga(at)vega.aichi-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	特になし
26	26	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	金融論(Monetary Economics)	2	選択必修	2	前期	金曜日5・6時限	飯島　裕胤	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力	金融のしくみや役割を，明確に理解すること	資金貸借のしくみや，銀行の機能、貨幣の役割など、金融の基本的テーマを講義します。簡明なモデルを使いながら、金融のしくみや役割を明確に理解することが特徴です。 全15回を通じて、①金利や物価の決まり方、②預金準備や自己資本比率規制といった銀行制度、③日本の資金循環の現状と課題、④金融政策のしくみなどを理解できます。	第1回　ガイダンス 第2回　金融総論1 第3回　金融総論2 第4回　金融総論3 第5回　金融総論4 第6回　金融総論5 第7回　金融総論6 第8回　貨幣論1 第9回　貨幣論2 第10回　貨幣論3 第11回　貨幣論4 第12回　銀行論1 第13回　銀行論2 第14回　銀行論3 第15回　まとめ なお、「金融論」は、「財政学」「国際経済学」とともに、ERE（経済学検定：日本経済学教育協会主催）の出題科目に指定されています．上記の内容は、受験に十分対応できるものです	[予習] 授業に関連する金融の現実問題を考えてもらいます（要提出、5回程度） [復習] 配布する練習問題を繰り返し、ていねいに解いて下さい	経済学関連	経営学関連	法学関連	–	黒田晃生著『入門金融』東洋経済新報社	村瀬英彰『金融論』日本評論社 （興味関心のある学生は、インターネットで検索して購入されるとよいでしょう。）	予習課題（20%以内）と試験（残りの得点）で評価します。試験は中間、最終の2回実施する予定です。試験問題は、基本的に講義中に適宜配布する練習問題から出題します。	講義	基本的に講義形式で進めます。15分程度、クイズ形式の演習とその解説を取り入れます。	あわせて「国際金融論」、教養教育科目「キャリアデザインーキャリアと資産形成ー」も受講すると、理解が深まるでしょう。（なお、EREの試験範囲には、これらの内容も含まれています．）	月曜日11:30-12:30	ijijma(at)hirosaki-u.ac.jp ※（at)は＠に置き換えてください	とくにありません。
27	27	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	グローバルコミュニケーション論A(Global Communication A)	1	選択必修	2	後期	木曜日3・4時限	木村　宣美	–	レベル1	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	様々なジャンルや話題（言語・歴史・文化等）の英語を聞いたり読んだりするグループごとの活動（テーマの選択・資料の理解・資料内容の共有・聞いたり話すことによる討議・発表のアウトラインの検討・資料の作成）を通して、その内容を理解できること グループごとに選択した様々な話題（言語・歴史・文化等）について、自分の考えを英語で話すこと（発表や質疑応答）や書くこと（資料やレポートの作成）ができること	この授業では，授業の到達目標を達成するために，複数のグループに分かれ，グループごとにテーマに関する調査を行い，その成果を発表し，最終的にレポートとして まとめるという英語の4技能に基づく言語活動をすることができるように，授業を展開する。	第1回　導入・グループ編成 第2回　講義（テーマ（言語・歴史・文化等）の選択） 第3回　グループ活動（テーマに関する調査：聞いたり読んだりすることによる資料の理解） 第4回　グループ活動（テーマに関する調査：聞いたり読んだりすることによる資料の理解） 第5回　グループ活動（テーマに関する調査：資料内容の共有） 第6回　グループ活動（テーマに関する調査：資料内容の共有） 第7回　グループ活動（テーマに関する調査：聞いたり話すことによる討議） 第8回　グループ活動（テーマに関する調査：聞いたり話すことによる討議） 第9回　グループ活動（テーマに関する調査：発表のアウトラインの検討） 第10回　グループ活動（テーマに関する調査：発表のアウトラインの検討） 第11回　グループ活動（テーマに関する調査：資料の作成） 第12回　グループ活動（テーマに関する調査：資料の作成） 第13回　発表及び質疑応答 第14回　発表及び質疑応答 第15回　振り返り及びレポートの提出 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には，その都度説明します。	[予習] 様々なジャンルや話題の英語を聞いたり読んだりするグループごとの活動を実践するうえで，資料の収集や読解等の予備的な活動が求められます。 [復習] グループごとに選択した様々な話題について，自分の考えを英語で話したり書くために復習し，資料内容及び活動内容を深く理解することが求められます。	言語学関連	–	–	–	教科書は指定されません。講義用資料が配布されます。	西田ひろこ編著 2008年『グローバル社会における異文化間コミュニケーション』風間書房 井上逸平著 2015年『グローバルコミュニケーションのための英語学概論』慶應義塾大学出版会 平賀正子著 2016年『ベーシック新しい英語学概論』ひつじ書房	平常評価・中間評価・期末評価（授業での活動・発表・レポート等）の結果を総合して、授業の到達目標に基づき、評価されます。	講義	講義／演習形式（グループ活動及び議論）	グループごとの活動を通じて、英語の4技能に基づく言語活動にご努めてください。	火曜日5・6時限[12:40-14:10]	hukimura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください。	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
28	28	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	グローバルコミュニケーション論B (Global Communication B)	2	選択必修	2	前期	金曜日9-10時限	内海 淳	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	グローバルな言語としての英語の基本的な知識を習得し、グローバルな観点から英語を分析・考察できるようになること 地域や社会的な場面に特有の英語の表現を理解し、それぞれの場面で適切なコミュニケーションがとれるようになること 学んだことを整理し、十分に理解できたことと理解がたりないところをはっきりと認識できるようになること	この講義では、アメリカとイギリス連邦諸国の様々な社会的な場面に特有な英語の表現を取り上げます。それぞれの場面に関する文書・動画等を使い、それぞれの場面での適切な英語の使用について、アクティブ・ラーニングの手法を用い、実践的に学びます。	授業計画 第1回:アメリカ英語とイギリス連邦諸国の英語の違い 第2回:アメリカの政治に関する表現 第3回:イギリス連邦の政治に関する表現 第4回:アメリカの商取引に関する表現 第5回:イギリス連邦の商取引に関する表現 第6回:アメリカの司法に関する表現 第7回:イギリス連邦の司法に関する表現 第8回:アメリカの教育に関する表現 第9回:イギリス連邦の教育に関する表現 第10回:アメリカの宗教に関する表現 第11回:イギリス連邦の宗教に関する表現 第12回:アメリカの健康に関する表現 第13回:イギリス連邦の健康に関する表現 第14回:アメリカのスポーツに関する表現 第15回:イギリス連邦のスポーツに関する表現	【予習】事前に指定された資料等を読んでおきます。 【復習】講義で学んだことを整理し、理解が十分でなかった部分を次回の授業で確認できるようにします。	言語学関連	文学関連	思想関連	–		David Crystal, "English as a Global Language, Second Edition", Cambridge University Press, ISBN: 978-1107611801	Yahoo!USA(https://www.yahoo.com) Yahoo!UK(https://uk.yahoo.com) Yahoo!7 (https://au.yahoo.com) 等のインターネット上のリソースを利用します。	毎回授業で扱ったトピックに関する学習確認のための小テスト(30%)、および、授業で活動した記録をまとめたラーニング・ポートフォリオ(70%)を総合して評価します。	講義	講義に演習形式を組み込み、演習部分では 毎回、担当者を指定し、オーラル●レポート等で、担当箇所の理解の確認を行います。	オーラル●レポートの担当者以外の人も授業をただ聞いているだけでは授業に参加したことにはなりません。取り上げたトピックに関して積極的に議論や質問をして下さい。	水曜日 12:00~12:40	utsumi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
29	29	人文社会科学部	グローバル実践科目(1) (Global Studies Practicum)	1	選択必修	2	後期	火曜日7-8時限	アラステアバトラー	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	Grasping knowledge about global topics in English グローバルな話題に関して英語で理解すること Thinking about problems and expressing opinions about them in English 諸問題について考え、それらについての考えを英語で表現すること	Students will be divided into several groups. Each group will be expected to conduct research into a theme chosen by each group and make some presentations. Class activities (lecture, presentation, reports, etc) should be conducted in English. 受講者はいくつかのグループに分かれ、グループ単位で選んだテーマに関し調査・研究を行い、その成果を発表します。講義, 発表, レポート等, クラスでの活動は英語で行います。	1. Introduction; Icebreakers; Grouping 2. Lecture on the First Theme; Group Activities: Decision of the Topic 講義;テーマの決定 3. Group Activities: Decision of the Topic / Research on the Topic テーマの決定;調査活動 4. Group Activities: Research on the Topic 調査活動 5. Group Work スライド及び配布資料の作成 6. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 7. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 8. Presentations; Review; Submission of Reports 発表及び総括(2グループ); レポート提出 9. Lecture on the Second Theme; Group Activities: Decision of the Topic 講義;テーマの決定 10. Group Activities: Decision of the Topic; Research on the Topic テーマの決定;調査活動 11. Group Activities: Research on the Topic 調査活動 12. Group Work スライド及び配布資料の作成 13. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 14. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 15. Presentations; Review; Submission of Reports 発表及び総括(2グループ); レポート提出	【Preparation】Be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。 【Review】Review what you learned for group discussions and presentations. グループ討論やプレゼンテーションに向けて学んだことを復習してください。	学際・新領域	歴史学関連	社会学関連	–	Given by lecturer as needed 担当教員が準備します。	Informed as needed 適宜講義内で紹介します。	Class activities and Presentations in English (60%) クラスでの活動および英語による発表 Reports (40%) 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。	講義	講義/演習形式(Group Discussions and Presentations グループ討論及びプレゼンテーション)	Students are required to attend all classes regularly and punctually.	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
30	30	人文社会科学部	グローバル実践科目(2) (Global Studies Practicum)	1	選択必修	2	後期	火曜日7-8時限	畑中 杏奈	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	Grasping knowledge about global topics in English グローバルな話題に関して英語で理解すること Thinking about problems and expressing opinions about them in English 諸問題について考え、それらについての考えを英語で表現すること	Students will be divided into several groups. Each group will be expected to conduct research into a theme chosen by each group and make some presentations. Class activities (lecture, presentation, reports, etc) should be conducted in English. 受講者はいくつかのグループに分かれ、グループ単位で選んだテーマに関し調査・研究を行い、その成果を発表します。講義, 発表, レポート等, クラスでの活動は英語で行います。	1. Introduction/Icebreaking イントロダクション／アイスブレーキング 2. First theme lecture 最初のテーマに関する講義 3. Group discussion グループ討論 4-5. Group presentations グループ発表 6. Second theme lecture 第二のテーマに関する講義 7. Group discussion グループ討論 8-9. Group presentations グループ発表 10. Final theme lecture 最終テーマに関する講義 11. Group discussion グループ討論 12-13. Group presentations グループ発表 14. Class discussion クラス討論 15. Review 総括	Students should be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。	言語学関連	–	–	–	Given by lecturer as needed 担当教員が準備します。	Informed as needed 適宜紹介します。	Class activities and Presentation in English (60%) クラスでの活動および英語による発表 Reports (40%) レポート	講義	Lecture in English, group activities, and presentations グループ活動およびプレゼンテーション	特になし	初回授業時に指示します。	初回授業時に指示します。	なし
31	31	人文社会科学部	グローバル実践科目(3) (Global Studies Practicum)	1	選択必修	2	後期	火曜日7-8時限	南 修平	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	Grasping knowledge about global topics in English グローバルな話題に関して英語で理解すること Thinking about problems and expressing opinions about them in English 諸問題について考え、それらについての考えを英語で表現すること	Students will be divided into several groups. Each group will be expected to conduct research into a theme chosen by it and make some presentations. Class activities (lecture, presentation, reports, etc) should be conducted in English. 受講者はいくつかのグループに分かれ、グループ単位で選んだテーマに関し調査・研究を行い、その成果を発表します。講義, 発表, レポート等, クラスでの活動は英語で行います。	1. Introduction: Icebreakers, Grouping 2. Lecture on the First Theme 最初の課題についての講義 3. Group Activities: Discussion and Decision on the Topic その課題についての議論と調査対象の決定 4. Group Activities: Research on the Topic/ Assigning Roles, Collecting Resources 調査活動/役割分担, 資料収集・調査 5. Group Work: Making Slides, Documents スライド及び配布資料の作成 6. 1st Presentation 第1回プレゼンテーション 8. Review on the 1st Presentation and Share Opinions プレゼンテーションについての批評と意見交換 9. Lecture on the Second Theme 次の課題についての講義 10. Group Activities: Discussion and Decision on the Topic その課題についての議論と調査対象の決定 11. Group Activities: Research on the Topic/ Assigning roles, Collecting Resources 調査活動/役割分担, 資料収集・調査 12. Group Work: Making Slides, Documents スライド及び配布資料の作成 13. 2nd Presentation 第2回プレゼンテーション 14. Review on the 2nd Presentation and Share Opinions プレゼンテーションについての批評と意見交換 15. Review and Discussion on a New Plan 総括と今後の学習計画についての議論	【Preparation】Be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。 【Review】Review what you learned for group discussions and presentations. グループ討論やプレゼンテーションに向けて学んだことを復習してください。	学際・新領域	歴史学関連	社会学関連	–	Given by lecturer as needed 担当教員が準備します。	Informed as needed 適宜講義内で紹介します。	Class activities and Presentation in English (60%) クラスでの活動および英語による発表 Reports (40%) レポート提出 上記を合算して最終的な評価を行う予定です。	講義	Lecture, Group Activities, and Presentation 講義/演習形式	Students are required to attend all classes regularly and punctually.	4:00 PM-5:30 PM on Tuesday Students are needed to make an appointment in advance.	Informed at the first class 講義内でお伝えします。	Hope students to relax and enjoy
32	32	人文社会科学部	グローバル実践科目(4) (Global Studies Practicum)	1	選択必修	2	後期	火曜日7-8時限	山本 秀樹	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	Grasping knowledge about global topics in English グローバルな話題に関して英語で理解すること Thinking about problems and expressing opinions about them in English 諸問題について考え、それらについての考えを英語で表現すること	Students will be divided into several groups. Each group will be expected to conduct research into a theme chosen by each group and make some presentations. Class activities (lecture, presentation, reports, etc) should be conducted in English. 受講者はいくつかのグループに分かれ、グループ単位で選んだテーマに関し調査・研究を行い、その成果を発表します。講義, 発表, レポート等, クラスでの活動は英語で行います。	1. Introduction/Grouping イントロダクション／グループ分け 2. Self-intruduction in English/Decision of the themes 英語による自己紹介／テーマの決定 3. Brain storming ブレーン・ストーミング 4-7. Lecture in English/Group activities 英語による講義／グループ活動 8. Progress presentation 中間発表 9-13. Lecture in English/Group activities 英語による講義／グループ活動 14. Final presentation 最終発表 15. Final presentation/Submission of reports 最終発表／レポート提出	【Preparation】Be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。 【Review】Review what you learned for group discussions and presentations. グループ討論やプレゼンテーションに向けて学んだことを復習してください。	言語学関連	–	–	–	None in particular	None in particular	Class activities and presentation in English クラスでの活動および英語による発表 (60%) Reports written in English 英語によるレポート (40%) 上記を合算して最終的な評価を行う予定です。	講義	講義/演習形式(Lecture, group activities, and presentation in English 英語による講義、グループ活動、発表)	None in particular	Friday 12:00~13:00	hideyama@hirosaki-u.ac.jp	None in particular
33	33	人文社会科学部	グローバル実践科目(5) (Global Studies Practicum)	1	選択必修	2	後期	木曜日9-10時限	澤田 真一	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	Grasping knowledge about global topics in English グローバルな話題に関して英語で理解すること Thinking about problems and expressing opinions about them in English 諸問題について考え、それらについての考えを英語で表現すること	Students will be devided into several groups. Each group will be expected to conduct research into a theme chosen by each group and make some presentations. Class activities (lecture, presentations, reports, etc) should be conducted in English. 受講者はいくつかのグループに分かれ、グループ単位で決めたテーマに関し調査・研究を行い、その成果を発表します。講義, 発表、レポート等、クラスでの活動はすべて英語で行います。	1. Introduction 2. Lectures on the First Theme; Group Activities: Decision of the Topic 講義;テーマの決定 3. Group Activities: Research on the Topic 調査活動 4. Group Activities: Research on the Topic 調査活動 5. Group Work スライドおよび配布資料の作成 6. Presentations; Review 発表および総括(3グループ) 7. Presentations; Review 発表および総括(3グループ) 8. Presentations; Review; Submission of Reports 発表および総括(2グループ); レポート提出 9. Lecture on the Second Theme; Group Activities: Decision of the Topic 講義;テーマの決定 10.Group Activities; Research on the Topic 調査活動 11.Group Activities; Research on the Topic 調査活動 12.Group Work スライドおよび配布資料の作成 13.Presentations; Review 発表および総括(3グループ) 14. Presentations; Review 発表および総括(3グループ) 15. Presentations; Review; Submission of Reports 発表および総括(2グループ); レポート提出	[Preparation] Be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。 [Review] Review what you learned for group discussions and presentations. グループ討論やプレゼンテーションに向けて学んだことを復習してください。	言語学関連	思想関連	–	–	Given by lecturer as needed 担当教員が準備します。	Informed as needed 適宜紹介します。	Class activities and Presentation in English (60%)クラスでの活動および英語による発表 Reports (40%) レポート 上記を合算して最終的な評価を行う予定です。	講義	講義/演習形式(Group Discussions and Presentations グループ討論およびプレゼンテーション)	特になし	昼休み、金曜日7-8時限	ssawada@hirosaki-u.ac.jp	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
34	34	人文社会科学部	グローバル実践科目(6) (Global Studies Practicum)	1	選択必修	2	後期	木曜日9・10時限	小谷田 文彦	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	Grasping knowledge about global topics in English グローバルな話題に関して英語で理解すること Thinking about problems and expressing opinions about them in English 諸問題について考え、それらについての考えを英語で表現すること	Students will be divided into several groups. Each group will be expected to conduct research into a theme chosen by each group and make some presentations. Class activities (lecture, presentation, reports, etc) should be conducted in English. 受講者はいくつかのグループに分かれ、グループ単位で選んだテーマに関し調査・研究を行い、その成果を発表します。講義、発表、レポート等、クラスでの活動は英語で行います。	1. Introduction; Icebreakers; Grouping 2. Lecture on the First Theme; Group Activities: Discussion and Decision of the Topic 講義;議論とテーマの決定 3. Group Activities: Decision of the Topic / Research on the Topic テーマの決定;調査活動 4. Group Activities: Research on the Topic 調査活動 5. Group Work: Making Materials (Slides and Hanouts) for the Presentation スライド及び配布資料の作成 6. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 7. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 8. Presentations; Review ; Submission of Reports 発表及び総括(2グループ); レポート提出 9. Lecture on the Second Theme; Group Activities: Discussion and Decision of the Topic 講義;議論とテーマの決定 10. Group Activities: Decision of the Topic; Research on the Topic テーマの決定;調査活動 11. Group Activities: Research on the Topic 調査活動 12. Group Work: Making Materials (Slides and Handouts) for the Presentation スライド及び配布資料の作成 13. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 14. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 15. Presentations ; Review ; Submission of Reports 発表及び総括(2グループ); レポート提出	【Preparation】Be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。 【Review】Review what you learned for group discussions and presentations. グループ討論やプレゼンテーションに向けて学んだことを復習してください。	言語学関連	社会学関連	政治学関連	–	Given by lecturer as needed 担当教員が準備します。	Informed as needed 適宜紹介します。	Class activities and Presentation in English (60%) クラスでの活動および英語による発表 Reports (40%) レポート	講義	講義/演習形式(Group Discussions and Presentations グループ討論及びプレゼンテーション)	特になし	水曜日10時から11時	koyata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
35	35	人文社会科学部	グローバル実践科目(7) (Global Studies Practicum)	1	選択必修	2	後期	木曜日9・10時限	小野寺 進	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	Grasping knowledge about global topics in English グローバルな話題に関して英語で理解すること Thinking about problems and expressing opinions about them in English 諸問題について考え、それらについての考えを英語で表現すること	Students will be devided into a number of groups. Each group will be expected to conduct research into the given themes and make some presentations. All the class activities will be conducted in English. 受講者はいくつかのグループに分かれ、与えられたテーマに関してグループ単位で調査・研究を行い、その成果を発表します。授業内のすべての活動は英語で行われます。	1. Introduction/Icebreaking イントロダクション／アイスブレーキング 2. First theme lecture 最初のテーマに関する講義 3. Group discussion グループ討論 4-5. Group presentations グループ発表 6. Second theme lecture 第二のテーマに関する講義 7. Group discussion グループ討論 8-9. Group presentations グループ発表 10. Final theme lecture 最終テーマに関する講義 11. Group discussion グループ討論 12-13. Group presentations グループ発表 14. Class discussion クラス討論 15. Review 総括	Every time students should review the class activities and be ready to participate in the class activities using English. 学生は毎回授業の復習をすると共に、英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。	言語学関連	–	–	–	None in particular. 特にありません。	None in particular. 特にありません。	Class activities and Presentation in English (60%) グループ活動 Report and Peer review (40%) レポートおよび学生による相互評価 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	講義	講義/演習形式(Group discussions and presentations グループ討論およびプレゼンテーション)	講義を含め、グループワーク中心になりますので、チームワークが大切です。授業に毎回出席しましょう。	水曜日5・6時限	susumu(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
36	36	人文社会科学部	グローバル実践科目(8) (Global Studies Practicum)	1	選択必修	2	後期	木曜日9・10時限	内海 淳	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	After taking this class, students will be able to grasp the knowledge of global topics such as history, culture, society, economy, etc. in English, and express their thoughts about these problems using English. 世界の歴史・文化・社会・経済等に関する事項を英語で理解し、これらに対する自分の考えを英語で表現できるようになること	Students will be divided into several groups. Each group will be expected to conduct research into a theme chosen by each group and make some presentations. Class activities (lecture, presentation, reports, etc) should be conducted in English. 受講者はいくつかのグループに分かれ、グループ単位で選んだテーマに関し調査・研究を行い、その成果を発表します。講義、発表、レポート等、クラスでの活動は英語で行います。	1. Introduction/Icebreaking イントロダクション／アイスブレーキング 2. First theme lecture 最初のテーマに関する講義 3. Group discussion グループ討論 4-5. Group presentations グループ発表 6. Second theme lecture 第二のテーマに関する講義 7. Group discussion グループ討論 8-9. Group presentations グループ発表 10. Final theme lecture 最終テーマに関する講義 11. Group discussion グループ討論 12-13. Group presentations グループ発表 14. Class discussion クラス討論 15. Review 総括	【Preparation】Be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。 【Review】Review what you learned for group discussions and presentations. グループ討論やプレゼンテーションに向けて学んだことを復習してください。	社会学関連	歴史学関連	地理学関連	–	Given by lecturer as needed 担当教員が準備する。	Informed as needed 適宜紹介する。	Class Activities and Presentations in English (60%)(クラスでの活動および英語による発表) ; Reports and Assignments (40%)(レポートと課題) 上記を合算して最終的な評価を行う予定です。	講義	Lecture in English, group activities, and presentations 英語による講義、グループ活動およびプレゼンテーション	Class activities (lecture, presentation, reports, etc) should be conducted in English. クラスでの活動は英語で行います。	水曜日12:00～12:40	utsumi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
37	37	人文社会科学部	グローバル実践科目(9) (Global Studies Practicum)	1	選択必修	2	後期	木曜日9・10時限	木村 宣美	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	Grasping knowledge about global topics in English グローバルな話題に関して英語で理解すること Thinking about problems and expressing opinions about them in English 諸問題について考え、それらについての考えを英語で表現すること	Students will be divided into several groups. Each group will be expected to conduct research into a theme chosen by each group and make some presentations. Class activities (lecture, presentation, reports, etc) should be conducted in English. 受講者はいくつかのグループに分かれ、グループ単位で選んだテーマに関し調査・研究を行い、その成果を発表します。講義、発表、レポート等、クラスでの活動は英語で行います。	1. Introduction; Icebreakers; Grouping 2. Lecture on the First Theme; Group Activities: Discussion and Decision of the Topic 講義;議論とテーマの決定 3. Group Activities: Decision of the Topic / Research on the Topic テーマの決定;調査活動 4. Group Activities: Research on the Topic 調査活動 5. Group Work: Making Materials (Slides and Hanouts) for the Presentation スライド及び配布資料の作成 6. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 7. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 8. Presentations; Review ; Submission of Reports 発表及び総括(2グループ); レポート提出 9. Lecture on the Second Theme; Group Activities: Discussion and Decision of the Topic 講義;議論とテーマの決定 10. Group Activities: Decision of the Topic; Research on the Topic テーマの決定;調査活動 11. Group Activities: Research on the Topic 調査活動 12. Group Work: Making Materials (Slides and Handouts) for the Presentation スライド及び配布資料の作成 13. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 14. Presentations; Review 発表及び総括(3グループ) 15. Presentations ; Review ; Submission of Reports 発表及び総括(2グループ); レポート提出	【Preparation】Be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。 【Review】Review what you learned for group discussions and presentations. グループ討論やプレゼンテーションに向けて学んだことを復習してください。	言語学関連	–	–	–	Given by lecturer as needed 担当教員が準備する。	Informed as needed 適宜紹介する。	Class Activities and Presentations in English (60%)(クラスでの活動および英語による発表) ; Reports and Assignments (40%)(レポートと課題) 上記を合算して最終的な評価を行う予定です。	講義	講義/演習形式(Group Discussions and Presentations グループ討論およびプレゼンテーション)	なし	火曜日5・6時限[12:40–14:10]	hukimura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	特になし
38	38	人文社会科学部社会経営講座経営実務略コース	グローバル経営論II(International Business I)	3	選択必修	2	前期	金曜日3・4時限	森 樹男	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力	グローバルな時代の企業経営を考える際に必要な基本的な知識や考え方を身につけること	グローバルな時代の企業経営は複雑で、さまざまなことを考えなければなりません。世界の市場を相手にするということは世界中の企業との競争を考えなければなりません。また、国境を越えてビジネスをおこなうということは、各国の法律、文化、社会的な価値などとの遭遇も免れません。このようにグローバルな企業経営を理解するにはさまざまな視点が必要です。そこでこの講義ではグローバル企業の経営を理解し、多文化組織で働くために必要な知識や考え方を学びます。 またグローバル経営の考え方は、青森県のような地方でも必要になってきています。地方の企業が海外進出を行う、あるいは地方の企業が外資に買収されることが珍しくなくなっています。講義では、グローバル経営を青森県のような地域においても、身近なものとして捉えられるように地域企業の事例も取り上げていきます。	第1回　　イントロダクション 第2～3回　日本企業の国際ビジネスの変遷と課題 第4～5回　グローバル企業の国際経営戦略と組織 第6～7回　国際マーケティング 第8～9回　国際生産 第10～11回　国際研究開発 第12～13回　国際人的資源管理 第14～15回　事例：外資に買収された日本企業	[予習]各回のテーマに関する情報を新聞や書籍であらかじめ調べてきてください。 [復習]授業で取り上げたトピックスに関連した書籍や論文を探し、読んでください。	経営学関連	経済学関連	文化人類学関連	–	山口隆英、吉沢昌之編著『国際ビジネス入門』(白桃書房)(2017年3月発行予定) 諸上茂登、藤澤武史、嶋正編著『国際ビジネスの新機軸』(同文舘出版) 森樹男『日本企業の地域戦略と組織』(文眞堂) 藤澤武史・伊田晶弘編著『新多国籍企業経営管理論』(文眞堂) 安室憲一編著『ケースブック ビジネスモデル・シンキング』(文眞堂)	平常評価(授業への参加度や毎回の授業内容に対するリアクションペーパーの内容)に基づく。評価全体の20%) 中間レポート(全体評価の30%) 期末評価(15回の授業終了後に、レポートを課す。評価全体の50%) 上記を合算して、最終的な成績評価をおこなう予定です。	講義	講義の内容をまとめた資料を使いながらおこなう講義です。また、必要に応じてDVD教材なども使用します。 さらに、授業では、スマホアプリによるアンケートシステムを使い、毎回のテーマに関する意見を集め、全員で共有する形での双方向型授業となります。また、同システムによる理解度チェックも行う予定です。	普段より、新聞や書物を読み、知識を増やすことを心がけてください。また、テレビの情報番組などを活用し、グローバル企業の現状について理解するよう努めてください。	木曜　17時40分～18時30分 事前にメールで連絡があれば、その都度対応	mori(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
39	39	人文社会科学部社会経営講程企業戦略コース	グローバル・経営論III(International Business II)	3	選択必修	2	後期	木曜日3・4時限	森　樹男	-	レベル3	CP・DP 1見通す力	具体的なケースで経営の現場の理解を進め、グローバルな経営とは何かを理解できるようになること とグローバル時代に相応しい考え方を身につけること	この講義では、グローバル経営で学んだことを発展させる形で、グローバル経営についてより深く、よりアクティブに学んでいきます。また、製造業だけでなく、サービス業のグローバル経営についても学んでいきます。 グローバル経営の考え方は、青森県のような地方でも必要になってきています。地方の企業が海外進出を行う、あるいは地方の企業が外資に買収されることが珍しくなくなっています。講義では、グローバル経営を青森県のような地域においても、身近なものとして捉えられるように地域企業の事例も取り上げていきます。	第1回　イントロダクション 第2回　中国と日本企業 第3回　ASEANと日本企業 第4回　南アジアと日本企業 第5回　アフリカと日本企業 第6回　M＆Aと国際ビジネス 第7回　プロフェッショナルサービスと国際ビジネス 第8回　ツーリズムと国際ビジネス 第9回　POPカルチャーと国際ビジネス 第10回　多様性と国際ビジネス 第11回　タレントと国際ビジネス 第12回　ヒューマーンと国際ビジネス 第13回　海外における起業 第14回　海外ビジネスの実態 第15回　まとめ	[予習]各回のテーマに関する情報を新聞や書籍で あらかじめ調べてきてください。 [復習]授業で取り上げたトピックスに関連した書籍や論文を探し、読んでください。	経営学関連	経済学関連	文化人類学関連	-	山口隆英、古沢昌之編著『国際ビジネス入門』(白桃書房)(2017年3月発行予定)	諸上茂登、藤澤武史、嶋正編著『国際ビジネスの新機軸』(同文舘出版) 森樹男『日本企業の地域戦略と組織』(文眞堂) 藤澤武史・伊田昌弘編著『新多国籍企業経営管理論』(文眞堂) 安室憲一編著『ケースブック　ビジネスモデル・シンキング』(文眞堂)	平常評価(授業への参加度や毎回の授業内容に対するリアクションペーパーの内容に基づく。評価全体の20%) 中間レポート(全体評価の30%) 期末評価(15回の授業終了後に、レポートを課す。評価全体の50%) 上記を合算して、最終的な成績評価をおこなう予定です。	講義	講義の内容をまとめた資料を使いながらおこなう講義です。また、必要に応じてDVD教材なども使用します。 さらに、授業では、スマホアプリによるアンケートシステムを使い、毎回のテーマに関する意見を集め、全員で共有する形での双方向型授業となります。また、同システムによる理解度チェックも行う予定です。	普段より、新聞や書物を読み、知識を増やすことを心がけてください。また、テレビの情報番組などを活用し、グローバル企業の現状について理解するよう努めてください。	木曜　17時40分～18時30分事前にメールで連絡があれば、その都度対応	mori(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	なし
40	40	人文社会科学部	経営学入門(Introduction to Business Administration)	1	選択必修	2	前期	火曜日3・4時限	○大倉邦夫、大橋　忠宏、熊田　亜子、黄　孝春、高島　克史、森　樹男、保田宗良	-	レベル1	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	経営学に関する様々なテーマを学び、経営学における基礎的な知識を身につけること 企業経営の課題を把握するための実践的な力を体得すること	この授業は、人文社会科学部の企業戦略コースの教員によるオムニバス形式で展開していきます。それぞれの教員の専門に基づきながら、経営学のテーマを解説していきます。具体的には、経営組織論、地域科学、地域イノベーション論、現代企業論、経営戦略論、グローバル経営、マーケティングという幅広いテーマの基礎を、学生は学んでいくことになります。こうした様々なテーマに対する理解を通して、企業経営の仕組みや課題について考えるための実践的な力を養うことを目的としています。	第1回イントロダクション(授業に関する全体的な説明:大倉邦夫) 第2回ミクロ組織論の基礎(大倉邦夫) 第3回マクロ組織論の基礎(大倉邦夫) 第4回会社制度の選択と資本市場(黄孝春) 第5回資源の配分と事業構造戦略(黄孝春) 第6回経営における情報と意思決定(大橋忠宏) 第7回交通とまちづくり(大橋忠宏) 第8回イノベーション論(熊田憲) 第9回地域イノベーション論(熊田憲) 第10回経営戦略論の基礎(高島克史) 第11回ベンチャービジネス論の基礎(高島克史) 第12回グローバル時代の企業経営①(森樹男) 第13回グローバル時代の企業経営②(森樹男) 第14回マーケティングコンセプトの変遷(保田宗良) 第15回マーケティング戦略と消費者(保田宗良)	【予習】普段から、自主的にニュースを見たり新聞を読み、企業行動について少しでも関心を持つようにしてください。 【復習】授業で配布された資料やノートを整理し、授業の内容について理解を深めるようにしてください。	経営学関連	-	-	-	特になし	特になし	平常評価(平常ミニレポート、毎回講義内容に関して、200字程度の小文を書いて提出してもらいます):30% 期末評価(期末レポート):70% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	講義	パワーポイントを使用した講義形式です。	予備知識は問われませんが、「会計学入門」などの関連する授業を同時並行して受講することで学習効果を高めることができます。	金曜日3・4時限	k_ohkura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	特になし
41	41	人文社会科学部社会経営講程企業戦略コース	経営管理論(Business Management)	2	選択必修	2	前期	木曜日3・4時限	高島　克史	-	レベル3	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	経営管理の中でも技術経営の重要性が高まってきている背景を把握すること。これにより、技術経営の重要性が理解できること 技術経営における基礎的概念や考え方を習得し、関連する演習・実習科目において実践すること	優れた技術や人材を有しているにもかかわらず、利益で評価した場合必ずしも高い業績を達成できていない企業が増えてきています。 そのような中で近年とみに注目を集めているのが、技術経営(MOT)です。技術経営の目的は、優れた技術や人材を活用した商品を開発することだけでなく、そこから得られる利益の極大化にあります。 本講義では、技術経営について、戦略と組織という2つの視点から講義を行います。	第1回:オリエンテーション 第2回:技術経営とは 第3回:組織能力(1):組織能力の役割 第4回:組織能力(2):組織能力の形成 第5回:組織能力(3):組織能力の発展 第6回:第1回テスト(40分)および製品アーキテクチャ(1):インテグラル型 第7回:製品アーキテクチャ(2):モジュラー型 第8回:コア技術戦略(1):コア技術の役割 第9回:コア技術戦略(2):コア技術の形成 第10回:プラットフォーム戦略 第11回:第2回中間テスト(40分)および組織デザイン(1):組織デザインの基本形 第12回:組織デザイン(2):組織デザインのバリエーション 第13回:組織プロセスのマネジメント 第14回:プロジェクト知識のマネジメント 第15回:顧客価値創造と事業システム 第16回:第3回テスト(40分)および振り返り	予習:普段から、ビジネス雑誌や新聞など関心をもってみるようにしてください。 また、機会をみつけて地域や地域企業について考えるシンポジウムや報告会に積極的に参加し、自分なりの考えを持つように努めてください。 復習:講義内容をもとに事例分析をミニレポートとして提出してください。講義中に紹介したり、誤解があれば修正したいと考えています。	経営学関連	-	-	-	特になし	嵩岡克雄(2010)「新高材開発プロセスのマネジメント」中央経済社	第1回テスト、第2回テスト、第3回テストの総計で評価します	講義	パワーポイントを使った講義形式です。必要に応じて雑誌記事のコピーを配布します。	学部専門科目「経営学入門」「経営戦略論」「ベンチャービジネス論」が履修済みであることが望ましい	木曜日8時40分～10時10分	katsushi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	受講希望者多数の場合は、履修者を制限します。 受講希望者はかならず第1回講義オリエンテーションに出席してください。
42	42	人文社会科学部社会経営講程企業戦略コース	経営戦略論(Management Strategies)	1	必修	2	後期	木曜日3・4時限	高島　克史	-	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	競争戦略に関する基礎的な知識や考え方を習得し、これを通じて、企業活動や経営現象をより体系的に理解できるようになること 「良いものはあるのに、それが十分に売り上げにつながらない」ということについて、本講義で得た知識を活用して解決策を提示できるようになること	同じようなものを、同じような価格で同じように宣伝広告しながら販売しているにもかかわらず、売上や利益といった成果でみると大きな差異が生じていることがあります。こういったことがなぜ生じるのか、競争戦略論の考え方や概念に基づいて事例を用いながら理解していきます。このような知識の習得を通じて、将来的には受講生が自治体において政策・企業において戦略を策定実行できるような人材となることを目指しています。	第1回:オリエンテーション 第2回:経営戦略とは何か 第3回:競争優位の獲得 第4回:市場細分化 第5回:差別化戦略(1):製品の差別化 第6回:第1回テスト(40分)および差別化戦略(2):流通の差別化 第7回:差別化戦略(3):価格の差別化 第8回:差別化戦略(4):宣伝広告の差別化 第9回:市場地位別の戦略(1):リーダー企業の戦略 第10回:市場地位別の戦略(2):チャレンジャー企業の戦略 第11回:第2回テスト(40分)および市場地位別の戦略(3):ニッチャー企業の戦略、フォロワー企業の戦略 第12回:製品ライフサイクル(1):導入期と成長期のマネジメント 第13回:製品ライフサイクル(2):成熟期と衰退期のマネジメント 第14回:業界構造分析(1):ファイヴ・フォース分析 第15回:業界構造分析(2):戦略グループ 第16回:第3回テスト(40分)および振り返り	予習:普段から、ビジネス雑誌や新聞など関心をもってみるようにしてください。 また、機会をみつけて地域や地域企業について考えるシンポジウムや報告会に積極的に参加し、自分なりの考えを持つように努めてください。 復習:新聞やビジネス記事の内容をもとに、自分で事例分析をしてください。また、分析の中で不明な点などがあればミニレポートとして提出してください。講義中に質問に対する回答を示したいと考えています。	経営学関連	経済学関連	社会学関連	-	特になし	中橋国蔵・柴田悟一編著『経営管理の理論と実際 新版』東京経済情報出版(附属図書館に所蔵)	第1回テスト、第2回テスト、第3回テストの総計で評価します	講義	パワーポイントを使った講義形式です。必要に応じて、新聞や雑誌のコピーを配布します.	人文社会科学部「経営学入門」が履修済で、「ベンチャービジネス論」が同時履修中あることが望ましい	木曜日8時40分～10時10分	katsushi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	受講希望者多数の場合は、履修者を制限します。 受講希望者はかならず第1回講義オリエンテーションに出席してください。
43	43	人文社会科学部社会経営講程企業戦略コース	経営組織論(Business Management Organization)	2	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	大倉　邦夫	-	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	経営組織に関わる主要な概念、難理論、実践的課題を理解すること 企業組織の経営を分析し、その課題の解決策を検討するための基礎的な力を体得すること	この授業は、組織デザイン、モチベーション、リーダーシップ、組織文化、組織間関係、組織変革、新制度派組織理論など、経営組織に関する多様な現象を理解するための理論や概念を学びます。また、経営組織論の諸概念を用いて、現実の企業組織の課題を分析し、その解決を提案するための力を養うことを目的としています。	第1回イントロダクション(授業に関する全体的な説明) 第2回マクロ組織論の基礎①(多様な組織形態) 第3回マクロ組織論の基礎②(分業) 第4回マクロ組織論の基礎③(調整) 第5回リーダーシップ 第6回モチベーション 第7回学習状況の確認(中間試験含む)と振り返り 第8回組織文化 第9回新制度派組織理論 第10回組織学習 第11回組織変革 第12回組織間関係 第13回ワークショップ(企業組織の課題について学生同士で議論) 第14回講義全体のまとめ 第15回学習状況の確認(期末試験含む)	【予習】授業の最後に次回の内容について説明しますので、関連する資料を確認するようにしてください。 【復習】授業で配布された資料を整理し、授業の内容について理解を深めるようにしてください。	経営学関連	-	-	-	特になし	桑田耕太郎・田尾雅夫(2010)『組織論 補訂版』有斐閣アルマ	平常評価(ワークショップへの参加):20% 中間試験(中間試験):40% 期末評価(期末試験):40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	講義	パワーポイントを使用した講義形式です。また、講義の中で小グループに分けて、ワークショップを行う予定です。	事例を交えながら講義を進めますので、講義で取り上げる事例については事前に調べておいてください。 この点については通宜講義で指示します。	金曜日3・4時限	k_ohkura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
44	44	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済学演習II(Economics Colloquium I)	3	選択必修	2	前期	月曜日9・10時限	飯島 裕胤	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	経済学科目の演習を通じて、経済理論を深く広く、かつ実践的に理解すること	国家公務員試験(経済学科目)の「論述問題」を教材に、背景となる理論、着想のポイント、解答の方法などを解説します。事前に予習課題を提示し、授業では講義を行います。	近年の経済学科目の論述問題は非常に良問揃いで、とても良い教材になります。国家公務員を視野に入れている人はもちろん、地方公務員試験の受験者にとっても、やや水準の高い良問に取り組むことには、合格の確度を高めてくれるメリットがあります(「高地トレーニング」の考え方)。民間企業志望の人にとっても、さまざまなテーマが組み合わさった実践的な問題に取り組むことで、卒業研究で理論的考察をする際に非常に役立ちます。 ミクロ経済学とマクロ経済学を中心とする問題をとりあげ、背景となる理論を含めて丁寧に解説してゆきます。 第1回 ガイダンス 第2回 演習1 第3回 演習2 第4回 演習3 第5回 演習4 第6回 演習5 第7回 演習6 第8回 演習7 第9回 演習8 第10回 演習9 第11回 演習10 第12回 演習11 第13回 演習12 第14回 演習13 第15回 まとめ	[予習] 事前に予習課題を提示します。それを解いてくること。 [復習] 自分の頭でよく考えながら、再度問題に取り組むこと。	経済学関連	経営学関連	法学関連	–	国家公務員試験(経済学科目「論述問題」(プリントを配布します)	適宜指示します。	予習課題(20%以内)と定期試験(残りの得点)で採点・評価します。	演習	演習問題を解説する講義形式です。	ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎知識(本学で講義されているもの)が必要です。公務員試験問題にはそれ以外の発展的トピックスが含まれますが、基礎があれば拡張して十分に理解できます。	月曜日:11:30~12:30	iijima(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	とくにありません。
45	45	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済学演習II(Economics Colloquium II)	3	選択必修	2	後期	月曜日7・8時限	小谷田 文彦	–	レベル3	CP・DP 2 解決していく力	ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論についての学識を得ること	○ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論を学ぶ。 ○毎回、指定した出題範囲から小テストを行う。 ○小テストの後、講義形式の解説と問題演習を行う。	第1回 市場と需要・供給 第2回 消費者理論 第3回 消費者理論の応用 第4回 生産関数と利潤最大化 第5回 不完全競争 第6回 市場の効率性 第7回 市場の失敗 第8回 国民所得の決定 第9回 IS-LM分析1 第10回 IS-LM分析2 第11回 貨幣の需要と供給 第12回 インフレーション 第13回 経済成長 第14回 国際金融 第15回 予備日	[予習]次回講義で行われる小テストの出題範囲を予習して下さい。 [復習]講義で触れなかった箇所を復習によって理解して下さい。	経済学関連	–	–	–	西村和雄『経済学ベーシックゼミナール」実務教育出版(2008)	特になし	小テスト(毎講義で実施)によって評価します(100%)。学期末試験はありません。	演習	講義と演習形式で行います。	ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、国際経済学、労働経済学、財政学の履修を推奨します。	水曜日10時から11時	koyata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
46	46	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済学史(History of Economics Thought)	2	選択必修	2	前期	火曜日3・4時限	福田 進治	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	経済学の歴史を理解し、経済学の世界の全体像を把握すること 現代の経済問題を歴史的視点から検討する力を身に付けること	この授業では、18世紀から19世紀に至る経済学の成立と発展の歴史的過程を学びながら、経済学の基礎を身に付けます。この時代に、西ヨーロッパ世界において資本主義経済が成立するとともに、アダム・スミスの経済学が登場し、これを受けてリカードやマルサスを始めとする古典派経済学が展開し、さらに資本主義経済の批判者として、マルクスの経済学が成立する過程を学びます。	第1回 イントロダクション 第2回 重商主義の時代 第3回 アダム・スミスの経済学(1)(国富の増加、価値の決定) 第4回 アダム・スミスの経済学(2)(自然価格、資本蓄積) 第5回 アダム・スミスの経済学(3)(近代国家) 第6回 産業革命の時代 第7回 リカードの経済学(1)(経済成長) 第8回 リカードの経済学(2)(比較優位) 第9回 マルサスの経済学(1)(人口原理) 第10回 マルサスの経済学(2)(過剰供給) 第11回 簡級闘争の時代 第12回 マルクスの経済学(1)(剰余価値) 第13回 マルクスの経済学(2)(価値体系、価格体系) 第14回 マルクスの経済学(3)(歴史理論) 第15回 総括・補遺	授業の進行に沿って、参考書を読むなど、予習することが望ましいです。また、毎回の授業終了後、講義ノートを読み返して、重要な点を確認し、不明な点を調べるなど、復習することが必要です。	経済学関連	–	–	–	使用しません。	○ガルブレイス『不確実性の時代』(学術文庫)講談社、2009年 ○八木紀一郎『経済思想』(第2版)日本経済新聞出版社、2011年	学期中に授業内容に関するレポート課題を計3回出題します。第1回と第2回は平常評価(60%)、第3回は期末評価(40%)に相当します。授業内容を理解して、課題意識をもって検討し、自分の言葉で報告する努力と能力を評価します。これらのレポート課題の得点の合計を最終評価とします。	講義	通常の講義形式の授業です。講義を聞いて、授業内容を理解しながらノートを取る力を養って下さい。	経済学の歴史のうち、前期の「経済学史」ではその前半(18世紀~19世紀)を学びます。後期の「市場経済論」ではその後半(19世紀~20世紀)を学びます。両者を通じて経済学の成立から現代に至る経済学の歴史の全体を扱いますので、できるだけ連続して履修して下さい。	火曜日~金曜日12:00~13:00	shinji[at]hirosaki-u.ac.jp	特になし。
47	47	人文社会科学部	経済学入門(1)(Introduction to Economics)	1	選択必修	2	前期	木曜日9・10時限	小谷田 文彦	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	私たちの経済活動に対する「経済学者の見方」を理解すること 世界や地域のさまざまな問題に対して、経済学の手法を使って「自ら考察」できるようになること 経済学全体の最初の導入科目として、経済学の最も基礎的な知識や技能を習得すること	世の中には多様な財サービスが存在します。社会を構成する人々も多様で、利害は必ずしも一致しません。経済学は、このような複雑な社会の現実を直視し、体系的に理解します。とくに、財サービスの生産や消費、所得の分配など、私たちの重要な経済活動を根本から理解します。 また、経済学は、世界や地域のさまざまな問題を考え、理想を追求する際にも有用です。たとえば、現実の問題を解決するには多くの人や企業を巻き込むべきですが、経済学を使うことで、多様な利害関係を解きほぐして調整する道すじが開けます。 「経済学入門」は、このような経済学科目全体の基礎科目です。「ミクロ経済学」「マクロ経済学」などのコア科目、「経済政策」や「財政学」、「日本経済史」や「国際経済学」などの専門科目へと広がる経済学科目の最初の重要な1ステップです。	次の内容を学びます。 1. 需要と供給 2. 家計の行動 3. 企業の行動 4. 国民経済計算 5. 乗数理論 (キーワード) 需要曲線と供給曲線、市場均衡、効用最大化、予算制約線と無差別曲線、利潤最大化、費用関数、GDP、三面等価、有効需要の原理とケインズ型消費関数、乗数理論 (参考:上級科目で学ぶ発展的キーワード) 弾力性、余剰、スルツキー分解、支出関数と双対性、費用最小化と生産要素需要、利潤関数と双対性、外部性や公共財、さまざまなマクロ消費関数、投資関数、貨幣理論、IS-LM分析、長期のマクロ経済モデル、経済成長理論など	授業の中で指示します	経済学関連	–	–	–	古沢泰治他著『ベーシック経済学』有斐閣	特になし	定期試験の成績(60%)とレポート(40%)によって評価します。	講義	講義形式で行います。	本講義「経済学入門」は、経済学科目全体の最初の導入科目です。	水曜日10時から11時	koyata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
48	48	人文社会科学部	経済学入門(2)(Introduction to Economics)	1	選択必修	2	前期	木曜日9・10時限	飯島 裕胤	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	私たちの経済活動に対する「経済学者の見方」を理解すること 世界や地域のさまざまな問題に対して、経済学の手法を使って「自ら考察」できるようになること 経済学全体の最初の導入科目として、経済学の最も基礎的な知識や技能を習得すること	世の中には多様な財サービスが存在します。社会を構成する人々も多様で、利害は必ずしも一致しません。経済学は、このような複雑な社会の現実を直視し、体系的に理解します。とくに、財サービスの生産や消費、所得の分配など、私たちの重要な経済活動を根本から理解します。 また、経済学は、世界や地域のさまざまな問題を考え、理想を追求する際にも有用です。たとえば、現実の問題を解決するには多くの人や企業を巻き込むべきですが、経済学を使うことで、多様な利害関係を解きほぐして調整する道すじが開けます。 「経済学入門」は、このような経済学科目全体の基礎科目です。「ミクロ経済学」「マクロ経済学」などのコア科目、「経済政策」や「財政学」、「日本経済史」や「国際経済学」などの専門科目へと広がる経済学科目の最初の重要な1ステップです。	第1回 ガイダンス 第2回 需要と供給1 第3回 需要と供給2 第4回 需要と供給3 第5回 家計の行動1 第6回 家計の行動2 第7回 家計の行動3 第8回 家計の行動4 第9回 企業の行動1 第10回 企業の行動2 第11回 企業の行動3 第12回 国民経済計算 第13回 乗数理論1 第14回 乗数理論2 第15回 まとめ (キーワード) 需要曲線と供給曲線、市場均衡、効用最大化、予算制約線と無差別曲線、利潤最大化、費用関数、GDP、三面等価、有効需要の原理とケインズ型消費関数、乗数理論 (参考:上級科目で学ぶ発展的キーワード) 弾力性、余剰、スルツキー分解、支出関数と双対性、費用最小化と生産要素需要、利潤関数と双対性、外部性や公共財、さまざまなマクロ消費関数、投資関数、貨幣理論、IS-LM分析、長期のマクロ経済モデル、経済成長理論など	講義中に指示します。	経済学関連	経営学関連	法学関連	–	古沢泰治他著『ベーシック経済学』有斐閣	講義中に指示します。	予習課題(20%以内)と定期試験(残りの得点)の成績によって採点します。	講義	講義形式で行います。	本講義「経済学入門」は、経済学科目全体の最初の導入科目です。	毎週月曜日:11:30~12:30	iijima(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	とくにありません。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
49	49	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済政策(Economic Policy)	2	選択必修	2	前期	月曜日9・10時限	細矢 浩志	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	資本主義の発展段階と経済政策との基本的な対応関係についての基礎的な知識を習得すること 経済社会を読み解くのに必要な問題設定や経済学的な思考がひとおりできるようになること	本科目は，資本主義経済システムの生起する諸問題とその政策対応について考察し，資本主義体制下の経済政策の本質を理解することを主たる課題としています。 授業では，第二次世界大戦後の資本主義経済政策の展開動向を概観します。アメリカを中心とする先進資本主義国における政策対応の基本的特徴や問題点を整理するとともに，現代資本主義経済政策の課題と展望について検討する予定です。	第1回:経済政策論の課題と方法 第2回:現代の資本主義と国家(1)～現代資本主義の形成と国家 第3回:現代の資本主義と国家(2)～第二次世界大戦後の資本主義と福祉国家 第4回:第二次世界大戦後の資本主義と高度経済成長政策(1)～IMF=GATT体制の確立 第5回:第二次世界大戦後の資本主義と高度経済成長政策(2)～高度成長のメカニズム 第6回:第二次世界大戦後の資本主義と高度経済成長政策(3)～ケインズ主義経済政策 第7回:第二次世界大戦後の資本主義と高度経済成長政策(4)～成長政策展開の基盤 第8回:第二次世界大戦後の資本主義と高度経済成長政策(5)～成長政策の限界 第9回:現代資本主義の構造転換と経済政策の新展開(1)～成長政策の挫折とスタグフレーション 第10回:現代資本主義の構造転換と経済政策の新展開(2)～経済学の新展開 第11回:現代資本主義の構造転換と経済政策の新展開(3)～レーガノミクス 第12回:グローバル資本主義と経済政策の行方(1)～冷戦崩壊と世界経済の新展開 第13回:グローバル資本主義と経済政策の行方(2)～米経済の再生・復活とITの興隆 第14回:グローバル資本主義と経済政策の行方(3)～現代日本の経済政策 第15回:小括と展望 授業の進行状況等により，シラバスと実際の内容と異なる場合には，その都度説明します。	[予習]配付資料や参考文献等に目を通してください。 [復習]配布資料等を見直しノートを整理してください。必要に応じて参考文献等を読み知識を確実なものにしてください。	経済学関連	政治学関連	経営学関連	–	教科書は使用しません。授業では、適宜プリントを用意する予定です。	田代・萩原・金澤編『現代の経済政策[第4版]』有斐閣ブックス(2011年) 清水・松原編『経済政策論を学ぶ[新版]』有斐閣選書(1986年)を参考書として使います。	授業内容の理解度と，理論的な思考力や学習意欲・問題関心の成長度とを総合して評価します。筆記試験90%(理解力30%，論理的構成力30%，表現力30%)，授業への参加態度10%(事前準備，質問・意見等)	講義	講義形式。配付資料と提示教材(スライド等)に沿って解説します。	up-to-dateな話題も取り上げます。新聞等で日本と世界の経済・社会ニュースをチェックしてください。	月17:40～18:30	hosoya(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	大学の講義とは、中・高校のように諸事項の無批判的・丸暗記的な学習を行なう場ではなく 該当する学問分野における諸課題を自らのものとして捉え、自分なりの解答を得るのに必要な情報やヒントを探す場であると考えています。したがって、授業は受講生諸君の自主的な学習を基礎にして成り立っていることを肝に銘じ、主体的に学ぶ姿勢をもって臨んでくれることを希望します。
50	50	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済発展論(Economic Development)	2	選択必修	2	後期	月曜日9・10時限	細矢 浩志	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 3学び続ける力	資本主義の歴史的な発展段階と経済政策との基本的な対応関係についての基礎的な知識を習得すること 経済社会を読み解くのに必要な問題設定や経済学的な思考がひとおりできるようになること	市場経済システムの歴史的発展過程について解説します。 制度的・歴史的諸条件と社会的背景に留意しながら，資本主義の各発展段階(重商主義・自由主義・帝国主義)における経済事情と経済政策の内容やその担い手等について分析し，各経済発展段階の基本的特徴を浮き彫りにすることをめざします。 また，経済発展において諸問題解決の政策主体としての国家はいかなる役割を果たしてきたのかについて検討し，経済発展と国家とのかかわりに関する基本的な論点について考えてみます。	[予習]配付資料や参考文献等に目を通してください。 [復習]配布資料等を見直しノートを整理してください。必要に応じて参考文献等を読み知識を確実なものにしてください。	経済学関連	政治学関連	法学関連	–	教科書は使用しません。授業では適宜プリントを配付します。	清水・松原編『経済政策論を学ぶ[新版]』有斐閣選書，1986年 その他，授業で適宜指示します	授業内容の理解度と，理論的な思考力や学習意欲・問題関心の成長度とを総合して評価します。筆記試験90%(理解力30%，論理的構成力30%，表現力30%)，授業への参加態度10%(事前準備，質問・意見等)	講義	講義形式。配付資料と提示教材(スライド等)に沿って解説します。	高校の「世界史」授業レベルの基礎知識を確認しておくことが必要です。	月17:40～18:30	hosoya(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	大学の講義とは、中・高校のように諸事項の無批判的・丸暗記的な学習を行なう場ではなく 該当する学問分野における諸課題を自らのものとして捉え、自分なりの解答を得るのに必要な情報やヒントを探す場であると考えています。したがって、授業は受講生諸君の自主的な学習を基礎にして成り立っていることを肝に銘じ、主体的に学ぶ姿勢をもって臨んでくれることを希望します。
51	51	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習(1)(Colloquium on the Basics of Economics and Law I)	2	必修	2	前期	水曜日1・2時限	飯島 裕胤	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	経済法律コース所属学生が3年間にわたって経済学・法学を研究するよて必要な「基礎力」を身につけること 広く社会に関するさまざまな題材をもとに、人間や社会のあり方を根本から考えられるようになること	経済学と法学は、社会のあり方を根本から考える学問です。経済政策や法制度は、「社会はどうあり、またどうあるべきか」を理解した上で定められます。 経済法律基礎演習では、広く社会に関係する多様な題材を読み、問いに答え、対話と討論を行うことで、社会のあり方を根本から考えてゆきます。	以下のテーマの中から、3～4つをとりあげます。 ・地域のあり方を考える ・グローバル化を考える ・幸福と個人、政府 ・経済成長のゆくえ ・社会のあり方を考える ・主体的な生き方を考える ・キャリア(職業・生涯設計)を考える ・環境問題を考える ・知の意義を考える ・知性・科学技術の限界を考える 複雑さを増す現代の社会のあり方をていねいに理解するために、異なる視点から書かれ、「矛盾」にもみえる複数の文章を精読してゆきます。加えて、内容を深く理解するための問いもあります。この問いを中心に、対話形式、討論形式で授業を進めてゆきます。 第1回　ガイダンス 第2回　第1テーマ① 第3回　第1テーマ② 第4回　第1テーマ③ 第5回　第1テーマ④ （第2～5回のサブテーマ：他者の考えをていねいにまとめよう） 第6回　第2テーマ① 第7回　第2テーマ② 第8回　第2テーマ③ 第9回　第2テーマ④ （第6～9回のサブテーマ：自分の考えを根拠・筋道立てて説明しよう） 第10回　自由レポートの中間発表と討論① 第11回　自由レポートの中間発表と討論② 第12回　第3テーマ① 第13回　第3テーマ② 第14回　第3テーマ③ 第15回　第3テーマ④ （第12～15回のサブテーマ：追加調査して考えを広げよう）	予習課題として、各テーマの問いに対する答えを各自作成して、事前提出してもらいます。授業では、集まった各人の答えをもとに対話と討論を行います。	経済学関連	法学関連	経営学関連	–	教材をプリントして配布します。	テーマに関連する文献は適宜紹介します。	平常点(予習課題、対話・討論の取り組み状況)：60点、期末の口述試験、もしくはレポート等：40点	演習	対話形式、討論形式	経済法律コース学生の必修科目です。前期は、学籍番号によりAクラスのいずれかを割り当てます。クラス分けおよび担当教員は、コースガイダンスでお知らせするとともに、掲示します。	月曜日11:30-12:30	iijima(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	とくにありません。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
52	52	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習(2) (Colloquium on the Basics of Economics and Law I)	2	必修	2	前期	水曜日1・2時限	成田　史子	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	経済法律コース所属学生が3年間にわたって経済学・法学を研究するとで必要な「基礎力」を身につけること 広く社会に関するさまざまな題材をもとに、人間や社会のあり方を根本から考えられるようになること	経済学と法学は、社会のあり方を根本から考える学問です。経済政策や法制度は、「社会はどうあり、またどうあるべきか」を理解した上で定められます。経済法律基礎演習Ⅰでは、広く社会に関係する多様な題材を読み、問いに答え、対話と討論を行うことで、社会のあり方を根本から考えてゆきます。	以下のテーマの中から、3～4つをとりあげます。 ・地域のあり方を考える ・グローバル化を考える ・幸福と個人、政府 ・経済成長のゆくえ ・社会のあり方を考える ・主体的な生き方を考える ・キャリア(職業・生涯設計)を考える ・環境問題を考える ・知の意義を考える ・知性・科学技術の限界を考える 複雑さを増す現代の社会のあり方をていねいに理解するために、異なる視点から書かれ、「矛盾」にもみえる複数の文章を精読してゆきます。加えて、内容を深く理解するための問いもあります。この問いを中心に、対話形式、討論形式で授業を進めてゆきます。 第1回　ガイダンス 第2回　第1テーマ① 第3回　第1テーマ② 第4回　第1テーマ③ 第5回　第1テーマ④ 第6回　第2テーマ① 第7回　第2テーマ② 第8回　第2テーマ③ 第9回　第2テーマ④ 第10回　第3テーマ① 第11回　第3テーマ② 第12回　第3テーマ③ 第13回　第3テーマ④ 第14回　まとめの論考1 第15回　まとめの論考2	予習課題として、各テーマの問いに対する答えを各自作成して、当日提出してもらいます。授業では、集まった各人の答えをもとに対話と討論を行います。	法学関連	経済学関連	経営学関連	–	教材をプリントして配布します。	テーマに関連する文献は適宜紹介します。	平常点(予習課題、対話・討論の取り組み状況):60% 期末の口述試験、もしくはレポート等:40%	演習	対話形式、討論形式	経済法律コース学生の必修科目です。前期は、学籍番号によりSクラスのいずれかを割り当てます。クラス分けおよび担当教員は、コースガイダンスでお知らせするとともに、掲示します。	火曜1・2限	http://hue2jm.hirosaki-u.ac.jp/html/10000051_ja.html	特になし。
53	53	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習(3) (Colloquium on the Basics of Economics and Law I)	2	必修	2	前期	水曜日1・2時限	平野　深	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	経済法律コース所属学生が3年間にわたって経済学・法学を研究するとで必要な「基礎力」を身につけること 広く社会に関するさまざまな題材をもとに、人間や社会のあり方を根本から考えられるようになること	経済学と法学は、社会のあり方を根本から考える学問です。経済政策や法制度は、「社会はどうあり、またどうあるべきか」を理解した上で定められます。経済法律基礎演習Ⅰでは、広く社会に関係する多様な題材を読み、問いに答え、対話と討論を行うことで、社会のあり方を根本から考えてゆきます。	以下のテーマの中から、3～4つをとりあげます。 ・地域のあり方を考える ・グローバル化を考える ・幸福と個人、政府 ・経済成長のゆくえ ・社会のあり方を考える ・主体的な生き方を考える ・キャリア(職業・生涯設計)を考える ・環境問題を考える ・知の意義を考える ・知性・科学技術の限界を考える 複雑さを増す現代の社会のあり方をていねいに理解するために、異なる視点から書かれ、「矛盾」にもみえる複数の文章を精読してゆきます。加えて、内容を深く理解するための問いもあります。この問いを中心に、対話形式、討論形式で授業を進めてゆきます。 第1回　ガイダンス 第2回　第1テーマ① 第3回　第1テーマ② 第4回　第1テーマ③ 第5回　第1テーマ④ 第6回　第2テーマ① 第7回　第2テーマ② 第8回　第2テーマ③ 第9回　第2テーマ④ 第10回　第3テーマ① 第11回　第3テーマ② 第12回　第3テーマ③ 第13回　第3テーマ④ 第14回　まとめの論考1 第15回　まとめの論考2	予習課題として、各テーマの問いに対する答えを各自作成して、事前提出してもらいます。授業では、集まった各人の答えをもとに対話と討論を行います。	法学関連	経済学関連	経営学関連	–	教材をプリントして配布します。	テーマに関連する文献は適宜紹介します。	平常点(予習課題、対話・討論の取り組み状況):60点、 期末の口述試験、もしくはレポート等:40点	演習	対話形式、討論形式	経済法律コース学生の必修科目です。前期は、学籍番号によりSクラスのいずれかを割り当てます。クラス分けおよび担当教員は、コースガイダンスでお知らせするとともに、掲示します。	木曜日8:40～10:10	k-hirano(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
54	54	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習(4) (Colloquium on the Basics of Economics and Law I)	2	必修	2	前期	水曜日1・2時限	細矢　浩志	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	経済法律コース所属学生が3年間にわたって経済学・法学を研究するとで必要な「基礎力」を身につけること 広く社会に関するさまざまな題材をもとに、人間や社会のあり方を根本から考えられるようになること	経済学と法学は、社会のあり方を根本から考える学問です。経済政策や法制度は、「社会はどうあり、またどうあるべきか」を理解した上で定められます。経済法律基礎演習Ⅰでは、広く社会に関係する多様な題材を読み、問いに答え、対話と討論を行うことで、社会のあり方を根本から考えてゆきます。	以下のテーマの中から、3～4つをとりあげます。 ・地域のあり方を考える ・グローバル化を考える ・幸福と個人、政府 ・経済成長のゆくえ ・社会のあり方を考える ・主体的な生き方を考える ・キャリア(職業・生涯設計)を考える ・環境問題を考える ・知の意義を考える ・知性・科学技術の限界を考える 複雑さを増す現代の社会のあり方をていねいに理解するために、異なる視点から書かれ、「矛盾」にもみえる複数の文章を精読してゆきます。加えて、内容を深く理解するための問いもあります。この問いを中心に、対話形式、討論形式で授業を進めてゆきます。 第1回　ガイダンス 第2回　第1テーマ① 第3回　第1テーマ② 第4回　第1テーマ③ 第5回　第1テーマ④ 第6回　第2テーマ① 第7回　第2テーマ② 第8回　第2テーマ③ 第9回　第2テーマ④ 第10回　第3テーマ① 第11回　第3テーマ② 第12回　第3テーマ③ 第13回　第3テーマ④ 第14回　まとめの論考① 第15回　まとめの論考② *各テーマの学習は以下の三つの視点を意識しながら進めていきます (1)他者の考えをていねいにまとめよう (2)自分の考えを根拠・筋道立てて説明しよう (3)追加調査して考えを広げよう	予習課題として、各テーマの問いに対する答えを各自作成して、事前提出してもらいます。授業では、集まった各人の答えをもとに対話と討論を行います。	経済学関連	法学関連	経営学関連	–	教材をプリントして配布します。	テーマに関連する文献は適宜紹介します。	平常点(予習課題、対話・討論の取り組み状況):60点、 期末の口述試験、もしくはレポート等:40点	演習	対話形式、討論形式	経済法律コース学生の必修科目です。前期は、学籍番号によりSクラスのいずれかを割り当てます。クラス分けおよび担当教員は、コースガイダンスでお知らせするとともに、掲示します。	月17:40～18:30	hosoya(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
															以下のテーマの中から、3～4つをとりあげます。 ・地域のあり方を考える ・グローバル化を考える ・幸福と個人、政府 ・経済成長のゆくえ															

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
55	55	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習I(5)(Colloquium on the Basics of Economics and Law I)	2	必修	2	前期	水曜日1・2時限	小谷田 文彦	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	経済法律コース所属学生が3年間にわたって経済学・法学を研究するとで必要な「基礎力」を身につけること 広く社会に関するさまざまな題材をもとに、人間や社会のあり方を根本から考えられるようになること	経済学と法学は、社会のあり方を根本から考える学問です。経済政策や法制度は、「社会はどうあり、またどうあるべきか」を理解した上で定められます。 経済法律基礎演習では、広く社会に関係する多様な題材を読み、問いに答え、対話と討論を行うことで、社会のあり方を根本から考えてゆきます。	・社会のあり方を考える ・主体的な生き方を考える ・キャリア(職業・生涯設計)を考える ・環境問題を考える ・知の意義を考える ・知性・科学技術の限界を考える 複雑さを増す現代の社会のあり方をていねいに理解するために、異なる視点から書かれ、「矛盾」にもみえる複数の文章を精読してゆきます。加えて、内容を深く理解するための問いもあります。この問いを中心に、対話形式、討論形式で授業を進めてゆきます。 第1回 ガイダンス 第2回 第1テーマ① 第3回 第1テーマ② 第4回 第1テーマ③ 第5回 第1テーマ④ (第2～5回のサブテーマ:他者の考えをていねいにまとめよう) 第6回 第2テーマ① 第7回 第2テーマ② 第8回 第2テーマ③ 第9回 第2テーマ④ (第6～9回のサブテーマ:自分の考えを根拠・筋道立てて説明しよう) 第10回 自由レポートの中間発表と討論① 第11回 自由レポートの中間発表と討論② 第12回 第3テーマ① 第13回 第3テーマ② 第14回 第3テーマ③ 第15回 第3テーマ④ (第12～15回のサブテーマ:追加調査して考えを広げよう)	予習課題として、各テーマの問いに対する答えを各自作成して、事前提出してもらいます。授業では、集まった各人の答えをもとに対話と討論を行います。	経済学関連	法学関連	経営学関連	–	教材をプリントして配布します。	テーマに関連する文献は適宜紹介します。	平常点(予習課題、対話・討論の取り組み状況):60点、期末の口述試験、もしくはレポート等:40点	演習	対話形式、討論形式	経済法律コース学生の必修科目です。前期は、学籍番号によりSクラスのいずれかを割り当てます。クラス分けおよび担当教員は、コースガイダンスでお知らせするとともに、掲示します。	水曜日10時から11時	koyata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
56	56	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習II(1)(Colloquium on the Basics of Economics and Law II)	2	必修	2	後期	金曜日7・8時限	李 永俊	地域志向科目	レベル2	CP・DP 3 学び続ける力	「理論経済学」や「計量経済学」で扱った論点を深めることで、3年次以降の経済系ゼミナールで研究を進めていくための基礎的能力を修得すること	経済法律基礎演習IIは、経済法律コースの基礎科目(ミクロ経済学、マクロ経済学、公法学、私法学、およびデータ分析)を演習形式で学ぶ科目です。テキストの輪読など、学生による発表を基本とし、ときに演習問題の解説をしてもらい、経済法律基礎科目の理解を確実なものにします。	1. イントロダクション 2. 経済データを見る 3～5. 計量経済学はじめの一歩 6～8. RESAS(地域経済分析システム)の使い方 10～11. ワークショップⅠ 地域課題の発見 12～15. ワークショップⅡ 地域課題への政策提言 16. 最終成果発表	準備学習としては、①ミクロ経済学基礎やマクロ経済学基礎を受講しておいてください。 ②本授業は課題探求型アクティブラーニング方式で行います。情報収集とプレゼンテーションのための基礎知識を習得しておいてください。	経済学関連	–	–	–	特になし	日経ビックデータ(2016)『RESASの教科書』日経BPマーケティング 李・石黒(2008)『青森県で生きる若者たち』弘前大学出版会 石黒・李・杉浦・山口(2012)『東京に出る若者たちミネルヴァ書房	期末試験は行いません。授業内における課題や発表への取り組み方、発言内容などを総合的に考慮して評価します。3分の2以上の出席がない場合は、単位取得できません。	演習	主に個別調査、研究によって進めます。講義の時間中に発表、発表に対するコメント、コメントに沿った修正などを積み重ねて最終方向につなげます。	関心のある分野を選んでも、あえて苦手科目を選んでも構いません。2年次に確実な基礎を持つことは、3年次以降の分野に関わらず、その後の学習(とくにゼミナール、卒業研究)に役立ちます。しっかり学んでください。	毎週水曜日 10時00分～12時00分	yjlee@hirosaki-u.ac.jp	特になし
57	57	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習II(2)(Colloquium on the Basics of Economics and Law II)	2	必修	2	後期	金曜日7・8時限	山本 康裕	–	レベル2	CP・DP 3 学び続ける力	経済学入門やマクロ経済学及びIIで扱った論点を深めることで、3年次以降の経済系ゼミナールで研究を進めていくための基礎的能力を修得すること	経済法律基礎演習IIは、経済法律コースの基礎科目(ミクロ経済学、マクロ経済学、公法学、私法学、およびデータ分析)を演習形式で学ぶ科目です。テキストの輪読など、学生による発表を基本とし、ときに演習問題の解説をしてもらい、経済法律基礎科目の理解を確実なものにします。 経済法律コースの学生はこの基礎演習を必ず履修しなければなりません。 上記5科目のなかから1つを選択して、2年次後期の半年間、その科目を演習形式で学んでゆきます。	下記で指定する教科書の1つの章を受講者一人が担当し、担当する章の内容をレジメにまとめ、それをもとに発表をしてもらいます。講義の進行予定は下記となります。 第1回 ガイダンス 第2回 マクロ経済学のとらえ方 第3回 マクロ経済における需要と供給 第4回 有効需要と乗数メカニズム 第5回 貨幣の機能と信用創造 第6回 貨幣需要と利子率 第7回 財政政策の基本的構造 第8回 財政・金融政策とマクロ経済 第9回 総需要と総供給 第10回 労働市場の機能と失業問題 第11回 インフレーションとデフレーション 第12回 財政破綻と財政健全化 第13回 金融政策と金融システム 第14回 国際金融市場と為替レート 第15回 経済成長と経済発展	教科書の該当箇所を読んでおき、講義後は配られたレジメの加筆・修正を行うこと。	経済学関連	経営学関連	法学関連	–	伊藤元重『マクロ経済学』日本評論社	講義にて紹介する	期末試験は行いません。授業内における課題や発表への取り組み方、発言内容などを総合的に考慮して評価します。3分の2以上の出席がない場合は、単位取得できません。	演習	教科書の輪読	関心のある分野を選んでも、あえて苦手科目を選んでも構いません。2年次に確実な基礎を持つことは、3年次以降の分野に関わらず、その後の学習(とくにゼミナール、卒業研究)に役立ちます。しっかり学んでください。	火曜日7・8時限	公開しません	特になし
58	58	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習III(3)(Colloquium on the Basics of Economics and Law III)	2	必修	2	後期	金曜日7・8時限	桑波田 浩之	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	経済学の基礎理論を用いて、経済に関する諸問題を理解・考察出来るようになること 自らの考察やアイデアを資料にまとめ、相手に論理的に説明する技術を身につけること	経済法律基礎演習IIは、経済法律コースの基礎科目(ミクロ経済学、マクロ経済学、公法学、私法学、およびデータ分析)を演習形式で学ぶ科目です。テキストの輪読を行います。学生による発表を基本とし、ときに演習問題の解説をしてもらい、経済法律基礎科目の理解を確実なものにします。 経済法律コースの学生はこの基礎演習を必ず履修しなければなりません。上記5科目のなかから1つを選択して、2年次後期の半年間、その科目を演習形式で学んでゆきます。	1. ガイダンス 2. ミクロ経済学の論理と方法 3. 市場機構と需要・供給 4. 消費者と需要 5. 消費者行動と需要曲線 6. 消費者需要理論の応用と拡張 7. 企業行動と生産関数 8. 企業行動と費用関数 9. 企業の長期費用曲線と市場の長期供給曲線、完全競争市場と効率性(1): 部分均衡分析 10. 完全競争市場と効率性(2): 一般均衡分析 11. 不完全競争市場 12. 生産要素市場 13. 市場機構の限界 14. 不確実性と情報 15. ゲームの理論	教科書を輪読します。事前に発表者を決め、レジュメを用意してもらい、発表・質疑応答者をしてもらいます。他の受講者は、事前に教科書を読み、発表の内容を検討し、的確に質問をすることが求められます。	経済学関連	–	–	–	西村和雄『ミクロ経済学(第3版)』岩波書店	資格試験研究会『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ5 ミクロ経済学』実務教育出版 西村和雄・八木尚志『経済学 ベーシックゼミナール』実務教育出版	期末試験は行いません。発表の内容や質疑応答など、授業への取り組み状況を総合的に判断し評価を付けます。3分の2以上の出席がなければ単位取得出来ません。	演習	教科書を輪読した後、演習形式で問題を解いていきます。	関心のある分野を選んでも、あえて苦手科目を選んでも構いません。2年次に確実な基礎を持つことは、3年次以降の分野に関わらず、その後の学習(とくにゼミナール、卒業研究)に役立ちます。しっかり学んでください。	水曜1・2・3・4限(メールを貰えれば、他の時間帯でも対応可能です)	kuwahata@hirosaki-u.ac.jp	なし
59	59	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習III(4)(Colloquium on the Basics of Economics and Law III)	2	必修	2	後期	金曜日7・8時限	河合 正雄	–	レベル2	CP・DP 3 学び続ける力	「公法学」や「憲法」で扱った論点を深めることで、3年次以降の法学系ゼミナールで研究を進めていくための基礎的能力を修得すること	経済法律基礎演習IIは、経済法律コースの基礎科目(ミクロ経済学、マクロ経済学、公法学、私法学、およびデータ分析)を演習形式で学ぶ科目です。テキストの輪読など、学生による発表を基本とし、ときに演習問題の解説をしてもらい、経済法律基礎科目の理解を確実なものにします。 経済法律コースの学生はこの基礎演習を必ず履修しなければなりません。上記5科目のなかから1つを選択して、2年次後期の半年間、その科目を演習形式で学んでゆきます。	第1回 :ガイダンス 第2回 :小説はプライバシーを侵害するのか(第1章) 第3回 :社会や家族の変化に民法は応えるべきか?(第2章) 第4回 :「投票価値の平等」を阻むものは何か(第3章) 第5回 :憲法「土着化」プロセスにみえる「公務員」秩序とは(第4章) 第6回 :思想・良心に反する行為を拒めるか?(第5章) 第7回 :「神社は宗教ではない?」が宗教すること(第6章) 第8回 :「お行儀のよい デモ行進」を目指して?(第7章) 第9回 :自分の好きなところに店を開くことができない?(第8章) 第10回 :「大学の危機」時代に考える学問の自由・大学の自治(第9章) 第11回 :「最低限度の生活」を求めて(第10章) 第12回 :私のものは「私だけのもの」か?(第11章) 第13回 :日本の解散権は自由すぎる?!(第12章) 第14回 :「統治行為論」とは何か?(第13章) 第15回 :全体のまとめ	予習中心になります。授業の趣旨からして、完全に理解できなくてもかまいませんので、テキストを熟読した上で授業に参加してください。報告担当者は、担当章に出てくる条文や主要判例の概要を必ず確認するようお願いします。	法学関連	–	–	–	山本龍彦ほか編著『憲法判例からみる日本法×政治×歴史×文化』(日本評論社、2016年)2,500円＋税	特にありません。	期末試験は行いません。授業内における課題や発表への取り組み方、発言内容などを総合的に考慮して評価します。3分の2以上の出席がない場合は、単位取得できません。	演習	担当者による20分程度の報告(テキストの要約と検討と箇条書きしたレジュメを、A4で2頁程度にまとめる)の後に全員で議論し、最後に教員が解説します。	関心のある分野を選んでも、あえて苦手科目を選んでも構いません。2年次に確実な基礎を持つことは、3年次以降の分野に関わらず、その後の学習(とくにゼミナール、卒業研究)に役立ちます。しっかり学んでください。	水曜日5・6限ですが、オフィスアワーに限らず在室時であれば喜んで対応いたします。	http://hue2jm.hirosaki-u.ac.jp/html/10000700_ja.html	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
60	60	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律基礎演習Ⅲ(5) (Colloquium on the Basics of Economics and LawⅢ)	2	必修	2	後期	金曜日7・8時限	吉村　顕真	–	レベル2	CP・DP　3 学び続ける力	家族法、特に親族法の全体構造を理解すること 基本的な制度や概念を理解し、自分の言葉で説明できるようにすること 重要な論点について理解し、議論ができるようにすること。	経済法律基礎演習Ⅲは、経済法律コースの基礎科目(ミクロ経済学、マクロ経済学、公法学、私法学、およびデータ分析)を演習形式で学ぶ科目です。テキストの輪読など、学生による発表を基本とし、ときに演習問題の解説をしてもらい、経済法律基礎科目の理解を確実なものにします。 経済法律コースの学生はこの基礎演習を必ず履修しなければなりません。上記5科目のなかから1つを選択して、2年次後期の半年間、その科目を演習形式で学んでゆきます。	第1回　　オリエンテーション 第2回　　親族法を学ぶための前提知識 第3回　　夫婦①:婚姻の成立と効果 第4回　　夫婦②:離婚の成立、手続き、効果(財産分与) 第5回　　夫婦③:離婚の効果(親権・監護権、面会交流、養育費) 第6回　　夫婦④:婚姻外の関係 第7回　　親子①:民法上の実親子関係 第8回　　親子②:人工生殖と親子関係 第9回　　親子③:養親子関係(里親制度を含める) 第10回　親子④:親権、子の引渡し、児童虐待防止 第11回　後見①:未成年後見 第12回　後見②:成年後見 第13回　扶養:親族の扶養 第14回　法定相続 第15回　遺言相続	受講者は、報告担当をしない場合でも、教科書を読んできてください。	法学関連	–	–	–	初回の授業までにお知らせします。	適宜、指示します。	報告:80%、提出物:20%	演習	毎回、数名の報告者に報告してもらった上で、それに対して参加者による質疑・応答をするという形で進めていく予定です。	民法関係の講義を履修しておいてください。	水曜日10:30～11:30	初回の授業時にお知らせします。	特にありません。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
61	61	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	刑事司法論(Theory of criminal justice)	2	選択必修	2	後期	木曜日5・6時限	平野　潔	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　3 学び続ける力	刑事訴訟法および刑事政策に関する基本的な考え方を身につけること 刑事裁判において生じている問題を、刑事訴訟法の観点から考えることができること 犯罪者の更生や矯正、被害者支援等の刑事政策的な問題を、刑事法的観点から捉えることができること	授業の前半は、刑事裁判の手続きを定めた「刑事訴訟法」を中心に授業を進めます。本講義の後半は、刑事政策の中のなかに犯罪者の矯正・更生、あるいは被害者に対する施策などについて学びます。また、法と生命倫理に関する問題についても考えていきます。	第1回　イントロダクション 第2回　捜査の基本原則 第3回　逮捕と勾留 第4回　公訴の提起 第5回　公判手続きと裁判員制度 第6回　証拠法 第7回　上訴と再審 第8回　少年事件の手続き（ゲストスピーカーによるレクチャー） 第9回　刑罰論 第10回　受刑者の処遇・中間試験（第2回～第9回） 第11回　犯罪者の更生（ゲストスピーカーによるレクチャー） 第12回　犯罪被害者の支援 第13回　生命倫理と刑法①（脳死と臓器移植） 第14回　生命倫理と刑法②（安楽死と尊厳死） 第15回　生命倫理と刑法③（胎児の保護） 第16回　期末試験	予習：毎回次回の授業範囲を指定しますので、配布された資料や教科書をよく読んで、分からない言葉などを各自で調べておいてください。 復習：毎回配布するレジュメの最後に演習問題を付してありますので、それを使って行って下さい。	法学関連	–	–	実務教員	とくに指定しません。	井田良『基礎から学ぶ刑事法 第6版』(2017年、有斐閣) 寺崎嘉博＝長沼範良＝田中開著『刑事訴訟法 第4版』(2015年、有斐閣) 田口守一『刑事訴訟法 第7版』(2017年、弘文堂) 大谷實『新版 刑事政策講義』(2009年、弘文堂) （#冊とも図書館に配架済みです） その他の参考文献については、適宜指示をします。 小型のもので構いませんので、「六法」は必ず携行するようにしてください。	開講時にいずれかの方式を選択してください。 《A方式》 期末試験100%で成績評価します。 一切の持ち込みを不可とし、論述式の問題を出題します。 《B方式》 授業レポート・中間試験によって評価します。授業レポート35%、中間試験15%、期末試験50%を合算します。レポートは毎時間ごとに予習も含めた形で出します。中間試験は、知識を問う問題を出題します。期末試験は、論述式問題を出題する予定です。中間・期末試験とも一切の持ち込みは不可とします。 詳細は、開講時に説明します。	講義	基本的には、講義形式で行います。毎回レジュメを配布し、それに沿って講義をします。授業の進中に簡単な演習問題を出題します。受講者にも考えてもらう時間を設けます。	講義の前半は、刑事訴訟法の中でとくに問題となる事項を取り上げます。刑事訴訟法の仕組みを理解する上でも、刑事裁判の傍聴をしておくことをお勧めします。 講義の後半は、刑事政策の中でとくに近年問題となっている事項を取り上げます。こちらは日々動きのある領域の問題が多いので、新聞・ニュース等には必ず毎日触れるようにしておいてください。 A方式を選択した場合でも、授業に出席しなくていいということではありません。期末試験は、授業で説明した範囲から出題します。 B方式を選択した場合には、一定程度の予習などを求める形式になりますので、それなりの学習量が要求されます。その点も考慮に入れた上で履修をするようにお願いします。	木曜1・2限(8：40～10：10) ※上記以外の時間でも、研究室にいる場合には対応します。ただ、その場合は、あらかじめメール等でアポイントメントを取るようにしてください。	k-hirano(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
62	62	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	芸術史(History of Art)	2	選択必修	2	後期	集中	足達　薫	–	レベル3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　3 学び続ける力	近世から現代までのヨーロッパ美術史の基本的流れを、アート・ワールドの形成と展開という観点から理解すること 「アーティスト（芸術家）」という社会的地位及び概念の形成過程を理解し、現代におけるアート現象の目的及び課題を分析する観点を身につけること	1300年頃から21世紀までのヨーロッパ美術史の基本的展開を理解します。（見通す力） アート・ワールド［アート［芸術］とその創造者であるアーティスト［芸術家］が活動する領域］の形成過程及び成立条件を理解します。（見通す力） アートの課題と限界について理解し、現代のアート現象を分析する観点を身につけます。（学び続ける力）	1回目：アートの条件とは何か 2回目：アート・ワールドの特質 3回目：アートに迫るための2つの基本的ツール（1）イコノグラフィーI 4回目：アートに迫るための2つの基本的ツール（2）イコノグラフィーII 5回目：アートに迫るための2つの基本的ツール（3）様式と技法 6回目：アルティザンからアーティストへ――美術家の著名と自画像 7回目：アーティスト以前の絵画制作――ギルランダイオ（マギの礼拝）を手がかりにして（1） 8回目：アーティストへの変身――ギルランダイオ（マギの礼拝）を手がかりにして（2） 9回目：学校の先生になる美術家――美術アカデミーの誕生 10回目：アカデミズムの時代――創造の自由と権威のパラドックス 11回目：アカデミズムへの挑戦と解体――アート・ワールドの確立 12回目：20世紀のアーティスト像の形成――ファン・ゴッホとピカソ 13回目：「アートのためのアート」――アート・ワールドの結論 14回目：20世紀末以降のアート――解体され続ける枠組み 15回目：アートの未来（まとめ30分）＋最終試験（60分）	[予習]美術全集や美術史の通史を読み、美術史の流れに関する基礎的な知識を身につけておいてください。 [復習]ユニットごとの要約文を作成することを推奨します。試験対策としても効果的です。	芸術関連	歴史学関連	思想関連	–	プリントを配布します。	授業で指示します。	平常評価(授業への参加度。ユニットごとに提出してもらうコメントカードの内容に基づく。単なる出席回数ではない。評価全体の30%) 期末評価(理解度の確認。最終回での既述試験。同70%) 上記を合算して成績評価を行います。	講義	集中講義となるため、ユニット（1～4回目、5～8回目、9～12回目、13～14回目）ごと、作品や話題に関する質問や疑問を記したカードを提出してもらいます。次回の授業の際に紹介・回答します。	ヨーロッパの絵画や彫刻への関心が必要です。	水曜13:00～14:00、人文社会科学部3階、芸術史研究室。	kaoruucci※hirosaki-u.ac.jp 上記の記号はアットマークです。	なし。
63	63	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	形態文化史(History of Morphological Cultures)	1	選択必修	2	後期	火曜日5・6時限	関根　達人	地域志向科目	レベル1～4	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　3 学び続ける力	非文字資料の分析法や分析結果に関する解釈の仕方を理解すること 非文字資料と文字資料をいかに“コラボ”していくかについて，具体的な研究事例から学ぶこと	文化財を用いた具体的な研究事例を紹介しながら，考古学，文献史学，美術史学，民俗学など，文化財を対象とした様々な学問の連繋の在り方について学びます。	第1回　ガイダンス 第2回　モノによる中近世研究の方法 第3回　近世木簡は語る 第4回　陶磁器研究の視点と方法 第5回　近世陶磁器の生産と流通1 第6回　近世陶磁器の生産と流通2 第7回　陶磁器から探る戦国城館の格と年代 （津軽氏を例に） 第8回　陶磁器から探る戦国城館の格と年代 （南部氏を例に） 第9回　近世陶磁器からみた蝦夷地の内国化 第10回　金石文研究の視点と方法 第11回　金石文研究1.（記念碑1） 第12回　金石文研究2.（記念碑2） 第13回　金石文研究3.（近世墓標1） 第14回　金石文研究4.（近世墓標2） 第15回　金石文研究5.（まとめ）、期末試験	スライドを用いた授業中に作成したメモを、授業終了後整理し、授業の要点を整理しておく必要があります。	考古学関連	歴史学関連	文化人類学関連	–	ありません。	関根達人2008『あおもり歴史モノ語り』無明舎出版、1,700円+税 関根達人2016『モノからみたアイヌ文化史』吉川弘文館、定価1,900円+税 関根達人2018『墓石が語る江戸時代』吉川弘文館歴史文化ライブラリー464、定価1,800円+税 全て附属図書館で閲覧可能です。	期末試験(論述式)に不成績評価します。	講義	授業はスライド中心に進め、適宜、授業で配る資料を参照します。言葉を発することのない文化財からいかに多くのことが聞き出せるか，具体的な研究事例を通して楽しむことができます。	集中はスライドを見ながら説明をメモする必要があります。授業後にメモを整理することをおすすめします。	水曜日1・2時限目	sekine(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
64	64	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	形態文化論(History of Morphological Cultures)	1	選択必修	2	後期	木曜日3・4時限	宮坂　朋	–	レベル1	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　3 学び続ける力	古代地中海世界の文化財の起源と発展の概観を学ぶこと 作品を分析する上で重要な鍵となる，様式と図像の基礎について学ぶこと 形態，材料，工法，技法などの点から分析する方法の初歩を学ぶこと	博物館や美術館に収蔵・展示される文化財の多くは視覚芸術作品です。そのような作品を前にして，「好き・嫌い」以外の評価はどのように下すべきなのでしょう。この講義では，古代地中海世界の建築，彫刻，絵画，工芸などの主要な作品の分析方法について学びます。	復習1：授業でわかったことを復習時に文章にまとめておくと良い成果が得られるでしょう。 復習2：配布資料を読んでおくこと。 予習は特に必要ありませんが，夜はよく寝てスッキリした頭で授業に臨んでください。	芸術関連	考古学関連	博物館学関連	–	特にありません。配布資料が多数あります。	・『世界美術大全集』全29冊、小学館、1992-1997年。 ・『西洋美術館』小学館、1999年。 ・高津春繁『ギリシア・ローマ神話辞典』岩波書店、1960年。 ・『新共同約聖書』。	・毎回の授業の参加度（50%） ・期末試験（50%）	講義	・基本的には講義ですが、毎回口頭による質問やワークシート利用などにより、学生の積極的な参加が求められています。	・予備知識や「センスの良さ」は特に必要ありません。作品を良く見ることが大事です。	・火曜日5/6限目	・tomo(a)hirosaki-u.ac.jp ＊(a)は＠アットマーク	・欠席5回で不可です。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
65	65	人文社会科学部社会経営課程経済法様コース	刑法 (Criminal Law)	2	選択必修	2	前期	金曜日7・8時限	平野　潔	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　3 学び続ける力	刑法に関する基本的な考え方を身につけること 現実社会において生じている諸問題を、刑法的視点から検討できること	刑法は、どのような場合に犯罪となり、それに対する効果としてどのような刑罰が科されるかを規定する法律です。本講義の前半では、この中から犯罪の一般的な成立要件を論ずる「刑法総論」を中心に犯罪の基本的な枠組みを学びます。後半では、犯罪の個別的な成立要件を扱う「刑法各論」を中心に授業を進めます。	第1回　イントロダクション 第2回　近代刑法の三大原則 第3回　実行行為と因果関係 第4回　故意と過失 第5回　錯誤論 第6回　違法性の本質と違法性阻却事由 第7回　責任論 第8回　未遂犯論 第9回　共犯論 第10回　個人的法益に対する罪①(生命・身体・自由)・中間試験(第2回～第9回) 第11回　個人的法益に対する罪②(財産犯①―窃盗・強盗) 第12回　個人的法益に対する罪③(財産犯②―詐欺・横領) 第13回　社会的法益に対する罪①(社会の平穏) 第14回　社会的法益に対する罪②(社会の信用) 第15回　国家的法益に対する罪 第16回　期末試験 ※授業内容は、進捗状況等により変更になることがあります。	予習：毎回次回の授業範囲を指定しますので、配布された資料や教科書をよく読んで、分からない言葉などを各自で調べておいてください。 復習：毎回配布するレジュメの最後に演習問題を付してありますので、それを使って行って下さい。	法学関連	–	–	–	川端博著『刑法』(2014年、成文堂)	井田良『基礎から学ぶ刑事法 第6版』(2017年、有斐閣) 井田良ほか『よくわかる刑法』[第3版]』(2018年、ミネルヴァ書房) 山口厚『刑法』[第3版]』(2015年、有斐閣) (当面とも図書館に配架済みです) その他の参考文献については、適宜指示をします。 小型のもので構いませんので、「六法」は必ず携行するようにしてください。	開講時にいずれかの方式を選択してください。 《A方式》 期末試験100%で成績評価します。 一切の持ち込みを不可とし、論述式の問題を出題します。 《B方式》 授業レポート・中間試験および期末試験によって評価します。授業レポート35%、中間試験15%、期末試験50%を合算します。レポートは毎時間ごとに予習も含めた形で出します。中間試験は、知識を問う問題を出題します。期末試験は、論述式問題を出題する予定です。中間・期末試験とも一切の持ち込みは不可とします。 詳細は、開講時に説明します。	講義	基本的には、講義形式で行います。毎回レジュメを配布し、それに沿って講義をします。授業の途中に簡単な演習問題を行い、受講者にも考えてもらう時間を設けます。	本講義の前半で扱う「刑法総論」は学説の対立が激しく、議論がきわめて抽象的であるため、難解であるとされています。授業の中では、具体的な事例を織り込みながら、できる限り分かりやすく解説を加えていこうと考えています。しかし、ただ講義を聞くだけでは刑法を理解することは難しいでしょう。ですから、授業中、つねに自分はどう考えるか、自分ならどのような結論を導くかを考えながら、取り組んで欲しいと思います。単に学説・判例を暗記した(暗記したつもりになった)だけでは、本来の意味での刑法の理解にはなりません。 後半で取りあげる刑法各論は比較的具体的な議論ですので、刑法総論に比べると理解がしやすいかもしれません。本講義でも、判例などで問題となった具体的な事例を挙げながら、何が問題となっていて、解決方法としてどのようなものがあるかを示していきたいと思っています。ただ、すべての犯罪について講義をするのは時間的に難しいので、とくに問題となる重要な論点を中心に授業は進めていきます。 A方式を選択した場合でも、授業に出席しなくていいということではありません。期末試験は、授業で説明した範囲から出題しますので、教科書を読むだけでは解けない問題も出てきます。そのことを念頭に置いて履修して下さい。 また、B方式を選択した場合には、一定程度の予習などを求める形式になりますので、それなりの学習量が要求されます。その点も考慮に入れたとて履修するようにお願いします。	木曜1・2限(8:40～10:10) ※上記以外の時間でも、研究室にいる場合には対応します。ただ、その場合には、あらかじめメール等でアポイントメントを取るようにしてもらえると助かります。	k-hirano(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
66	66	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	原価計算 (Cost Accountings)	2	選択必修	2	前期	火曜日7・8時限	小杉　雅俊	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	原価計算についての学識を得ること 上記学問の知識や理解に基づいて、原価計算の計算構造が理解できるようになること 原価計算の学識を、原価情報作成者としての観点から実践の場に活かす能力を習得し、現代企業が直面するさまざまな課題を解決していく力を身につけていること	○ 原価計算という一連の会計手続きについて、主に原価情報の作成者としての視点から、どのように分類・測定・集計され、利用されているのかを学ぶ ○ 基礎的な理論を理解するとともに、日商簿記2級レベルの計算問題を中心とした、問題演習を多く取り入れることで、計算構造の把握による体系的な容易を行う ○ 原価情報の作成者としての視点から、原価計算が実企業の中でどのように必要とされるのかを学習する	以下のトピックスを中心に学習していく。 第1回　ガイダンス・原価計算総論 第2回　材料費の計算 第3回　労務費・経費の計算 第4回　個別原価計算 第5回　製造間接費の配賦計算 第6回　部門費計算 第7回　総合原価計算の基礎 第8回　単純総合原価計算以外の総合原価計算 第9回　総合原価計算における仕損・減損の処理、材料の追加投入の処理 第10回　標準原価計算の基礎 第11回　標準原価計算における差異分析 第12回　直接原価計算 第13回　CVP分析と図変分解 第14回　本社工場会計 第15回　工業簿記の財務諸表 第16回　定期試験	各回の授業終了時に計算問題を主体とする復習点や、予習についてお知らせします。各2時間程度になります。復習の際は、授業中に行う練習問題を中心に、論点をしっかりと整理しましょう。授業中に配布するレジュメや、紹介する参考文献を図書館などで読み込むことで、さらに理解が進むと思います。	経営学関連	–	–	–	各回で配布するレジュメによって授業を行います。教科書は使用しません。	村田直樹・稲川奈美(編著)[2012]『会計による経営管理』税務経理協会、[弘前大学附属図書館 開架図書(本館2F)、336.84[Mu59k]他にも、授業中に適宜紹介します。	平常評価(授業への参加度):10% 小テスト:40% 期末試験:50% 上記により総合的な成績評価を行います。	講義	基本的に講義形式を想定しています。	予備知識は問いません。個人的には、簿記や会計を勉強したことがあるけれど、どうも苦手だと感じている学生さんにこそ受講してほしいと考えています。もちろん、会計学が好きな方、ビジネスに関する興味がある方、経済や経営の勉強が好きな方の受講も歓迎します。また、授業内で電卓を使用することがあります。12桁以上の電卓を用意してください。	火曜日12:00～12:30 この時間以外にも柔軟に対応していますので、授業前後に気軽にご相談ください。	k*os*ug*i[at]hirosaki-u.ac.jp 上記の*を全て削除し、[at]をアットマークに変換してください。	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
67	67	人文社会科学部文化創生講程文化資源学コース	言語学 (Linguistics)	2	選択必修	2	後期	月曜日3・4時限	山本　秀樹	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	言語類型論的な研究を学ぶことを通じて人類言語の普遍性を理解すること 世界の人類言語全体の普遍性や変異のあり方を探求するための基本的な手法を身につけること 個別言語と向き合った場合にも、この講義で学んだ知識を通じて、人類言語全体の視点から言語現象を考えていける力を身につけること	世界の言語には、ある一定の普遍性が存在し、一見異なっているように見える場合でも、一定の普遍的な原理に沿って変異している場合がしばしば見られます。言語類型論とは、世界諸言語からの広範なデータを基に、種々の言語現象について、類型化を通じて人類言語の普遍性および変異のあり方を発見し、さらにそれらに対する説明原理を探究していく分野です。そこで、この講義では、言語類型論的立場から、世界諸言語における普遍性と変異のあり方に関する全般的な概説をし、種々の言語現象に対して人類言語一般に対する客観的な視点で考察できる力を身につけます。	まず言語類型論による普遍性の研究法や特徴について概観し、その後、種々の言語現象について言語普遍性を探究していきます。 原則として次のような展開で学習していく予定ですが、1回ごとの授業範囲については、授業の進行状況により異なる場合があります。 第1～4回：言語類型論の概要（1. 言語類型論の目標　2. 言語普遍性の研究方法　3. 言語普遍性に対する説明原理　4. 言語普遍性の種類） 第5～6回：語彙的類型論（1. 基本色彩語彙　2. 共感覚的比喩） 第7～13回：形態・統語的類型論（1. 有生性の階層　2. 格標示のタイプ　3. 有生性の階層と格標示　4. 他動性等と格標示　5. 関係節形成　6. 使役構文） 第14～15回：語順類型論（1. 語順類型論の概要　2. 語順の地理的分布） 第16回：試験	ノートで講義内容を復習して理解を深め、次回の講義で扱われるテーマについてどのようなことが言えるか各自考えてみてください。また、できるだけ参考文献の該当箇所にも目を通すことが望ましいでしょう。	言語学関連	地理学関連	歴史学関連	–	特定の教科書は使用しませんが、特に参考文献にあげた本は、講義を理解するとで役立つ参考書となるでしょう。	・山本秀樹著『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』(溪水社) ・バーナード・コムリー著『言語普遍性と言語類型論』(松本克己・山本秀樹訳)(ひつじ書房) （いずれも附属図書館所蔵）	試験および平常の発議姿勢により評価します。講義にまじめに出席して学習することが大切です。また、試験ではノートなどの参照を許可する予定なので、講義の内容を単に覚えることよりもむしろ、しっかりと内容を理解した上で、自分の言葉で説明できるようにしておくことが重要になります。	講義	講義形式で解説していきます。	講義で扱われる種々の個別言語に対する知識は特に要求しませんが、日本語や日ロッパ語以外の、世界諸言語にも興味を持って受講して下さい。また、特に「言語と文化」や「言語学演習」が関連します。	金曜日12:00から13:00	hideyama@hirosaki-u.ac.jp	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
68	68	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	言語学演習 (Linguistics Colloquium)	2	選択必修	2	後期	月曜日9-10時限	山本 秀樹	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	歴史比較言語学を学ぶことによって、言語一般に関する変化のあり方を理解すること 歴史比較言語学による手法を用いて、言語の系統関係や祖形の再建方法に関する基礎的な手法を体得すること 個別言語を対象とした場合にも、人類言語全般の視点から歴史・比較言語学を学んだ知識を通じて、言語変化について考えていける力を身につけること	世界の人類言語には、しばしば、同じ祖語から分かれて同一語族を成すことの知られている場合があります。たとえば、現在、ヨーロッパからインド北部にかけて広く分布する言語の多くが系統的にインド・ヨーロッパ語族という単一の語族に属することが、よく知られています。そこで、言語一般に関して、主に歴史比較言語学的な観点から、言語変化のあり方、系統証明や祖形ないし祖語の再建方法等を考察することを通じて、それらに対する理解を深めます。	言語の通時的(歴史的)側面について、原則として次のような展開で学習していきます。ただし、1回ごとの授業範囲については、授業の進行状況により異なる場合があります。 第1回：歴史比較言語学の概要 第2回：言語変化の性質 第3回：言語変化の原因 第4～5回：音韻的変化(1. 同化、音位転換等　2. 弱化、消失等) 第6～7回：形態的変化(1. 形態的変化の種類　2. 総合的タイプと分析的タイプ) 第8回：統語的変化 第9回：言語変化の拡散 第10～12回：祖語(祖形)の再建方法 (1. 比較再建　2. 比較再建の実例　3. 内的再建) 第13回：言語の系統証明とさらに遠い類縁関係の探求 第14回：歴史・比較言語学と言語類型論 第15回：言語変化と自然性 第16回：試験	プリントやノートで内容を復習して理解を深め、次回扱う内容についてもプリントに目を通しておくことが望まれます。	言語学関連	歴史学関連	–	–	プリントを使用します。	下宮忠雄著『歴史比較言語学入門』(開拓社)(附属図書館所蔵)	試験および平常の受講姿勢により評価します。毎回まじめに出席して学習することが大切です。また、試験ではノート等の参照を許可する予定なので、内容を単に覚えることよりもむしろ、しっかりと内容を理解した上で、自分の言葉で説明できるようにしておくことが重要になります。	講習	プリントを使用しながら学習していきます。	特定の個別言語の知識は特に要求しませんが、日本語や中ヨーロッパの言語だけでなく、種々の言語に対して、少なくとも大きな関心を持って受講することが望ましいでしょう。また、特に「言語学」や「言語と文化」が関連します。	金曜日12:00から13:00	hideyama@hirosaki-u.ac.jp	特になし
69	69	人文社会科学部	言語学入門 (Introduction to Linguistics)	1	選択必修	2	前期	月曜日9-10時限	佐藤 和之	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力	国語(日本語)の中でも、社会言語学という研究の方法を使って、ことばへの不思議を見つけ、答えを探すこと 高校までにことばに興味はあったけど国語は苦手だったという学生の好奇心を満たすこと	ことばの持つ力」とくに日本語(「国語」ではないところに注意を要します)を中心として、ことばの使い手である人間や人間の集まりである社会との関係から科学的に考えられるようになる授業展開です。 近代言語学は人間を不在にして言語としての本質や機能を追求してきました。 「社会言語学では、ことばの使用者である人間の意識や人間の集まりである社会でのことばの役割を考えます。 講義では、日本語を中心としたアジアや世界の言語の役割を、欧米の言語と比較しながら、その類似性や相違性、さらに社会で果たしている役割と機能について講義します。 そしてそういう知識を持つことは、社会に出たときにどう役立たせられるのかまでを15回の講義で習得します。	言語学(日本語)とは何かについて、こんなふうに考えます。 人間が使っていることばを、ことばと関係するいろんな領域との関係から考える研究領域のこと。いろんな領域とは、たとえば地域であったり歴史であったり、環境、地域の構成員、地域や国の経済力、人間のこころだったりします。 だから方言と共通語の関係や日本語と外国語の関係も対象研究の一分野です。 またあるいは中学校2年のときに、光村図書の国語教科書を使っていた皆は、「やさしい日本語」という単元を国語で学びました。覚えているでしょうか. この講義では同じ素材を使いながら、先端研究としてどう扱っているのか、現在進行形の言語研究を中学2年の国語で学んだ教材に近づけながらプラグマティックな方法論として講義します。 日本語を中心として、そんなことばの不思議と魅力と社会活用について考え、説明できるようになる基礎力を培います。 1. 音声言語と文字言語 2. 日本語の文字使用状況 3. 漢字の誕生 4. 漢字のなりたち 5. 小学校漢字六書分類 6. 5つの書体 7. 漢字の発達 8. 漢字の簡略化と中国の簡体字 9. 日本への文字伝来 10. 日本書紀と漢字伝来 11. 漢字の音読みと訓読み 12. 仮名の成立 13. 万葉仮名 14. 万葉仮名から平仮名へ 15. 平仮名と片仮名 16. 試験	ことばへの興味と積極的な講義への参加意欲、参加姿勢が必要です。参加意欲と参加姿勢とは、受講者としてなぜこの講義に参加するのかとか、その考えを教室でことばとして説明できるかといった「自分を表現する力」が要求されるということです。 高校までの聞き手に徹する授業とは異なることに注意を要します。	言語学関連	社会学関連	教育学関連	–	とくに指定しません。必要に応じ資料を配付します。	講義中に、適宜紹介します。	試験および講義中の口頭での回答や提出物など、さまざまな評価尺度で総合的に評価します。欠席をすると次回の講義に参加しても話題についていけなくなることがあります。また小テストの之きの不利にもなります。それらへの注意が大切です。	講義	人間の言語行動を学ぶ授業ですから、受講生に意見を求めることが必然的に多くなります。講義中での発言に躊躇しない、あるいは社会に出る前にそういうスキルを積んでいたい学生、あるいは社会に出る前にそういうスキルを積んでいたい学生の参加が望まれます。	(17)と(24)で説明したことの再言ですが「ことばへの興味と積極的な講義への参加意欲、参加姿勢が必要」であること。また「講義中での発言に躊躇しない、あるいは社会に出る前にそういうスキルを積んでいたい学生」であることが留意点です。予備知識は、いまそれぞれが持っている言語力で十分です。それを大学生として整理してみましょう。	研究室に在室のときは随時可能です。 火曜日11時50分から12時50分は確実に相談にのることができます。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/	所属が文化創成課程か社会経営課程かにとらわれず、ことばへの興味をもつ学生に向けて開講する講義です。日本の大学の講義を日本人大学生と共に受講したい外国人留学生も歓迎します。ただし講義を理解できる日本語力は必要です。
70	70	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IA (英語) (1) (Foreign Language Communication Practicum IA (English))	2	必修	2	前期	月曜日7-8時限、木曜日7-8時限	澤田 真一	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	英語の正しい文法に基づいた実践的な運用能力を養うこと プレゼンテーションなどを通じて、英語での自己表現やグループ・ディスカッションができるようにすること TOEICスコア550以上の英語力を身につけること	週2コマの授業を行います。英語のプレゼンテーションの教材を主に用いて、プレゼンテーションやディスカッションなど音声活動を中心とした実践的な授業を行います。授業は全て英語で行われます。	基本的に授業の半分を教科書に従って進めていきます。教科書以外に映画、歌、文学作品、散文等を教材として使用します。 全体で10回の単語テストを行います。 第1回：Introduction 第2回：Unit 1 Protectors 第3回：Unit 2 Family Connections（基礎） 第4回：Unit 2 Family Connections（応用） 第5回：Unit 3 Global Stories （基礎） 第6回：Unit 3 Global Stories （応用） 第7回：Unit 4 Music （基礎） 第8回：Unit 4 Music （応用） 第9回：Movie （鑑賞） 第10回：Movie （解釈） 第11回：Unit 5 Good Design （基礎） 第12回：Unit 5 Good Design （応用） 第13回：Unit 6 Inspiration （基礎） 第14回：Unit 6 Inspiration （応用） 第15回：Unit 7 Ethical Choices （基礎） 第16回：Unit 7 Ethical Choices （応用） 第17回：Unit 8 Better Cities （基礎） 第18回：Unit 8 Better Cities （応用） 第19回：Unit 9 Giving （基礎） 第20回：Unit 9 Giving （応用） 第21回：Unit 10 Mind and Machine （基礎） 第22回：Unit 10 Mind and Machine （応用） 第23回：Unit 11 Nature （基礎） 第24回：Unit 11 Nature （応用） 第25回：Unit 12 Discovery （基礎） 第26回：Unit 12 Discovery （応用） 第27回：Discussion and Presentation 1 (music) 第28回：Discussion and Presentation 2 (books) 第29回：Discussion and Presentation 3 (current issues 1) 第30回：Discussion and Presenttaion 4 (current issues 2) 定期試験	予習：授業の内容予定に従い、予習してください。単語調べだけでなく、テーマに関して自分の意見を英語で表現できるように工夫しておいてください。 復習：期末試験に向けての復習をしてください。	言語学関連	思想関連	文学関連	–	David Bohlke, Keynote 2, Cengage Learning 杉武史、『キクタン TOEIC TEST SCORE 600』(改訂版)、アルク	授業で適宜紹介します。	パーティシペイション・ポイント(20%)、スピーチ・ポイント(20%)、小テスト(20%)、及び期末試験の成績(40%)から評価します。	実習	演習形式となります。	自分は何のために英語を学習するのかを常に意識しつつ、授業への主体的な参加を心がけてください。	金曜日7-8時限、および昼休み	ssawada@hirosaki-u.ac.jp	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
71	71	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IA（英語）（2）(Foreign Language Communication Practicum IA (English))	2	必修	2	前期	月曜日7・8時限、木曜日7・8時限	畑中　杏美	–	レベル1	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　3 学び続ける力	英語の正しい文法に基づいた実践的な運用能力を養い、プレゼンテーションなどを通じて、英語でのの自己表現やグループ・ディスカッションができるようにすること TOEICスコア550以上の英語力を目指すこと	週2コマの授業を行います。英語のプレゼンテーションの教材を主に用いて、プレゼンテーションやディスカッションなど音声活動を中心とした実践的な授業を行います。授業は全て英語で行われます。	第1回 Introduction & Unit 1 Protectores 第2回 Unit 1 Protectors: Why I Love Vulters 第3回 Unit 2 Family Conenction: My Family 第4回 Family Connection: Geneaology 第5回 Unit 3 Global Stories: Interview with an author 第6回 Global Stories: My Year Reading a Book From Every Cuntry 第7回 Unit 4 Music: A Traditional Singer 第8回 Unit 4 Music: Why I take piano on the road… 第9回 Unit 5 Good Design: A Designer's Advice 第10回 Unit 5 Good Design: The Worst-Designed Thing 第11回 Unit 6 Inspiration: My Inspiration 第12回 Unit 6 Inspiration: How a Boy Became an Artist 第13回 Mid-term Presentation 第14回 Presentation and Discussion 第15回 Unit 7 Ethical Choices: Sustainable Chef 第16回 Unit 7 Ethical Choices:Leather and Meat without Killing Animals 第17回 Unit 8 Better Cities: Living abroad 第18回 Unit 8 Better Cities: It's our City 第19回 Unit　9 Giving: My Fundraising Adventure 第20回 Unit 9: Should You DOnnate Differently? 第21回 Unit 10 Mind and Machine: The Power of Visualisation 第22回 Unit 10 Mind and Machine: A Headset that Reads Your Brainwaves 第23回 Unit 11 Nature: Working in Trees 第24回 Unit 11 Nature: Talking about Outdoor Activities & Final Project Prep. 第25回 Unit 11　Nature: The Hidden Beauty of Polination 第26回 Unit 12 Discovery: My Amazing Discovery & Final Project Prep. 第27回 Unit 12 Discovery: Talking about World Discoveries 第28回 Unit 12: Discovery: How I Unearthed the Spinosaurus & FInal Project Prep. 第29回 Final Project-1: Group Presentations 第30回 Final Project-2 and Mini-test	[予習]事前に指示された箇所やプレゼンテーションの準備をする必要があります。 [復習]奇数回に小テストを行う予定です。学習したユニットの見直しが必要になります。	言語学関連	–	–	–	Keynote, American English, Level 2, Cengage (ISBN 978-1-305-96504-1)□	参考書は必要に応じて授業時に紹介します。□	パーティシペイション・ポイント(20%)、スピーチ・ポイント(10%)、及び期末試験の成績(50%)から評価します。	実習	演習形式	授業内でプレゼンテーションやディスカッションをしてもらいますので積極的に取り組んでください。	初回授業時に指示します。□	初回授業時に指示します。□	なし
72	72	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IA（多言語）中国語 (Foreign Language Communication Practicum IA (Chinese))	2	選択必修	2	前期	火曜日3・4時限、金曜日3・4時限	楊　天曦		レベル1	CP・DP　3 学び続ける力	初級文法の知識を固め、一歩上のレベルに少し進んでいくこと	説明文と会話文を学習していくなかで、よく使われる動詞を中心に学んでいきます。 意味の広がりに注目して、ことばの理解を深めていく。 補語のいくつかの形態、比較表現、数量表現、使役表現、受身表現などの文法事項を、多様な例文でブラッシュアップする。	三十回の授業内容―― 1、結果補語 程度補語 短文学習 2、練習 会話文学習 3、方向補語 “把”構文 短文学習 4、練習 会話文学習 5、「する」のいろいろな表現 短文学習 6、練習 会話文学習 7、「言う」のいろいろな表現 短文学習 “被”構文 “不管……都/也……”“好＋V” 8、練習 会話文学習 9、「送る」のいろいろな表現 “要……了” “会……的” 短文学習 10、練習 会話文学習 11、「身に着ける」のいろいろな表現 方向補語の派生意味 自然現象 短文学習 12、練習 会話文学習 13、練習問題 14、中間テスト 15、“我”のいろいろな表現 比較表現 数量表現 短文学習 16、練習 会話文学習 17、使役表現 “打”のいろいろな表現 短文学習 18、練習 会話文学習 19、“道”のいろいろな表現 短文学習 20、練習 会話文学習 21、“找”のいろいろな表現 可能補語 短文学習 22、練習 会話文学習 23、“开”のいろいろな表現 短文学習 24、練習 会話文学習 25、“爱＋V” 喜欢V 26、“吃”のいろいろな表現 27、“不如” “推迷～坦” 28、“太～了” “是～的” 29、練習問題 復習 30、期末試験	事前に、前回学んだ教科書の内容の復習と、これから学んでいく内容の予習が求められます。授業では基本的に教科書の内容を講解した上、教科書に出てくる練習問題を行うことになっています。	言語学関連	文学関連	社会学関連	実務教員	動詞をながめて中国語 ――初級から少し進んで	なし	平常・中間評価を合わせて40%。期末評価60%	実習	文法と本文を講解し、練習問題を行う。学生に質問をし、答えてもらう形を取ります。	常に基本的な発音問題に立ち戻ってブラッシュアップすること。	月曜日12:00～13:00	yang@hirosaki-u.ac.jp	なし
73	73	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IA（多言語）ドイツ語 (Foreign Language Communication Practicum IA (German))	2	選択必修	2	前期	火曜日3・4時限、金曜日3・4時限	田中　美由紀(非常勤講師)	–	レベル2～3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	ドイツ語の正しい文法に基づいた実践的な運用能力を養うこと 日常生活で初歩的なコミュニケーションをマスターできる能力を身につけること 「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」レベルA1の内容を身につけること	教養教育のドイツ語ⅠとⅡの知識を基盤にして、中級レベルのドイツ語の総合力を鍛えます。	「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」レベルA1に準拠した教科書を使って、読み、書き、話す練習をしていきます。第31回目に期末試験を受けます。 第1回から第14回 挨拶・自己紹介、学校生活、好きな動物やもの、1日のスケジュール、趣味、家族、買い物 第15回　中間テスト・復習と確認 第16回から第30回 自分の部屋、食事、余暇、体や健康、ファッション、パーティー、私の街、長期休暇 第31回　期末テスト・復習と確認	予習：テキストや語彙の予習 復習：テキストの復習をし、それから授業で課された課題やテストに対応する必要があります。	言語学関連	–	–	–	菜谷郁美他(編) Prima Plus (プリマ・プルス)、朝日出版社 (ISBN 978-4-255-25396-1)	特にありません。	毎回の課題、中間テスト、期末試験を総合して評価します。	実習	教科書のタスクに沿って聴き取り、読解、会話と作文の多様な練習による参加型授業です。	教養教育のドイツ語ⅠとⅡで学んだことを復習してください。	–	–	なし
															フランス及びフランス語圏現代社会のいろいろな側面を紹介するストーリー性のあるフランス語テキストを使って、文法およびコミュニケーションを学習します。(30回の予定) ①第1回目～第10回目 授業の紹介。 コミュニケーション：自己紹介、挨拶する。 交通手段・乗り物(動詞原)。動詞 aller / venir + en / à + prendre + le / la / l' +pouvoir+attendre 。 Parce que + 形容詞+Parce que + 副詞+形容詞。 コミュニケーション：交通手段についてたずねる・好きな乗り物を言う+ 理由。動詞 pr&eciric;ter, emprunter 。 コミュニケーション：あやまる/わびる・(人) にお礼を言う/感謝する。普通名詞+前置詞	この授業のサポート授業として、教養教育で「フランス語Ⅰ」(前期、水曜3・4時限) が開講されま													

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
74	74	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IA(多言語)フランス語(Foreign Language Communication Practicum IA (French))	2	選択必修	2	前期	火曜日3・4時限、金曜日3・4時限	ジャンソンM	–	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	日常生活に必要な基本的なフランス語の文法表現の能力を獲得すること 基本的なフランス語の表現を使って、フランス語の理解を深めること	21世紀教育フランス語のⅠとⅡの知識を基盤にして、さらに上級のフランス語の総合力を鍛えます。	固有名詞+前置詞。前置詞:小文練習 。 (小テスト)。 ②第11回目～第20回目 動詞 avoir:教示 (読み方) 。 疑問副詞 combien de…。 動詞 &eacirc;tre。表現時間 。 時間の使い方 。 動詞 faire, lire, regarder, écouter, préparer, se coucher, se réveiller。 月名と日付 。 コミュニケーション:時間副について話す・年令を言う。 職業。 コミュニケーション:職業をたずねる。 (小テスト)。 ③第21回目～第30回目 国籍(性と数)。国名 (性と数) 。 前置詞+ 国名。 動詞 adorer, aimer, détester, adorer, préférer。 コミュニケーション:好きなものを言う。 副詞 beaucoup, un peu, pas beaucoup, pas du tout。 コミュニケーション:好き/嫌いの程度を表す。 関係代名詞 qui, que, où, dont。関係代名詞 : 小文練習 。 直説法半過去 。 複合過去と直説法半過去の用法 。 (小テスト)。	[予習]この授業は、フランス語の基礎を学ぶ授業です。基礎文法を学ぶ。前置詞。前置詞。 です。この「言語コミュニケーション実習ⅠA(フランス語)」と同時に、「フランス語Ⅱ」を必ず履修してください。両者が相補い合って、総合的なフランス語力に結びつきます。 「フランス語Ⅱ」では、初級文法の復習から中級文法にかけての学習を行います。それぞれの文法事項のポイントについて丁寧な説明を受けてから、豊富な演習問題を行って実践的な文法力を身につけます。	言語学関連	–	–	実務教員	最初の授業で使用教科書をお知らせします。	授業内で、こちらで指示します。	授業内で行われる、2・3人のグループによる会話の試験(80%)、課題作文(20%)などによって評価します。	実習	学生同士や教員で会話をしたり、作り上げた文章をみんなで検討したりしながら進めていきます。	授業への積極的な参加と、フランス語での会話や作文の能力が期間中にどのくらい向上したのかを判断基準としますので、注意してください。	水曜日3・4	mjanson@hirosaki-u.ac.jp	なし。
75	75	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IB(英語)(1)(Foreign Language Communication Practicum IB (English))	2	必修	2	後期	月曜日7・8時限、木曜日7・8時限	木村 宣美	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	基本的な英文法に基づいた実践的な運用能力(Reading; Writing)を身につけること 英文の内容を正しく読解し、英語で基本的な自己表現ができること TOEICスコア550以上の英語力を身につけること	週2コマの授業を行います。テキストにしたがって英文の全般的な読解力、ボキャブラリー、自分の考えを正しい英語で表現するための文法知識を高める授業を行います。同時に、英字新聞やWeb上の記事を読み、社会問題や時事問題に関するボキャブラリーを高める授業も行います。	テキストにしたがって授業を行う2週間の後、英字新聞やWeb上の記事を読む授業を行う1週間のサイクルを繰り返します。授業外の活動として、テキストや記事の読解、ボキャブラリー向上のためのドリル、文法事項の確認などが求められます。授業外の活動成果をチェックするために隔週で小テストを行います。 第1回:Unit 1. Nourishment (Reading) 栄養(リーディング) 第2回:Unit 1. Nourishment (Writing) 栄養(ライティング) 第3回:Unit 2. Community (Reading) コミュニティ(リーディング) 第4回:Unit 2. Community (Writing) コミュニティ(ライティング) 第5回:Reading news articles (Politics) 新聞記事の読解(政治) 第6回:Reading news articles (Business) 新聞記事の読解(ビジネス) 第7回:Unit 3. Space (Reading) 宇宙(リーディング) 第8回:Unit 3. Space (Writing) 宇宙(ライティング) 第9回:Unit 4. Scale (Reading) 尺度(リーディング) 第10回:Unit 4. Scale (Writing) 尺度(ライティング) 第11回:Reading news articles (Science) 新聞記事の読解(科学) 第12回:Reading news articles (Health) 新聞記事の読解(健康) 第13回:Unit 5. Success (Reading) 成功(リーディング) 第14回:Unit 5. Success (Writing) 成功(ライティング) 第15回:Unit 6. Pressure (Reading) プレッシャー(リーディング) 第16回:Unit 6. Pressure (Writing) プレッシャー(ライティング) 第17回:Reading news articles (Lifstyle) 新聞記事の読解(生活) 第18回:Reading news articles (Entertainment) 新聞記事の読解(娯楽) 第19回:Unit 7. Fear (Reading) 恐怖(リーディング) 第20回:Unit 7. Fear (Writing) 恐怖(ライティング) 第21回:Unit 8. Stories (Reading) 物語(リーディング) 第22回:Unit 8. Stories (Writing) 物語(ライティング) 第23回:Reading news articles (World) 新聞記事の読解(国際) 第24回:Reading news articles (Technology) 新聞記事の読解(技術) 第25回:Unit 9. Water (Reading) 水(リーディング) 第26回:Unit 9. Water (Writing) 水(ライティング) 第27回:Unit 10. Persuasion (Reading) 説得(リーディング) 第28回:Unit 10. Persuasion (Writing) 説得(ライティング) 第29回:Reading news articles (Politics) 新聞記事の読解(政治) 第30回:Reading news articles (Business) 新聞記事の読解(ビジネス) 定期試験 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	[予習][授業の内容予定]に従い、予習してください。その際、辞書や英文法書で調べる等の活動が求められます。 [復習]授業以外での学修を確認するための小テストや期末試験に向けての復習が求められます。	言語学関連	–	–	–	Skillful Reading Writing 2, Macmillan (ISBN 978-1-7863-2943-1)	文法及び語彙に関しては、授業で適宜指示します。	小テスト及び期末試験の成績から評価します。	実習	演習形式(Reading/Writingの内容確認及び解説)	この授業は、ReadingとWritingのスキルを高めるための授業です。わからないことは辞書や英文法書で調べ、英語力の向上に努めてください。	火曜日5・6時限[12:40-14:10]	hukimura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
76	76	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IB(英語)(2)(Foreign Language Communication Practicum IB (English))	2	必修	2	後期	月曜日7・8時限、木曜日7・8時限	畑中 杏美	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	英語の正しい文法に基づいた実践的な運用能力を養い、プレゼンテーションなどを通じて、英語での自己表現やグループ・ディスカッションができるようになること TOEICスコア550以上の英語力を身につけること	週2コマの授業を行います。テキストにしたがって英文の全般的な読解力、ボキャブラリー、自分の考えを正しい英語で表現するための文法知識を高める授業を行います。同時に、英字新聞やWeb上の記事を読み、社会問題や時事問題に関するボキャブラリーを高める授業も行います。□	テキストにしたがって授業を行う2週間の後、英字新聞やWeb上の記事を読む授業を行う1週間のサイクルを繰り返します。授業外の活動として、テキストや記事の読解、ボキャブラリー向上のためのドリル、文法事項の確認などが求められます。授業外の活動成果をチェックするために隔週で小テストを行います。 第1回 Unit 1 Nourishment: Food as communication (Reading) 第2回 Unit 1 Nourishment: Describing a special dish (Writing) 第3回 Unit 2 Community: Living by the rules (Reading) 第4回 Unit 2 Community: Describing you rcomunity rules(Writing) 第5回 Reading news articles (Business) 第6回 Reading News articles (Politics) 第7回 Unit 3 Space: Discovered by amateurs(Reading) 第8回 Unit 3 Space: Describing a discovery by an amateurs (Writing) 第9回 Unit 4 Scale: The superconsumer generation (Reading) 第10回 Unit 4 Scale: The superconsumer generation: comparing consumer behaviour (Writing) 第11回 Reading news articles (Science) 第12回 Reading news articles (Health) 第13回 Unit 5 Success: What does it take to be successful? (Reading) 第14回 Unit 5 Success: Writing a personal statement (Writing) 第15回 Unit 6 Pressure:The stress and strains of work (Reading) 第16回 Unit 6 Pressure: Writing a summary (Writing) 第17回 Reading news articles (World) 第18回 Reading news articles (Technology) 第19回 Unit 7 Fear: Fears, reactions copoing (Reading) 第20回 Unit 7 Fear: Describing a common fear (Writing) 第21回 Unit 8 Stories: National hero (Reading) 第22回 Unit 8 Stories: Describing a subject you study (Writing) 第23回 Reading news articles (Arts) 第24回 Reading news articles (Education) 第25回 Unit 9 Water: Freshwater delivery (Reading) 第26回 Unit 9 Water: Using factual support (Writing) 第27回 Unit 10 Persuasion: Charismal(Reading) 第28回 Unit 10 Porsuasion: Presenting a claim (Writing) 第29回 Reading news articles (Society and Culture) 第30回 Reading news articles (Regional News) 定期試験 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。□	[予習]事前に指示された箇所について、読むだけでなく、疑問に思った箇所は各自調べるようにしてください [復習]毎数回に小テストを行う予定です。学習したユニットの見直しが必要になります。□	言語学関連	–	–	–	Skillful Reading Writing 2, Macmillan (ISBN 978-1-7863-2943-1)□	参考書は必要に応じて授業時に紹介します。	パーティシペイション・ポイント(20%)、授業外学習への取り組み(20%)、小テスト(10%)、及び期末試験の成績(50%)から評価します。□ □ □	実習	演習形式	色々な種類の英語・英文に親しみましょう。また、自分の考えを自分なりの英語で書けるようになりましょう。□	初回授業時に指示します。□	初回授業時に指示します。□	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
77	77	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IB（多言語）中国語（Foreign Language Communication Practicum IB（Chinese））	2	選択必修	2	後期	水曜日3・4時限、金曜日3・4時限	楊　天曦	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	実践、応用能力を身につけること	説明文と会話文を成り立たせる重要構文について、多様な文例から理解を深めていく。	三十回の授業　—— １这么，那么“”都～了” 2 “正～呢” 動詞＋“着（呢）” 3 “又～又～”“来”“不用” 動詞＋“得” 4 “越来越～”“是不是～” 5　必要性・義務を表す助動詞“要”“为了～” 6 “多”“没想到” 前置詞“为”“别～了” 7 “把”構文　動詞＋“给” 8 “听”＋形容詞＋(“的”)“多”＋動詞 9　前置詞　“往”　前置詞　“从” 10　前置詞　“沿着”　動詞＋　“一会儿” 11　形容詞の重ね型　“听～说” 12 “先～然后”“边～边～” 13 “准备”　使役を表す　“让”　“是～的”　副詞　“就”（強調） 14　動詞＋　“到”　時間＋“才”　形容詞＋“多了”　“一点儿都～” 15　中間テスト 16 “打算”“如果～的话”“跟～一样”副詞“就”（なら） 17 “好～啊”疑問詞＋“都”“不仅～而且”副詞“可” 18　前置詞“对”　前置詞“通过”“在～方面”副詞“就是” 19 “难得”運用修飾語を作る“地”可能補語　疑問詞の運用 20　“对～感兴趣”“好几”接続詞“要不”副詞“好像” 21　“既～又”“是不多”助動詞“应该”（すべき） 22　副詞“差点儿”受身を表す“被”副詞“在”“一～就” 23 “好”＋動詞　結果補語　動詞＋“上”“干净”“四”～所以” 24　“除了～以外”“比如～什么的”“～倒不～, 就是～”助動詞“应该”（はずだ） 25　“虽然～但是”副詞　“本来”動詞＋“成”“只要～就” 26　副詞　“非”動詞＋“在”副詞＋“其实”“多～啊” 27 “赶来～”　副詞“反正”　副詞“最好”　接続詞“省得～” 28 “都”　“以为”　助動詞“会”（可能性）“祝” 29　練習問題　復習 30　期末試験	事前に、前回学んだ教科書の内容の復習と、これから学んでいく内容の予習が求められます。授業では基本的に教科書の内容を講解した上、教科書に出てくる練習問題を行うことになっています。	言語学関連	文学関連	社会学関連	実務教員	LOVE上海2 初級～中級編	なし	平常・中間評価を合わせて40%、期末評価60%	実習	文法と本文を講解し、練習問題を行う。学生に質問をし、答えてもらう形を取ります。	常に基本的な発音問題に立ち戻ってブラッシュアップすること。	月曜日12:00～13:00	yang@hirosaki-u.ac.jp	なし
78	78	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IB（多言語）ドイツ語（Foreign Language Communication Practicum IB（German））	2	選択必修	2	後期	水曜日3・4時限、金曜日3・4時限	フール　ト.V.M	–	レベル2～3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	ドイツ語の正しい文法に基づいた実践的な運用能力を養うこと 日常生活で初歩的なコミュニケーションをマスターできる能力を身につけること 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」レベルA2の内容を身につけること	前期のドイツ語実習ⅠAの知識を基盤にして、会話力を含む中級レベルのドイツ語の総合力を鍛えます。	「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」レベルA2に準拠した教科書を使って、読み、書き、話す練習をしていきます。第31回目に期末試験を受けます。 第1回から第14回 休暇と天秤、自分の夢や希望・職業、友人関係、メディア、自分の気持ち、ファッション、私のストーリー 第15回　中間テスト・復習と確認 第16回から第30回 フィットネスとスポーツ、祝祭行事、心配事・わからないこと、ベルリン、住みたい環境・環境問題、旅行・交通機関、対人関係トラブル 第31回　期末テスト・復習と確認	予習：テキストや語彙の予習 復習：テキストの復習をし、それから授業で課された課題やテストに対応する必要があります。	言語学関連	–	–	–	葛谷郁美他（編）Prima Plus 2（プリマ・プルス 2）、朝日出版社（ISBN 978-4-255-25410-4）	特にありません。	毎回の課題、中間テスト、期末試験を総合して評価します。	実習	教科書のタスクに沿って聴き取り、読解、会話と作文の多様な練習による参加型授業です。	前期のドイツ語実習ⅠAで学んだことを復習してください。	木曜日3・4時限（昼休みを含む）または予約で随時	fuhrt(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	なし
79	79	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IB（多言語）フランス語（Foreign Language Communication Practicum IB（French））	2	選択必修	2	後期	水曜日3・4時限、金曜日3・4時限	ジャンソン　M	–	レベル2～3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　3 学び続ける力	日常生活に必要な基本的なフランス語のコミュニケーション能力を獲得すること 基本的なフランス語のコミュニケーション能力を使って、初歩的なフランス語が使えるようになること	21世紀教育フランス語のⅠとⅡの知識を基盤にして、さらに上級のフランス語の総合力を鍛えます。	フランス及びフランス語圏現代社会のいろいろな側面を紹介するストーリー性のあるフランス語テキストを使って、文法およびコミュニケーションを学習します。(30回の予定) ①第1回目～第10回目 授業の紹介。 頭字語（sigle）- 頭字語(acronyme)。 スポーツ, 動詞faire + 冠詞, jouer + 冠詞、savoir 。 コミュニケーション:スポーツについて話す。 好きなテレビの番組について話す。 単純未来，単純未来（不規則動詞の活用）。 コミュニケーション:自分の予定について話す 。 （小テスト）。 ②第11回目～第20回目 副詞:désaccord;désagréer, souvent, jamais 。 雑誌や新聞に載っている映画やコンサートの情報を理解する。 コミュニケーション:誘かを誘う・誘いを受ける /断る。 何かに誘う・会う約束をする。 動詞 connaître と savoir の違い 。 疑問副詞: combien …, combien de … の使い分け。 Qu’est-ce que … , Est-ce que … の使い分け。 数に関する副詞： peu de …, un peu de …, assez de … beaucoup de …, assez de … 。 （小テスト）。 ③第21回目～第30回目 頻度の副詞 [toujours, souvent, quelquefois, pas souvent, jamais 。 接続法現在 [J] ～をしなくてはいけない : devoir + 不定形 /falloir + 接続法現在 。 中性代名詞　EN（小文練習）。 序数 。 自分の住まいについて話す（アパート・一軒家、各部屋の名、自分の部屋のある階 。 （小テスト）。	語学の授業ですので、予習と復習はしっかりとやってください。予習は、ほとんど毎回、宿題や課題を提出しますので、準備して授業に臨んでください。復習については、次回の授業を理解するのに必要ですので、復習は欠かさないようにしてください。	言語学関連	–	–	実務教員	最初の授業で使用教科書をお知らせします。	授業内で、こちらで指示します。	授業内で行われる、2・3人のグループによる会話の試験（80%）、課題作文（20%）などによって評価します。	実習	学生同士や教員で会話をしたり、作り上げた文章をみんなで検討したりしながら進めていきます。	授業への積極的な参加と、フランス語での会話や作文の能力が期間中にどのくらい向上したのかを判断基準としますので、注意してください。	木曜日3・4	mjanson@hirosaki-u.ac.jp	なし。
80	80	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IA（英語）（1）（Foreign Language Communication Practicum IA	3	必修	2	前期	月曜日7・8時限、木曜日7・8時限	アラステア　バトラー	–	レベル3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	コミュニケーション実習IAよりも高度な英語の運用能力を獲得すること 英語の正しい文法に基づいた実践的な運用能力を身につけること プレゼンテーションなどを通じて、英語での自己表現やグループ・ディスカッションができるようになること TOEICスコア600以上の英語力を	週2コマの授業を行います。英語のプレゼンテーションの教材を用い、プレゼンテーションやディスカッションなど音声活動を中心とした実践的な授業を行います。授業はすべて英語で行われます。	授業計画 第1回から第8回、第11回から第18回、および、第21回から第28回は、テキストに従い、優れたプレゼンテーションを参考にしながら、個人単位でのプレゼンテーションの作成や修正作業を行い、英語でのプレゼンテーションやディスカッションの方法を学びます。第9回から第10回、第19回から第20回、および、第21回から第30回は、各個人による英語のプレゼンテーションを行います。 授業外の活動として、テキストの読解、ボキャブラリー向上のためのドリル、文法事項の確認などが求められます。授業外の活動成果をチェックするために隔週で小テストを行います。 第1回：Making a Difference（Listening）違いを出す（リスニング） 第2回：Making a Difference（Discussion）違いを出す（ディスカッション） 第3回：Trends（Listening）流行（リスニング） 第4回：Trends（Discussion）　流行（ディスカッション） 第5回：Improving Lives（Listening）生活の向上（リスニング） 第6回：Improving Lives（Discussion）　生活の向上（ディスカッション） 第7回：Designing the Web（Listening）ウェッブを設計（リスニング） 第8回：Designing the Web（Discussion）　ウェッブを設計（ディスカッション） 第9回：First Presentation（Talking about how you can make a difference）1 第一回プレゼンテーション「どのように変化を起こすか」1（履修者の半数によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答） 第10回：First Presentation（Talking about how you can make a difference）2　第一回プレゼンテーション 「どのように変化を起こすか」2（残りの履修者によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答） 第11回：Community Builders（Listening）コミュニティを作る人達（リスニング） 第12回：Community Builders（Discussion）　コミュニティを作る人達（ディスカッション） 第13回：Clear Communication（Listening）明確なコミュニケーション（リスニング） 第14回：Clear Communication（Discussion）　明確なコミュニケーション（ディスカッション） 第15回：Identity（Listening）アイデンティティ（リスニング） 第16回：Identity（Discussion）　アイデンティティ（ディスカッション） 第17回：Transportation Solutions（Listening）交通問題の解決（リスニング） 第18回：Transportation Solutions（Discussion）　交通問題の解決（ディスカッション）	予習：毎回講義で行う話題に応じたグループワークやプレゼンテーションのための準備が必要となります。 復習：講義で実践したことを繰り返し練習し、英語による表現力を高める努力が必要です。	言語学関連	思想関連	文化人類学関連	–	Keynote, American English, Level 3, Cengage（ISBN 9781305965058）	参考書は必要に応じて授業時に紹介します。	授業内での発言・質問・プレゼンテーションへのコメントなどに基づくパーティシペイション・ポイント、スピーチ・ポイント、小テスト、及び期末試験の成績を評価します。	実習	演習によるリスニングとディスカッションを中心に、3回のプレゼンテーション・プラクティスを実施します。	毎回の出席が前提となります。欠席は1回につき2点の減点となりますので注意してください。	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
			(English))										身につけること		第19回:Second Presentation (Suggesting a way to improve communication) 1 第二回プレゼンテーション「コミュニケーションを向上させるには」1(履修者の半数によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第20回:Second Presentation (Suggesting a way to improve communication) 2 第二回プレゼンテーション「コミュニケーションを向上させるには」2(残りの履修者によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第21回:New Words (Listening) 新世界(リスニング) 第22回:New Words (Discussion) 新世界(ディスカッション) 第23回:Understanding Emotions (Listening) 感情を理解する(リスニング) 第24回:Understanding Emotions (Discussion) 感情を理解する(ディスカッション) 第25回:Leaders and Thinkers (Listening) 導く人と考える人(リスニング) 第26回:Leaders and Thinkers (Discussion) 導く人と考える人(ディスカッション) 第27回:Well-being (Listening) 幸福(リスニング) 第28回:Well-being (Discussion) 幸福(ディスカッション) 第29回:Third Presentation (A way to achieve better work-life balance) 1 第三回プレゼンテーション「仕事と生活のバランスをとる方法」1(履修者の半数によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第30回:Third Presentation (A way to achieve better work-life balance) 2 第三回プレゼンテーション「仕事と生活のバランスをとる方法」2(残りの履修者によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 定期試験								根から評価します。						
81	81	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IIA(英語)(2)(Foreign Language Communication PracticumIIA(English))	3	必修	2	前期	月曜日7・8時限、木曜日7・8時限	小野寺 進	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	コミュニケーション実習IAよりも高度な英語の運用能力を養い、英語の正しい文法に基づいた実践的な運用能力を養うこと プレゼンテーションなどを通じて、英語での自己表現やグループ・ディスカッションができるようになること TOEICスコア600以上の英語力を身につけること	週2コマの授業を行います。英語のプレゼンテーションの教材を用い、プレゼンテーションやディスカッションなど音声活動を中心とした実践的な授業を行います。授業はすべて英語で行われます。	授業計画 第1回から第8回、第11回から第18回、および、第21回から第28回は、テキストに従い、優れたプレゼンテーションを参考にしながら、個人単位でのプレゼンテーションの作成や修正作業を行い、英語でのプレゼンテーションやディスカッションの方法を学びます。第9回から第10回、第19回から第20回、および、第21回から第30回は、各個人による英語のプレゼンテーションを行います。 授業外の活動として、テキストの語彙、ボキャブラリー向上のためのドリル、文法事項の確認などが求められます。授業外の活動成果をチェックするために隔週で小テストを行います。 第1回:Making a Difference (Listening) 違いを出す(リスニング) 第2回:Making a Difference (Discussion) 違いを出す(ディスカッション) 第3回:Trends (Listening) 流行(リスニング) 第4回:Trends (Discussion) 流行(ディスカッション) 第5回:Improving Lives (Listening) 生活の向上(リスニング) 第6回:Improving Lives (Discussion) 生活の向上(ディスカッション) 第7回:Designing the Web (Listening) ウェッブを設計(リスニング) 第8回:Designing the Web (Discussion) ウェッブを設計(ディスカッション) 第9回:First Presentation (Talking about how you can make a difference) 1 第一回プレゼンテーション「どのように変化を起こすか」1(履修者の半数によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第10回:First Presentation (Talking about how you can make a difference) 2 第一回プレゼンテーション「どのように変化を起こすか」2(残りの履修者によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第11回:Community Builders (Listening) コミュニティを作る人達(リスニング) 第12回:Community Builders (Discussion) コミュニティを作る人達(ディスカッション) 第13回:Clear Communication (Listening) 明確なコミュニケーション(リスニング) 第14回:Clear Communication (Discussion) 明確なコミュニケーション(ディスカッション) 第15回:Identity (Listening) アイデンティティ(リスニング) 第16回:Identity (Discussion) アイデンティティ(ディスカッション) 第17回:Transportation Solutions (Listening) 交通問題の解決(リスニング) 第18回:Transportation Solutions (Discussion) 交通問題の解決(ディスカッション) 第19回:Second Presentation (Suggesting a way to improve communication) 1 第二回プレゼンテーション「コミュニケーションを向上させるには」1(履修者の半数によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第20回:Second Presentation (Suggesting a way to improve communication) 2 第二回プレゼンテーション「コミュニケーションを向上させるには」2(残りの履修者によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第21回:New Words (Listening) 新世界(リスニング) 第22回:New Words (Discussion) 新世界(ディスカッション) 第23回:Understanding Emotions (Listening) 感情を理解する(リスニング) 第24回:Understanding Emotions (Discussion) 感情を理解する(ディスカッション) 第25回:Leaders and Thinkers (Listening) 導く人と考える人(リスニング) 第26回:Leaders and Thinkers (Discussion) 導く人と考える人(ディスカッション) 第27回:Well-being (Listening) 幸福(リスニング) 第28回:Well-being (Discussion) 幸福(ディスカッション) 第29回:Third Presentation (A way to achieve better work-life balance) 1 第三回プレゼンテーション「仕事と生活のバランスをとる方法」1(履修者の半数によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第30回:Third Presentation (A way to achieve better work-life balance) 2 第三回プレゼンテーション「仕事と生活のバランスをとる方法」2(残りの履修者によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 定期試験	毎回の授業修了後に復習点と、次回の予習点についてお知らせします。	言語学関連	–	–	–	Keynote, American English, Level 3, Cengage (ISBN 9781305965058)	参考書は必要に応じて授業時に紹介します。	授業内での発言・質問・プレゼンテーションへのコメントなどに基づくパーティシペイション・ポイント、スピーチ・ポイント、小テスト、及び期末試験の成績を総合して評価します。	実習	演習によるリスニングとディスカッションを中心に、3回のプレゼンテーション・プラクティスを実施します。	毎回の出席が前提となります。欠席は1回につき2点の減点となりますので注意してください。	水曜日3・4時限	susumu@hirosaki-u.ac.jp	なし
82	82	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IIA(多言語)中国語(Foreign Language Communication PracticumIIA(Chinese))	3	選択必修	2	前期	月曜日3・4時限、木曜日3・4時限	楊 天曦	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決する力	実践、応用能力を身につけること 読む能力が培われ、辞書を引きながら中級レベルの中国語の文が訳せること	さまざまな動詞句の形態、慣用のパターンを学びます。	三十回の授業内容 —— 1 "在"＋動詞句 動詞句1＋動詞句2 2 "有"＋名詞＋動詞句 "以～为～""为(了)～" 3 主動詞＋方向補語(来／去) "被" ＋動詞 4 "祝"＋人～ "只有～才～" 動詞＋"在"＋場所 5 主動詞＋動詞/形容詞 6 動詞＋時間量＋(目的語) "一 就" 7 命令者＋"让/叫"＋実行者＋動詞句 8 場所＋動詞＋動作の主体である人/物(存現文) 9 動詞＋"得/不"＋結果補語/方向補語 "还是" 動詞/形容詞＋"起来" 10 "无论～都" "如果～(的话)(就)～" 11 "一边～一边～" "是"～＋動詞＋"的""太～了" 12 "把"＋目的語＋動詞 "会 (的)" 13 "该～了" 動詞1＋"着"＋動詞2 ("是")＋時間/場所/方法など＋動詞＋"的"＋目的語 14 "快要 就要～了" "除了～(以外) 还～ / 除了～(以外)，都～" 15 中間テスト 16 動詞＋"过"＋目的語 "～是～，不过～" 17 主動詞＋"出来"/ "下去" "～则 ～" "虽然～，但是～" 18 "(请/求)"＋人＋動詞 "因为～，所以～" 19 動詞＋"于"～ "几/ 什么/ 哪儿"(疑問詞の不定用法) "用"＋目的語＋動詞 20 "好"＋動詞 動詞＋"了"＋目的語＋"就"＋動詞 21 動詞＋"成" 動詞＋"上" "～就～" 22 "前～,又～" 動詞の重ね型 "用"～(動詞)＋ "以来" 23 "越来越～"/"越"＋動詞＋"越"～ "随着～" 24 "好像～(一样)" "连～都～" 25 (動詞)＋目的語＋動詞＋"得"＋形容詞 26 "又～,又～" "要是～,(就)～" 27 "什么 / 哪儿 / 谁 / 怎么＋都" "好几"＋ 量詞 28 "不仅～,而且～" "再"＋形容詞＋ "不过了" "～地" 29 練習問題 復習 30 期末試験	事前に、前回学んだ教科書の内容の復習と、これから学んでいく内容の予習が求められます。授業では基本的に教科書の内容を講釈した上、教科書に出てくる練習問題を行うことになっています	言語学関連	文学関連	社会学関連	実務教員	ビジュアル中国――初級から中級へ	なし	平常・中間評価を合わせて40%、期末評価60%	実習	文法と本文を講釈し、練習問題を行う。学生に質問をし、答えてもらう形を取ります。	常に基本的な発音問題に立ち戻ってブラッシュアップすること。	月曜日12:00～13:00	yang@hirosaki-u.ac.jp	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
83	83	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習ⅡA(多言語ドイツ語)(Foreign Language Communication PracticumⅡA(German))	3	選択必修	2	前期	月曜日3・4時限、木曜日3・4時限	齋藤 義彦	–	レベル3	CP・DP 2解決していく力	日常生活で応用的なコミュニケーションをマスターできる能力をつけること 「外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠」レベルB1の内容を身につけること	言語コミュニケーション実習ⅠBの知識を基盤にして、上級レベルのドイツ語の総合力を鍛えます。 ドイツ事情の時事的な最新のテキストをそれぞれ2～3回かけて使用します。	毎回ドイツ語テキスト(時事ニュース)を使って読み、聞き、話す練習をしていきます。第31回目に期末試験をうけます。	テキストの予習や復習をし、授業で課された課題を準備してくる必要があります。 毎回の授業修了後に復習点と、次回の予習点についてお知らせします。	言語学関連	–	–	–	最初の授業で使用テキストを紹介します。	特にありません	授業での成果(30%)と中間リポート(30%)、期末試験(40%)を総合的に評価します。	実習	実習形式	ドイツ語実習Ⅰ A・Ⅰ B で学んだことを復習してください。	月曜7・8時限または昼休み時間	yosihiko(at)hirosaki-u.ac.jp (at)は@に置き換えてください	なし
84	84	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習ⅡA(多言語フランス語)(Foreign Language Communication PracticumⅡA(French))	3	選択必修	2	前期	月曜日3・4時限、木曜日3・4時限	ジャンソン M	–	レベル2～3	CP・DP 1見通す力 CP・DP 3学び続ける力	日常生活に必要な基本的で実用的なフランス語の文法表現の能力を獲得すること 基本的なフランス語の表現を使って、フランス語の理解をさらに深めること	言語コミュニケーション実習ⅠAとⅠB(多言語)フランス語の知識を基盤にして、さらに上級のフランス語の総合力を鍛えます。	フランス及びフランス語圏現代社会のいろいろな側面を紹介するストーリー性のあるフランス語テキストを使って、文法およびコミュニケーションを学習します。(30回の予定) ①第1回目～第10回目 授業の紹介。 自分の休みについて話す。 シミュレーション:住まいを探す。マンションを見学する 。見たマンションについて印象を話す。 探している物の位置をたずねる。 人称代名詞 強勢形。 （小テスト）。 ②第11回目～第20回目 ある場所についてたずねる、位置づける。 ある場所について情報を求める、説明する 。 前置詞。 道をたずねる、教える 。 地下鉄の乗り方。 練習問題:フランス語に訳する、日本語に訳する 。 （小テスト）。 ③第21回目～第30回目 量に関する表現、数、重さ。 …に助言する。 規則 （例）キャンプ場の規則。 家族について話す。 理由と目的の表現Parce　que + 主語、Pour + 動詞(不定形)。 通訳の練習:スピーチを模倣する 。 お店の営業時間をたずねる、教える 。 （小テスト）。	語学の授業ですので、予習と復習はしっかりとやってください。予習は、ほとんど毎回、宿題や課題を提出しますので、準備して授業に臨んでください。復習については、次回の授業を理解するのに必要ですので、復習は欠かさないようにしてください。	言語学関連	–	–	実務教員	最初の授業で使用教科書を紹介します。	授業内で、こちらで指示します。	授業内で行われる、2・3人のグループによる会話の試験(80%)、課題作文(20%)などによって評価します。	実習	学生同士や教員で会話をしたり、作り上げた文章をみんなで検討したりしながら進めていきます。	授業への積極的な参加と、フランス語での会話や作文の能力が期間中にどのくらい向上したのかを判断基準としますので、注意してください。	水曜日3・4	mjansonl@hirosaki-u.ac.jp	なし。
85	85	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習ⅡB(英語)(1)(Foreign Language Communication PracticumⅡB(English))	3	必修	2	後期	月曜日7・8時限、木曜日7・8時限	アラスチアパトラー	–	レベル3～4	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	コミュニケーション実習ⅠBよりも高度な英語の運用能力を養うとさまざまな分野の英文の記事を理解し、英文で自分の主張を発信できるようにすること TOEICスコア600以上の英語力を身につけること	週2コマの授業を行います。テキストにしたがって、英文の全般的な読解力、ボキャブラリー、自分の考えを正しい英語で表現するための文法知識や作文能力を高める授業を行います。	テキストの各ユニットは二つのReadingと一つのWriting課題からなっており、各ユニットをおおむね3回で終えます。授業外の活動として、テキストや記事の読解、ボキャブラリー向上のためのドリル、文法事項の確認などが求められます。授業外の活動成果をチェックするために各ユニット終了後に小テストを行います。 第1回　ガイダンス 第2回　Unit 1: Identity, Reading 1(オンラインでの議論) 第3回　Unit 1: Identity, Reading 2(スポーツファンとアイデンティティ) 第4回　Unit 1: Identity, Writing(自身のアイデンティティについてのパラグラフ) 第5回　Unit 2: Design, Reading 1(メトロポール・パラソル) 第6回　Unit 2: Design, Reading 2(解決法をデザインする) 第7回　Unit 2: Design, Writing(あるデザインについての賛成意見と反対意見) 第8回　Unit 3: Thought, Reading 1(あなたの記憶はオンラインにあるか？) 第9回　Unit 3: Thought, Reading 2(いかにして脳はマルチタスクをこなすのか？) 第10回　Unit 3: Thought, Writing(要約と応答のパラグラフ) 第11回　Unit 4: Fire, Reading 1(熱さと戦う－イギリスのある消防士へのインタビュー) 第12回　Unit 4: Fire, Reading 2(花火小史) 第13回　Unit 4: Fire, Writing(物語形式のエッセイ－あなたが危険に直面した時) 第14回　Unit 5: Movement, Reading 1(知っておくべき奇なれ来種) 第15回　Unit 5: Movement, Reading 2(いかにして動物は目的地までたどり着くのか？) 第16回　Unit 5: Movement, Writing（試験で設問に答える） 第17回　Unit 6: Disease, Reading 1(遠隔手術とはなにか？) 第18回　Unit 6: Disease, Reading 2(私たちは知りすぎているのか？) 第19回　Unit 6: Disease, Writing(説得的エッセイ－健康のためのアドバイス) 第20回　Unit 7: Survival, Reading 1(『76日間漂流記』書評) 第21回　Unit 7: Survival, Reading 2(ブログ－南極での一学期) 第22回　Unit 7: Survival, Writing(困難な状況を記述する) 第23回　Unit 8: Drive, Reading 1(アフリカで風力発電を開発する) 第24回　Unit 8: Drive, Readign 2(どのような人が成功しやすいのか？) 第25回　Unit 8: Drive, Writing(提案をする) 第26回　Unit 9: Sound, Reading 1(バーネット「秘密の花園」からの抜粋) 第27回　Unit 9: Sound, Reading 2(超低周波音－聞いたことがないくらい大きな音) 第28回　Unit 9: Sound, Writing(記述的な逸話) 第29回　Unit 10: Tomorrow, Reading 1(世界の大学院生事情) 第30回　Unit 10: Tomorrow, Reading 2(世界の就職トレンド) 定期試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	予習: ほぼ毎回課される宿題をやって授業に臨むことが求められます。特に各ユニット最後のwritingの課題は提出を忘れないでください。 復習: テキスト内で分からなかった単語は英語でその意味をチェックすることを心がけてください。また、テキストで扱われている話題に関連する新聞や雑誌記事を読むことも大切です。	言語学関連	文学関連	思想関連	–	Skillful Reading & Writing 3 (Macmillan, 2016)	授業時に適宜紹介します。	平常点(課題や授業参加等)50% 期末試験(50%) 上記を合算して成績評価を行います。	実習	問題演習を中心に授業を行います。	履修には言語コミュニケーション実習IA(英語)とIB(英語)の両方の修得が必要となります。	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
86	86	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習ⅡB(英語)(2)(Foreign Language Communication PracticumⅡB(English))	3	必修	2	後期	月曜日7・8時限、木曜日7・8時限	堀 智弘	–	レベル3～4	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	特にReadingとWritingを中心として、言語コミュニケーション実習ⅠBよりも高度な実践的な運用能力を身につけること 標準的な難易度の英文を正しく読解し、ある程度複雑な考えを英語で表現できること TOEICスコア600以上の英語力を身につけること	週2コマの授業を行います。テキストにしたがって、英文の全般的な読解力、ボキャブラリー、自分の考えを正しい英語で表現するための文法知識や作文能力を高める授業を行います。	テキストの各ユニットは二つのReadingと一つのWriting課題からなっており、各ユニットをおおむね3回で終えます。授業外の活動として、テキストや記事の読解、ボキャブラリー向上のためのドリル、文法事項の確認などが求められます。授業外の活動成果をチェックするために各ユニット終了後に小テストを行います。 第1回　ガイダンス 第2回　Unit 1: Identity, Reading 1(オンラインでの議論) 第3回　Unit 1: Identity, Reading 2(スポーツファンとアイデンティティ) 第4回　Unit 1: Identity, Writing(自身のアイデンティティについてのパラグラフ) 第5回　Unit 2: Design, Reading 1(メトロポール・パラソル) 第6回　Unit 2: Design, Reading 2(解決法をデザインする) 第7回　Unit 2: Design, Writing(あるデザインについての賛成意見と反対意見) 第8回　Unit 3: Thought, Reading 1(あなたの記憶はオンラインにあるか？) 第9回　Unit 3: Thought, Reading 2(いかにして脳はマルチタスクをこなすのか？) 第10回　Unit 3: Thought, Writing(要約と応答のパラグラフ) 第11回　Unit 4: Fire, Reading 1(熱さと戦う－イギリスのある消防士へのインタビュー) 第12回　Unit 4: Fire, Reading 2(花火小史) 第13回　Unit 4: Fire, Writing(物語形式のエッセイ－あなたが危険に直面した時) 第14回　Unit 5: Movement, Reading 1(知っておくべき奇なれ来種) 第15回　Unit 5: Movement, Reading 2(いかにして動物は目的地までたどり着くのか？) 第16回　Unit 5: Movement, Writing（試験で設問に答える） 第17回　Unit 6: Disease, Reading 1(遠隔手術とはなにか？) 第18回　Unit 6: Disease, Reading 2(私たちは知りすぎているのか？) 第19回　Unit 6: Disease, Writing(説得的エッセイ－健康のためのアドバイス) 第20回　Unit 7: Survival, Reading 1(『76日間漂流記』書評) 第21回　Unit 7: Survival, Reading 2(ブログ－南極での一学期) 第22回　Unit 7: Survival, Writing(困難な状況を記述する) 第23回　Unit 8: Drive, Reading 1(アフリカで風力発電を開発する) 第24回　Unit 8: Drive, Readign 2(どのような人が成功しやすいのか？) 第25回　Unit 8: Drive, Writing(提案をする) 第26回　Unit 9: Sound, Reading 1(バーネット「秘密の花園」からの抜粋) 第27回　Unit 9: Sound, Reading 2(超低周波音－聞いたことがないくらい大きな音) 第28回　Unit 9: Sound, Writing(記述的な逸話) 第29回　Unit 10: Tomorrow, Reading 1(世界の大学院生事情) 第30回　Unit 10: Tomorrow, Reading 2(世界の就職トレンド) 定期試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	[予習] 宿題として毎回指定された問題をやって授業に臨むことが求められます。 [復習] 毎回の単語や文法事項の復習をすることが必要となります。 特に各ユニット最後のwritingの課題は提出を忘れないでください。	言語学関連	文学関連	思想関連	–	Skillful Reading & Writing 3 (Macmillan, 2016)	授業時に適宜紹介します。	平常点(課題や授業参加等)50% 期末試験(50%) 上記を合算して成績評価を行います。	実習	問題演習を中心に授業を行います。	履修には言語コミュニケーション実習IA(英語)とIB(英語)の両方の修得が必要となります。	水曜日12:00〜13:00	horitomo(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
87	87	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IIB(多言語)中国語(Foreign Language Communication Practicum IIB(Chinese))	3	選択必修	2	後期	月曜日5・6時限、金曜日5・6時限	楊 天曦	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決する力	語彙を増やし、より高度な中国語の文が読める能力を身につけること 現在進行形の中国社会と文化を知ること	パソコン用語や、気持ちをあらわす表現もふくめ、多くの文型を学んでいく。	三十回の授業内容 —— 1"除了 以外""不用""拿到" 2 結果補語 3 存現文— 場所＋動詞＋存在・出現(消失)する人、事物 4 "看起来""什么的" 5 "多 啊""怎么力""或者" 6 "跑"＋動詞 "好"＋動詞 7 "在 的时候" 8 類義語 "认为" "觉得" 9 "听说" "无论是～还是" 10 "应该" 11 "好像" "就要～了" 12 "毕竟" 13 "哪儿 吗" "从～到" 14 練習問題 復習 15 中間テスト 16 "照""按照" 17 気持ちを表す語 18 "总是"— 「ただし」、軽い逆接で、マイナスの事実に導く 19 複合方向補語 20 "即～又" 21 練習問題 復習 22"还是"— 比較や選択をし、結論を示す "比" 23 "在～中" "在～里" 24 "得" "尽快" "让" 25 "如果～的话" "刚" "连都" 26 パソコン関係の言葉 27 "怎么" "为" "有的" 28 お祝いの言葉 29 練習問題 復習 30 期末試験	事前に、前回学んだ教科書の内容の復習と、これから学んでいく内容の予習が求められます。授業では基本的に教科書の内容を講義した上、教科書に出てくる練習問題を行うことになっています。	言語学関連	文学関連	社会学関連	実務教員	日中いぶこみ12展	なし	平常・中間評価を合わせて40%、期末評価60%	実習	文法と本文を講義し、練習問題を行う。学生に質問をし、答えてもらう形を取ります。	常に基本的な発音問題に立ち戻ってブラッシュアップすること。	月曜日12:00～13:00	yang@hirosaki-u.ac.jp	なし
88	88	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IIB(多言語)ドイツ語(Foreign Language Communication Practicum IIB(German))	3	選択必修	2	後期	月曜日5・6時限、金曜日5・6時限	齋藤 義彦	–	レベル3	CP・DP 2 解決していく力	日常生活で応用的なコミュニケーションをマスターできる能力をつけること 「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」レベルB2の内容を身につけること	前期のドイツ語実習ⅡAの知識を基盤にして、会話力を含む上級レベルのドイツ語の総合力を鍛えます。	ドイツ語テキストを使って読み、書き、聞き、話す練習をしていきます。第31回目に期末試験をうけます。 ドイツ事情の時事的な最新のテキストをそれぞれ2～3回かけて使用します。	テキストの予習や復習をし、授業で課された課題を準備してくる必要があります。 毎回の授業修了後に復習点と、次回の予習点についてお知らせします。	言語学関連	–	–		時事ドイツ語テキストを使用します。	特にありません。	授業の成果(30%)、中間リポート(30%)と期末試験(40%)を総合的に評価します。	実習	実習形式	テキストの予習や復習をし、授業で課された課題を準備してくる必要があります。	月曜7・8時限または昼休み時間	yosihiko(at)hirosaki-u.ac.jp (at)は＠に置き換えてください	なし
89	89	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IIB(多言語)フランス語(Foreign Language Communication Practicum IIB(French))	3	選択必修	2	後期	月曜日5、6時限、金曜日5・6時限	ジャンソン M	–	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	日常生活に必要な実践的なフランス語のコミュニケーション能力を獲得すること 実践的なフランス語のコミュニケーション能力を使って、より広がりのあるフランス語が使えるようになること	言語コミュニケーション実習ⅡAとⅡB(多言語)フランス語の知識を基盤にして、さらに上級のフランス語の総合力を鍛えます。	フランス及びフランス語圏現代社会のいろいろな側面を紹介するストーリー性のあるフランス語テキストを使って、文法および コミュニケーションを学習します。(30回の予定) ①第1回目～第10回目 授業の紹介。 感情を表現する 。 体の部分。 ～について有利な意見、不利な意見を表現する 。 ～について意見を述べる 。 ～について詳しく教える 。 (小テスト)。 ②第11回目～第20回目 ジェロンディフ。 現在分詞 。 同形容詞 。 Moi aussi – Moi non plus – Moi si の使い分け。 疑問代名詞 :lequel, laquelle, lesquels, lesquelles 。 関係代名詞 :lequel, laquelle, lesquels, lesquelles 。 前置詞 + 関係代名詞 。 指示代名詞 。 (小テスト)。 ③第21回目～第30回目 材料(木、プラスチック、布、鉄、etc…)。 Pourvu que + 接続法・Espérer que + 単純未来 。 大過去。 様態の副詞 :…ment, …emment, …amment, …ément, …ûment 。 単純過去 。 前過去 。 自分の住んでいる都市又は自分の故郷をフランス語で紹介する。 (小テスト)。	語学の授業ですので、予習と復習はしっかりとやってください。予習は、ほとんど毎回、宿題や課題を提出しますので、準備して授業に臨んでください。復習については、次回の授業を理解するのに必要ですので、復習はスかさないようにしてください。	言語学関連	–	–	実務教員	最初の授業で使用教科書を紹介します。	授業内で、こちらで指示します。	授業内で行われる、2・3人のグループによる会話の試験(80%)、課題作文(20%)などによって評価します。	実習	学生同士や教員で会話をしたり、作り上げた文章をみんなで検討したりしながら進めていきます。	授業への積極的な参加と、フランス語での会話や作文の能力が発問中にどのくらい向上したのかを判断基準としますので、注意してください。	木曜日3・4	mjanson@hirosaki-u.ac.jp	なし。
90	90	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IIA(英語)(Foreign Language Communication Practicum IIB(Chinese))	4	選択必修	2	前期	月曜日7・8時限、木曜日7・8時限	堀 智弘	–	レベル4	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	コミュニケーション実習IIAよりも高度な実践的運用能力を身につけること プレゼンテーションなどを通じて、英語での自己表現やグループ・ディスカッションの技能を向上させること TOEICスコア650以上の英語力を身につけること	週2コマの授業を行います。英語のプレゼンテーションの教材を用い、プレゼンテーションやディスカッションなど音声活動を中心とした実践的な授業を行います。授業はすべて英語で行われます。	第1回から第8回、第11回から第18回、および、第21回から第28回は、テキストに従い、優れたプレゼンテーションを参考にしながら、個人単位でのプレゼンテーションの作成や修正作業を行い、英語での専門的な内容のプレゼンテーションやディスカッションの方法を学びます。第9回から第10回、第19回から第20回、および、第21回から第30回は、個人による専門的な内容の英語のプレゼンテーションを行います。 授業外の活動として、テキストの読解、ボキャブラリー向上のためのドリル、文法事項の確認などが求められます。授業外の活動成果をチェックするために隔週で小テストを行います。 第1回:Embrace Stress! (Listening) ストレスを受け入れよう！(リスニング) 第2回:Embrace Stress! (Discussion) ストレスを受け入れよう！(ディスカッション) 第3回:Media Influences (Listening) メディアの影響(リスニング) 第4回:Media Influences (Discussion) メディアの影響(ディスカッション) 第5回:Development (Listening) 開発(リスニング) 第6回:Development (Discussion) 開発(ディスカッション) 第7回:Secrets and Lies (Listening) 秘密と嘘(リスニング) 第8回:Secrets and Lies (Discussion) 秘密と嘘(ディスカッション) 第9回:First Presentation (A fictional character who inspires me) 1 第一回プレゼンテーション「自分を奮い立たせる架空のキャラ」1 (履修者の半数によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第10回:First Presentation (A fictional character who inspires me) 2 第一回プレゼンテーション「自分を奮い立たせる架空のキャラ」2 (残りの履修者によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第11回:To the Edge (Listening) 極限に(リスニング) 第12回:To the Edge (Discussion) 極限に(ディスカッション) 第13回:Money Matters (Listening) お金の問題(リスニング) 第14回:Money Matters (Discussion) お金の問題(ディスカッション) 第15回:Medical Frontiers (Listening) 医療最前線(リスニング) 第16回:Medical Frontiers (Discussion) 医療最前線(ディスカッション) 第17回:Life Decisions (Listening) 日々の決断(リスニング) 第18回:Life Decisions (Discussion) 日々の決断(ディスカッション) 第19回:Second Presentation (My most significant achievement) 1 第二回プレゼンテーション「自分のやり遂げたこと」1 (履修者の半数によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答) 第20回:Second Presentation (My most significant achievement) 2 第二回プレゼンテーション「自分のやり遂	[予習] 宿題として毎回指定された問題をやって授業に臨むことが求められます。 [復習] 毎回の内容や関連する単語や文法事項の復習をすることが必要となります。	言語学関連	思想関連	文学関連	–	_Keynote, American English, Level 4, (Cengage)	授業時に適宜紹介します。	平常点(課題や授業参加等)50% 期末試験(50%) 上記を合算して成績評価を行います。	実習	問題演習と学生によるプレゼンテーションを中心に授業を行います。	履修には、言語コミュニケーション実習IIA(英語)と同(英語)の両方の修得と、外部検定試験の条件(TOEIC580点相当)を満たすことが必要となります。	火曜日12:00〜13:00	horitomo(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
															げたこと2（残りの履修者によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答） 第21回：Technology and Innovations（Listening） 技術と革新（リスニング） 第22回：Technology and Innovations（Discussion） 技術と革新（ディスカッション） 第23回：Connections（Listening） 結びつき（リスニング） 第24回：Connections（Discussion） 結びつき（ディスカッション） 第25回：Life in the Slow Lane（Listening） ゆったりとした生活（リスニング） 第26回：Life in the Slow Lane（Discussion） ゆったりとした生活（ディスカッション） 第27回：Make Yourself Heard（Listening） 自分を理解させる（リスニング） 第28回：Make Yourself Heard（Discussion） 自分を理解させる（ディスカッション） 第29回：Third Presentation（My position on a controversial topic）1 第三回プレゼンテーション「論争となっている問題に対する自分の立場」1（履修者の半数によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答） 第30回：Third Presentation（My position on a controversial topic）2 第三回プレゼンテーション「論争となっている問題に対する自分の立場」2（残りの履修者によるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答） 定期試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。													
91	91	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語コミュニケーション実習IIB（英語）（Foreign Language Communication Practicum IIB（Chinese））	4	選択必修	2	後期	月曜日7-8時限、木曜日7-8時限	内海 淳	–	レベル4	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	コミュニケーション実習IBよりも高度な実践的運用能力を身につけること 社会問題や時事問題などについての英文の論文を理解し、英文で自分の主張を発信できるようにすること TOEICスコア650以上の英語力を身につけること	週2コマの授業を行います。英字新聞の論説やWeb上の論文などの読解を通して、より専門的な分野の英文の読解力、ボキャブラリー、自分の考えを正しい英語で表現するための文法知識を高める授業も行います。	授業計画 下記の各分野に関する英字新聞の論説やWeb上の論文等を読む授業を行います。授業外の活動として、論文等の読解、ボキャブラリー向上のためのドリル、文法事項の確認などが求められます。授業外の活動成果をチェックするために隔週で小テストを行います。 授業計画 第1回：News Articles（American Politics） 新聞記事（アメリカ政治） 第2回：News Articles（British Politics） 新聞記事（イギリス政治） 第3回：News Articles（World Affairs） 新聞記事（国際情勢） 第4回：News Articles（Business） 新聞記事（ビジネス） 第5回：News Articles（Science） 新聞記事（科学） 第6回：News Articles（Health） 新聞記事（健康） 第7回：News Articles（Lifstyle） 新聞記事（生活） 第8回：News Articles（Entertainment） 新聞記事（娯楽） 第9回：News Articles（Australia） 新聞記事（オーストラリア） 第10回：News Articles（New Zealand）新聞記事（ニュージーランド） 第11回：Editorials（American Politics） 新聞論説（アメリカ政治） 第12回：Editorials（British Politics） 新聞論説（イギリス政治） 第13回：Editorials（World Affairs） 新聞論説（国際情勢） 第14回：Editorials（Business） 新聞論説（ビジネス） 第15回：Editorials（Science） 新聞論説（科学） 第16回：Editorials（Health） 新聞論説（健康） 第17回：Editorials（Lifstyle） 新聞論説（生活） 第18回：Editorials（Entertainment） 新聞論説（娯楽） 第19回：Editorials（Australia） 新聞論説（オーストラリア） 第20回：Editorials（New Zealand） 新聞論説（ニュージーランド） 第11回：Technical Papers（American Politics） 論文（アメリカ政治） 第12回：Technical Papers（British Politics） 論文（イギリス政治） 第13回：Technical Papers（World Affairs） 論文（国際情勢） 第14回：Technical Papers（Business） 論文（ビジネス） 第15回：Technical Papers（Science） 論文（科学） 第16回：Technical Papers（Health） 論文（健康） 第17回：Technical Papers（Lifstyle） 論文（生活） 第18回：Technical Papers（Entertainment） 論文（娯楽） 第19回：Technical Papers（Australia） 論文（オーストラリア） 第20回：Technical Papers（New Zealand） 論文（ニュージーランド） 定期試験	【予習】事前に指定された課題等を読んでおきます。 【復習】講義で学んだことを整理し、理解が十分でなかった文法事項などを次回の授業で確認できるようにします。	言語学関連	文学関連	思想関連	–	授業時にプリント等を配布します。	Bas Aarts, Oxford Modern English Grammar, Oxford University Press（ISBN 978-0199533190）	小テスト（60%）、及び期末試験の成績（40%）から評価します。	実習	アクティブラーニング形式で行い、Moodleを利用したSelf-Portfolioを活用します。	授業時間以外の予習・復習は必須です。	水曜日12:00から12:40	utsumi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
92	92	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	言語と文化（Language and Culture）	2	選択必修	2	前期	木曜日5-6時限	山本 秀樹	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	世界の人類言語全体から見た場合の日本語と西洋語の真の姿、位置づけを正しく理解すること 世界全域にわたる地理的および系統的な言語分布について理解を深めること 日本語や西洋語を見たときに、直接それらの言語を比較するのではなく、世界の人類言語全体の視点から考察できる力を身につけること この講義で学んだ知識を通じて、人類言語全体の視点から各個別言語を考えていける力を身につけること	前半では、日本語および西洋語に見られる種々の類型論的特性を考察することを通じて、日本語と西洋語だけを対象に考えた場合と、世界諸言語全体からそれらの言語を考えた場合の違いについて概説し、世界の人類言語全体の視点から言語を考察することの重要性について学びます。 後半では、従来の伝統的な類型論的な手法による語順研究について概説した後、実際に世界諸言語から可能な限り多くの語順データを収集し、それらの地理的および系統的な分布の観点から人類言語の語順を研究していくことの重要性について論じます。	第8回目までは世界諸言語から見た日本語と西洋語の類型論的特徴を扱い、第9回目以降は世界諸言語における語順の地理的および系統的な分布を扱います。原則として次のような展開で学習していく予定ですが、1回ごとの授業範囲については、授業の進行状況により異なる場合があります。 第1回：授業の概要 第2回：音韻的特徴 第3回：基本語順、疑問文形成 第4回：他動詞構文と所有構文、主語 第5回：冠詞、比較構文等 第6回：敬語、系統、文字 第7回：西洋語に生じた特異性の要因 第8回：試験およびまとめ 第9回：語順類型論 第10回：語順の地理的および系統的分布（ヨーロッパ） 第11回：語順の地理的および系統的分布（アジア） 第12回：語順の地理的および系統的分布（オセアニア） 第13回：語順の地理的および系統的分布（アフリカ大陸） 第14回：語順の地理的および系統的分布（アメリカ大陸） 第15回：試験およびまとめ	ノートで講義内容を復習して理解を深め、次回の講義で扱われるテーマについてどのようなことが言えるか各自考えてみてください。	言語学関連	歴史学関連	地理学関連	–	特定の教科書は使用しませんが、特に参考文献にあげた本は、講義を理解するうえで役立つ参考書となるでしょう。	・山本秀樹著『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』（溪水社） ・バーナード・コムリー著『言語普遍性と言語類型論』（松本克己・山本秀樹訳）（ひつじ書房）（いずれも附属図書館所蔵）	前半と後半の成績評価の比率はそれぞれ50%として成績を出します が、試験や受講姿勢等を総合的に判断して評価します。	講義	講義形式で解説していきます。	特別な予備知識は要求しませんが、言語に対して積極的な興味、関心を持って受講してください。また、特に「言語学入門」、「言語学」、「言語学演習」、「日本語学」などの科目が関連します。	金曜日12:00から13:00	hideyama@hirosaki-u.ac.jp	特になし
93	93	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	言語文化論（Introduction to Linguistics Cultures）	2	選択必修	2	後期	金曜日9-10時限	内海 淳	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	音声学・音韻論の基本的な知識を習得し、英語の音声の性質について、この観点から分析・考察できるようになること 学んだことを整理し、十分に理解できたことと理解がたりないところをはっきりと認識できるようになること	この講義では、英語の音声に関する事項を、日本語との比較を交え、生成文法理論の枠組みの中で考察します。	授業計画 第1回：調音音声学の基礎 第2回：音響音声学の基礎 第3回：聴覚音声学の基礎 第4回：母音の性質 第5回：子音の性質 第6回：英語と日本語の発音の比較 第7回：音韻論の基礎 第8回：分節音の交替 第9回：音韻素性 第10回：音韻規則の記述 第11回：音節 第12回：強勢 第13回：イントネーション 第14回：通時的変化 第15回：音韻システムの習得と学習	【予習】事前に指定された資料等を読んでおきます。 【復習】講義で学んだことを整理し、理解が十分でなかった部分を次回の授業で確認できるようにします。	言語学関連	–	–	–	授業で適宜配布します。	原口庄輔『音韻論』開拓社	毎回授業で扱ったトピックに関する学習確認のための小テスト（70%）、および、授業で扱ったトピックに関するレポート(30%)を総合して評価します。	講義	授業は講義形式ですが、Moodleを利用したSelf-Portfolioを活用します。	単に授業に出席するだけでなく、質問やディスカッション等、積極的に授業に関与することが求められます。	水曜日12:00～12:40	utsumi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
94	94	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	現代企業論II（Modern Enterprise System I）	3	選択必修	2	前期	水曜日1-2時限	黄 孝春	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	現代企業の構造を理解することコーポレートガバナンスの実践を学ぶこと	企業は現代社会のキーワードの一つです。新聞の経済紙面を見ると、株主、経営者、従業員、取引先などに関する報道が溢れています。また合弁、提携、合併、経営統 合など企業同士の経営行動に関係する専門用語がよく使われますし、持株会社や分社化、連結決算など企業グループに関係する記事も多い と思います。 企業とは何か、どのように生まれ、どのような仕組みを持ち、またどのように行動しているのか、などについて考察します。またヨーロッパの企業やアメリカの企業、日本の企業、中国の企業の事例を引きながら、具体的に授業を展開します。 この授業は現代企業の構造とコーポレートガバナンスの実際をより深く理解するための基礎知識を系統的に教える専門科目です。	1、企業とは何か、会社との違いは 2、株式会社の歴史、会社形態の変遷 3、株式会社の仕組み―所有と経営 4、コーポレート・ガバナンスとは 5 会社と株主 6、会社と経営者 7、会社と従業員 8、企業間関係 9、会社と社会 10、日本企業（戦前） 11、日本企業（戦後） 12、アメリカ企業 13、中国企業 14、各国企業の比較 15、復習とまとめ	授業内容との関連で、話題になっている企業のことについて調べてもらいます。 また各自興味を持っている企業の歴史や、株式所有の構成、経営者継承のことについて調べてもらいます。	経営学関連	経済学関連	–	–	授業中にプリントを配布します。	岩井克人『会社はこれからどうなるのか』平凡社、2004年 奥村宏『会社はどこへ行く』NTT出版、2008年 加護野忠男・山田幸三編『日本のビジネスシステム』有斐閣、2016年	小テストと期末試験をそれぞれ40点、60点の配点で成績の評価を行います。	講義	基本的には講義の形で行いますが、必要に応じ、ビデオなどの視覚教材も使う予定です。	会社に就職したい人はいうまでもなく、そうではない人にとっても現代企業の仕組みを知っておいたほうが絶対に得です。	水曜日12時～13時	huang@hirosaki-u.ac.jp	とくになし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
95	95	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	現代企業論 Ⅲ(Modern Enterprise System Ⅲ)	3	選択必修	2	後期	水曜日1・2時限	黄　孝春	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	企業取引制度の全体像を理解すること 企業取引制度の実態と理論を学び, 考えること	さまざまな取引のルールの束である取引制度に焦点を合わせて、現代企業の協働システムとしての事業システムを分析します。具体的にはヒト、モノ、カネ、情報という4つの経営資源の取引に着目し、取引の場でどのような制度が生み出されてきたのかを解説し、企業活動について深く考えるための枠組みを提示します。そして財の取引、資本の取引、労働の取引と情報の取引という4つの取引制度の事例紹介と理論分析を通じてビジネスの世界でつくられているさまざまな事業システムの長短を理解する手掛かりを提示します。	第1回:現代企業を見る視点(1)法的・経済的観点 第2回:現代企業を見る視点(2)組織論的・社会的観点 第3回:取引制度を考える(1)組織分析の枠組み 第4回:取引制度を考える(2)取引分析の枠組み 第5回:財の取引:ケース 第6回:財の取引:理論 第7回:資本の取引:ケース 第8回:資本の取引:理論 第9回:労働の取引:ケース 第10回:労働の取引:理論 第11回:情報の取引:ケース 第12回:情報の取引:理論 第13回:取引制度はいかにして決まるか 第14回:ビジネスシステムの進化 第15回:復習とまとめ 定期試験	授業内容との関連で、話題になっている企業のことについて調べてもらいます。	経営学関連	経済学関連	–	–	加護野忠男他著『取引制度から読み解く現代企業』有斐閣アルマ、2008年	三戸浩他著『企業論』有斐閣アルマ、2011年	小テストと期末試験をそれぞれ40点、60点の配点で成績の評価を行います。	講義	基本的には講義の形で行いますが、必要に応じビデオなどの視覚教材も使う予定です。	新聞に出てくる企業関連の記事に関心を持ってほしいです。	水曜日12時ー13時	huang@hirosaki-u.ac.jp	特になし
96	96	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	憲法 (Constitutional Law)	2	選択必修	2	前期	木曜日1・2時限	河合　正雄	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	人権各論に関する論点について, 自分の頭で考察することができること 争点となっている(なりうる)事柄について, 自分なりの見解を表明できること	人権分野に関する原理や概念を、憲法学説をふまえ、主要判例や時事問題も交えて説明します。	第1回 :財産権 第2回 :人身の自由(適正手続、刑事手続の流れ) 第3回 :人身の自由(憲法33条、憲法34条、憲法35条) 第4回 :人身の自由(憲法37条) 第5回 :人身の自由(憲法39条、再審、憲法18条、憲法36条) 第6回 :国務請求権 第7回 :生存権(憲法25条の構造) 第8回 :生存権(生活保護をめぐる裁判例) 第9回 :労働基本権 第10回:教育を受ける権利 第11回:参政権(普通選挙) 第12回:参政権(平等選挙) 第13回:人権の享有主体(外国人) 第14回:人権の享有主体(法人、天皇) 第15回:人権の享有主体(公務員、刑事収容施設被収容者) 第16回:期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	予習:事前に教科書を熟読するほか、実社会とのつながりを理解するために、授業テーマに関連する時事問題を把握しておく必要があります。 復習:何が論点となっているか理解し、基本的な原理や概念については自分の言葉で説明できる状態にしておくことが求められます。	法学関連	–	–	–	辻村みよ子『憲法(第6版)』(日本評論社、2018年)3,800円＋税 『ポケット六法』(有斐閣)などの最新版かそれに準じた六法は必携でお願いします。	芦部信喜『憲法(第6版)』(岩波書店、2015年)3,100円＋税 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第6版)』(有斐閣、2013年)(2,095円＋税)×2	授業中に行う小レポート40%、期末試験60%。授業への参加度を加減することがあります。 1. 講義で扱った領域に関して、憲法学が論じている基本的な事柄を説明できること。 2. 講義で説明した判例や学説の問題点や対立点を説明できること。 3. これらの事柄に対して、自己の見解を表現できること。	講義	ある程度詳細なレジュメを配布した上で、講義への集中力を高めるため、板書も用いつつ口頭で説明します。	公法学を履修済みであることを前提とします。	水曜日5・6限ですが、オフィスアワーに限らず在室時であれば喜んで対応いたします。	http://hue2jm.hirosaki-u.ac.jp/html/10000700_ja.html	特になし
97	97	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	公共政策論(Public Policy)	2	選択必修	2	後期	木曜日1・2時限	河合　正雄	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	統治機構に関する論点について, 自分の頭で考察することができること それに対する自らの関わり方を考えることができること	日本国憲法の統治機構に関する原理や概念を、憲法学説をふまえ、主要判例や時事問題も交えて説明します。	第1回 :権力分立の意義、代表 第2回 :選挙制度、政党 第3回 :国会(国会の地位、国会の組織) 第4回 :国会(国会議員の地位と権能) 第5回 :国会(国会の権能、議院の権能) 第6回 :国会(国政調査権) 第7回 :内閣(行政権と内閣、議院内閣制、内閣の組織と権能) 第8回 :内閣(内閣の責任、衆議院の解散) 第9回 :裁判所(司法権の意義、司法権の範囲) 第10回:裁判所(司法権の限界、司法権の独立) 第11回:裁判所(司法の民主的統制、違憲審査制度) 第12回:財政 第13回:地方自治 第14回:憲法改正と憲法保障、天皇 第15回:平和主義、日本国憲法制定過程 第16回:期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	予習:事前に教科書を熟読するほか、実社会とのつながりを理解するために、授業テーマに関連する時事問題を把握しておく必要があります。 復習:何が論点となっているか理解し、基本的な原理や概念については自分の言葉で説明できる状態にしておくことが求められます。	法学関連	–	–	–	辻村みよ子『憲法(第6版)』(日本評論社、2018年)3,800円＋税 『ポケット六法』(有斐閣)などの最新版かそれに準じた六法は必携でお願いします。	芦部信喜『憲法(第6版)』(岩波書店、2015年)3,100円＋税 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅱ(第6版)』(有斐閣、2013年)(2,095円＋税)	授業中に行う小レポート40%、期末試験60%。授業への参加度を加減することがあります。 1. 講義で扱った領域に関して、学説が論じている事柄を説明できること。 2. 講義で説明した判例や学説の問題点や対立点を説明できること。 3. これらの事柄に対して、自己の見解を論理的に表現できること。	講義	ある程度詳細なレジュメを配布した上で、講義への集中力を高めるため、板書も用いつつ口頭で説明します。	1. 公法学及び憲法を履修済みであることを前提とします。 2. 授業中に小レポートを書いていただきますので注意ください。	水曜日5・6限ですが、オフィスアワーに限らず在室時であれば喜んで対応いたします。	http://hue2jm.hirosaki-u.ac.jp/html/10000700_ja.html	特になし
98	98	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	公法学 (Public Law)	1	選択必修	2	後期	木曜日3・4時限	河合　正雄	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	公法学全体を鳥瞰した上で, 憲法の基本的な概念を理解できること 主として人権総論に関する論点について, 自分の頭で考察することができること	主として憲法の人権総則に関する原理や概念を、学説をふまえ、主要判例や時事問題も交えて説明します。	第1回 :公法学を学ぶ意義 第2回 :行政法の基本構造 第3回 :私人間効力論、公共の福祉 第4回 :包括的基本権 第5回 :中間試験(1～4回)、法の下の平等(性) 第6回 :法の下の平等(社会的身分) 第7回 :思想・良心の自由 第8回 :信教の自由 第9回 :中間試験(5～8回)、表現の自由(価値、「二重の基準」論、派生する権利) 第10回:表現の自由(表現内容規制、わいせつ文書規制) 第11回:表現の自由(名誉毀損表現、ヘイトスピーチ) 第12回:表現の自由(表現内容中立規制、放送、事前抑制、集会の自由) 第13回:宗問の自由 第14回:職業選択の自由 第15回:財産権 第16回:期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	予習:事前に教科書を熟読するほか、実社会とのつながりを理解するために、授業テーマに関連する時事問題を把握しておく必要があります。 復習:何が論点となっているか理解し、基本的な原理や概念については自分の言葉で説明できる状態にしておくことが求められます。	法学関連	–	–	–	辻村みよ子『憲法(第6版)』(日本評論社、2018年)3,800円＋税 『ポケット六法』(有斐閣)などの最新版かそれに準じた六法は必携でお願いします。	樋井敬子ほか『行政法(第5版)』(弘文堂、2016年)3,300円＋税 芦部信喜『憲法(第6版)』(岩波書店、2015年)3,100円＋税 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ(第6版)』(有斐閣、2013年)(2,095円＋税)	中間試験40%、期末試験60%。授業への参加度を加減することがあります。 1. 講義で扱った領域に関して、基本的な事柄を説明できること。 2. 講義で説明した判例や学説の問題点や対立点を説明できること。	講義	ある程度詳細なレジュメを配布した上で、講義への集中力を高めるため、板書も用いつつ口頭で説明します。	積極的な質問を歓迎します。	水曜日5・6限ですが、オフィスアワーに限らず在室時であれば喜んで対応いたします。	http://hue2jm.hirosaki-u.ac.jp/html/10000700_ja.html	特になし
99	99	人文社会科学部文化資源学コース	考古学フィールドワーク実習 Ⅰ(Archeology Fieldwork Practicum Ⅰ)	3	選択必修	2	前期	火曜日7～10時限	上條　信彦、関根達人	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	本物の土器や石器を使って, 遺跡調査の方法と分析方法・展示方法について実践的に学ぶことい く力	前期は野外調査のための測量法を習得します。長期休暇を利用して12日間ほど発掘調査に参加します。調査によって、プロジェクトの推進能力を養います。	1:測量方法の理論 2-3・4:測量野外実習　平板測量 5・6:測量野外実習　水準点からのレベル移動 7～10:測量野外実習　平板とレベルつかった20分の1測量図の作成 11～13:トータルステーションの使い方と, 遺構平面図・断面図作成 14・15:遺跡発掘調査の準備と方法 夏休み期間中:発掘調査および整理作業(1～2週間程度を予定)	前回の作業内容の意義や方法について復習することを望みます。体を使って覚える内容が中心となるため, 講義時間以外の積極性も問われます。	考古学関連	博物館学関連	地理学関連	実務教員	特に教科書は指定しません。参考資料を配付します。方眼のある緑色の野帳(金鉛に購入可能。150円程度)を必ず購入してください。	実習の際に指示・紹介します。まず考古学実習室の発掘調査報告書を見てください。	まず,出席すること。その上で、課題に対する取組姿度や活動内容を総合的に評価します。	実習	前期は野外実習があります。主担当は上條です。	1.野外での調査実習を伴いますので、膝修する学生は基本的に、入学時に手続きしている学生教育研究災害保険への加入(4年間で3200円程度)を推奨します。実習の際は動きやすい服装できてください。 2.意欲的な態度でのぞむ学生の受講を期待します。 3.できる限り、日本考古学関連の講義を受講してください。 4.野外実習を伴いますので、動きやすい服装と靴、場合によっては日焼止めや帽子を持参してください。	215号室(上條) 月～金随時、10:00～13:00、17:00～がつかまりやすいです。	HP:http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kamijo/ 発掘の様子が分かります。 HPアドレス、kamijo(あっと)hirosaki-u.ac.jp(あっと)を@に変換してください。	発掘調査に関しては本実習中に別途連絡しますが、費用負担は発生しません。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
100	100	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	考古学フィールドワーク実習 Ⅲ(Archeology Fieldwork Practicum Ⅲ)	3	選択必修	2	後期	火曜日7～10時限	上條 信彦、関根 達人	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	本物の土器や石器を使って、遺跡調査の方法と分析方法・展示方法について学ぶこと	前期に発掘した出土品を使って、考古資料の撮影・製図などの報告書作成、あるいは資料を北日本考古学研究センター企画展での展示の企画・取り扱い、陳列、保存方法をを学びます。また植物遺体の水洗選別法なども学びます。	1～4：遺物の洗浄 5～10：遺物の接合・復元 11～15：遺物の実測	前回の作業内容の意義や方法について復習することを望みます。また、課外での巡検を行うことがあります。	考古学関連	博物館学関連	歴史学関連	実務教員	特に教科書は指定しません。参考資料を配布します。方眼のある緑色の野帳(生協にて購入可能。150円程度)を必ず購入してください。	実習の際に指示・紹介します。	まず、出席すること。その上で、課題に対する取組態度や活動内容を総合的に評価します。	実習	屋内作業が中心ですが、野外実習があります。主担当は上條です。	貴重な文化財を扱いますので、最欲的な態度でのぞむ学生の受講を期待します。できうる限り、日本考古学関連の講義を受講してください。	215号室(上條)月～金随時、10：00～13：00、17：00～がつかまりやすいです。	HP：http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kamijo/ 実習の様子が分かります。HPアドレス：kamijo(あっと)hirosaki-u.ac.jp(あっと)を@に変換してください。	発掘調査に関しては本実習中に別途連絡しますが、費用負担は発生しません。
101	101	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	考古学実習 Ⅰ(Archeology Practicum Ⅰ)	2	選択必修	2	前期	火曜日7～10時限	上條 信彦、関根 達人	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	本物の土器や石器を使って、遺跡調査の方法と分析方法・展示方法について実践的に学ぶこと	前期は野外調査のための測量法を習得します。長期休暇を利用して12日間ほど発掘調査に参加します。調査によって、プロジェクトの推進能力を養います。	1：測量方法の理論 2・3・4：測量野外実習　平板測量 5・6：測量野外実習　水準点からのレベル移動 7～10：測量野外実習　平板とレベルつかった20分の1測量図の作成 11～13：トータルステーションの使い方と、遺構平面図・断面図作成 14・15：遺跡発掘調査の準備と方法 夏休み期間中：発掘調査および整理作業(1～2週間程度を予定)	前回の作業内容の意義や方法について復習することを望みます。体を使って覚える内容が中心となるため、講義時間以外の積極性も問われます。	考古学関連	博物館学関連	地理学関連	実務教員	特に教科書は指定しません。参考資料を配付します。方眼のある緑色の野帳(生協にて購入可能。150円程度)を必ず購入してください。	実習の際に指示・紹介します。まず考古学実習室の発掘調査報告書を見てください。	まず、出席すること。その上で、課題に対する取組態度や活動内容を総合的に評価します。	実習	前期は野外実習がありません。主担当は上條です。	1. 野外での調査実習を伴いますので、履修する学生は基本的に、生協で扱っている学生教育研究災害保険への加入(4年間で3200円程度)を推奨します。実習の際は動きやすい服装できてください。 2. 意欲的な態度でのぞむ学生の受講を期待します。 3. できうる限り、日本考古学関連の講義を受講してください。 4. 野外実習を伴いますので、動きやすい服装と靴、場合によっては日焼止めや帽子を持参してください。	215号室(上條)月～金随時、10：00～13：00、17：00～がつかまりやすいです。	HP：http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kamijo/ 発掘の様子が分かります。HPアドレス：kamijo(あっと)hirosaki-u.ac.jp(あっと)を@に変換してください。	発掘調査に関しては本実習中に別途連絡しますが、費用負担は発生しません。
102	102	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	考古学実習 Ⅲ(Archeology Practicum Ⅲ)	2	選択必修	2	後期	火曜日7～10時限	上條 信彦、関根 達人	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	本物の土器や石器を使って、遺跡調査の方法と分析方法・展示方法について学ぶこと	前期に発掘した出土品を使って、考古資料の撮影・製図などの報告書作成、あるいは資料を北日本考古学研究センター企画展での展示の企画・取り扱い、陳列、保存方法をを学びます。また植物遺体の水洗選別法なども学びます。	1～4：遺物の洗浄 5～10：遺物の接合・復元 11～15：遺物の実測	前回の作業内容の意義や方法について復習することを望みます。また、課外での巡検を行うことがあります。	考古学関連	博物館学関連	歴史学関連	実務教員	特に教科書は指定しません。参考資料を配布します。方眼のある緑色の野帳(生協にて購入可能。150円程度)を必ず購入してください。	実習の際に指示・紹介します。	まず、出席すること。その上で、課題に対する取組態度や活動内容を総合的に評価します。	実習	屋内作業が中心ですが、野外実習があります。	貴重な文化財を扱いますので、最欲的な態度でのぞむ学生の受講を期待します。できうる限り、日本考古学関連の講義を受講してください。	215号室(上條)月～金随時、10：00～13：00、17：00～がつかまりやすいです。	HP：http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kamijo/ 実習の様子が分かります。HPアドレス：kamijo(あっと)hirosaki-u.ac.jp(あっと)を@に変換してください。	なし
103	103	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	国際共生論A (International Coexistence A)	1	選択必修	2	後期	金曜日9・10時限	澤田 真一	–	レベル1～2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	「共生」をキーワードに、「差異」が「差別」や「ハンディキャップ」とならない社会を構築していくための思想と、NGO、国家、国連による様々な取り組みを学ぶこと 講義で取り上げるテーマについて、まず当事者(マイノリティ)の声に耳を傾けることを通じて理解を深め、新たな視点を持って日本社会を批判的に捉え直すことができるようにすること	この講義は受講者の皆さんに「驚き」を提供します。具体的な「差異」を取り上げ、その差異に恣意的な価値づけをすることで正当化されてきた「差別」が、どのように発生され、是正されてきたのかを世界の事例から学んでいきます。講義では主に4つの「差異」(先住民族と植民者、女と男、子どもと大人、障がい者と健常者)と「罪救」の問題を取り上げます。また、多文化共生社会を実現するために防がれたきた世界の様々な思想について学んでいきます。 If my lecture is boring, please feel free to take a nap!	第1回　イントロダクション：思考の枠を広げる 第2回　映画「裸足の1500マイル」：監賞 第3回　映画「裸足の1500マイル」：解釈　我々はいかなる時に良心の呵責なく残酷な行為を行うことができるのか 第4回　多民族国家と共生(1)オーストラリアにおけるアボリジニの子どもの合法的誘拐 第5回　多民族国家と共生(2)オーストラリア政府による公式謝罪と歴史の癒し 第6回　宗教と共生(1)イザヤ書：国連による平和のヴィジョン 第7回　宗教と共生(2)キリスト教とイスラム教："Compassion" カレン・アームストロングから 第8回　表象と暴力(1)カニバリズムとは：マンスフィールドとイビマエラによる文字的対話 第9回　表象と暴力(2)内なる他者の投影：モーリス・センダック『怪獣たちのいるところ』 第10回　ジェンダーとセクシュアリティ(1)ニュージーランドにおける女性参政権運動 第11回　ジェンダーとセクシュアリティ(2)新たなパートナーシップ 第12回　子どもと大人：「子どもの権利条約」と体罰の法的禁止をめぐって 第13回　障がい者と健常者：「障害者権利条約」と手話の公用語化、共生とノーマライゼーション 第14回　有機的な関係と相互依存：ジョニー・デップとエーリッセ・フロムから 第15回　多文化共生社会実現のための知識人の役割：5つの提言 定期試験	予習：講義時に配布する資料は必ず前もって読んでくることが求められます。 復習：講義では毎回扱ったテーマに関連した課題(200字程度)を出し、次回に提出してもらいます。	思想関連	文学関連	–	–	講義時にプリントを配布します。	随時講義で紹介していきます。	平常評価(授業への参加度、コメントペーパー)：40% 期末評価(期末試験)：60% 上記を合算して、最終的な成績評価を行います。	講義	講義形式になりますが、学生の皆さんはコメントペーパーを通じて質問したり、自分の意見を表明することができます。	新たな視座を獲得したい、あるいは海外留学を考えている学生の皆さんは、ぜひ受講してください。	金曜日7～8時限、昼休み	ssawada@hirosaki-u.ac.jp	特にありません。
104	104	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	国際共生論B (International Coexistence B)	2	選択必修	2	前期	水曜日5・6時限	バトラー	–	レベル1～2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	The class will contain tasks to help students reflect on their own values, customs, behaviour and attitudes, as departure points for discovering about other cultures. With the class, students will: -have a raised awareness of intercultural differences in values, behaviour and ways of thinking -have practised observation and interpretation skills as well as critical thinking -have basic knowledge about misunderstandings that might arise from cultural differences -have basic capacity to hold international communication, avoiding misunderstandings. 異なった価値観や振る舞い、考え方に対する理解力を習得すること 批判的思考力や物事を観察し様々に解釈する力を獲得すること 文化的差異から生じる誤解などを学びそれを理解する力を養うこと 誤解を生むことなく異なる価値観を持つ人たちとコミュニケーションができる力を身につけること	This class aims to promote intercultural understanding. Because of globalisation, we need to step beyond our own culture and function with people from linguistically and culturally diverse backgrounds. To avoid misunderstandings and conflict, it is important to build common foundations among people with different cultures, which includes knowledge on how they can differ as well as tolerance and appreciation of difference. We will explore differences that may cause misunderstanding between Japanese and people from other parts of the world.	Participants are given a task to read the relevant part of the teaching materials in advance and discuss and ask questions in class to deepen their understanding. Week 1　Introduction: Encountering different cultures Week 2　Living and working in various countries: my experiences Week 3　Concerns of time and delay Week 4　Eating and Drinking Week 5　Conversation and … Silence. Week 7　Individualism and Group Spirit Week 8　Midterm test Week 9　Change in the roles and images of women and men Week 10　Romantic Love Week 11　Differences in the way cultures regard children Week 12　Education Matters Week 13　Questions about Globalization Week 14　Coping with Culture Shock Week 15　Summary	Students should be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。	文化人類学関連	歴史学関連	言語学関連	–	Martina Huber-Krieglerr, Isabió LA#225;zár and John Strange. 2003. Mirrors and windows: An intercultural communication textbook, European Centre for Modern Languages, Council of Europe Publishing.	Other references will be provided during the course.	In course participation 20%, assignments 20%, midterm test 30%, and final test 30%. 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	講義	Classes will include group discussions and presentations.	毎回の受講前に十分に予習し、何を理解し、理解できなかったかを明確にしておくことが重要で、疑問点等は授業の中で明らかにするように努めましょう。	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は半角に置き換えてください	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
105	105	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	国際金融論(International Finance)	2	選択必修	2	後期	金曜日5・6時限	飯島 裕胤	–	レベル2	CP・DP 1見通す力	経済理論を使って、①通貨価値変動の影響と原因、②国際的な資本移動のしくみと機能を明確に理解すること	「国際金融」とは、国境を越えた資金の融通のことです。その特徴は2点あり、①通貨の交換(「為替」といいます)が必要である、②国によって金融制度や政策が異なるこの2点を考慮しなければならないことです。各国はこれらをふまえながら、その国の状況に最も適した制度を定めて国際取引を行っています。国際金融論では、簡明な理論モデルを使いながら、上記のことがらを明確に理解してゆきます。	第1回 ガイダンス 第2回 国際金融総論1 第3回 国際金融総論2 第4回 通貨価値の理論1 第5回 通貨価値の理論2 第6回 通貨価値の理論3 第7回 通貨価値の理論4 第8回 通貨価値の理論5 第9回 通貨価値の理論6 第10回 通貨価値の理論7 第11回 資本移動と通貨制度の理解1 第12回 資本移動と通貨制度の理解2 第13回 資本移動と通貨制度の理解3 第14回 資本移動と通貨制度の理解4 第15回 まとめ	[予習] 授業に関連する金融の現実問題を考えてもらいます(要提出、5回程度)。 [復習] 配布する練習問題を繰り返し、ていねいに解いて下さい	経済学関連	経営学関連	法学関連	–	黒田晶生著『入門 金融』東洋経済新報社 (「金融論」指定教科書)	P.R.クルーグマン、M.オブズフェルド著『クルーグマンの国際経済学:理論と政策(下、金融編)』ピアソン 藤井英次著『コア・テキスト 国際金融論』新世社 高木信二著『入門 国際金融』日本評論社 R.E.ケイブズ、R.W.ジョーンズ著『国際経済学入門 国際金融編』多賀出版 (興味深くのある学生は、インターネットで検索して購入されるとよいでしょう。)	予習課題(20%以内)と試験(残りの得点)で評価します。試験は中間、最終の2回実施する予定です。試験問題は、基本的に講義中に適宜配布する練習問題から出題します。	講義	基本的に講義形式で進めます。15分程度、クイズ形式の演習とその解説を取り入れます。	あわせて「金融論」、教養教育キャリア科目「キャリアデザイン・キャリアと就業形成-」も受講すると、理解が深まるでしょう。	月曜日11:30-12:30	iijima(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	よくにありません。
106	106	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	国際経済学(The International Economy)	2	選択必修	2	前期	金曜日7・8時限	桑波田 浩之	–	レベル2	CP・DP 1見通す力	経済学の基礎理論を応用して、国際経済に関する諸問題を理解・考察出来るようになること	グローバル化の中、日本が直面している国際貿易に関する課題を理解・考察するための、基礎的な国際貿易理論を学ぶ。制度や歴史的な側面の説明は必要最小限にとどめ、ミクロ経済学の基本的な考え方の応用に重点をおく。前期では、国際貿易の代表的な理論であるリカード・モデル、ヘクシャー＝オリーン・モデル及び、貿易政策について扱う。	1. ガイダンス、国際経済と統計データ 2. ミクロ経済学の復習、国際貿易の基礎(1): 貿易の利益 3. 国際貿易の基礎(2): 交易条件・貿易均衡・技術進歩 4. リカードの貿易理論(1): 比較優位 5. リカードの貿易理論(2): 貿易パターンの決定 6. ヘクシャーオリーンの貿易理論(1): ヘクシャーオリーンの定理 7. ヘクシャーオリーンの貿易理論(2): 要素価格均等化定理・ストルパー＝サミュエルソンの定理 8. ヘクシャーオリーンの貿易理論(3): リプチンスキーの定理, 生産技術と貿易均衡 9. 特殊要素モデル 10. 貿易政策の理論(1): 関税・数量制限・補助金 11. 貿易政策の理論(2): 貿易政策の一般均衡分析 12. 不完全競争下における貿易政策(1): 国内企業の独占 13. 不完全競争下における貿易政策(2): 外国企業の独占 14. 不完全競争下における貿易政策(3): 最適関税 15. 復習 16. 期末試験	事前に教科書を読み、わからない点を明らかにしておくこと。また授業後は、講義内で行う演習問題を復習して知識の定着を図ること。	経済学関連	経営学関連	–	–	若杉隆平『国際経済学 第3版』岩波書店	大川昌幸『国際経済学』新世社 石川城太・椋宮・菊池健『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣	定期試験90%、小テスト・授業への参加度10%	講義	講義はスライドによる講義形式とする。重要な点はノートを取ること。その他、必要に応じてプリントを配布する。	経済学入門①、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。履修済みでない者は、並行履修を推奨する。	水曜1・2・3・4限(メールを貰えれば、他の時間帯でも対応可能)	kuwahata@hirosaki-u.ac.jp	なし
107	107	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	雇用政策論(Employment Policy)	2	選択必修	2	後期	月曜日5・6時限	李 永俊	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	労働市場を巡るさまざまなカレントトピックスを正確に理解すること 労働市場の現状を経済学的なメカニズムで理解すること 以上を通して、労働市場の諸問題を見通す力とその問題を解決する力を養うこと	本講義は、日本のマクロ労働市場および青森県を含む地域労働市場を巡るさまざまなカレントトピックスを取り上げる。今期の授業では、人口減少社会における地域労働市場をテーマに、近年の地域労働市場を取り巻く環境の変化を取り上げ、経済学の観点から解説する	第 1回 イントロダクション 第 2回 人口減少の現状について 第 3回 ワークショップⅠ 人口減少が地域社会及ぼす影響について① 第 4回 ワークショップⅠ 人口減少が地域社会及ぼす影響について② 第 5回 人口減少の経済的影響―マクロ経済の観点から― 第 6回 人口減少の経済的影響―労働市場の観点から― 第 7回 人口減少のメカニズム―マクロの人口動向― 第 8回 人口減少のメカニズム―地域間移動動向― 第 9回 ワークショップⅡ 北東北の人口減少の現状① 第10回 ワークショップⅡ 北東北の人口減少の現状② 第11回 人口移動の決定要因―個人の選択行動として― 第12回 人口移動の決定要因―家族、地域社会の役割― 第13回 グループワーク 人口減少問題の解決策を考える① 第14回 グループワーク 人口減少問題の解決策を考える② 第15回 グループワーク 人口減少問題の解決策を考える③ 第16回 最終成果報告	準備学習としては、ミクロ経済学基礎、マクロ経済学基礎、統計学入門を受講しておいてください。	経済学関連	–	–	–	特になし	増田寛也編著(2014)『地方消滅』中公新書 太田聡一・橋本俊詔(2010)『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社 李永俊・石黒格(2008)『青森県で生きる若者たち』弘前大学出版会 石黒格・李永俊・山口恵子・杉浦裕晃(2012)『東京に出る若者たち』ミネルヴァ書房 樋口美雄・財務省財務総合政策研究所(2008)『人口減少社会の家族と地域』日本評論社	平常評価(平常の発表、レスポンスペーパーなど):20% 中間評価(中間発表、発表資料など):30% 最終評価(最終発表、最終報告書):50%	講義	主にグループ学習・研究によって進めます。	小グループでの協働作業が中心の授業であるので、必ず出席することを前提とします。	毎週水曜日 10時00分～12時00分	yjlee@hirosaki-u.ac.jp	特になし
108	108	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	財政学(Public Finance)	2	選択必修	2	前期	木曜日1・2時限	金目 哲郎	–	レベル2	CP・DP 1見通す力	財政の制度や機能について説明できること 財政にかかるデータを収集・読取できること 財政について、一国の経済政策や地域社会との関連で考える力を身に付けること	財政学とは、公共部門の経済活動を対象とする学問です。また、経済学の領域にとどまらず、社会科学の総合性を志向する学問といわれます。政府は租税や公債発行によって財源を調達し、国防、外交、警察、消防、教育、公衆衛生、ごみ処理などさまざまな公共サービスを供給し、これらは私たちの生活に欠くことのできない重要なものです。この授業では、財政にかかる「基本事項」のほか、「どのような政治過程を通じて歳入歳出が決定されるのか」、「租税のあるべき原則とは何か」、「租税は経済主体にいかなる影響を及ぼすのか」などを考えていきます。このほか、授業内容に関連させて青森県内の自治体の財政状況も紹介する予定です。	第1回 財政とは何か(ガイダンス) 第2回 財政とは何か(財政の機能) 第3回 予算と財政民主主義(予算と財政民主主義とは) 第4回 予算と財政民主主義(予算原則) 第5回 予算と財政民主主義(予算の種類としくみ) 第6回 予算と財政民主主義(予算循環) 第7回 予算と財政民主主義(予算制度の改革課題) 第8回 経費論(経費とは) 第9回 経費論(経費膨張の問題) 第10回 経費論(経費の分類と構造) 第11回 租税論(租税とは) 第12回 租税論(租税の原則と租税原則) 第13回 租税論(課税の方法) 第14回 租税論(租税の分類) 第15回 租税論(主な国税の概要と課題) 第16回 期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	[予習]予習が必要となる場合は、次回の授業で扱う資料を事前に配付しますので、予め読んでおきてください。 [復習]毎授業後、講義ノートや参考文献で復習してください。必要に応じて参考文献の該当箇所を紹介します。講義時に配付する「資料」により、理解を補足してください。資料には適宜にデータソース(図表の出所)も示しておくので各自で財政状況を調べてみることができます。授業時間中に行う小テストの解答例を復習に活用してください。	経済学関連	–	–	–	教科書は特に指定しません。参考文献に挙げた『財政学』の基本テキストが手元にあると体系的な理解に役立ちます。	林宜嗣『財政学』(2012)新世社 金澤史男編『財政学』(2005)有斐閣 持田信樹『財政学』(2009)東京大学出版会 池上岳彦編『現代財政を学ぶ』(2015)有斐閣 井手英策『財政から読み解く日本社会』(2017)岩波書店 その他の参考文献は講義の中で適宜に紹介します。	平常評価(小テスト等):10% 期末評価(期末試験):90% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。 なお、期末試験では、授業の理解度・習得度が採点基準となります。	講義	講義形式によります。板書による講義を基本とし、必要に応じ資料等を活用する予定です。	次の関連科目を併せて受講することにより、財政学の体系的な理解や応用力の向上に役立つでしょう。 地方財政論、経済法律コース特設講義「地域課題研究」 政治経済・社会一市場社会と政府の経済入門一	水曜日12時～13時(他の曜日・時限でも可)	kaname-t(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	特になし。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
109	109	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	財務会計Ⅰ(Financial Accounting I)	2	選択必修	2	前期	金曜日3-4時限	内藤　周子	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力	財務諸表から企業がどのような経営を行っているのかがわかること 財務諸表を用いて複数の企業を比較したり、時系列で観察することで当該企業の会計や経営について理解をしたことを、説明できること	複数の企業における会計に関するケースを用いて、財務諸表の読み方について講義します。	第1回:イントロダクション 第2回:会計リテラシー 第3回:会計の基本構造・簿記 第4回:財務諸表から事業の構造や戦略を読む(1) 貸借対照表と損益計算書 第5回:財務諸表から事業の構造や戦略を読む (2) 組織別財務諸表の作成 第6回:財務諸表分析の実践(1) 外食企業の2社比較等 第7回:財務諸表分析の実践(2) PL推移とBS推移 第8回:財務諸表と意思決定 第9回:連結財務諸表を読む 第10回:キャッシュ・フローを読む 第11回:ビジネスプランを練る(1) 第12回:ビジネスプランを練る (2) 第13回:マネジメント・コントロールの基礎 第14回:会計管理指針 第15回:国際的な会計のルール 第16回:期末テスト	(予習)どのような企業についての講義を行うのか、業界などの特徴を予め調べてくること。 (復習)教科書の演習問題や配布したハンドアウトの問題を、電卓を用いて自らの手を動かして解くこと。	経営学関連	経済学関連	–	–	山根節、太田康広、村上裕太郎『ビジネス・アカウンティング』(中央経済社、(最新版)	授業内容に応じて案内します。	レポート・小テスト等(10%)、期末テスト(90%)。	講義	講義を中心に行います。随時、計算問題を解きます。 授業で用いるパワーポインドの内容を印刷して配布することもありますが、各自でノートをとることが大切です。	会計学だけでなく、経営学に関する基礎的な科目が履修済みであることが望ましいです。	金曜5.6時限目	naito-s(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
110	110	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	財務会計Ⅱ(Financial Accounting II)	2	選択必修	2	後期	金曜日3-4時限	内藤　周子	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力	連結財務諸表を作成するための仕訳がわかること 連結財務諸表に関する特有の基礎的な概念について理解をして、説明ができること	連結財務諸表の作成と公開について講義します。	第1回:イントロダクション 第2回:ディスクロージャー制度における連結財務諸表 第3回:連結基礎概念 第4回:連結財務諸表の作成手続の概要 第5回:投資勘定と資本勘定の相殺(1) 子会社の資産・負債の簿価と時価が等しい場合 第6回:投資勘定と資本勘定の相殺(2) 子会社の資産・負債の簿価と時価が異なる場合 第7回:支配獲得後の持分変動 第8回:連結相互間の債権及び債務の相殺消去 第9回:連結会社相互間取引の相殺消去 第10回:未実現損益の消去 第11回:持分法 第12回:在外子会社の財務諸表の換算 第13回:連結財務諸表の表示と開示 第14回:会計基準における国際的動向(1) 第15回:会計基準における国際的動向(2) 第16回:期末テスト 上の内容を予定しておりますが、学生の理解度等を考慮して、授業を行いますので多少異なる可能性があります。	教科書や配布したハンドアウトの問題を、電卓を用いて自らの手を動かして解くこと。	経営学関連	経済学関連	–	–	齋藤真哉編著『ニューベーシック連結会計』中央経済社、2013年。	授業内容に応じて案内します。会計基準については、以下が参考になります。 WEB:企業会計基準委員会(https://www.asb.or.jp/asb/top.do)『会計諸制表』(『投務経理協会)、『会計法規集』(中央経済社)などの最新版。	レポート・小テスト等(10%)、期末テスト(90%)。	講義	講義を中心に行います。随時、計算問題を解きます。 授業で用いるパワーポインドの内容を印刷して配布することもありますが、各自でノートをとることが大切です。	簿記と会計学の基礎的な知識を前提として講義です。会計学に関連する科目も同時に履修することを望みます。	金曜5.6時限目	naito-s(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
111	111	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	産業立地論(Industrial Location)	2	選択必修	2	後期	火曜日7-8時限	桑波田浩之	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力	経済学の基礎理論を応用して、国際経済に関する諸問題を理解・考察出来るようになること	グローバル化の中、日本が直面している国際貿易に関する課題を理解・考察するための、基礎的な国際貿易理論を学ぶ、制度や歴史的な側面の説明は必要最小限にとどめ、ミクロ経済学の基本的な考え方の応用に重点をおく。 後期は、現模経済性と貿易、戦略的貿易政策、海外直接投資、国際貿易ルールのほか、空間経済学などの発展的な内容についても扱う。	1. ガイダンス 2. 規模経済性と産業内貿易(1): マーシャルの外部性 3. 規模経済性と産業内貿易(2): 独占的競争 4. 規模経済性と産業内貿易(3): 産業内貿易 5. 戦略的貿易政策(1): 静学ゲーム・数量競争の動学ゲーム 6. 戦略的貿易政策(2): 価格競争の動学ゲーム 7. 直接投資と多国籍企業(1): 生産要素の国際移動 8. 直接投資と多国籍企業(2): 海外直接投資 9. 技術移転と国際貿易 10. 国際貿易と企業(1): 海外アウトソーシング 11. 国際貿易と企業(2): 企業の異質性と国際貿易 12. 国際貿易と企業(3): 産業集積と国際貿易 13. 国際貿易ルール: GATT/WTO・環境保護・地域統合 14. 重力モデル 15. まとめ 16. 期末試験	事前に教科書を読み、分からない点を明らかにしておくこと。また授業後は、講義内で行う演習問題を復習して知識の定着を図ること。	経済学関連	経営学関連	–	–	若杉隆平『国際経済学 第5版』岩波書店	石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣 若杉隆平(編)『現代日本企業の国際化』岩波書店 藤田昌久・クルーグマン・ベナブルズ『空間経済学』東洋経済新報社 黒田達朗・田源陸俊・中村良平『都市と地域の経済学』有斐閣 清田耕造・神事直人『実証から学ぶ国際経済』有斐閣	定期試験90%、小テスト・授業への参加度10%	講義	講義はスライドによる講義形式とする。重要な点はノートを取ること、その他、必要に応じてプリントを配布する。	経済学入門①、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、国際経済学を履修済み、もしくは並行履修をしていることが望ましい。	水曜1・2・3・4限(メールを貰えれば、他の時間帯でも対応可能です)	kuwahata@hirosaki-u.ac.jp	特になし
112	112	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	事業計画演習Ⅰ(Project Planning Colloquium I)	2	選択必修	2	前期	火曜日9-10時限	森　樹男、加藤　恵吉	地域志向科目	レベル2	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 2 解決していく力	市場の動向や自社の管理運営の基本的な実践的知識を習得すること また自らのアイデアに基づいたビジネスプランの作成ができること	経営・会計の応用的な実習に先立って、経営者の視点から企業を見る眼を養います。具体的には、顧客ニーズや競合他社の動向を分析・解釈し、適切な意思決定ができるような素養を養います。 また、実際に事業をおこなうための基礎知識について実務家の指導を受けます。 最終的に、ビジネスプランの作成・発表を行います。	第1回　オリエンテーション 第2回～14回　実務家の指導のもと、起業アイデア出しとビジネスプランの作成 第15回　ビジネスプランの発表	予習:普段から、ビジネス雑誌や新聞など聞くをもってみるようにしてください また、機会をみつけて地域や地域企業について考えるシンポジウムや報告会に積極的に参加し、自分なりの考えを持つように努めてください 復習:普段目にする商品やサービスがどのようなビジネスモデルによって成り立っているか考えるようにしてください。	経営学関連	–	–	–	特にありません。	関連する書籍・DVDなどはビジネスシミュレーション実習室に用意しています。 積極的に活用してください。	受講状況及び受講態度と作成したビジネスプランの内容で評価します。 欠席や遅刻が5回以上の場合は単位認定しませんので注意してください。	演習	起業アイデア出しとビジネスプラン作成のためのディスカッション、作業、発表が中心です。	ビジネスプランを立てるには世の中の動きを知る必要があります。 したがって、演習の時間だけにとどまらず、積極的に街にでて、調査する必要もあります。 その努力をいとわないようにしてください。 なお教養科目「ビジネスプラン入門」専門科目「ベンチャービジネス論」「経営戦略論」「簿記システムⅠ」が履修済みであることが望ましい	木曜　17時40分～18時30分(森) 月曜　12時00分～12時30分(加藤)	森mori(at)hirosaki-u.ac.jp 加藤katok(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
113	113	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	事業計画演習Ⅱ(Project Planning Colloquium II)	2	選択必修	2	後期	火曜日9-10時限	黄　孝春、大橋　忠宏	地域志向科目	レベルI	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 2 解決していく力	実践的な活動をおこなうビジネス戦略実習Ⅰ・Ⅱに備え、事業の企画提案をおこなう際に必要な知識や考え方を身につけ、事業計画を作り、プレゼンテーションができるようになること	事業の企画提案のために必要な基礎知識について事例研究や実務家の講義・指導などを受けながら学習します。 また、実際に事業を企画することを想定し、企画提案書の作成方法を学びます。 具体的には、青森県の企業や製品を対象としながら、そうした企業の経営戦略や、製品のマーケティング戦略について企画・検討していくことになります。	事業の企画提案書に必要な知識を、下記の内容に沿って学習していきます。 第1回　イントロダクション:①企画提案力を高めるために ②自己紹介、グループ分け 第2回～第3回　ビジネスケースの検討 第4～6回　実務家による講演 第7～13回　事業の企画提案書作成(実務家による講義・指導を複数回予定) 第14回　中間報告、プレゼンテーションの方法 第15回　プレゼンテーションの方法 第16回　事業の企画提案(最終試験)	事業の企画提案書を作成するにあたっては、多種多様なデータを用いて、提案の根拠などを明確に示す必要があります。そのためには、マーケット調査、資料収集などをおこなうための事前、事後の個人学習・グループ学習が必要となります。	経営学関連	経済学関連	–	実務教員	井口 嘉則(2009)『ゼロから わかる 事業計画書の作り方』日本能率協会マネジメントセンター	事業の企画提案に必要な参考書、DVDなどはビジネスシミュレーション実習資料室に設置してあります。 受講者は適宜、閲覧することができます。	最終的には、作成した企画提案の内容により評価します。なお、チームで作業することが求められますので、欠席、遅刻などないように気をつけてください。 採点基準:企画提案書　70点 平常点　30点 上記を合算して、最終的な成績評価がおこなわれる予定です。	演習	グループワーク、企画提案書の作成、発表が中心の授業です。	また、事業の企画提案書を作成するためには、世の中の動きを知ることが必要です。講義時間に留まらず、積極的に街に出たり、インターネットや情報番組などを活用し、知識・情報を増やすよう心がけてください。	水曜日12:00ー13:00	huang@hirosaki-u.ac.jp	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
114	114	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	市場経済論(Theories of Market Economy)	2	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	福田　進治	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	経済学の歴史を理解し、経済学の世界の全体像を把握すること 現代の経済問題を歴史的視点から検討する力を身に付けること	この授業では、19世紀後半から20世紀に至る近代経済学の形成の歴史的過程を学びながら、経済学の基礎を身に付けます。この時代に、資本主義経済が拡大・深化するとともに、新しい現実主義の経済学が登場し、これを受けてマーシャルの経済学が登場し、ミクロ経済学の基礎が形成され、さらに20世紀初頭の大恐慌の時代にケインズの経済学が登場し、マクロ経済学の基礎が形成される過程を学びます。	第1回　イントロダクション 第2回　限界革命 第3回　ジェボンズの経済学(経済学の科学性) 第4回　メンガーの経済学(経済学の方法論) 第5回　ワルラスの経済学(一般均衡理論) 第6回　ヴィクトリア時代 第7回　マーシャルの経済学(1)(需給均衡分析) 第8回　マーシャルの経済学(2)(企業の行動) 第9回　マーシャルの経済学(3)(時間と均衡) 第10回　大恐慌の時代 第11回　ケインズの経済学(1)(雇用の決定) 第12回　ケインズの経済学(2)(利子率の決定) 第13回　ケインズの経済学(3)(貨幣の時性) 第14回　貨幣経済の分析(貨幣的経済理論) 第15回　総括・補遺	授業の進行に沿って、参考書を読むなど、予習することが望ましいです。また、毎回の授業終了後、講義ノートを読み返して、重要な点を確認し、不明な点を調べるなど、復習することが必要です。	経済学関連	–	–	–	使用しません。	○伊藤宣広『現代経済学の誕生上中公新書、2006年 ○東谷　暁『経済学者の栄見と敗北』順日新書、2013年	学期中に授業内容に関するレポート課題を計3回出題します。第1回と第2回は平常評価(60%)、第3回は期末評価(40%)に相当します。授業内容を理解し、課題意識をもって検討し、自分の言葉で報告する努力と能力を評価します。これらのレポート課題の得点の合計を最終評価とします。	講義	通常の講義形式の授業です。講義を聴いて、授業内容を理解しながらノートを取る力を養って下さい。	経済学の歴史のうち、前期の「経済学史」ではその前半(18世紀～19世紀)を学びます。後期の「市場経済論」ではその後半(19世紀～20世紀)を学びます。両者を通じて経済学の成立から現代に至る経済学の歴史の全体を扱います。すので、できるだけ連続して履修して下さい。	月曜日～金曜日12:00～13:00	shinji[at]hirosaki-u.ac.jp	特になし。
115	115	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	市場法制論(Market Legislation)	2	選択必修	2	後期	木曜日9・10時限	長谷河亜希子	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	独占禁止法や、その関連法律が実際の社会の中でどのような役割を果たしているのか、具体的なイメージを抱けるようになること 独占禁止法と関連する社会問題に関心を抱き、ニュースや新聞記事などをより深く理解できるようになること	「独占禁止法(独禁法)」について講義します。独禁法は、公正かつ自由な競争を促進することを目的としており、消費者にとって関係の深い法律です。 　例えば、入札談合(不当な取引制限に該当する行為)によって、税金の無駄遣いが発生しているかもしれません。スーパーでの特売の裏側では、納入業者に対する「優越的地位の濫用行為(独禁法違反行為の一つ)」が行われていて、納入業者は不当に安い価格で商品を納入させられているかもしれません。 「ワープロソフト一太郎」の売り上げが激減した裏には、マイクロソフトが、「ワードとエクセルを抱き合わせてライセンスする」という独禁法違反行為が関係していたのかもしれません。 　このように、消費生活に大きな影響を与える企業行動を独占禁止法という観点から眺めて見たいと思います。	講義15回＋テスト1回（もしくは講義15回のみ。詳しくは成績評価方法を参照のこと） 1. 独禁法の歴史、全体像・執行体制（公正取引委員会） 2. フランチャイズ問題① 3. フランチャイズ問題② 4. フランチャイズ問題③ 5. 大規模小売業者による優越的地位の濫用行為 6. 取引妨害、抱き合わせ 7. 不当廉売、欺瞞的顧客誘引（景品表示法） 8. 取引拒絶と知的財産権など 9. 私的独占➀（北海道新聞事件、JASRAC事件、EUの市場支配的知の濫用規制（google事件）など） 10. 私的独占② 11. 不当な取引制限（カルテル、入札談合、 12. 独禁法の国際的執行 13. カルテル被害者による損害賠償請求など 14. 企業結合規制（合併、国際的企業結合にまつわる問題） 15. 持株会社規制など	毎日、欠かさず新聞を読んで下さい。教科書で、講義において学んだことの復習をして、知識の定着を図るとともに、さらに詳しい知識を得るように心がけてみて下さい。	法学関連	経営学関連	経済学関連	–	宮井雅明ほか編著『経済法への誘い』八千代出版	適宜提示。	講義期間中のレポート(提出必須。配点30%の予定)と期末試験(配点70%の予定)によって総合的に評価する予定です。 ただし、受講者数によっては、他の評価方法(出欠回数＋毎回の発言＋レポート)という方式で成績を評価する可能性もあります。 詳しくは最初の授業で説明します。	講義	講義形式	民法の知識があることが望ましい。商事法分野の授業内容は関連しています。とりわけ、市場法制論は、商法を受講していることを前提に授業を行います。独禁法に関係する問題は、日々、現在進行形で出ています。新聞、ニュース等に常に注意を払うようにしてください。私語、途中退室、スマホの使用は厳禁です。	火曜日7・8時限、研究室は人文棟3階の323研究室	–	なし
116	116	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	自然地理A(Physical Geography A)	2	選択必修	2	前期	水曜日7・8時限	高橋　未央(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力	地表動態の成り立ちを理解し、それらを関連づけて考察できること	世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを理解できるようにします。また、地形図の読図、空中写真判読を学び、実際に野外に出て、フィールドワーク技術を習得できるようにします。	講義(12回分) 1　ガイダンス 2-4　第四紀とは、氷期－間氷期サイクル 5-6　世界の平野－侵食平野・堆積平野 7-9　身近な平野 10-12　地形図の読図、空中写真の判読 フィールドワーク(3回分) 13-15　弘前の地表を読む(開析谷・旧河道・湧水地) ※授業の進行状況などにより，内容を変更することがあります．	講義の中で理解できなかった用語や内容の復習を各自行ってください．	地理学関連	–	–	–	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を，毎回持参してください． 教科書は特に指定しません．授業時，必要に応じて資料を配布します． 地形図判読の際，色鉛筆を使用します．3色程度，用意してください．	授業で適宜紹介します．	レポート(フィールドワークの内容)，試験	講義	講義(12回)，フィールドワーク(3回)	・フィールドワークは，集中授業です．日程は，第1回目の授業で決定しますので，必ず第1回目の授業に出席してください．	–	tamio(at)hirogaku-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください．	なし．
117	117	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	自然地理B(Physical Geography B)	2	選択必修	2	後期	水曜日7・8時限	高橋　未央(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力	自然災害の成因を理解し，自然地理を防災に活用できること	世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して，身近な地域の地形がどのように形成されたか，世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを理解できるようにします．また，地形図の読図，空中写真判読を学び，実際に野外に出て，フィールドワーク技術を習得できるようにします．	講義(12回分) 1　ガイダンス 2-3　高台の形成(海成段丘，河成段丘) 4-7　自然災害のしくみ(地震，火山) 8-10　地理学を活かした防災 11-12　地形図の読図，空中写真の判読 フィールドワーク(3回分) 13-15　鰺ヶ沢町における防災(海成段丘・旧河道) ※授業の進行状況などにより，内容を変更することがあります．	講義の中で理解できなかった用語や内容の復習を各自行ってください．	地理学関連	–	–	–	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を，毎回持参してください． 教科書は特に指定しません．授業時，必要に応じて資料を配布します． 地形図判読の際，色鉛筆を使用します．3色程度，用意してください．	授業で適宜紹介します．	レポート(フィールドワークの内容)，試験	講義	講義(12回)，フィールドワーク(3回)	・前期に開講する自然地理 A を履修した前提で授業が展開されます． ・フィールドワークは，集中授業です．日程は，第1回目の授業で決定しますので，必ず第1回目の授業に出席してください． ・フィールドワークでは鉄道を利用する可能性もあります．電車賃は自己負担となりますので，あらかじめご了承ください．	–	tamio(at)hirogaku-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください．	なし．

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
118	118	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	思想と文化 (Thought and Culture)	2	選択必修	2	前期	水曜日5・6時限	横地　徳廣	–	レベル2～4	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	現象学に関する諸テキストを読み解きながら、私と君、彼女／彼の共生を多種多様な事象のうちに見出すこと 自己他者関係のこうした哲学的考察こそ、〈倫理学〉の根源的な場であること。このことを具体的に理解すること	今年度の授業では、「現象学小史」のもとで西洋倫理学の主要概念が説明されれ。 この概念を手がかりに19世紀末から20世紀までの思潮がたどられます。こうした確認をするなかで受講生のみなさんは、現象学の問いをみずから問うことを通じて、 様ざまな自己他者関係にかんする哲学的思考を身につけることができます。 また、哲学的思考の成長を記録するため、毎回コメント・ペーパーの論述と提出が求められます。	そのつどの講義で学ばれる概念は、たとえば、(1)現象(学)、(2)論理、(3)言語、(4)世界、(5)存在……といったものです。哲学史上のこうした哲学的概念が文学や諸科学との交流のなかで 世紀転換期ヨーロッパの息吹をすいこみ、現象学的独自性を19世紀末から20世紀までの100年にわたって 育んでいく様子を受講生のみなさんは確かめます。複数回の講義にわたって同一概念の検討が行なわれます。 基本的な授業計画は以下です。予定が変更される場合は、事前にお知らせがあります。 1　　ガイダンス 2～4　現象学の展開　　(ブレンターノ、フッサール、ヴィトゲンシュタイン、ハイデガー) 5～7　現象学の意味　　(ハイデガー、フッサール、ヘーゲル、ランベルト) 8　　DVD講義　　現象学小史にかかわる西欧の文化状況 9～11　現象学と言語　　(ブレンターノ、フッサール、ハイデガー、ヴィトゲンシュタイン) 12～14　現象学運動の諸相　(シェーラー、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、アレント) 15　　まとめ 映像資料を用いた講義が行われるさい、連続授業になることがあります。 授業予定の詳細は、プリントが配布されます。	講義内容には連続性があるので、受講生のみなさんは配布資料をもとにして、図書館で学習内容の拡張と深化を試み、次回講義の予習とすることができます。 また、講義中に記したコメント・ペーパーを講義後に加筆および修正することで復習を行なうことが可能です。	思想関連	文学関連	歴史学関連	–	適宜、プリントが配布されます。	木田元ほか編『現象学事典』(弘文堂)、フェルディナント・フェルマン『現象学と表現主義』(講談社学術文庫)、 スティーヴン・トゥルミン、アラン・ジャニク『ヴィトゲンシュタインのウィーン』(平凡社ライブラリー)、 ジョージ・スタイナー『マルティン・ハイデガー』(岩波現代文庫)。※人文414研究室あるいは図書館にあります。	平常評価(コメント点):100%(ただし、全15回中10回以上の出席が必要) 特別評価(優秀なコメントや発言に加点):＋α 受講生のみなさんは講義中に配布プリントの論述欄にコメントを記し、これが出席確認と評価対象となります。 哲学的に深い思索が示されているコメントや発言には加点が行なわれます。 コメントがきちんと記されていないペーパーにはコメント点が与えられません。 コメントや発言への評価は、原則として加点法によります。 上記を合算して最終的な成績評価が行なわれる予定です。介護実習などによる公欠は、 その証明書コピーを提出することで部分点が与えられます。 講義を欠席した学生は、追加レポートの提出によって部分点を獲得できます。	講義	講義を聞いて考えたことをコメント・ペーパーに書く形式です。	特になし	オフィスアワーは在室時です。 西洋倫理思想史研究室(人文414)まで。必ずメールで面会予約をとってください。	メールアドレスは人文414に掲示されます。	人文学部「現代思想A」、教育学部「哲学Ⅰ」の読替科目です。
119	119	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	自治体政策研究 (Research on Local Government Policy)	2	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	○細矢　浩志、飯島　裕胤	地域志向科目	レベル2	CP・DP　2 解決していく力	この講義は、青森県ならびに弘前市の政策担当者の助言を得ながら、学生自身が自治体政策の新しい対案・具体化案を模索する科目です。「公務員は決められたことをしていればよい」のではなく、自治体の政策は、住民の厚生のためにさまざまな工夫が思ねられ、日々変化しています。このような変化しつつある自治体政策の「動態」を理解し、将来的に受講生が自治体や企業の政策の立案・実施を支える人になることを目指しています(解決する力)。	授業では次の3つを行います。 ①青森県や弘前市の行政計画文書から、自治体の政策理念(理想像)を読み解きます。 ②関心をもった自治体政策を調べながら、新たな対案・具体化案を模索します。 ③そもそもの問題を経済学的に考察し、対案・具体化案の効果を検討し、さらに練り上げます。 これら全てのステップは、学生の主体的取組によるもの(つまり教員が教えるものではない)です。 その代わりに受講生は、県・市の政策担当者の方から問題提起のレクチャーや実践的コメントを受けることができます。	全15回のうち、前半7回は弘前市の政策担当者、後半7回は青森県の政策担当者に助言して頂きます(初回1回目はガイダンス))。 今年度の統一テーマは「地域の魅力」。このテーマを、弘前市の担当回は「暮らしやすさ」、青森県の担当回は「活力(とくに若者)」を切り口に考察し、新しい自治体の政策を模索します。 第1回　ガイダンス 第2回　弘前市の政策解説 第3回　弘前市の政策の理解 第4回　弘前市の課題の理解 第5回　弘前市の政策提言1 第6回　弘前市の政策提言2 第7回　弘前市の政策提言3 第8回　青森県の政策解説 第9回　青森県の政策の理解 第10回　青森県の課題の理解 第11回　青森県の政策提言1 第12回　青森県の政策提言2 第13回　青森県の政策提言3 第14回　青森県の政策提言4 第15回　まとめ (原則全ての回について、細矢・飯島両教員が担当します。)	・自治体資料(「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」「弘前市経営計画」等から抜粋)に関する予習が必要です。 ・グループごとに発表がありますので、そのための発表準備が必要です。	経済学関連	政治学関連	法学関連	–	なし(資料を印刷して配布します)	「青森県基本計画」「弘前市経営計画」など　(図書館2階で閲覧可能)	グループ発表およびその作成過程の参加姿勢(80%を目安とする)とレポート(20%を目安)を総合的に評価します。	講義	主にグループ学習・研究によって進めます。	・地域の課題と自治体の政策を研究することは、公務員志望者はもちろん、民間企業志望者にも きわめて有用です。 ・ただし、入念な家庭学習を前提にして成り立つ科目です。毎回1週間につき1時限の家庭学習が可能である人のみ受講してください。	(担当教員それぞれのオフィスアワー時間とします)	iijima(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	とくにありません。
120	120	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	私法学 (Private Law)	1	選択必修	2	後期	月曜日7・8時限	吉村　顕真	–	レベル2	CP・DP　3 学び続ける力	私法全体にとって必要となる民法総則の全体構造を理解すること 物権法(担保物権法を除く)に関する大枠を理解すること 基本的概念・制度・重要な論点を理解すること	民法は、一般的に、講学上、民法総則・物権法・債権総論・債権各論・家族法(親族・相続)に分けられます。「私法学」では、「契約」という観点から民法総則と物権法(担保物権法を除く)を概説していきますが、ここで学ぶ主な内容は次の4つです。 第1は契約の有効性です。これは、成立した契約について本当にその効力を法的に発生させてよいのかどうかを内容とするものです。第2は代理による契約の成立です。これは本人に代わって他人である代理人が契約をする場合に、どのようにすれば代理人による契約の効果が本人に有効に帰属するのか、また代理権がないにもかかわらず、代理行為をした場合の効果の帰属を内容としています。第3は時効です。これは時の経過による権利の取得や消滅を内容としています。第4は、契約成立に伴う物権変動、すなわち契約を通じて人の物に対する権利(物権)がどのように発生・変更・消滅するのか、また第三者が関係する場合にその権利関係をどのように扱うのかということを内容としています。 なお、この授業では現行民法ではなく、2020年4月1日に施行させる新しい債権法を対象とします。	第1回　授業の概要、民法の全体構造 第2回　民法典の歴史、契約の成立 第3回　契約の有効性①:契約当事者上の規制 第4回　契約の有効性②:契約当事者上の規制 第5回　契約の有効性③:契約成立過程上の意思表示の規制 第6回　契約の有効性③:契約成立過程上の意思表示の規制 第7回　契約の有効性④:契約内容上の規制、消費者契約法による規制 第8回　代理人による契約の成立①:代理総論、有権代理 第9回　代理人による契約の成立②:無権代理と表見代理 第10回　契約の効力発生時期:条件・期限、期間 第11回　時効による権利の得喪:総論、取得時効・消滅時効 第12回　物権法総論①:契約成立に伴う不動産の物権変動 第13回　物権法総論②:契約成立に伴う動産の物権変動 第14回　各種の物権①:所有権の効力・制限、共同所有、区分所有 第15回　各種の物権②:用益物権、占有権 第16回　期末試験	授業後には必ず復習をしておいてください。当然に復習し、理解しているものとして授業を進めています。 なお、復習をする際には、教科書を読むのはもちろん、授業時に紹介する参考文献も読んで、知識をさらに定着させていってもらいたい。	法学関連	–	–	–	初回の授業までに指示します。	適宜、紹介します。	期末試験(100%)によって評価します。 なお、補充的に平常点・レポート(10～20%)を評価します。	講義	講義形式	法学系の入門科目を全て履修しておくこと。	水曜日10:30～11:30	初回の授業時に知らせます。	特にありません。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
121	121	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	社会学(Sociology)	1	選択必修	2	後期	火曜日7-8時限	羽渕 一代	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	近代化概念の習得と後期近代化した社会の特徴について理解するとともに、社会学的な視点から考えることができるようになること	講義では、はじめに古典的な社会学の理論枠組を学び、のちにその理論枠組から現実の社会をみる視角へとシフトしていきます。社会学の基礎的な考え方を、ジンメル、ウェーバー、デュルケムという3ヨーロッパの初期社会学から学びます。次にパーソンズ、マートンからは構造機能主義的な考え方の枠組みを学んでいきます。次に、批判理論の生成と意義について学び、最後に意味学派の社会理解の手法を学びます。全15回の講義の予定は以下のとおりです。	第1回:社会学の成立　哲学からの離陸 第2回:社会学草創期1　ウェーバーの理解社会学 第3回:社会学草創期2　デュルケムの実証主義と方法論的集団主義 第4回:社会学草創期3　ジンメルの都市理論 第5回:都市とは何か 第6回:近代化と何か 第7回:戦争と社会 第8回:批判理論1　フランクフルト学派によるファシズム支配の生成の要因研究 第9回:批判理論2　フランクフルト学派第二世代による社会理論 第10回:メディアと社会 第11回:情報とは何か 第12回:メディアとは何か 第13回:マスコミュニケーション理論 第14回:現代のメディア環境 第15回:現代のコミュニケーション論、家族社会学・定期課題	教科書をすべて読んでおいてください	社会学関連	社会学関連	社会学関連	–	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編『社会学の力』有斐閣	講義中に指示します。	講義中のレポートで評価します。	講義	講義形式でおこないます。使用メディアは板書となります。ノートテイキングをおこなってください。動画などの視聴を取り入れることもあります。	教科書を必ず購入してください。授業で使用する用語や内容については教科書で予習しておいてもらう必要があります。また成績評価のレポートにおいても使用します。	ichiyo@hirosaki-u.ac.jp	月曜日12時～12時半	なし
122	122	人文社会科学部	社会学入門(Introduction to Sociology)	1	選択必修	2	前期	月曜日7-8時限	○杉山 祐子、日比野 愛子、近藤 史、白石 壮一郎	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	社会の文化的特徴を理解すること 社会の変化を推し進める力の所在を理解すること 社会学の基本的なものの見方・考え方を習得すること	この授業では、全体テーマを「流転するモノ」とします。各授業担当者は、身近なコミュニケーションや社会現象を素材に、私たちが着段は気に留めないモノ(人工物)が社会の中でどのように動き、とどまり、そして之のような意味を持つのかをあぶりだしていきます。現代社会で生じている多様な日常的現象の持つ意味をより深く考えることができるようになります。	1. ガイダンス 2. モノのポジショニング:「片付いている」と「散らかっている」の境目(杉山祐子) 3. モノのポジショニング:あらぬ場所とあるべき場所(杉山祐子) 4. モノのポジショニング:誰のもの、誰からのもの？(杉山祐子) 5. モノの脱文脈化:何のためのモノ(近藤史) 6. モノの脱文脈化:生まれかわるモノ(近藤史) 7. モノの脱文脈化:動きをよめるモノ(近藤史) 8. ふりかえり課題① 9. とどまるモノ:「捨てられない」のの理(日比野愛子) 10. とどまるモノ:溜め込みの行方(日比野愛子) 11. とどまるモノ:みんなで共有できるのは、なぜ？(日比野愛子) 12. モノの配置と居場所:「みんなの居場所」を作ることの難しさ(白石壮一郎) 13. モノの配置と居場所:モノの配置と空間の読み替え(白石壮一郎) 14. モノの配置と居場所:空間の公共性 vs. 居場所の排他性(白石壮一郎) 15. ふりかえり課題② ※各担当者の授業内容は進捗状況等により変更する場合もあります。 ※WS(ワークショップ)を適宜実施します。	毎回の授業内容をよく復習してください。各回担当教員からも個別に復習の指示があります。ふりかえり課題にもつながりますので、しっかりと対応してください。	社会学関連	文化人類学関連	心理学関連	–	教科書は使用しません。授業では各回担当教員が必要に応じて資料等を配布します。	推薦図書等については、各回担当教員から説明があります。	ふりかえり課題①50%、ふりかえり課題②50%。 授業中に実施するワークショップへの参加態度も成績評価に適宜加味します。	講義	オムニバスの講義形式で行ないます。質問等をどんどん出してください。	特になし	オフィスアワー 火曜日14時20分～15時50分、水曜日12時～12時30分(日比野)	–	–
123	123	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	社会言語学(Japanese Socio Linguistics)	1	選択必修	2	後期	木曜日3-4時限	佐藤 和之	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	日本人に身近な外国語との関係から日本語の特徴とことばの不思議を解き明かし、このことで、「ことば(言語)」とは何かについて考えられるようになること	上述「日本人のほぼ全員が日本語を話す」という、このことは日本語の最大特徴です。日本人が当たり前として、不思議に思わずにきた「ことばの不思議」を見つけ、その答をさがす方法について講義します。	ことばを覚えたときのことを思い出せますか？ 　自分の話すことばが日本語である。自分のことばと違うことばを話す人がいる。このことに気付いたのはいつのことでしょう。 　たとえば「ある」と「いる」の違いをこれまでの国語の授業で習ったことがありますか？ことばは自分の考えを誰かに伝えたり、誰かの考えを理解するための道具です。でもそのためには、考えを伝える考者同士が、互いに共通の道具を持つ必要があります。 「犬」の音はケンで、訓はいぬ。それでは「明」の音と訓は？「明朝・明暗・・・」「明朝」は「みょうちょう」か「みんちょう」か。それぞれの明の読みをどう説明したらいいのでしょう。「鼻」の音と訓は？「鼻」は国字とかって習ったはずですから、音がありません。ところで「鼻」も鼻テです。でも音があります。何という音か知っていますか？「胃」の「い」は訓？音？「い」以外の読みはなに？ 　今年度の社会言語学(＝日本語学概説)では、音声学:人間のことばが発声される過程や聞く能力、音声の記録方法を中心にして科学的な資料に基づいて講義します。同一の人間が口の形を変えるだけでどうして無限の情報交換ができるのか。簡単に言えば「胃と「絵」の違いはどうやってその音を作り出し、理解しているのかということです。音響音声学という分野です:言語音の生成、知覚、認知の話をします。 1. 群馬はGummaかGunmaか 2. 言語の生産性 3. 音声と音韻 4. 音声の生成 5. 音声器官と調音器官 6. 音声の知覚と聴覚器官 7. 言語音の認知と脳 8. 音声の物理的特徴 9. 言語音の声道特徴(母音) 10. 母音の声道特徴と音響的特徴 11. 言語音の声道特徴(子音) 12. 子音の声道特徴と音響的特徴 13. 調音と音声の音響特徴 14. 調音と国際音声字母 15. 音響特徴と国際音声字母 16. 試験	本に書いてあることよりも積極に講義します。毎回のノートを大切にとる力が必要です。	言語学関連	口腔科学関連	教育学関連	–	とくに指定しません。必要に応じ資料を配付します。	講義中に適宜紹介します	試験によって評価します。ただし自筆ノートの持ち込みが可能です。丁寧なノートを作ってください。	講義	講義形式です。ただし音声の生成方法なので、発声を求められます。	講義を聞く力、適切な講義内容(情報)を書き取る力、自分の体の構造を通して発声過程と聴取過程を理解しようとする気力がとても大切です。	研究室に在室のときは随時可能です。 火曜日11時50分から13時00分は確実に相談にのることができます。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/	所属が文化創成課程が社会経営課程かにとらわれず、ことばへの興味をもつ学生に向けて開講する講義です。外国人留学生も履修します。能動的な授業への参加姿勢が大切です。
124	124	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	社会心理学(Social Psychology)	1	選択必修	2	後期	月曜日5-6時限	日比野愛子	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	社会心理学(グループ・ダイナミックス)の基本的なものの見方と最先端の動向を習得すること 身近で生じる社会現象に対し、個人に原因を求めない考察ができるようになること 集団実験やファシリテーションの仕組みを知り、応用できるようになること	社会心理学(グループ・ダイナミックス)は、人間の行動や心理を、集団全体の動きに注目して読み解く研究分野です。本講義では、集団をある種の生き物と見なし、集団ならではのユニークな特徴や動きを探ります。たとえば、個人の意思決定と、集団での意思決定は何がどのように異なるのでしょうか。「意思決定」「創造性」「記憶」の3つの領域を取り上げ、それぞれ、個人レベルの心理的活動と、集団レベルの活動の特徴を考察します。授業全般になるべく実験の体験演習を取り入れ、社会問題に自ら働きかけていく術についても身に付けます。	第1回　ガイダンス　集団、この不思議な生き物 第2回　社会心理学の源流　第二次世界大戦の影響 第3回　社会心理学の発展　認知革命と実験法の確立 第4回　さまざまな実験　ラボ、アクション、「自然な実験」まで 第5回　intermission 実験の体験 第6回　意思決定1　個人の意思決定 第7回　意思決定2　集団の意思決定 第8回　意思決定3　超多数の意思決定 第9回　創造性1　天才の作り方 第10回　創造性2　集合的創造は個人より優れるのか 第11回　intermission振り返り 第12回　記憶1　記憶能力の限界とは 第13回　記憶2　集合的記憶の力・ポリティクス 第14回　記憶3　物語と現実 第15回　まとめ	復習を重視します。授業で取りとげた話題・キーワードに関して、関連書や新聞記事を調べることで、理解を定着させてください。	心理学関連	–	–	なし。授業では適宜配布資料や、作業用のシートを活用します。	J. スロウィッキー(2014)『群衆の智慧』角川EPUB選書 M. チクセントミハイ(2016)『クリエイティヴィティ―フロー体験と創造性の心理学』世界思想社 そのほか、授業中にも随時参考文献を紹介します。	振り返り(50%)、レポート(50%)の総合点で評価します。それぞれ、①具体的な集合現象に対して説明ができる論述能力、②発想のオリジナリティ、③文章構成力、④先行研究・関連資料の情報収集力、⑤実験の仕組みの理解、の観点から評価します。	講義	基本的に講義形式をとりますが、実験の体験や映像教材の視聴演習などを通して、理解を深めてもらいます。一部グループ・ワークを行なうこともあります。	特になし	火曜　14時20分―15時30分 ／　水曜12時―12時30分	–	–
125	125	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	社会調査実習I(Social Research Practicum I)	2	選択必修	2	前期	木曜日7～10時限	○古村健太郎、杉山 祐子、曽我 亨、羽渕 一代、増山 篤、日比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、荏田 真一、諏訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	社会調査の意義を理解すること 現地で生のデータを収集し、分析できるようになること	社会調査実習は、青森県の地域研究を大きなテーマとして、複数のグループがそれぞれ異なる課題に取り組み、その中で社会や人間のあり方をとらえる姿勢と技術を学ぶことを目的としています。現地に出向いての質問票調査、インタビュー調査、参与観察による調査と、調査データの整理と分析が中心的な内容です。履修者は、基本的に自分の希望に応じてグループに入り、実習を行うことになります。 ※　第1回はガイダンスをおこない、そこで調査グループ分けもおこないます。必ず出席すること。	社会調査実習Ⅰと Ⅱは、基本的には、新たに社会調査実習を履修する2年生を対象として想定しています。そこでの目的は2つです。第一は、自らが興味と関心を持ってグループ調査の諸々のワークに参与し、自分の役割を見いだしながら調査プロジェクトをすすめることです。第二は、そうしたグループワークの作業のなかで、将来の卒業研究につながる調査スキルや調査データを整理・分析し、探究目的に応じた議論を構成する経験を、「やりながら」身につけることです。	授業時間に教員が次回の実習に必要な準備を指示します。その指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	心理学関連	–	特になし。	調査結果をまとめるにあたって必要な文献などある場合には、実習時間中に適宜、教員から指示します。	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	実習	実習形式です。時間外の調査や作業がある場合があります。	・地域行動コースの学生は必ず履修すること。 ・学生保険加入を履修の条件とします。 ・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回のガイダンスで指示します。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/action/index.html	–

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
126	126	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	社会調査実習Ⅱ(Social Research Practicum Ⅱ)	2	選択必修	2	後期	木曜日7～10時限	○古村健太郎、杉山 祐子、菅生 亨、羽渕一代、増山 篤、白比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、國 訪 浩一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	社会調査の意義を理解すること 現地で生のデータを収集し、分析できるようになること	社会調査実習は、青森県の地域研究を大きなテーマとして、複数のグループがそれぞれ異なる課題に取り組み、その中で社会や人間のあり方をとらえる姿勢と技術を学ぶことを目的としています。現地に出向いての質問票調査、インタビュー調査、参与観察による調査と、調査データの整理と分析が中心的な内容です。履修者は、基本的に自分の希望に応じてグループに入り、実習を行うことになります。	社会調査実習ⅠとⅡは、基本的には、新たに社会調査実習を履修する2年生を対象として想定しています。そこでの目的は2つです。第一は、自らが興味と関心を持ってグループ調査の諸々のワークに参与し、自分の役割を見いだしながら調査プロジェクトをすすめることです。第二は、そうしたグループワークの作業のなかで、将来の卒業研究につながる調査スキルや調査データを整理・分析し、探究目的に応じた議論を構成する経験を、「やりながら」身につけることです。	授業時間に教員が次回の実習に必要な準備を指示します。その指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	心理学関連	–	特になし。	調査結果をまとめるにあたって必要な文献などある場合には、実習時間中に適宜、教員から指示します。	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	実習	実習形式です。時間外の調査や作業がある場合があります。	・地域行動コースの学生は必ず履修すること。 ・社会調査実習Ⅰをすでに履修した者の履修を推奨します。 ・学生保険加入を履修の条件とします。 ・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回のガイダンスで指示します。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/action/index.html	—
127	127	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	社会調査設計演習(Colloquium on Designing Social Research)	2	選択必修	2	前期	月曜日7・8時限	○羽渕一代、白石 壮一郎、近藤 史	地域志向科目	レベル1	CP・DP 3 学び続ける力	社会調査とは、「社会的現実を知ること」という目的に使用される手段です。社会調査、つまりデータを集めて社会について考えることには、いくつかの条件があり、またその方法を実行するためには技術が必要となります。これらの条件や技術の基礎的な知識を得て、調査計画を立案すること	受講者は、班に分かれて、テーマをもって演習をおこなう。調査手法としては、参与観察、インタビュー法、アンケート紙法の技術について、基本的な知識を学修する。 そのうえで、簡単な調査を設計し、その有効性と妥当性について検討をおこないます。	第1回　ガイダンス 第2回～3回　テーマの設定 第4回～7回　観察法 第8回～11回　インタビュー法 第12回～15回　アンケート法 第16回　課題提出と確認	社会調査論の講義を受講しておくこと。	社会学関連	文化人類学関連	–	–	演習中に指示します。	演習中の取り組み状況（30%）調査計画書の成果（20%）と出席（50%）	演習	演習形式	特になし	月曜日12時～12時半	ichiyo@hirosaki-u.ac.jp	—
128	128	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	社会調査論(Introduction to Social Research)	1	必修	2	後期	火曜日5・6時限	○杉山祐子、菅我 亨、増山 篤、佐藤 和之、花田 真一	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力	社会調査について、調査倫理を含めて正しく理解すること 社会調査のさまざまな手法とその特徴を理解すること 社会調査の実例をとおしてその過程を知り、調査計画立案や調査結果の深い理解につながる基礎をつくること	現代日本にはさまざまな「調査」があふれています。こうした調査結果は政策や企画の立案、商品の開発などの元になります。でも、実際にどのように調査がされ、その結果がどう使われているか、知っていますか？調査結果を正しく読み解いたり、信頼できる調査をしたりするためにはどんなことが必要でしょうか？これらを学ぶことは、社会にかかわる研究の基礎的方法論として、また現代社会に生きるためのリテラシーとして重要です。<br　社会調査は、私たちの社会で起こっているさまざまな現象やしくみを明らかにするために、実際に人と出会い、データを収集・分析し、それをまとめて記述していく過程全体をさします。<br　この授業では、社会調査の目的と方法、その有効性と限界、調査の考え方や調査倫理など、社会調査の基礎について学び、データを通して社会事象を見通す力の土台を養います。	(1) 社会調査について知る 1. 社会調査とは何か:その歴史と現在 2. 社会調査 の目的と手法、倫理と理論の特徴 3. 調査に伴う諸問題と調査倫理 4 まとめ (2)調査の手法を理解する:量的調査を中心に 5. データを用いた議論の基礎①:割合と絶対値を用いた議論の違い 6. データを用いた議論の基礎②:平均と標準偏差～「普通」と「散らばり」に注目 7. データを用いた議論の基礎③:確率を用いた検定 8. GIS(地理情報システム)①:GISに関する基礎知識 9. GIS(地理情報システム)②GISによる地域課題解決への取り組みの事例 10. データを処理する(1):社会調査法での言語調査法:被調査者の選定 11. データを処理する(2)住民意識を調査して分析する (3)現場にせる・質的調査に中心に 12. 観察法と参与観察法の実例 13. ライフヒストリー分析の実例 14. アクションリサーチ の実例 15.まとめ ＊進捗度や受講者の理解度をみながら内容や順番を変更する場合があります。	講義中に指定した文献、資料等の読み込みや課題にかかわる情報収集等があります。具体的には講義中に示します。参考文献としてあげた書籍には事前に目を通し予習をしてください。復習では、講義で紹介された文献や資料も手に入れ、授業ノートと突き合わせて理解を深めましょう。疑問が生じたら、どんどん質問をしてください。	社会学関連	文化人類学関連	学際・新領域	–	教科書はとくに指定しません。必要に応じて講義中に必要な文献・資料を示します。	森岡清志 『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社2011 年、盛山和夫 『社会調査法入門』有斐閣2004年、島崎哲彦(編)『社会調査の実際―統計調査の方法とデータの分析』学文社 2000年、谷富夫・芦田徹郎編著『よくわかる質的社会調査（技法編、プロセス編）』ミネルヴァ書房など、大学図書館に所蔵。予習・復習に利用してください。	複数回の課題レポート、またはミニテストによって評価します。 レポートかミニテストかは、担当教員によって違うので、注意してください。	講義	講義形式を基本とします。一部で作業を取りいれることもあります。	この授業は、社会調査士資格の申請要件の1つです。 社会学入門、人類学、社会学、社会心理学、社会言語学など関連科目とあわせて受講すると理解が深まります。マーケティングや会面調査などに社会調査に関連する分野に興味をもつ学生の受講も歓迎します	各教員の担当回で知らせます。開講時期以外は杉山（水曜12:00-12:30）まで、出張や急な会議の場合は応じられないことがあります。	yukos[at]hirosaki-u.ac.jp	とくになし
129	129	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	社会的企業論(Social Enterprises)	3	選択必修	2	前期	水曜日3・4時限	大倉 邦夫	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	企業を社会との相互作用関係から捉える企業社会論について学んでいきます。 企業が社会の中でどのような責任が求められ、またいかにしてその責任を果たしていくことができるのか、という点について実践的な提案を行うための力を身につけること	この授業では、企業を社会との相互作用関係から捉える企業社会論について学んでいきます。企業は社会と切り離された存在ではなく、常に社会と相互に影響を与えあう関係性にあります。企業社会論では、そうした企業と社会との相互作用関係に注目し、企業と社会のインターフェイスにかかわる様々な問題について議論します。例えば、社会的に責任のある企業経営を遂行するためにはどうしたら良いのか（CSR経営）、企業を取り巻く様々なステイクホルダー（株主、従業員、消費者、行政、地域社会等）と良好な関係を築くにはどのような方策が必要になるのか、というテーマを扱います。さらに、環境問題や少子高齢化の問題、地域の課題に対して、企業はビジネスの手法を用いてどのように取り組むことができるのか（ビジネスの手法を用いて社会的課題に取り組むことを、ソーシャル・ビジネスと呼びます）、というテーマも取り上げます。また、特にCSR経営をいかに進めていくのか、その課題を分析する力を養うことを目的としています。	第1回イントロダクション(授業に関する全体的な説明) 第2回企業と社会の関係性 第3回CSR経営①(CSR経営の概念) 第4回CSR経営②(CSR経営が求められてきた背景) 第5回CSR経営③(CSR経営の実践) 第6回コーズ・リレイテッド・マーケティングの展開 第7回ワークショップ①(日本のCSR経営の課題について学生同士で議論)、中間レポートの提出 第8回ソーシャル・ビジネスの概念 第9回ソーシャル・ビジネスのマネジメント 第10回ソーシャル・イノベーションの創出 第11回ソーシャル・イノベーションの普及 第12回ソーシャル・ビジネスと協働戦略①(協働の形成) 第13回ソーシャル・ビジネスと協働戦略②(協働の実行) 第14回ワークショップ②(日本のソーシャル・ビジネスの課題について学生同士で議論)、期末レポートの提出 第15回講義全体のまとめ	【予習】授業の最後に次回の内容について説明しますので、関連する資料を確認するようにしてください。 【復習】授業で配布された資料を整理し、授業の内容について理解を深めるようにしてください。	経営学関連	–	–	–	特になし	谷本寛治(2006)『CSR－企業と社会を考える－』NTT出版	平常評価（ワークショップへの参加）: 20% 中間評価(中間レポート): 40% 期末評価(期末レポート): 40% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	講義	パワーポイントを使用した講義形式です。また、講義の中で小グループに分けて、ワークショップを行う予定です。	事例を交えながら講義を進めますので、講義で取り上げる事例については事前に調べておいてください。 この点については適宜講義で指示します。	金曜日3・4時限	k_ohkura[at]hirosaki-u.ac.jp ※[at]は@に置き換えてください	特になし
130	130	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	社会保障制度論(Social Insurance System)	2	選択必修	2	後期	水曜日3・4時限	成田 史子	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	日本の社会保障制度を法的観点から体系的に理解すること	社会保障制度は、われわれの生活にとってもっとも身近な法分野の一つであり、昨今も、出産・育児・家庭生活と労働環境、貧困問題、医療や介護、年金の問題など社会保障をめぐる諸問題に関して、新聞等に取り上げられない日はありません 本講義では、われわれに身近な社会保障の問題を法的な視点から把握し、制度の全体像を理解・修得します。 日本の社会保障制度は複雑であり、理解するのが容易ではないため、全体像を理解できるように、学生のみなさんが大学を卒業したのち高齢者となるまでのライフサイクルを追いながら、その時々で出会うであろう社会保障制度を検討します。 また、最近の社会保障関連のニュースや青森県の状況等も取り上げます。	第1回　イントロダクション・社会保障法の概念・体系 第2回　社会保険制度の概要 第3回　労働保険制度の概要 第4回　結婚・出産に関わる社会保障制度 第5回　育児をめぐる社会保障制度 第6回　医療をめぐる社会保障制度－現行制度の理解 第7回　医療をめぐる社会保障制度－学説・判例の検討 第8回　障害者福祉 第9回　失業をめぐる社会保障制度 第10回　公的扶助制度－現行制度の理解 第11回　公的扶助制度－学説・判例の検討 第12回　年金をめぐる社会保障制度－現行制度の理解 第13回　年金をめぐる社会保障制度－学説・判例の検討 第14回　介護をめぐる社会保障制度 第15回　期末テスト(60分)とふりかえり （※講義の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合には、その都度説明します。）	各回のテーマについて、指定の教材、判例に目を通しておいてください。	法学関連	–	–	–	岩村正彦・菊池馨実・嵩さやか編著『目で見る社会保障法教材 第5版』(有斐閣、2013) 西村健一郎・岩村正彦編『社会保障判例百選(第5版)』(有斐閣、2016年) 最新版六法（※出版社は問いません）	特になし。	中間評価（リアクションペーパー）20% 期末評価（期末試験）: 80% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	講義	講義形式で進め、毎回、レジュメを配布します。	社会保障に関連する新聞記事やニュースをチェックするようにしてください。 なお、遅刻・途中退室・私語・携帯使用、無断の撮影・録音等は他の受講者の迷惑となるため厳禁です。	火曜日1・2時限	http://huee2.jm.hirosaki-u.ac.jp/html/10000/0551_ja.html	特になし。
131	131	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	住民参画論A(Approaches to Civic Involvement A)	2	選択必修	2	前期	水曜日5・6時限	古村 健太郎	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	社会に関わる様々な事象について心理学の視点から分析することができること 様々な人々を対象にした心理教育に関する知識をみにつけること	心理学は、社会における人の心の動きを研究対象としてきたにとどまらず、その成果を応用した教育プログラムや予防介入プログラムの開発も行われてきました。授業では、それらの教育プログラムや予防介入プログラムを学ぶとともに、大学生としてどのようなプログラムを実践可能であるかについて考えていきます。	第1回：オリエンテーション 第2回：創造性(1)：ジェネプロアモデル 第3回：創造性(2)：作文指導 第4回：やりすずれと自己制御 第5回：人づきあいのスキルを考える 第6回：人づきあいのスキルを実践する 第7回：社会的スキル・トレーニング 第8回：感情に言葉を：怒り、悲しみ 第9回：感情に言葉を：幼児教育 第10回：リスク認知：危険な事態は対岸の火事か？ 第11回：親密な関係への介入は可能か？(1)：関係不安 第12回：親密な関係への介入は可能か？(2)：暴力 第13回：人に教える 第14回：課題作成のための準備：心理学の研究知見を探る 第15回：心理学の応用可能性 ＊授業の進捗や受講生の意見・感想に応じて、授業内容を変更する可能性があります。	授業を受けて興味をもった内容や疑問はそのままにせず、参考文献などを調べて知識を深めてください。	心理学関連	教育学関連	–	–	教科書は指定しない。毎時プリントを配布する。	授業内容に関連する参考文献を適宜紹介する。	期末課題50%、小テスト30%、感想カード20%の総合点で評価します。	講義	講義形式を中心に授業を行いますが、必要に応じてグループワークも行います。また、授業の冒頭では、受講生の疑問や意見に対する回答をしますので、感想カードには積極的に意見・疑問・感想を書いてください。	特になし	火曜日5・6時限、他の時間帯も問い合わせがあれば、可能な限り対応します	—	—

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
132	132	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	住民参画論B (Approaches to Civic Involvement B)	2	選択必修	2	後期	水曜日5-6時限	近藤 史	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	住民参画の歴史や、住民参画が求められる社会的背景を理解すること 住民参画や社会参画の実践事例に触れて、状況に応じた参画のアプローチを考えること	高齢化や人口減少、環境・エネルギー問題、過疎化や地域産業の低迷など、現代社会が直面する課題は多岐にわたります。こうした課題は「誰が」解決するのでしょうか？住民参画や社会参画の事例を知ることを通して、多様な背景をもつ人々がそれぞれの思いやニーズ、アイディアなどを共有し、課題の解決にむけて行動・協働するためのヒントを学びます。	ガイダンス(1回) 環境問題から読み解く住民参画の歴史(5回程度) ・住民参画の歴史や、住民参画が求められる社会的背景について、主に環境社会学の視点から学びます。 まちづくり／地域づくりの事例に学ぶ、多様な担い手と参画手法(5回程度) ・さまざまな課題解決の主体（担い手）やその参画手法にはどのようなものがあるか学びます。 ・担い手として注目される NPOの仕組みや、日本におけるNPO、NPOをつくるにはどうしたらよいのか等を学びます。 私たちの暮らしと住民参画(4回程度) ・弘前市内で実際におこなわれている住民参画や社会参画の取り組みについて体験学習します。 ・これを通して、現代社会における参画の意義、学生や市民ひとりひとり、NPO、企業、大学などに何ができるかを考えます。	[予習]新聞やニュースに よく目を通して、青森県の現状や課題について自主的に学ぶ [復習]講義で得た知見が青森県の課題解決とどのように関連するか考える	社会学関連	学際・新領域	環境保全対策関連	–	必要に応じて授業中に資料を配布します	必要に応じて授業中に紹介します	リフレクションペーパーによる平常点（40%）と、学期中に3回程度の課題提出（60%）の総合点で評価します。	講義	講義を中心に、適宜、映像教材や体験学習を交えながら進めます。	特になし	火曜12:00-12:30。出張や会議で対応できない場合もあります。	–	–
133	133	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	住民生活論A (Approaches to the Lives of Local Residents /Inhabitants A)	2	選択必修	2	前期	月曜日5-6時限	曾我 亨	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	日々の生活において生起する事象のなかから、解くべき人類学的課題を発見する力をつけること 発見した課題を、人類学的な調査方法をもちいて解決する力をつけること	もともと人類学は、遠くの奥地におもむき、人々の生活や文化を記述するところからはじまりました。けれども、わざわざ奥地に行かなくても、私たちの周りには実は不思議なことが溢れています。それが不思議に見えないのは、私たちが「常識」にどっぷり浸っているからなのです。この授業では、「常識」を打ち破るための人類学の方法を学び、考えるべき不思議な課題を発見する力を養います。同時に、その課題を人類学的調査法によって理解し解決するとき、どのような知見が得られるのかを学びます。	授業は教科書に沿って進めます。教科書は、京都大学の学生が、何でも見てやろうとフィールドワークにでかけ、問題を発見し、解いていくプロセスが紹介されています。調査の事例を知ることで、問題の発見の仕方、解決の仕方を学びます。 １ イントロダクション：授業の進め方、レジュメの書き方 テキスト第1部[菅原和孝] ２ 序 章 他者と出会う ３ 第1章 仕事の世界 ４ 第2章 社会との距離 ５ 第3章 コミュニケーションの内と外 ― 疎通・伝播・伝承 ６ 第4章 信じることの手ざわり ７ 第5章 「外国人/異文化」との遭遇 テキスト第2部 ８ 第1章（振売り）都市に息づく野菜行商[田村うらら] ９ 第2章 棚田を（守り）する人びと ― 伝統的棚田の保全と開発[山田有佳] 10 第3章 生き物を屠って肉を食べる ― 私たちの肉食を再考する試み[比嘉夏子] 11 第4章 摂食障害に立ち向かう女たち[高田彩子] 12 第5章 競漕の行動学[佐藤せり佳] 13 第6章 エチオピアのビデオ小屋[望月幸治] 14 終 章 生きかたとしてのフィールドワーク[菅原和孝] 15 まとめと振り返り	事前に教科書を読み、内容を良く理解し、レジュメを作成してきて下さい。レジュメの作成方法は、授業の1回目に説明します	文化人類学関連	社会学関連	学際・新領域	–	菅原和孝『フィールドワークへの挑戦―“実践”人類学入門』	なし	レジュメの質、授業での発言・参加をもとに評価(50%) レポート(50%)	講義	講義形式とグループ学習（学生自身が本の内容を説明し、それにたいして互いに質疑応答します）	住民の生活について学ぶと共に、社会調査の仕方を詳しく学ぶことが出来ます。地域行動コースの学生だけでなく、民俗学や経営学の学生も歓迎します。	月曜12時から12時40分まで	sogap[at]hirosaki-u.ac.jp [at]の部分を@に変換してください。	特になし
134	134	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	住民生活論B (Approaches to the Lives of Local Residents /Inhabitants B)	2	選択必修	2	後期	水曜日3-4時限	杉山 祐子	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	人が生きる場として地域・社会を捉える視点に触れること 住民・生活に関わる人類学や地域研究の基礎理論を知ること 地域で「よく生きる」ことについて考えること	「住民」とーロに言っても、年齢や性別、職業、来歴などが異なる多様な人々が地域の生活を構成しています。人やモノ、情報の移動がさかんになり、その多様性はさらにひろがっています。 そうした地域や社会の現在と今後の姿を考えようとするとき、地域を、多様な人々が「生きる場」として捉えなおす視点が欠かせません。外側からの視点でひとくくりに「住民」と捉えるのではなく、多様な人々による内側からの視点を合わせて多層的にとらえ、人びとと地域の生活全体を見通す必要があるでしょう。 この講義では、そうした視座に関わる人類学や社会学の基本的な理論や概念について事例を通して解説し、理解を促します。日本、アフリカ、アジアなどの地域の事例をとおして、多様な人々が生きる場としての地域と、そこでの生活について考えます。	第1回「住民」と「生活」への視点：生きる場としての地域1：イントロダクション 第2回「住民」と「生活」への視点：生きる場としての地域2：「住民」と「生活」を語る文脈 第3回 生活を見る目1：方法としてのフィールドワーク 第4回 生活を見る目2：フィールドワークと在来知 第5回 生活を見る目3：生業と在来知 第6回 生活を見る目4：在来知と実践共同体 第7回 生活世界をつくる1：社会構造と共同性 第8回 生活世界をつくる2：現代のコモンズを考える 第9回 生活世界をつくる 3：流動する「われわれ」意識としくみの維持 第10回 生活世界をつくる4: 活動の共同・相互扶助と地域の生活 第11回 住民と生活の変化1:共同とコミュニケーション 第12回 住民と生活の変化2:隣市と現金一政策と経済状況の変化を背景に 第13回 住民と生活の変化3:日常的実践による現金の「飼い慣らし」ー 第14回 住民と生活の変化4: 都市の祭りと「地域資源」「共にあること」のあらわれ 第15回 まとめとふりかえり ＊進捗度や受講者の理解度をみながら内容や順番を変更する場合があります。	この授業では、復習を重視します。講義レジュメノートを見直して、理解を深めましょう。講義で紹介した文献や資料を手に入れて目を通し、次の回までに質問やコメントを出してください。予習としては、下の参考文献を読むほか、講義中に示したトピックにかかわる情報収集等を課すこともあります。	文化人類学関連	社会学関連	学際・新領域	–	教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。	人類学関連では、奥野克巳・花渕馨也共編『文化人類学のレッスン』学陽書房、ジョイ・ヘンドリー（桑山敬己訳）『社会人類学入門』法政大学出版局、綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学第2版』ミネルヴァ書房など。このほか必要に応じて講義中に紹介します。いずれも大学図書館所蔵。	リフレクションペーパーと課題提出による平常点(40%)、確認テスト(60%)によって評価します。課題はミニレポート形式にすることもあります。	講義	受講人数によっては、グループワークを組み込むこともあります。	義で紹介した文献、資料にはかならず目をとおしてください。上記の通り、この授業では、復習を重視します。 社会学、社会心理学、社会言語学、地理情報科学のほか、日本民俗学なども合わせて受講すると、理解が深まります。	水曜12:00-12:30 出張や急な会議で対応できない場合もあります。	yukos[at]hirosaki-u.ac.jp	とくになし
135	135	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	住民ネットワーク論A (Local Resident Networks A)	2	選択必修	2	前期	火曜日5-6時限	白石 壮一郎	地域志向科目	レベル1～2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	社会学的な視点・視座をもって現実の社会関係や社会現象を解釈する考え方を身につけること 日常で経験する社会関係（人間関係）、接する社会現象、属している社会や地域について分析・解釈していく枠組みを学ぶこと 社会・社会関係・社会現象についての理解力と説明力を上げること	●　講義の前半では、小集団をモデルにした社会理解と近代性について、後半ではやや具体的に都市・農村など地域社会についての理解を深めます。また、これらの理解に必要な社会学・人類学の知識を随時学んでいきます。 ●　みなさんはこれまで生きてきて、理屈のうえでも歴史のうえでも、〈社会〉とはなにか、いまある地域社会がどのようにして成り立っているのか、考える機会は少なかったかもしれません。「地域社会の抱える課題」はいま頻繁に目にし、耳にするフレーズになっているようですが、それを把握するのにも、そもそも地域社会が〈社会〉として成り立つしくみやこれまでに歩んできた歴史をおおまかに理解しておく必要があるのです。	01. ガイダンスとイントロダクション 02. 〈社会〉の成立する要件 03. 秩序問題 04. 機能主義による社会理解 05. ブリッジ（1）どこからどこへ〈社会〉を感じるか？ 06. 近代と近代性 07. 都市化と移動 08. 伝統家族／近代家族 09. 地方都市の郊外化 10. 核家族化とその先 11. ブリッジ（2）近代化によって生活世界はどう変わったのか？ 12. 都市・農村の社会関係とその変化 13. 制度の変化と住民意識の変化 14. 地域おこし・観光・人口流動 15. 全体ふりかえり	予習は必要ありませんが、復習はしておかないと次回内容についていけない場合があります。復習のしかたなど、講義中にこちらから示唆します。	社会学関連	文化人類学関連	–	–	とくになし。毎回B4紙1枚程度の資料は配布しますが、講義中にはノートを集中して取ってください。	適宜紹介します。	講義時間での小レポート(2～3回ほど)、および期末試験（記述式）を実施します。	講義	講義形式です。	予備知識はほとんどない人を想定して講義するので、とくに心配はありません。上にかく集中して受講し、ノートを取ってください。	水曜日の昼休みから14時までの時間帯	学習用webサイト http://hirosakihumanics.blogspot.jp	–
136	136	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	住民ネットワーク論B(Local Resident Networks B)	2	選択必修	2	後期	火曜日5-6時限	平井 太郎	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	青森県をはじめ現代の地域社会の持続可能性を見通す力を習得すること 青森県をはじめ現代の地域社会の閉塞感を解決する力を習得すること 青森県をはじめ現代の地域社会の可能性について学び続ける力を習得すること	地域社会にアプローチするとはどういうことでしょう？ まず、はじめに地域社会がどうなっているのかを確かめるフェーズⅠがあるでしょう。 ふつうそうした把握と分析のためには、地域社会の組み立て――自治体や地縁組織、家族や企業、生活と生業などのかたち、そしてそれらを捉えるためのさまざまな文書や統計、データの取り方などをみなさんと共有することから始まります。 ただこの授業では、それ以上に「見え隠れするものを見る想像力＝見通す力」を共有したいです。その際のキーワードは、リアリティやテクノロジー、セレンディピティなどです。 もう1つ「アプローチ」ということで大事なのが、自分の考えや思いを地域社会の人たちと共有するフェーズⅡです。 プレゼンテーションやポストイットトークだけでなくカードRPGなど．．． みなさん自身がこれらのゲームのプレイヤーになってみることで、地域社会の閉塞感を解決する力、さらに地域社会から可能性を学び続ける力も身に着きます。	アプローチのどちらに軸足を置くかは受講者と相談して判断します。 以下はフェーズⅠに軸足を置いた例です。 1.イントロダクション 2.空洞化の3段階論 3.地域再生へのアプローチ 4.地域をめぐる4つの外部 5.根をもつことと翼をもつこと 6.集落調査を振り返る(1)人口動態をどう捉えるか 7.集落調査を振り返る(2)小さな経済 8.集落調査を振り返る(3)芸能の意味 9.地域経営WSを振り返る(1)つながることの意義 10.地域経営WSを振り返る(2)組織化の意義 11.地域を盛り起こす(1)地元学 12.地域を盛り起こす(2)ロードマッピング 13.地域を盛り起こす(3)クロスロード 14.まとめ	[予習]教科書で次回どりあげる箇所を読み発見や疑問点などを明確にする。 [復習]講義内容を振り返り発見や疑問点などを明確にする。	社会学関連	政治学関連	社会経済農学関連	–	平井太郎(2017)『ふだん着の地域づくりワークショップ』筑波書房	平井太郎(2019)『ポスト地方創生』弘前大学出版会 小田切徳美ほか(2019)『農山村再生のプロセスアプローチ』筑波書房	講義への参加100%	講義	講義と討議	事前に教科書を準備しておくこと。	of-hirai@nifty.com に問い合わせること。	of-hirai@nifty.com	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
137	137	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	住民ファシリテーション演習A(Local Facilitation Colloquium A)	3	選択必修	2	前期	金曜日3・4時限	日比野 愛子	地域志向科目	レベル3	CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	多変量解析法を用いてデータを処理し、大量データから知見を引き出す能力を養うこと 地域の現場に対して、データを分かりやすくかつ説得的に提示する能力を養うこと	地域コミュニティにおける住民との対話においては、データの提示やデータを活用した議論が求められる場面もあります。本演習では、地域課題にかかわるオープンデータを解析し、一般向けに表現するスキルを向上することをねらいとします。「青森のイメージ」を題材に、インフォグラフィックスや、統計処理ソフトRによる多変量解析を用いて実際にデータを解析していきます。	第1回　ガイダンス 第2回　単純集計・クロス集計の確認 第3回　情報を直感的に伝えるインフォグラフィックス 第4回　街中のインフォグラフィックスを収集する 第5回　インフォグラフィックスの発表 第6回　Rの使い方の確認 第7回　Rによる多変量解析　テキストマイニングの準備 第8回　Rによる多変量解析　テキストマイニングの基礎 第9回　Rによる多変量解析　テキストマイニングの応用 第10回　青森の地域課題に関する問題設定 第11回　青森イメージを探る(各自のテーマにそって演習)① 第12回　青森イメージを探る(各自のテーマにそって演習)② 第13回　青森イメージを探る(各自のテーマにそって演習)③ 第14回　発表 第15回　まとめ ※受講生の理解度や作業の進捗状況にあわせて、授業の内容・順番を変更することがあります。	特にRを用いた多変量解析のセクション(第6回―第9回)においては、予習・復習として各自でRプログラミングの練習や、諸解析手法を自習する必要があります。そのほか、発表に向けた準備学習も必要です。	心理学関連	学際・新領域	情報科学関連	–	なし	授業中に指示します。	演習時での発表80%、通常課題20%により評価します。 発表については、内容の充実度、分かりやすさ、参加者との質疑応答の観点から評価します。	演習	演習の性質上、課題への積極的な参加と発言を求めます。遅刻は厳禁とします。基本的に個人での演習を進めますが、受講生同士の情報共有も積極的に進めてください。	各自のノートPCを使った演習を行います。統計学入門、統計データ分析B、量的社会調査論演習を受講していることが望ましいです(単位の取得については要求しません)。	火曜　14時20分―15時50分 ／　水曜　12時―12時30分	–	–
138	138	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	住民ファシリテーション演習B(Local Facilitation Colloquium B)	3	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	近藤　史	地域志向科目	レベル3	CP・DP 2解決していく力	地域づくりの現場で住民参加の手法として用いられるワークショップについて理解を深めること ワークショップの場で議論の活性化や相互理解、合意形成を支援するファシリテーションの基礎的な技法を身につけること	地域の活性化や課題解決には、多様な背景をもつ住民がそれぞれの思いやニーズ、アイディアなどを共有し、それらを踏まえて効果的な活動／対策を検討し、実施することが重要です。この演習では、そうした一連のプロセスで頻繁に用いられる対話手法(ワークショップ)と、創造的な対話を生みだすためのファシリテーションの技法について、実践的に学びます。	第1回　ガイダンス 第2回～第3回　アイスブレイクとそのバリエーション 第4回～第6回　ワークショップの基本 第7回～第9回　参加型学習教材を使って学ぶファシリテーションの基礎 第10回～第14回　POPづくりで学ぶグループワークとファシリテーションの実践 第15回　まとめと振り返り	[予習]自身の日常生活のなかでグループワークやファシリテーションの企画・実施に主体的に参加する [復習]講義で得た知見を自身の日常生活のなかで人や組織の活性化に活用する	社会学関連	学際・新領域	文化人類学関連	–	必要に応じて授業中に資料を配布します	必要に応じて授業中に指示します	平常評価(グループワークへの参加状況や平常の発表など　80%)と期末評価(POP成果物20%)の総合評価	演習	講義とグループワークをくみあわせて進めます。	特になし	火曜　12:00-12:30 出張や会議で対応できない場合もあります。	–	–
139	139	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	消費経済論(Economics of Consumption)	2	選択必修	2	後期	木曜日9・10時限	池田　憲隆	–	レベル2	CP・DP 1見通す力	消費経済に関する基本文献や資料の所在を確認すること 消費経済を歴史的観点から理解すること 消費経済を比較経済的視点から理解すること 消費経済の現状に関して、資料に基づいて理解すること	この講義では、人間の経済活動として根本的な消費について、理論的考察を基礎にしながら、その特徴を歴史的視角と構造的視角の両面から接近します。	1. イントロダクション 2.「消費」を経済学はいかに捉えてきたのか 3. 生産と消費の歴史的変遷 4. 市場経済の進展と資本主義の形成 5. 織維の大量生産と大量消費 6. 交通と通信の発展と消費 7. 耐久消費財の大量生産開始と消費の変容 8. 大衆消費社会の到来と近代的小売業の形成(1) 9. 大衆消費社会の到来と近代的小売業の形成(2) 10. 日本における百貨店（デパート）の誕生と展開 11. 日本におけるスーパーマーケットの成立と展開 12. コンビニエンス・ストアーの誕生と急成長 13. 日本における大型専門量販店の類型と発展 14. 通信販売と物流の新展開 15. 補遺とまとめ 16. 期末試験 なお、授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	シラバスに掲載された参考文献のうち、授業内容に関係する箇所を予習してください。講義後には、配布されたレジュメと資料について復習し、提示された参考文献を図書館などを利用して学習して下さい。	経済学関連	経営学関連	歴史学関連	–	教科書は使用しません。毎回、レジュメ(講義要綱)と参考資料を配布します。	柄谷行人『世界史の構造』(岩波現代文庫、2015) 佐藤彰『流通産業革命』(有斐閣、1971) 石井寛治編『近代日本流通史』(東京堂出版、2005年) 他は、各回の講義レジュメに掲載します。	基本的には期末試験によりますが、毎回提出してもらう質問シートの内容も加味して総合的に評価します。	講義	毎回配布するレジュメ(講義要旨)と参考資料に基づいて、要点を解説するという講義形式です。	経済学および経営学の基礎的知識をある程度前提にしています。	木曜日13:00～14:00	nikeda(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
140	140	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	商法(Corporate Law)	2	選択必修	2	前期	木曜日9・10時限	長谷河 亜希子	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	会社法や、その関連法律が実際の社会の中でどのような役割を果たしているのか、具体的なイメージを抱けるようになること 会社と関連する社会問題に関心を抱き、ニュースや新聞記事などをより深く理解できるようになること	「会社法」について講義します。現代社会について考える際に、会社の存在を抜きにすることはできません。会社は、我々が必要とする商品等を生み出すだけではなく、労働の場であるとともに社会的な存在としても認知されてきました。 　また、大企業の不祥事は一企業の問題にとどまらず、社会全体に大きな影響を与えます。従って、会社の機関設計とその行為の規制（違法行為をどのように防ぎ、もしくは違法行為者にどのようなサンクションを与えるか）のあり方が重要です。 　講義では、会社の中でも、皆さんになじみが深いと思われる株式会社を重点的に取り上げます。	毎日、欠かさず新聞を読む。教科書で、講義において学んだことの復習をして、知識の定着を図るとともに、さらに詳しい知識を得る。	法学関連	経営学関連	–	–	適宜指定	適宜指定	講義期間中のレポート(提出必須、配点30%の予定)と期末試験(配点70%の予定)によって総合的に評価する予定です。ただし、受講者数が少ない場合には、他の評価方法(出欠回数＋毎回の発言)を取り入れる可能性もあります。詳しくは最初の授業で説明します。	講義	講義形式	民法の知識があることが望ましい。商事法分野の授業内容は関連しています。とりわけ、後期の市場法制論は、商法を受講していることを前提に授業を行います。会社法に関係する問題は、日々、現在進行形で生じています。新聞、ニュース等に常に注意を払うようにしてください。私語、途中退室、スマホの使用は厳禁です。	火曜日7・8時限、研究室は人文棟3階の323研究室	–	–
141	141	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	書道I(Calligraphy I)	2	選択必修	2	前期	集中	平田　光章（非常勤講師）	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	書写を中心とする書道の基本について、実技と知識の両面から理解を深めることができること	書写の背景となる書道の古典学習を効果的に活用することで、書写の学習で指導内容となるポイントの理解や表現を深め、また豊かにする。	第1回：毛筆学習（1）　キーワード：用具の扱い、筆の持ち方、楷書の基本 第2回：毛筆学習（2）　キーワード：正しく整った文字、楷書古典『九成宮醴泉銘』 第3回：毛筆学習（3）　キーワード：正しく整った文字、楷書古典『孔子廟堂碑』 第4回：毛筆学習（4）　キーワード：小筆、配列、正しく整った文字、楷書古典『蘇慈墓誌銘』 第5回：毛筆学習（5）　キーワード：行書の基本 第6回：毛筆学習（6）　キーワード：正しく整った文字、行書古典『集字聖教序』 第7回：硬筆学習（1）　キーワード：用具の扱い、鉛筆の持ち方、字形の整え方 第8回：毛筆学習（7）　キーワード：仮名の基本と成り立ち、いろは単体 第9回：毛筆学習（8）　キーワード：正しく整った文字、仮名古典『亀甲切』 第10回：毛筆学習（9）　キーワード：正しく整った文字、仮名古典『高野切第一種』 第12回：毛筆学習（10）　キーワード：自運、和歌、散らし書き、漢字と仮名の調和 第11回：硬筆学習（2）　キーワード：自運、手紙文と宛名書き、大きさ、配列 第13回：毛筆学習（11）　キーワード：身の回りの多様な文字、行書と草書の古典 第14回：毛筆学習（12）　キーワード：身の回りの多様な文字、篆書と隷書の古典 第15回：毛筆学習（13）　キーワード：自運、好きな言葉を書く、意図に応じた工夫 定期試験	テキストを読むこと。	教育学関連	芸術関連	–	実務教員	『明解　書写教育改訂版』全国大学書写書道教育学会編、菫原書房	小学校学習指導要領、中学校学習指導要領	毎回の制作課題、および書写書道教育に関する試験をもとに評価する。	講義	講義および実技	特になし	なし	HP:http://www.h-mitsuhiko.com	なし
142	142	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	人文地理A(Human Geography A)	2	選択必修	2	前期	火曜日9、10時限	高橋　未央（非常勤講師）	–	レベル2	CP・DP 1見通す力	人文地理学的な見方を身につけ、それぞれを関連付けて考察できること	人文地理学の基礎的な概念や，諸地域で展開される人文地理要素を学びます．	第　1　回目　ガイダンス 第2-3回目　地図の起源 第4-6回目　地図からよみとる町の変遷 第7-9回目　村落地理学 第10-11回目　都市地理学 第13-15回目　村落・都市における治水と利水 第　16　回目　試験 ※授業の進行状況などにより，内容を変更することがあります．	講義の中で理解できなかった用語や内容の復習を各自行ってください．	地理学関連	–	–	–	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を，毎回持参してください 教科書は特に指定しません． 授業時，必要に応じて資料を配布します． 地形図判読の際，色鉛筆を使用します．3色程度，用意してください．	授業で適宜紹介します．	試験，小レポート	講義	講義形式	特になし	–	tamio(at)hirogaku-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください．	なし．

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
143	143	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	人文地理B(Human Geography B)	2	選択必修	2	後期	火曜日9-10時限	高橋 未央(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	人文地理学的な見方を身につけ、それぞれを関連付けて考察できること	人文地理学の基礎的な概念や、諸地域で展開される人文地理要素を学びます.	第 1 回目 ガイダンス 第2・5回目 農業地理学 第6-7回目 環境地理学 第7-10回目 観光地理学 第11-15回目 ツインタイムトラベル 第 16 回目 試験 ※授業の進行状況などにより, 内容を変更することがあります.	講義の中で理解できなかった用語や内容の復習を各自行ってください.	地理学関連	–	–	–	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を, 毎回持参してください. 教科書は特に指定しません. 授業時, 必要に応じて資料を配布します. 地形図判読の際, 色鉛筆を使用します. 3色程度, 用意してください.	授業で適宜紹介します.	試験, 小レポート	講義	講義形式	特になし	–	tamio(at)hirogaku-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください.	–
144	144	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	人類学(Anthropology)	1	選択必修	2	後期	月曜日7-8時限	曾我 亨	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力	人類学の基本的な考え方を理解し, 社会に対する人類学的なアプローチの特徴を理解することで, 複雑な現代社会を見通す力をつけること	ヒトは世界のいたるところに住んでいますが、その暮らし方や文化は大きく異なっています。人類学は、その違い(特殊性)を理解するとともに、その背後に潜む共通点(普遍性)を明らかにする学問です。法や経済といった個別の観点から社会を分析するのではなく、人類学の包括的なアプローチを理解し、現代的な地域課題の解決に人類学的なアプローチを適用することの意義を理解します。	1講 人類学の目的・視点・方法 2講 異文化を理解する:フィールドワークと解釈の仕方 3講 異文化を理解する:私的所有権をめぐる問題 4講 民族とはなにか:人種、ネイション、エスニックグループ、エトニー 5講 自文化相対主義と文化相対主義 6講 交換と贈与:ポトラッチ、クラ 7講 インセストの回避と女性の交換 8講 社会を作り出す経済活動:互酬性、再分配、市場交換 9講 国家に抗する社会:政府を持つ社会と持たない社会 10講 国民国家の特質:ディシプリンの技術について 11講 ジェンダーの人類学 12講 日常にひそむ儀習的行動の力:プラクシスとプラチック 13講 従属的「生」からの脱出:論理実証モードから物語モードへの転換 14講 人生の語り直し:障害を語り直す 15講 人生の語り直し:レイプを題材に語り直すことが力強い生につながる	毎回の授業でプリントを配布するので、その内容を十分復習すること。	文化人類学関連	社会学関連	思想関連	–	教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。	松村圭一郎(2011)『ブックガイドシリーズ基本の30冊 文化人類学』人文書院 (授業で扱う著作のいくつかについてわかりやすく紹介されています。復習に活用して下さい)	論述試験によって評価します。採点に際しては、授業内容を正確に理解しているか、日常生活のなかから授業で取り扱ったテーマに共通する事柄をみつけて考えを深めているか、論述の内容がバラバラではなく統合されているか、等の点を中心に評価します。	講義	講義形式を基本とします。簡単なクイズに答えてもらう機会が頻繁にあります。	社会学や社会心理学の知見もふんだんに盛り込んだ授業です。地域行動コースの学生だけでなく、常識を疑い、常識を越えたい人、民俗学や哲学、国家や国際関係論に関心のある人に受講をお勧めします	月曜12時から12時40分まで	sogap[at]hirosaki-u.ac.jp [at]の部分を@に変換してください。	特になし
145	145	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	スタディツアー(Study Tour)	3	選択必修	2	前期	月曜日9-10時限	森 樹男、高島 克史	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	海外の大学生と協働してグループワークを行うことによって, グローバル人材に必要なリテラシーを習得すること 海外において, 青森県に関する認知度や青森県産品のプロモーション方法に関する情報収集をすることで, グローカル人材としての素養を養うこと 講義で学習した内容を実践することで, 経営学の知識を現場で活用できるようになること	本講義は, 事前学習・海外研修・事後学習からなっている。 事前学習では, マーケティングや市場調査, グローバル経営に関する基礎知識の習得, 研修訪問予定国の文化・経済・歴史等に関する基本情報の理解, および市場調査等の準備を行う。 こうした準備を経て, 8月以降に1週間程度の海外研修を実施する。 研修終了後は受講者それぞれが振り返りを行い, 発表する。	第1回 オリエンテーション 第2回～第7回 事前準備 第8回～第14回 海外研修 第15回 振り返り 第16回 成果報告	授業は, 自ら考え, 行動する姿勢を求めていきます。従って, 予習復習においても, 自主的積極的にグループで取り組むことを求めます。 また, 機会を見つけて, 青森県内で開催される地域や地域企業に関するシンポジウムや報告会・勉強会に積極的に参加するようにしてください。	経営学関連	–	–	–	特になし	必要に応じて紹介します	『事前研修の参加度』『海外研修での活動状況』『事後報告とレポート内容』をふまえて総合的に評価します。	講義	実習形式です。 教室でのグループワークに留まらず, フィールドに出て調査したり, 留学生と話し合うなど, 学外での活動が多い, 実践的な授業です。	・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります ・この授業は, 与えられた課題を受け身的にこなすだけでは達成できません。よりよい結果を出すためには, 自ら考え行動する姿勢が求められます。また, 最後までやり抜くという気持ちを持つことも必要です。なお, 渡航費や滞在費が必要となりますので, オリエンテーションで確認してください。	木曜日8時40分～10時10分	katsushi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
146	146	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	生活政策論(Civic Life Policy)	2	選択必修	2	後期	木曜日7-8時限	吉村 顯真	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	債権総論及び担保物権法の全体構造及びそれぞれの関連性を理解すること 基本的概念・制度・重要な論点を理解すること	この授業では「債権総論」及び「担保物権」と言われている領域を「債権の回収・保全・担保」という観点から再編成して概説していきます。ここで学ぶ主な内容は次の4つです。 第1は、契約成立により発生した債権の回収です。そもそも債務者がどのように履行すればそれが完了したことになるのか(弁済)、また弁済に代わる債権回収方法としてどのようなものがあるのかを内容としています。第2は、債権の強制的実現です。これは契約通りに債務者が任意に履行しない場合に債権者は強制履行や損害賠償を通じてそれをどのように強制的に実現していくのか、ということを内容としています。第3は、責任財産の保全です。これは債務者が無資力となり十分な弁済を得られない場合に、債権者は債務者の有する一般財産(責任財産)に対して強制執行をしていくため、債権者が債務者の財産管理に介入をし、その保全をしていくということを内容としています。第4は、債権の担保です。これには保証人を通じた人的担保と、不動産を通じた物的担保とありますが、これらを通じて債権者がどのように債権回収をしていくのかということを内容としています。 なお、この授業では民行民法ではなく、2020年4月1日に施行させる新しい債権法を対象とします。	第1回　オリエンテーション、債権総論の全体構造 第2回　債権の任意的実現①:弁済(弁済当事者) 第3回　債権の任意的実現②:弁済(弁済の効果、弁済による代位) 第4回　債権の任意的実現③:相殺 第5回　債権の任意的実現④:債権譲渡(有価証券総論、成立要件) 第6回　債権の任意的実現⑤:債権譲渡(債務者・第三者との関係、効果) 第7回　債権の強制的実現①:強制履行、民事執行の手続き 第8回　債権の強制的実現②:損害賠償 第9回　責任財産の保全①:債権者代位権 第10回　責任財産の保全②:詐害行為取消権(成立要件、詐害行為の判断方法) 第11回　責任財産の保全③:詐害行為取消権(行使方法、効果、消滅) 第12回　債権の人的担保①:序論・多数当事者の債権債務 第13回　債権の人的担保②:連帯債務、保証債務 第14回　債権の物的担保①:抵当権の設定と効力、実行手続き 第15回　債権の物的担保②:抵当権実行後の諸問題、抵当権侵害の救済など 第16回　期末試験	復習していることを当然のこととして授業を進めていきます。 なお、復習をする際には、教科書を読むのはもちろん、授業時に紹介する参考文献も読んで、知識をさらに定着させていってもらいたい。	法学関連	–	–	–	初回の授業までに指示します。	適宜、紹介します。	期末試験(100%)によって評価します。 なお、補充的に平常点・レポート(10～20%)を評価します。	講義	講義形式	『私法学』及び『民法』の学習内容を前提にして授業を進めます。	水曜日10:30～11:30	初回の授業時にお知らせします。	特にありません。
147	147	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	政治学(Political Science)	2	選択必修	2	前期	集中	小窪 千早(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	国内政治の諸課題および国際政治の基礎について理解を深めること 国内政治および国際政治の諸問題について考える視座を涵養すること	・政治学の基本概念について説明します。 ・国際政治学について、その基本的な仕組みや歴史的沿革、現在の課題などを説明します。 ・国際政治の事例の一つとして欧州統合について、その歴史やEUの基本構造、直面する課題などを説明します。	第1回：全体の概要 第2回：政治学の基本概念①ー政治学の基本概念 第3回：政治学の基本概念②ーさまざまな政治体制 第4回：政治学の基本概念③ー民主主義と直面する課題 第5回：国際政治学①ー国際政治をどう見るか 第6回：国際政治学②ー主権国家体制の成立 第7回：国際政治学③ー主権国家体制の確立と変容 第8回：国際政治学④ーナショナリズムと産業化 第9回：国際政治学⑤ー戦間期の国際政治 第10回：国際政治学⑥ー冷戦期の国際政治 第11回：国際政治学⑦ー冷戦終結後の国際政治 第12回：国際政治学⑧ー現代の国際政治の諸課題 第13回：欧州統合の諸相①ー欧州統合の歴史 第14回：欧州統合の諸相②ー欧州連合(EU)の機構と拡大 第15回：欧州統合の諸相③ー欧州統合の直面する諸課題 第16回：まとめ(試験) (※各回の内容は進行状況などにより多少変わる可能性があります。)	予習：集中講義なので具体的なことは特に求めませんが、内外の政治のニュースを普段から関心を持って見ておくことが望ましいです。 復習：講義で話した政治学や国際政治学のさまざまな事象に対し、多面的な観点から考えることができるようになることが期待されます。	政治学関連	–	–	–	教科書は特に指定しません。	講義の中で随時紹介します。	講義の最後に試験を実施し、試験の成績と授業への参加度を基に評価する (試験70%、授業への参加度30%)。 1. 政治学・国際政治学の基本概念について説明できること。 2. 国内政治および国際政治の諸課題について、自ら考えて論述できること。	講義	レジュメもしくはパワーポイントを使用します。	特になし	特になし	特になし	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
148	148	人文社会科学部社会経営課程企業職総企業職コース	税務会計A(Tax Accounting A)	3	選択必修	2	前期	月曜日7・8時限	加藤 恵吉	–	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	企業課税について主に法人税法に関する理論を学習し、ある程度の所得計算ができるようになること 租税に関する問題や租税訴訟に関する判例等も一部検討し、どのような論点が現在問題となっているかについても考察できるようになること 多角的な租税についての理解を深めていこと	企業課税における法人税法及び消費税法を学ぶ。 主な内容は以下の通り 租税概念:租税原則、租税法律主義、現在の税法の論点について 法人税法:棚卸資産、減価償却、繰延資産、役員給与、租税公課、寄附金、交際費、法人税等に関する訴訟の判例解釈 地域の税務専門家(田中久義税理士)による講義:消費税法 間接税としての消費税、消費税の税額計算など	第1回 ガイダンス(租税法と会計の関係) 第2回 租税法と税務会計 第3回 法人税の概念 第4回 益金の概念(第4回～第6回) 第5回 受取配当、みなし配当 第6回 益金不算入 第7回 損金の概念(第7回～第11回) 第8回 棚卸資産評価損否認・減価償却 第9回 圧縮記帳・繰延資産・役員給与 第10回 寄附金・交際費 第11回 引当金(損金算入限度限度額) 第12回 税額の計算(第12回～第13回) 第13回 所得税額の控除・外国税額控除など 第14回 消費税法の概要と税額計算(田中税理士) 第15回 全体のふりかえり、補足、問題演習 第16回 最終試験	初級・中級簿記の復習をしておくこと。また、講義終了後、計算問題の演習等を繰り返し行なうこと。	経営学関連	法学関連	–	実務教員	ベーシック税務会計<企業課税編> [第3版] 創成社	講義において随時紹介する。	最終試験 70%、確認小テストまたはレポートを含む平常評価30%。 税額が計算できることを主たる目的とするのでテスト時には、テキストの持ち込みを許可する予定です。 但し、欠席が講義回数の1/3を超えた者は評価の対象外となる。	講義	講義形式で行ない、講義中問題演習も随時してもらいます。	資格取得にも配慮し、法人税法能力検定試験(全経)に関する問題を多く取り上げる。 この検定(年2回実施)は、簿記検定に加えて取得することをお勧めする。 法人税法の検定試験は、範囲が特定されているので無理なく学習できる。	月曜12:00～12:30	随時、個別に対応する。	企業で経理にかかわる者、経営者志望者だけでなく、国税専門官の仕事においても必須の知識です。是非理解できるようになってください。
149	149	人文社会科学部社会経営課程企業職総企業職コース	税務会計B(Tax Accounting B)	3	選択必修	2	後期	月曜日5・6時限	加藤 恵吉	–	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	個人課税について特に、所得税法に関する基礎的な理論を学習し、確定申告など、ある程度の所得計算ができるようになること 最近増税で新聞上で増税の是非が議論されている租税税法についても、理解ができるようになること	租税法における個人課税概念について一部学んだ後、所得税法について理論及び計算方法を学び、最近新聞でもよく取り上げられている租税税法についても一部触れる。 所得税法に関しては、確定申告等の税務の知識として将来役立つ知識であるのと同時に、全国経理教育協会の資格として修得する価値があるので積極的に学習すること。 ・所得税法に関する講義・演習 (利子所得・配当所得、不動産所得、事業所得、給与所得、退職所得、山林所得、譲渡所得、一時所得、雑所得等) ・相続税法に関する講義 ・税理士による講義(地域の税理士の講義)	所得の稼得方法によって所得税の額も違ってきます。たとえば、宝くじを当てた場合、競馬などのギャンブルで儲けた場合、お金を拾って落とし主が現れなくて自分に多くのお金が入った場合で税金の額は大きく異なります。また、報道等でもよく話題になる「ふるさと納税」は 寄附金にあたり大きい注目が集まっています。 このような、租税の問題を扱うこと学ぶことは受講者の知識となりますので、興味をもって受講してみてください。	経営学関連	法学関連	–	実務教員	『Newベーシック税務会計<個人課税編>』玉越舎	随時紹介する	最終テスト70%、小テストまたはレポートを含めた平常評価30%。 税額が計算できることを主たる目的とするのでテスト時には、テキストの持ち込みを許可する予定です。 但し、欠席が講義回数の1/3を超えた者は評価の対象外となる	講義	講義形式で行ない、講義中問題演習も随時してもらいます。	簿記及び会計学の基礎知識があるとより深く学べるでしょう。	月曜12:00～12:30	随時、個別に対応する。	資格取得にも配慮し、所得税法能力検定試験1～3級(全経)に関する問題を多く取り上げる。 この検定(年2回実施)は、簿記検定に加えて取得することをお勧めする。
150	150	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	西洋考古学(Archeology of the Western World)	2	選択必修	2	後期	火曜日1・2時限	宮坂 朋	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	地中海世界の古典古代文化についての概観を得ること 古代末期の地中海世界に起きた物質文化の変化についての概観を得ること 文化の衰退とは何かを考察すること	古代末期とは、古代文化崩壊の時代とされてきました。文献から読み取れる衰退の様相は、3～6世紀に作られたモノから砕材けられるのでしょうか。 この講義では、重要な12の項目を取り上げ、ローマ時代の変化の様相を追うことによって、古代末期に起きた変化について具体的に検証してみます。	第1回 導入 第2回 研究史及び研究方法 第3回 交易 第4回 都市計画 第5回 建築 第6回 技術 第7回 鉱工業 第8回 農業 第9回 気候 第10回 墓制 第11回 墓碑 第12回 宗教 第13回 戦争 第14回 美術 第15回 まとめと期末試験 (受講者の理解度等に応じて内容は変更される可能性があります)	予習:配布資料を良く読んで復習してください。わからなかったことは質問してください。 予習・授業終了時に提示します。	考古学関連	歴史学関連	芸術関連	–	配布資料があります。パインダーに綴じて毎回持参すること。	聞講時に提示します。	期末試験を行います。ローマ時代のモノのスライド画像についての記述が中心です。モノの名称、機能、大まかな制作年代、材料、生産地、技術革新、精神的背景等がわかるようになっていることを評価の基準とします。また、時折復習クイズを授業の冒頭あるいは終了時に行います。 期末試験50%(論述式、持ち込み不可) 復習クイズ50%	講義	パワーポイントを使用した講義形式です。 出席してノートを取り、スライドで提示される画像を目に焼き付けてください。	高校の世界史程度の予備知識があれば良いです。また、この授業は形態文化論で扱った問題をさらに掘り下げることができるようになるための内容も含んでいます。	火曜日5/6限目	研究室電話番号0172-39-3243 メールアドレス tomo※hirosaki-u.ac.jp (記号はアットマークです)	欠席5回で不可となります。
151	151	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	西洋古典文化論(Philosophy and culture in Classical Antiquity)	2	選択必修	2	後期	金曜日7・8時限	今井 正浩	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	西洋古典古代の思想文化に関する基本的知識を習得すること 西洋古典古代の思想文化に関する基本的知識の習得を通して、哲学的な思考方法を身につけるとともに、複因とした世界観・人間観に基づいて、自らが直面する諸課題を解決するための力を養うこと	この講義は、ユダヤ・キリスト教文化と並んで、ヨーロッパの歴史文化的源流の一つにあたる西洋古典古代(Classical Antiquity)の思想文化に焦点をあて、その特質を理解するとともに、グローバル化と共生の時代において、西洋古典古代の思想文化がどのような普遍的価値を有するかを明らかにすることを目指します。 □	各回の授業後に復習点、次回の予習点を伝えます(なお、予習・復習は、最低でも各2時間とることが必要です)。	歴史学関連	思想関連	–	授業中に配布する資料等をもとに授業を実施しますので、教科書は指定しません。	古代哲学史の概説書として定評のあるものを、以下に紹介します。 (1)加藤信朗著『ギリシア哲学史』(東京大学出版会刊、1996年) (2)内山勝利責任編集『哲学の歴史1』中央公論新社刊、2008年)	中間試験(50パーセント)+期末試験(50パーセント)を合算して評価します。	講義	基本的には講義形式の授業ですが質疑応答等を含めた学生諸君との双方向的な授業の要素を一部に取り入れます。	受講にあたって、古典ギリシア語・ラテン語等の知識は問いませんが、語学力が理解を深めるのに役立つことは言うまでもありません。日本語で書かれた代表的な古典ギリシア語・ラテン語の基礎文法書を紹介しますので、ぜひ挑戦してみてください。 (1)水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』(岩波書店刊、1990年) (2)田中利光著『ラテン語初歩／改訂版』(岩波書店刊、2002年)	毎週月曜日の午後4時～6時をオフィスアワーの時間帯に設定しています。 □	Eメールアドレス masahiro@hirosaki-u.ac.jp	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
152	152	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	西洋史(Western History)	2	選択必修	2	後期	木曜日3・4時限	中村　武司	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	長い19世紀のヨーロッパ史、とくに国民国家の形成やナショナリズムの問題への理解を深めること 歴史的記憶をめぐる諸問題を考察するための概念や用語、理論を習得すること	グローバル化が展開する現在においても、国民国家とナショナリズムは、人文学・社会科学の最重要課題のひとつであり続けています。この講義では、ヨーロッパ諸国にみられるさまざまな「記憶の場」を手がかりとして、ネイション(国民や民族)をめぐる歴史的記憶の創出・継承・再生産のあり方、長い19世紀のヨーロッパ史の特質を考察します。	1.①ントロダクション 2.②ショナリズムと記憶／コメモレイションの歴史学 3.③ルン大聖堂とドイツ統一運動 4.④ァトポイザー記念碑とドイツ帝国口 5.⑤ルミニウスをめぐる歴史と神話口 6.⑥ランス革命とパンテオン 7.⑦ポレオン伝説とアンヴァリッド口 8.⑧白色旗とラ・マルセイエーズ口 9.⑨ポレオン戦争の記憶とセント・ポール大聖堂 10.⑩コットランド独立と英雄の記念口 11.⑪年戦争とイギリス帝国の建設者口 12.⑫メリカ独立宣言の聖典化 13.⑬タリアの国民統合・君主・ローマ 14.⑭1次世界大戦の記憶と戦没者追悼 15.⑮とめ――ヨーロッパにおける国民形成と歴史的記憶	予習：必要におうじて、授業中に指示します。 復習：かならず授業内容の復習を行うようにして下さい。参考文献を確認したり、授業で分からなかった点を自ら調べたりすることで、授業内容への理解を深められるようがけて下さい。	歴史学関連	–	–	–	教科書は使用しません。配布するレジュメに即して授業を進めます。	阿部安成ほか編『記憶のかたち――コメモレイションの文化史』(柏書房、1999年) 谷川稔『(世界史リブレット)国民国家とナショナリズム』(山川出版社、1999年)オリヴァー・ジマー(福井憲彦訳)『(ヨーロッパ史入門)ナショナリズム』(岩波書店、2009年) アンヌ＝マリ・ティエス(斎藤かぐみ訳、工藤庸子解説)『国民アイデンティティの創造――18～19世紀のヨーロッパ』(勁草書房、2013年)ピエール・ノラ編(谷川稔監訳)『記憶の場――フランス国民意識の文化＝社会史』全3巻(岩波書店、2002-3年) ほかの参考文献も授業中に適宜紹介します。	平常評価(レスポンス・ペーパーの執筆):50% 期末評価(課題レポートの執筆):50% 上記を合算のうえ、最終的な成績評価を行う予定ですが、出席回数が全講義回数の3分の2に満たない場合、あるいは期末の課題レポートを提出しなかった場合は評価の対象としませんので、注意して下さい。	講義	講義形式で実施します。毎回の授業の最後で、その日の授業についての質問・感想などを記したリアクション・ペーパーを執筆してもらい、次回の授業において、それにたいするコメントと補足説明を行うことで、受講生へのフィードバックをはかります。	・受講にあたり、高校の世界史教科書や一般向けの西洋史の概説書・教科書を復習して、フランス革命から第1次世界大戦までのヨーロッパ史を復習しておくことをお勧めします。 ・中学の社会、高校の地理歴史の教育職員免許状を取得するうえで、本科目は必修となります。	毎週火曜日、12:00-12:40(人文社会科学部校舎407号室：ヨーロッパ史研究室) 研究室を不在にしていることもありますので、面談を希望する場合は、事前にメールにて予約することを勧めます。	Eメール・アドレス：take_nk(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)を＠に変更して送信して下さい HPアドレス(research map)：URL＝http://researchmap.jp/read0106710	–
153	153	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	西洋倫理思想(Western Ethical Thought)	2	選択必修	2	後期	水曜日5・6時限	横地　徳廣	–	レベル2～4	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	魂の不死や神の存在、世界の始まりを人間が理性的に考えるさい、理性の本性に従うと、誤りに陥る……。そうカントは指摘しました。また、プラトンが『ソピステス』篇において明らかにしたのは、「在らぬものが在る」と騙るソフィストが駆使するロゴスの仕組みでした。哲学は古来、虚構を現実にすりかえ、虚偽を真実と騙ることのトリックを考察してきたと言えます。こうした哲学史をふまえつつ、映画という虚構を通じて哲学しながら、虚構それ自体を哲学する力を養うこと	現実が虚構と連携して広げる「リベラル優生学やディープ・エコロジーの欺瞞」を見抜き、 人類10万年の(進化史的アプリオリ)を保持する仕方を探ります。 このとき、「弱いAI(人工知能)」、「強いAI」の区別を手がかりに、 ソフトウェア、ハードウェア、ウェットウェアの「弱いAlife(人工生命)」と「強いAlife」を考察し、 これとの対比を通じて、人工物ではない生命体独自の存在と価値を考えます。	授業予定は、以下のとおりです。変更の場合は授業で事前に知らせます。 1　　ガイダンス 2、3　　生命と知能とは何か 4、5　　DVD講義:『風の谷のナウシカ』と「隠蔵」にかんする科学哲学的考察 6、7　　ディープ・エコロジー、リベラル優生学、マッドサイエンスの関係 8、9　　DVD講義:『ブレードランナー2049』と「誘導」にかんする政治哲学的考察 10、11　　バイオテクノロジーとサイバネティクス 12、13　　DVD講義:『エクス・マキナ』と「警告」にかんする倫理学的考察 14　　弱い人工性、強い人工性 15　　まとめ 映像資料を用いた講義が行われるさい、連続授業になることがあります。 授業予定の詳細は、プリントが配布されます。	指定テキストを授業前、授業後に読むことが予習・復習となります。	思想関連	芸術関連	ブレインサイエンス関連	–	横地徳広ほか編著『映画で考える生命環境倫理学』(勁草書房、2019年)	適宜、プリントが配布されます。	平常評価(コメント点)：100%(ただし、全15回中10回以上の出席が必要) 特別評価(優秀なコメントや発言に加点)：＋α 受講生のみなさんは講義中に配布プリントの論述欄にコメントを記し、これが出席確認と評価対象となります。哲学的に深い思索が示されているコメントや発言には 加点が行なわれます。コメントがきちんと記されていないペーパーには コメント点が与えられません。 コメントや発言への評価は、原則として加点法によります。 上記を合算して最終的な成績評価が行なわれる予定です。介護実習などによる公欠は、 その証明書コピーを提出することで部分点が与えられます。講義を欠席した学生は、 追加レポートの提出によって部分点を獲得できます。	講義	講義を聞いて考えたことをコメント・ペーパーに書く形式です。	特になし	オフィスアワーは在室時です。 西洋倫理思想史研究室(人文414)まで。必ずメールで面会予約をとってください。	メールアドレスは人文414に掲示されます。	人文学部「現代思想B」の読替科目、教育学部「哲学Ⅱ」の読替科目です。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
154	154	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	西洋倫理思想演習Ⅰ(Western Ethical Thought Colloquium Ⅰ)	2	選択必修	2	前期	金曜日5-6時限	横地 徳廣	–	レベル2～4	CP・DP 3 学び続ける力	認識論の古典テキストであるイマニュエル・カント『純粋理性批判』の英語テキストを内在的に読み解き、この読解を通じて、諸事象を哲学的に考察する仕方を学ぶこと 英語読解や構文理解の力を高め、同時にカント哲学の基礎知識が身に付けること	受講生のみなさんはカント『純粋理性批判』「 仮象の論理学」の英語テキストを読みます。 ドイツ語テキストは、適宜、参照されます。	授業予定は、以下のとおりです。変更の場合は授業で事前に知らせます。 1　ガイダンス（読解箇所と担当の決定） 2　テキスト読解と解説　（1）仮象 3　テキスト読解と解説　（2）仮象 4　テキスト読解と解説　（3）仮象 5　テキスト読解と解説　（4）仮象 6　テキスト読解と解説　（5）理念 7，8 映像資料をもちいた、近世ドイツの社会状況の説明 9　テキスト読解と解説　（6）理念 10　テキスト読解と解説　（7）理念 11　テキスト読解と解説　（8）理念 12　テキスト読解と解説　（9）誤謬推理 13　テキスト読解と解説（10）誤謬推理 14　テキスト読解と解説（11）誤謬推理 15　テキスト読解と解説（12）誤謬推理 映像資料を用いた講義が行われるさい、連続授業になることがあります。 授業予定の詳細は、プリントが配布されます。	配布テキストを授業前後に読むことが準備学習になります。	思想関連	歴史学関連	心理学関連	–	ドイツ語の原書とその英訳、邦訳は、一部がコピーで配布されます。 『ドイツ語常用 6000語』（大学書林）を各自で購入してください。 授業の最初は毎回、ドイツ語単語の確認をします。（テストなどはないです。）	適宜、紹介されます。	平常評価（訳読参加 ）：100% 上記をもとに最終的な成績評価が行われる予定です。	演習	受講生が順番で英語テキストを読み、数行を日本語に訳します。	「思想・倫理学の基礎」を受講していると、テキスト理解に役立ちます。	オフィスアワーは在室時です。西洋倫理思想史研究室（人社414）で、必ずメールで面会予約をとってください。	メールアドレスは人社414研究室に掲示されます。	—
155	155	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	西洋倫理思想演習Ⅱ(Western Ethical Thought Colloquium Ⅱ)	2	選択必修	2	後期	水曜日3-4時限	横地 徳廣	–	レベル2～4	CP・DP 3 学び続ける力	認識論の古典テキストであるイマニュエル・カント『純粋理性批判』の英語テキストを内在的に読み解き、この読解を通じて、諸事象を哲学的に考察する仕方を学ぶこと 英語読解や構文理解の力を高め、同時にカント哲学の基礎知識が身に付けること	受講生のみなさんはカント『純粋理性批判』「 仮象の論理学」の英訳テキストを読みます。 ドイツ語テキストは、適宜、参照されます。	授業予定は、以下のとおりです。変更の場合は授業で事前に知らせます。 1　ガイダンス（読解箇所と担当の決定） 2　テキスト読解と解説　（1）実体 3　テキスト読解と解説　（2）実体 4　テキスト読解と解説　（3）実体 5　テキスト読解と解説　（4）実体 6　テキスト読解と解説　（5）心理学 7，8 映像資料をもちいた、近世ドイツの社会状況の説明 9　テキスト読解と解説　（6）心理学 10　テキスト読解と解説　（7）心理学 11　テキスト読解と解説　（8）心理学 12　テキスト読解と解説　（9）人格 13　テキスト読解と解説（10）人格 14　テキスト読解と解説（11）人格 15　テキスト読解と解説（12）人格 映像資料を用いた講義が行われるさい、連続授業になることがあります。 授業予定の詳細は、プリントが配布されます。	配布テキストを授業前後に読むことが準備学習になります。	思想関連	歴史学関連	心理学関連	–	ドイツ語の原書とその英訳、邦訳は、一部がコピーで配布されます。 『ドイツ語常用 6000語』（大学書林）を各自で購入してください。 授業の最初は毎回、ドイツ語単語の確認をします。（テストなどはないです。）	適宜、紹介されます。	平常評価（訳読参加 ）：100% 上記をもとに最終的な成績評価が行われる予定です。	演習	受講生が順番で英語テキストを読み、数行を日本語に訳します。	西洋倫理思想演習Ⅰとの連続受講が望ましいです。	オフィスアワーは在室時です。西洋倫理思想史研究室（人社414）で、必ずメールで面会予約をとってください。	メールアドレスは人社414研究室に掲示されます。	人文学部「倫理学演習A」の読替科目です。
156	156	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	多文化基礎論(1)(The Basios of Cultural Diversity)	2	選択必修	2	前期	月曜日3-4時限	今井 正浩	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	現代ヨーロッパの歴史文化的源流の一つとしての西洋古典古代の歴史文化遺産(文学・思想・科学等)に関する基本的知識を習得すること 西洋古典古代の歴史文化遺産が、グローバル化と共生の時代にあたる現代において、どのような普遍的価値を有するかを理解することを通して、グローバル化と共生の時代を生きていく上で直面する諸課題を解決するための力を身につけること	この講義は、現代ヨーロッパの歴史文化的源流の一つとしての西洋古典古代(Classical Antiquity)という基本認識のもと、この時代の人間観の特色に焦点をあてることによって「多文化理解とは何か」という根本的な問いに対する見識を深めます。 □	古代ギリシア・ローマ文化は、東方オリエントやエジプトといった周辺諸地域の文化の影響を受けつつ、きわめて独自の発展を遂げることによって、後世の歴史文化の展開に大きな影響を与えてきました。この講義では、古代ギリシア人の人間観の特質について、おもに思想文化史的な観点に立った講義を行うことを通して、ヨーロッパという文化的パラダイムの成立に古代ギリシア・ローマの歴史文化遺産がどのように寄与したかを検証します。 第1回　現代ヨーロッパの歴史文化的源流の一つとしての古代ギリシア・ローマ 第2回　ホメロスの二大叙事詩『イリアス』『オデュセイア』の成立とその歴史的背景 第3回『イリアス』『オデュセイア』とギリシア人の伝統的人間観の起源 第4回『神統記』におけるヘシオドスの神話的世界観 第5回『農耕と暦日』における「正義」の概念 第6回　ギリシア悲劇の人間観 第7回　中間試験(45分)と前半の振り返り 第8回「哲学のはじまりの地」としての古代ギリシア 第9回　初期ギリシア哲学者たちの人間観 第10回　ソクラテス・プラトンの哲学的人間理解 第11回　アリストテレスの哲学的人間理解 第12回　ギリシアの歴史思想における人間観 第13回　ギリシア医学の成立とその歴史的背景 第14回　ギリシアの医学思想における人間観 第15回　期末試験(45分)と授業全体の総括 なお、授業の進行状況等によってシラバスの内容と異なってくる場合は、その都度説明をします。	各回の授業後に復習点、次回の予習点を伝えます（なお、予習・復習は、最低でも各2時間とることが必要です）。	歴史学関連	思想関連	–	–	授業中に配布する資料等をもとに授業を実施しますので、教科書は指定しません。	多岐にわたるため、必要に応じて、授業中に紹介していきます。	中間試験（50パーセント）＋期末試験（50パーセント）を合算して評価します。	講義	基本的には講義形式の授業ですが、質疑応答等を含めた学生諸君との双方向的な授業の要素を一部に取り入れます。	履修にあたって、古典ギリシア語・ラテン語の知識は問いませんが、語学の知識が理解を一層深めることはまちがいなくありますが、語学の知識が理解を一層深めることはまちがいなくありますが、語学の知識が理解を一層深めることはまちがいなくあります

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
159	159	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域アクションリサーチ実習II(Regional Action Research Practicum II)	2	選択必修	2	前期	木曜日1～4時限	○古村 健太郎、杉山 祐子、菅我 亨、羽渕 一代、増山 篤、白比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、露訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	調査の社会的な意義と活用可能性を理解すること 地域社会や自治体などと連携しながら、対話的な調査を経験すること	社会調査とその結果のフィードバックは、調査の対象となる地域や人びとになんらかの影響を与えることがあります。あるいは、われわれは調査の結果をもっと積極的に、社会変化への提言のようにして示すこともあります。また、われわれはつねに実際の調査を通して、つねに反省的に調査法をみなおしたり、調査の対象となる地域や人びとに対する見方を再検討したりします。そうしたプロセスそのものを考えることがアクション・リサーチであり、社会とわれわれとの「対話的な調査」なのです。調査をひろく社会のなかで考える考え方を、実践的に得ていきます。	地域アクション・リサーチ実習Ⅰ とⅡ では、基本的には、社会調査実習Ⅰ とⅡ を履修している2年生が並行して履修することが想定されています。地域社会での集中的な調査の計画・実施にあたります。調査地や内容については、実習内でのグループによって異なります。 調査内容は、実習内調査グループによって異なります。詳細は第1回ガイダンスで説明します。	授業の中で指示します	社会学関連	文化人類学関連	–	–	とくになし。	とくになし。	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	実習	実習形式です。	・社会調査実習Ⅰ とⅡ を履修している2年生が並行して履修すること。 ・学生保険加入を履修の条件とする。 ・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回のガイダンスで説明します。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/action/index.html	—
160	160	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域アクションリサーチ実習II(1)(Regional Action Research Practicum II)	2	選択必修	2	後期	木曜日1～4時限	○古村 健太郎、杉山 祐子、菅我 亨、羽渕 一代、増山 篤、白比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、露訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	調査の社会的な意義と活用可能性を理解すること 地域社会や自治体などと連携しながら、対話的な調査を経験すること	社会調査とその結果のフィードバックは、調査の対象となる地域や人びとになんらかの影響を与えることがあります。あるいは、われわれは調査の結果をもっと積極的に、社会変化への提言のようにして示すこともあります。また、われわれはつねに実際の調査を通して、つねに反省的に調査法をみなおしたり、調査の対象となる地域や人びとに対する見方を再検討したりします。そうしたプロセスそのものを考えることがアクション・リサーチであり、社会とわれわれとの「対話的な調査」なのです。調査をひろく社会のなかで考える考え方を、実践的に得ていきます。	地域アクション・リサーチ実習Ⅰ とⅡ では、基本的には、社会調査実習Ⅰ とⅡ を履修している2年生が並行して履修することが想定されています。地域社会での集中的な調査の計画・実施にあたります。調査地や内容については、実習内でのグループによって異なります。 調査内容は、実習内調査グループによって異なります。詳細は第1回ガイダンスで説明します。	授業の中で指示します	社会学関連	文化人類学関連	–	–	とくになし。	とくになし。	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	実習	実習形式です。	・社会調査実習Ⅰ とⅡ を履修している2年生が並行して履修すること。 ・学生保険加入を履修の条件とする。 ・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回のガイダンスで説明します。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/action/index.html	—

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
161	161	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域アクションリサーチ実習Ⅱ(2)(Regional Action Research PracticumⅡ)	2	選択必修	2	後期	月曜日1・2時限 金曜日1・2時限	佐藤 和之	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	日本人学生が留学生か関わらず、また所属が文化創成課程か社会経営課程かにとらわれず、社会言語学の講義を履修し、ことばへの興味が強くなった学生たちが実践を通して言語研究の方法やその意義を学ぶこと 言語調査や社会調査の的確な デザインと分析ができるようになること	前期開講の地域アクションリサーチ実習Ⅰ(2)の継続実習です。学生が主体となって作業と討論しながら進めます。 現代社会が抱える言語学的課題の発見方法と解決の糸口の見つけ方、チームワークを通した課題解決までの一連の研究手法を訓練します。具体的には以下の5目標について、16回の実習を通して身につけます。 (1)アンケート調査表の作り方やインタビューの方法を通して、社会言語学的な言語調査法を学びます。 (2)社会言語学的手法によって得られた実際のデータを使い、分析の方法と解釈のしかたを学びます。 (3)それら調査、分析の結果を発表用のレジュメにする方法や図や表を使うこと、文字で表現する術を学びます。 (4)発表レジュメを使って口頭で説明し、公表する技術(＝相手に納得してもらう表現法)を学びます。 (5)先輩や同輩との共同研究の仕方や共同作業の方法を実践によって身に付けます。 実際に社会から求められる言語学的な課題の解決、具体的に提案するアクションリサーチの実習です。	ことばに関わる豊かな知見や分析能力が育つよう、日本語を中心として、ことばの調査の方法や分析のしち、取りまとめ法について学びます。さまざまな視点とはたとえば次のようなものです。 第1回～第3回　災害発生時の情報伝達の方法 第4回～第6回　災害下での外国人とのコミュニケーションの方法 第7回～第9回　的確な日本語表現、適切に情報を伝えるとはどういうことか 第10回～第12回　方言と共通語との関係や役割の違い 第13回～第15回　日本語とが国語の関係と日本語の役割 第16回　日本語教育の海外での展開事情 ことば(日本語)を新しい視点から客観的に考え、自分のことばで説明できる基礎知識を身に付け、広い視野をもった社会人になることが大切なな目的です。	『与えられてから考える』という受動的学習法から放たれ、ゼミ生や実習生が互いに話し合って課題を見つけ、解決していく(能動的学習法を身につけます。 実習というコミュニティーの中で、課題発見型と課題解決型の実践的論理性を習得します。	言語学関連	社会学関連	–	–	ありません。実習の中で資料をゼミ生が適宜配布してくれます。	実習内で適宜紹介します。実習室には必要な文献や論文が準備されています。 パソコンや必要なソフトも用意されています。	日頃からの共同作業、およびその成果としての実習最終回の発表、その後の提出物によって評価します。	実習	実習形式：学ぶ・立案する・調べる・分析する・発表する・まとめる・討論する・修正する・報告するということ	特記事項はありません	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/	特記事項はありません
162	162	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	地域イノベーション論Ⅱ(Regional InnovationⅡ)	3	選択必修	2	前期	火曜日5・6時限	熊田 憲	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	地域で生み出されたイノベーションに関する様々なヒントやアイディアを得ること 地域経済産業を活性化するための革新力を獲得すること	都市に比べて地域はイノベーションを起こすには不利な環境とも考えられますが、実際には一般に知られていない静かなイノベーションを成し遂げた地域企業が数多く存在します。 本講義では、東北で生み出された製品やサービス、事業モデルなど、特色のある経営によって成し遂げられたイノベーション事例を取り上げ、地域企業の可能性を考察します。毎回、事例で取り上げるイノベーターの決断から成功のポイントを解説し、他産業への応用を含め地域イノベーションへの挑戦のあり方を議論していきます。	第 1回:ガイダンス 第 2回:イノベーションの基礎 第 3回:事例<1>イチゴで儲けないイチゴ農家が産業を変える(農業生産法人 株式会社 GRA) 第 4回:事例<2>おいしいリンゴを、いつでも手軽に、新鮮に(株式会社 アップルファクトリージャパン) 第 5回:事例<3>情報誌・SNSを活用して1次生産者と消費者の関係を再編(NPO法人東北開墾) 第 6回:事例<4>「空気に触れない容器」で「新鮮な醤油」という新たな価値を確立(株式会社 恐心) 第 7回:事例<5>離島からのイノベーション(佐渡精密株式会社) 第 8回:事例<6>常識を覆す画期的な「足こき車いす」を事業化(株式会社 TESS) 第 9回:事例<7>もと半導体工場が世界初の肝臓病患者向けレクスタを量産(金津富士加工株式会社) 第10回:事例<8>あんたの夢の繊維 クモの糸実用化への挑戦(スパイバー株式会社) 第11回:事例<9>IT技術者集団が日本の伝統工芸の再生に挑戦(株式会社 ワイヤードビーンズ) 第12回:事例<10>楽器産業に革命・憧れのハープを楽しむ環境を創造(株式会社 グレースハープ・インターナショナル) 第13回:事例<11>ドチャベンで地域を活性化(ハバタク株式会社) 第14回:地域発イノベーションの考え方 第15回:地域イノベーション論まとめ 第16回:期末テスト ＊授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します.	【予習】次回取り上げる事例を読み、自分なりの考え方や疑問を持って受講してください. 【復習】授業で配布された資料やノートを整理し、事例の内容について理解を深めるようにしてください.	経営学関連	–	–	–	・地域発イノベーション事例調査研究プロジェクト編集『地域発イノベーションⅢ 東北から の挑戦』(2012)河北新報出版センター ・地域発イノベーション事例調査研究プロジェクト編集『地域発イノベーションⅣ 東北企業の資源発掘と開発』(2013)河北新報出版センター ・地域発イノベーション事例調査研究プロジェクト編集『地域発イノベーションⅢ 震災からの復興・東北の底力』(2014)河北新報出版センター ・地域発イノベーション事例調査研究プロジェクト編集『地域発イノベーションⅤ 東北から世界への挑戦』(2016)南北社 ・その他, 講義の中で適宜, 紹介します.	中間評価(中間レポート, 中間テスト, 中間発表など) : 40% 期末評価(期末レポート, 期末試験, 期末発表など) : 60% 上記を合算して, 最終的な成績評価を行う予定です.	講義	・パワーポイントを使った事例発表と解説による講義です. ・毎回, 講義資料を配布します.	・経営学に関する基礎的な科目を履修していることが望ましい. ・地域の発展, 活性化に関心を持ち, 地域に対する問題意識を持って取り組んでください.	火曜日 : 11:50～12:40 事前にメールにてコンタクトを取ってください.	kumata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください.	特になし
163	163	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	地域イノベーション論Ⅲ(Regional InnovationⅢ)	3	選択必修	2	後期	火曜日5・6時限	熊田 憲	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	地域イノベーションを活発に生み出すための仕組みを如何に構築するのかについて、様々な概念、理論、枠組みを理解すること 地域産業活性化、地域発展の構想策定・計画立案の基盤となる、地域イノベーション・システムの構造を把握することにより、地域からイノベーションを持続的に創出するための戦略的なイノベーション・マネジメントのあり方を議論していきます.	地域からイノベーションを創出するための枠組みとして地域イノベーション・システムという概念が存在します. 本講義では、地域産業活性化と地域イノベーションとの関係性を概観するとともに、その枠組みである地域イノベーション・システムの理解に向けて、産学官連携やクラスターといった諸理論を解説します. 地域イノベーション・システムの構造を把握することにより, 地域からイノベーションを持続的に創出するための戦略的なイノベーション・マネジメントのあり方を議論していきます.	第 1回:ガイダンス 第 2回:地域マネジメント<1>(地域産業活性化の基礎概念と体系) 第 3回:地域マネジメント<2>(地域産業活性化の諸要素) 第 4回:地域マネジメント<3>(地域産業活性化の基本戦略) 第 5回:地域イノベーション<1>(イノベーションへのアプローチ) 第 6回:地域イノベーション<2>(イノベーションの要件) 第 7回:地域イノベーション<3>(イノベーティブな地域としての発展) 第 8回:地域産学官連携<1>(産学官連携の意義, 意味) 第 9回:地域産学官連携<2>(産学官連携における大学の役割) 第10回:地域産学官連携<3>(地域産学官連携のコミュニティ) 第11回:地域クラスター<1>(クラスターの概念と意義, 競争優位性) 第12回:地域クラスター<2>(クラスターの形成と発展) 第13回:地域クラスター<3>(産業集積と地域イノベーション) 第14回:地域イノベーション戦略(日本の地域イノベーション政策) 第15回:地域イノベーション論まとめ 第16回:期末テスト ＊授業の進行状況等により, シラバスと実際の内容と異なる場合には, その都度説明します.	【予習】普段から, 自主的にニュースを見たり新聞を読み, 地域企業の行動や地域経済の動向について少しでも関心を持つようにしてください. 【復習】授業で配布された資料やノートを整理し, 参考文献, Webなどを活用して授業の内容について理解を深めるようにしてください.	経営学関連	–	–	–	教科書は特に指定しません.	・石倉洋子・他『日本の産業クラスター戦略 地域における競争優位の確立』(2003)有斐閣 ・内田純一『地域イノベーション戦略 プランディング・アプローチ』(2009)美容書房出版 ・関西ネットワークシステム編『現場発！産学官民連携の地域力』(2011)学芸出版社 ・西村吉雄『産学連携！中央研究所の時代 (生超えて)』(2003)日経BP社 ・野澤一博『イノベーションの地域経済論』(2012)ナカニシヤ出版 ・野長瀬裕二『地域産業の活性化戦略 ～イノベーター集積の経済性を求めて～』(2011)学文社 ・一橋大学イノベーション研究センター編『イノベーション・マネジメント入門 (第2版)』(2017)日本経済新聞社 ・松原宏編『日本のクラスター政策と地域イノベーション』(2013)東京大学出版会 ・その他, 講義の中で適宜, 紹介します.	中間評価(中間レポート, 中間テスト, 中間発表など) : 40% 期末評価(期末レポート, 期末試験, 期末発表など) : 60% 上記を合算して, 最終的な成績評価を行う予定です.	講義	・パワーポイントを使った講義です. ・毎回, 講義資料を配布します.	・地域イノベーション論Ⅰを履修していることが望ましい. ・地域イノベーション・システムの構造的枠組みの理解を目指し, 地域イノベーションによる地域産業活性化に興味を持って取り組んでください.	火曜日 : 11:50～12:40 事前にメールにてコンタクトを取ってください.	kumata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください.	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
164	164	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	地域基礎論A(The Basics of Regional Studies A)	1	選択必修	2	後期	火曜日5・6時限	南　修平	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	アメリカ合衆国に関する基礎的な地理・歴史・社会・文化の特徴を理解すること 20世紀におけるアメリカ合衆国の歩みをグローバル・ヒストリーとして理解すること 人種や階級、エスニシティ、ジェンダーなど様々な観点から、物事を考察していく視点を発展させること	20世紀初頭に世界随一の大国となったアメリカ合衆国は政治経済や軍事、文化面でグローバルな影響力を持ち続けており、それは日常生活にも深く浸透しています。本講義では、そのことを理解するために、アメリカ合衆国の地政学的特徴を把握し、20世紀全体におけるアメリカ合衆国の歩みについて基本事項を中心に学んでいきます。そして、複雑なアメリカ社会の在り様の学び方を通じて、物事を多面的に捉え、考察し、学んでいく力を養っていきます。	第1回　イントロダクション―アメリカ合衆国を俯瞰する 第2回　再建政治の終了から世紀転換期のアメリカ―南北の統一とその歴史的意味 第3回　大量移民の到来と「緊束」のアメリカ 第4回　多様化する人々の暮らし―消費文化の拡がり 第5回　太平洋を越えた人々―アジア系移民へのまなざし 第6回　帝化不能外国人の到達とアメリカニゼーション―高まる人種主義 第7回　第2次世界大戦―愛国主義の中のマイノリティ 第8回　人種に揺れるアメリカ―日系移民の「位相」から 第9回　冷戦下のアメリカ社会―「豊かさ」の謳歌 第10回　開花するアメリカ大衆文化―消費・郊外・若者 第11回　黒人公民権運動―草の根の人々の闘い 第12回　黒人公民権運動―都市に生きる黒人 第13回　ヴェトナム戦争とアメリカ社会 第14回　ヴェトナム戦争―カウンター・カルチャーの視点から 第15回　まとめ―20世紀のアメリカを再考する 期末試験	高校の世界史とは内容や情報量で大きく異なることが予想されます。以下のような予習・復習が講義の理解に役に立つと思います。 予習：次回講義で扱うトピックについて、図書館やウェブサイトを活用して調べておくことが大切です。アメリカの大学や研究機関は研究成果の発信を積極的に行っており、講義ではそうしたウェブサイトをたくさん紹介します。それらを積極的に活用し、アメリカ合衆国の理解だけでなく英語力の向上にも役立ててください。 復習：配布されたハンドアウトに記したメモやノートをしっかり見直して下さい。また、講義で紹介した参考文献や資料に対して積極的にアクセスすることを強く推奨します。	歴史学関連	政治学関連	地理学関連	–	教科書は特に用いません。講義ではトピックごとにハンドアウトを配布する他、写真や動画、ウェブサイトなどの視聴覚資料を可能な限り使用します。	有賀夏紀『アメリカの20世紀』(上)(下)(中公新書、2002年) 明石紀雄、飯野正子『エスニック・アメリカ―多文化社会における共生の模索 第3版』(有斐閣、2011年) 和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』(ミネルヴァ書房、2014年) 兼子歩、貴堂嘉之編『「ヘイト」の時代のアメリカ史―人種・民族・国籍を考える』(彩流社、2017年) 以上の書籍は全て本学図書館で入手できます。 その他にも参考文献・資料は多くあるので、適宜講義の中で紹介します。	平常評価(講義で扱われた各種課題への取り組み、授業への参加度)50%、期末試験50%を総合して評価します。	講義	講義形式を中心とし、主です。受講者数によってはグループワークなどの演習形式をとることもあります。	アメリカについての知識の有無は受講要件にはなりません。ただし、漠然と聞いているだけでは理解が困難になるため、講義中はノートを綿密にとり、特に重要な点はしっかり強調しておくなど、工夫が求められます。出欠管理は厳格に行います。遅刻・欠席には十分注意してください。	火曜日9・10時限です。ただし、不在の場合もあるので、事前にアポイントメントをとることをお勧めします。	初回講義にてお伝えします。	特になし。
165	165	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	地域基礎論B(The Basics of Regional Studies B)	2	選択必修	2	前期	火曜日5・6時限	齋藤　義彦	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	現代社会の仕組みの源流である近代欧州の誕生の意味を理解し、現代ドイツがその後の歴史的文脈からいかに形成されてきたかを知ること	欧州の歴史を概観したうえで、現代ドイツと近代史との関係を検討します。現代ドイツの政治的性格を知ることが重要です。	(1)導入(世界、ヨーロッパ、ドイツ、日本、青森) (2)ヨーロッパ世界の誕生以前 (3)ヨーロッパの誕生としてのフランク帝国 (4)神聖ローマ帝国 (5)ドイツ騎士団とハンザ同盟 (6)イタリアルネサンスからドイツルネサンスへ (7)ハプスブルク帝国 (8)宗教改革 (9)中間まとめと中間試験（40分） (10)科学革命 (11)近代国家とドイツ (12)啓蒙主義 (13)市民革命とドイツ (14)ドイツ帝国 (15)世界大戦とドイツ (16)期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	[予習]各回のテーマをあらかじめ予備的に理解すること [復習]各回のテーマの理解を深めるために追加的な資料に当たること	歴史学関連	政治学関連	地理学関連	–	指定されません	岡崎勝世『世界史とヨーロッパ」講談社現代新書　2003年、阿部謹也『物語　ドイツの歴史』中公新書　1998年	授業の成果(30%)と中間・期末試験(70%)を総合的に評価します。	講義	講義形式	世界史に関係する幅広い基礎科目、テーマ科目を履修してください	月曜7・8時限または昼休み時間	yosihiko(at)hirosaki-u.ac.jp (at)は@に置き換えてください	なし
166	166	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	地域行政実習(Regional Administration Practicum)	3	選択必修	2	前期	木曜日7～10時限	児山　正史	地域志向科目	レベル3	CP・DP 2 解決していく力	地域社会の優先的な課題を特定し、その解決策を立案するための手法を身につけること	○地域社会の優先的な課題を特定し、その解決策を立案するための手法を学び、実践します。	第1回　イントロダクション 第2～5回　地域社会の優先的な課題を特定する 　第2回　地域社会の課題を列挙・整理する 　第3回　地域社会の重要な課題を特定する 　第4回　地域社会の重要な課題の状態を把握する 　第5回　地域社会の優先的な課題を特定する 第6～10回　1つめの課題の解決策を立案する 　第6回　従来の対策を把握・整理する 　第7回　従来の対策の効果を把握する 　第8回　従来の対策を改善する 　第9回　新しい対策を立案する 　第10回　対策の予算を確保する 第11～15回　2つめの課題の解決策を立案する 　第11回　従来の対策を把握・整理する 　第12回　従来の対策の効果を把握する 　第13回　従来の対策を改善する 　第14回　新しい対策を立案する 　第15回　対策の予算を確保する ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合があります。	地域社会の課題やその解決策に関する調査・考察などが必要です。	政治学関連	–	–	教科書は使用せず、レジュメ・資料を配布します。	授業中に配布するレジュメで適宜紹介します。	(1)作業・議論への参加、(2)発表の回数・水準、(3)授業レポート(各回の授業内容などをまとめたもの)の評価を合算して成績評価を行います(配点は各3分の1)。	実習	グループごとに作業・議論し、その結果を各グループの代表者が発表します。	特にありません。	金曜日7・8時限(他の曜日・時限でも可)。	koyamatd@hirosaki-u.ac.jp	弘前市の地域社会の課題を取り上げて、優先的な課題の解決策を立案します。
167	167	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域行動論演習A(Colloquium on Regional Behavior A)	2	選択必修	2	前期	木曜日5・6時限	○古村健太郎、杉山　祐子、曽我亨、羽渕一代、増山　篤、白井野　愛子、平井太郎、近藤　史、白石　壮一郎、花田　真一、園訪　淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	調査したデータの整理・分析についての具体的な方法を学び、身につけること	1－2年次を通して講義形式で学ぶ社会学・社会心理学・人類学・統計学・地理情報科学などの調査方法を、実際の調査データ分析にどのように使っていくかを具体的に学んでいきます。コア科目・専門科目と実習科目と有機的に連携し、架橋する科目であり、たとえば調査データの教材として、総務省E-statからの政府統計データや地域経済システムRESAS、地理情報システム、その年度の「社会調査実習」での調査データを利用することもあります。	調査方法論についての講義と具体的な調査データを教材に用いら演習の繰り返しです。グループワークで作業を実施することもあります。そのなかで、講義形式では学びきれない個別のデーターについての分析法を学び、実習では十分にカバーできない調査プロジェクト全体の目的の中の個別調査やデータのもつ意味の解釈を学びます。いずれも、実習科目履修および卒業研究にとって必須のポイントです。 一部集中的に、ソフトを利用した統計データ分析等の訓練をおこなうことがあります。	教員の指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	心理学関連	–	特になし。	特になし。	演習のなかでのワークへの参加と貢献が評価の対象となります。	演習	講義、演習、実習のそれぞれの要素をミックスした形式です。	地域行動コースの学生は、社会調査実習Ⅰと並行してかならず履修すること。 実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回のガイダンスで説明します。	—	—

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
168	168	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域行動論演習B(Colloquium on Regional Behavior B)	2	選択必修	2	後期	木曜日5・6時限	○古村健太郎、杉山 祐子、菅我 亨、羽渕 一代、増山 篤、白比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、露訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	調査したデータの整理・分析についての具体的な方法を学び、身につけること	1～2年次を通して講義形式で学ぶ社会学・社会心理学・人類学・統計学・地理情報科学などの調査方法、および実習データの分析を、反省的に復習しながら学んでいきます。コア科目・専門科目と実習科目とを有機的に連携し、卒業研究の調査データ分析への応用につなげる科目です。調査データの教材として、総務省E-statからの政府統計データや、その年度の「社会調査実習」での調査データを利用することもあります。	調査方法論についての講義と具体的な調査データを教材にもちいた演習の繰り返しです。グループワークで作業を実施することもあります。そのなかで、講義形式では学びきれない個別のデータについての分析法を学び、実習ではじゅうぶんにカバーできない調査プロジェクト全体の目的のなかの個別調査やデータのもつ意味の解釈を学びます。いずれも、実習科目履修および卒業研究にとって必須のポイントです。 一部集中的に、ソフトを利用した統計データ分析等の訓練をおこなうことがあります。	教員の指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	心理学関連	–	特になし。	特になし。	演習のなかでのワークへの参加と貢献が評価の対象となります。	演習	講義、演習、実習のそれぞれの要素をミックスした形式です。	地域行動コースの学生は、社会調査実習Ⅱと並行してかならず履修すること。 実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回のガイダンスで説明します。	—	—
169	169	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域行動論演習C(Colloquium on Regional Behavior C)	3	選択必修	2	前期	木曜日5・6時限	○古村健太郎、杉山 祐子、菅我 亨、羽渕 一代、増山 篤、白比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、露訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	調査したデータの整理・分析についての具体的な方法を学び、身につけること	1～2年次を通して講義形式で学んだ社会学・社会心理学・人類学・統計学・地理情報科学などの調査方法を、実際の調査データ分析にどのように使っていくかを具体的に学んでいきます。コア科目・専門科目と実習科目とを有機的に連携し、卒業研究の調査データ分析への応用につなげる科目です。総務省E-statからの政府統計データや地域統決システムRESAS、地理情報システム、その年度の「社会調査実習」での調査データを利用することもあります。	調査方法論についての講義と具体的な調査データを教材に用いら演習の繰り返しです。グループワークで作業を実施することもあります。そのなかで、講義形式では学びきれない個別のデータについての分析法を学び、実習では十分にカバーできない調査プロジェクト全体の目的の中の個別調査やデータのもつ意味の解釈を学びます。いずれも、実習科目履修および卒業研究にとって必須のポイントです。 一部集中的に、ソフトを利用した統計データ分析等の訓練をおこなうことがあります。	教員の指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	心理学関連	–	特になし。	特になし。	演習のなかでのワークへの参加と貢献が評価の対象となります。	演習	講義、演習、実習のそれぞれの要素をミックスした形式です。	地域行動コースの学生は、地域フィールドワーク実習Ⅰと並行してかならず履修すること。 実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回のガイダンスで説明します。	—	—
170	170	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	地域司法実習(Regional Justice Practicum)	3	選択必修	2	後期	金曜日5～8時限	平野 潔	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	青森県の司法が直面する課題を抽出した上で、それに対する解決策を提示すること 提示した解決策が現実社会において通用するのか、さらにふさわしい解決策がないかを模索し続けること	司法制度は、日本全国一律で稼働しているため、地域の特色は出にくいとされています。しかし、実際には、地域ごとの課題が生じています。例えば、司法過程などが代表的な問題です。また、地域の司法に関する課題を考えることで、現在の司法制度の問題点を探ることができる場合もあります。本実習では、学生が決めたテーマについて、現在の司法制度についての知識を深めた上で、青森県内の専門家に話を伺ったり、施設見学や裁判傍聴などをしたりしながら、地域における司法の課題を発見し、その課題克服のために何が必要かを考えていきます。最終的には、授業内で報告会を行い、その内容を報告書の形で文章化をしたいと思います。 テーマは、履修者の希望を聴いたうえで決定します。訪問先に関しても、履修者の希望を聴いた上で決定する予定です。	第1回　イントロダクション 第2回　地域司法実習概論 第3回　テーマ決定 第4回　テーマに関する調査活動① 第5回　テーマに関する調査活動② 第6回　テーマに関する調査活動③ 第7回　中間報告会 第8回　専門家のレクチャーや施設訪問などの調査活動① 第9回　専門家のレクチャーや施設訪問などの調査活動② 第10回　専門家のレクチャーや施設訪問などの調査活動③ 第11回　専門家のレクチャーや施設訪問などの調査活動④ 第12回　調査内容の取りまとめ① 第13回　調査内容の取りまとめ② 第14回　調査内容の取りまとめ③ 第15回　最終報告会 ※詳細は、開講時に説明します。また、調査の進捗状況によって日程が変更になることもあります。	(予習)青森に限らず「地域」で生じている様々な問題に関するニュースや新聞記事に、目を通しておいてください。 (復習)調査活動の際に紹介する参考文献などに目を通し、知識を深めていってください。	法学関連	–	–	–	とくに指定しません。	とくに指定しません。通宵必要な文献は紹介していきます。	平常評価(調査活動への参加度)30% 中間評価(中間報告における報告内容)30% 最終評価(最終報告における報告内容)40%	実習	実習形式です。グループあるいは個人による調査活動が中心になります。	法を巡る様々な問題を解決するためには、法の枠組みを知っておく必要があります。そのためには、法律に関する基本科目をできるだけ多く履修しておくことを希望します。 地域における様々な課題は、日々動いていますので、準備学習にも書きましたが、毎日、新聞やニュースに触れるように心がけてください。	木曜1・2限(8:40～10:10) ※上記以外の時間でも、研究室にいる場合には対応します。ただ、その場合には、あらかじめメール等でアポイントメントを取るようにしてもらえると助かります。	k-hirano(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	青森県内の司法関連機関に出向いて、その職員等から専門的見地に立った意見を聴きながら、青森県内の司法に関する諸問題について学んでいく授業になります。
171	171	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域情報論A(Approaches to Regional Information A)	2	選択必修	2	前期	水曜日3・4時限	増山 篤	地域志向科目	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力	地理情報システムソフトウェアで利用するデータ(空間データ)を収集したり、自ら作成できるようになること 地理情報システムソフトウェアの基本的操作方法を修得すること	空間データを作成・管理、表示、操作、分析するコンピュータシステムは「地理情報システム」(GIS, Geographic Information System)と呼ばれ、様々な分野での利活用が進められています。この授業では、オープンな空間データの利活用法、および、フリーの地理情報システムソフトウェア QGIS の操作法を修得します。	第1回 : ガイダンス 第2回 : QGISの基本操作 第3回 : 空間データの基礎知識(座標系など) 第4回 : GISで利用可能なオープンデータ 第5回 : アドレスマッチング(GISデータの自作) 第6回 : 空間データのヴィジュアライゼーション(コロプレス地図の作成、など) 第7回 : 属性テーブルの操作1(フィールド間の演算、関形に関する量の計算) 第8回 : 属性テーブルの操作2(テーブルの結合) 第9回 : 基本的解析処理1(バッファー操作、空間検索、空間結合) 第10回 : 基本的解析処理2(オーバーレイ) 第11回　QGISによる空間分析1(面積按分法によるデータ集計単位の相互変換) 第12回　QGISによる空間分析2(カーネル密度推定法) 第13回　QGISによる空間分析3(逆距離加重法による空間補間) 第14回　QGISによる空間分析4(GIS環境下でのハフモデルの実行) 第15回　QGISの機能を拡張する各種プラグイン(地形の三次元表示、カルトグラム、など)	特に予習をする必要はないが、しっかり復習を行うこと。	学際・新領域	地理学関連	–	–	今木 洋大、岡安 利治 編著『QGIS入門 第2版』、古今書院	必要に応じて、授業中に紹介します。	小課題(毎回提出)80%　最終レポート20%	講義	講義およびコンピュータを使った実習	特になし	初回にお伝えします。	メール：masuyama(at)hirosaki-u.ac.jp(at)を@に置き換えてください。 ホームページ：http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~masuyama/(学内限定)	—
172	172	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域情報論B(Approaches to Regional Information B)	2	選択必修	2	後期	金曜日3・4時限	増山 篤	地域志向科目	レベル3	CP・DP 2 解決していく力	地理情報システムを利用した空間データの分析を行い、地域の現状評価、課題抽出、課題解決策の提案、解決策の効果の評価ができるようになること	「地域情報論A」でその操作方法を学んだQGISを利用し、弘前市周辺の具体的な地域をケーススタディ対象として、その現状評価、課題抽出、課題解決策の提案、解決策の効果の評価に取り組みます。	第1回：ガイダンス 第2回：QGISの利用方法の復習 第3回：グループ編成 第4回：ケーススタディ対象地域の設定、および、対象地域の課題の認識・把握 第5回：ケーススタディに利用可能な空間データの検討、および、収集 第6回：各グループの進行状況の教員への報告、および、フィードバック 第7回：QGISを利用した、対象地域の現状・課題の可視化 第8回：QGISを利用した、対象地域の現状・課題の数量的把握 第9回：中間発表 第10回：中間発表時の質疑応答を踏まえた分析内容等の再検討 第11回：ケーススタディを深めるための追加的データ収集 第12回：対象地域の現状・課題を把握するための追加的地図作成およびデータ分析 第13回：対象地域の課題解決策の評価 第14回：プレゼンテーション作成 第15回：最終発表会	各回終了後に、予習兼復習として、それまでの成果・到達地点、今後の目標とその達成のために必要な作業・分析、などを確認すること。	学際・新領域	地理学関連	–	–	特にありません。	今木 洋大、岡安 利治 編著『QGIS入門 第2版』、古今書院 その他、必要に応じて紹介します。	この授業では、何人かでグループを組み、課題に取り組み、最後に成果発表を行う。課題の出来、プレゼンテーションの内容、グループへの貢献度によって評価する。	講義	コンピュータを使った実習形式	成績評価の箇所にあります ように、この授業ではグループを組みますので、グループに貢献する意識を強くもち、また、グループの他のメンバーに迷惑をかけないように心がけてください。	初回にお伝えします。	メール：masuyama(at)hirosaki-u.ac.jp(at)を@に置き換えてください。 ホームページ：http://www.stu.hirosaki-u.ac.jp/~masuyama/(学内限定)	—
173	173	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域協働実習Ⅰ(1)(Regional Collaboration Practicum Ⅰ)	3	選択必修	2	前期	木曜日1～4時限	○古村健太郎、杉山 祐子、菅我 亨、羽渕 一代、増山 篤、白比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、露訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	地域社会や自治体などと連携しながら対話的な調査を経験すること。それを通して大学と地域との連携、実社会と社会調査との関係についてのビジョンを涵養すること グループワークのなかで自分の役割を見いだし、調査プロジェクトをすすめること	国内各地で、地方大学と地域との連携がすすめられています。地域協働実習では、地域住民、各自治体、大学、そのほかNPO、地域企業など地域のなかのさまざまなアクター(のなかに大学(大学生の活動)や社会調査がどのような位置にあり役割を果たしうるかを、具体的な調査活動を通して考えていきます。 ※　第1回はガイダンスをおこない、そこで調査グループ分けもおこないます。必ず出席すること。	地域協働実習は、地域フィールドワーク実習Ⅰおよび Ⅱの履修者が並行して履修することが想定されています。地域社会での集中的な調査の計画・実施にあたります。調査地や内容については、実習内でのグループによって異なります。詳細は、第1回に実施のガイダンスで説明します。	授業時間に教員が次回の実習に必要な準備を指示します。その指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	–	–	とくになし。	とくになし。	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	実習	実習形式です。時間外の調査や作業がある場合があります。	・地域フィールドワーク実習Ⅰ とⅡを履修している3年生が並行して履修できます。 ・学生保険加入を履修の条件とします。 ・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回に実施するガイダンスで指示します。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/action/index.html	—

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
174	174	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域アクションリサーチ実習(2)(Regional Action Research Practicum I)	2	選択必修	2	前期	月曜日1・2時限 金曜日1・2時限	佐藤　和之	-	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	日本人学生か留学生か関わらず、また所属が文化創成課程か社会経営課程かにかかわらず、社会言語学の講義を履修し、ことばへの興味が強くなった学生たちが実践を通して言語研究の方法やその意義を学ぶこと 言語調査や社会調査の的確なデザインと分析ができるようになること	学生が主体となった作業と討論が中心の実習です。 現代社会が抱える言語学的課題の発見方法と解決の糸口の見つけ方、チームワークを通した課題解決までの一連の研究手法を訓練します。具体的には以下の5目標について、16回の実習を通して身につけます。 (1)アンケート調査票の作り方やインタビューの方法を通して、社会言語学的な言語調査法を学びます。 (2)社会言語学的手法によって得られた実際のデータを使い、分析の方法と解釈のしかたを学びます。 (3)それら調査、分析の結果を発表用のレジュメにする方法や図や表を使うこと、文字で表現する術を学びます。 (4)発表レジュメを使って口頭で説明し、公表する技術(＝相手に納得してもらう表現法)を学びます。 (5)先輩や同輩との共同研究の仕方や共同作業の方法を実践によって身に付けます。 実際に社会から求められる言語学的な課題の解決、具体的に提案するアクションリサーチの実習です。	ことばに関わる豊かな知見や分析能力が育つよう、日本語を中心として、ことばの調査の方法や分析のし方、取りまとめ法について学びます。さまざまな視点とはたとえば次のようなものです。 第1回～第3回　災害発生時の情報伝達の方法 第4回～第6回　災害下での外国人とのコミュニケーションの方法 第7回～第9回　的確な日本語表現、適切に情報を伝えるとはどういうことか 第10回～第12回　方言と共通語との関係や役割の違い 第13回～第15回　日本語と外国語の関係と日本語の役割 第16回　日本語教育の海外での展開事情 ことば(日本語)を新しい視点から客観的に考え、自分のことばで説明できる基礎知識を身に付け、広い視野をもった社会人になることが大切な目的です。	「与えられてから考える」という受動的学習法から放たれ、ゼミ生や実習生が互いに話し合って課題を見つけ、解決していく能動的学習法を身につけます。 実習というコミュニティーの中で、課題発見型と課題解決型の実践的論理性を習得します。	言語学関連	社会学関連	教育学関連	-	ありません。実習の中で資料をゼミ生が適宜配布してくれます。	実習内で適宜紹介します。実習室には必要な文献や論文が準備されています。 パソコンや必要なソフトも用意されています。	日頃からの共同作業、およびその成果としての実習最終回の発表、その後の提出物によって評価します。	実習	実習形式：学ぶ・立案する・調べる・分析する・発表する・まとめる・討論する・修正する・報告するということ	特記事項はありません	研究室在室時はいつでも大丈夫です。火曜日の11時50分〜12時40分は在室しています。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/	特記事項はありません

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
175	175	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域協働実習Ⅱ(1)(Regional Collaboration Practicum Ⅱ)	3	選択必修	2	後期	木曜日1～4時限	○古村健太郎、杉山 祐子、菅我 亨、羽渕 一代、増山 篤、日比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、蹇 訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	地域社会や自治体などと連携しながら対話的な調査を経験すること。それを通して大学と地域との連携、実社会と社会調査との関係についてのビジョンを涵養すること グループワークのなかで自分の役割を見いだし、調査プロジェクトをすすめること	国内各地で、地方大学と地域との連携がすすめられています。地域協働実習では、地域住民、各自治体、大学、そのほかNPO、地域企業など地域のなかのさまざまなアクター(のなかに大学(大学生の活動)や社会調査がどのような位置にあり役割を果たしうるかを、具体的な調査活動を通して考えていきます。 ※ 第1回はガイダンスをおこない、そこで調査グループ分けもおこないます。必ず出席すること。	地域協働実習は、地域フィールドワーク実習Ⅰおよび Ⅱの履修者が並行して履修することが想定されています。地域社会での集中的な調査の計画・実施にあたります。調査地や内容については、実習内でのグループによって異なります。詳細は、第1回に実施のガイダンスで説明します。	授業時間に教員が次回の実習に必要な準備を指示します。その指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	–	–	特になし。	調査結果をまとめるにあたって必要な文献などある場合には、実習時間中に適宜、教員から指示します。	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	実習	実習形式です。時間外の調査や作業がある場合があります。	・地域フィールドワーク実習Ⅰ とⅡを履修している3年生が並行して履修できます。 ・学生保険加入を履修の条件とします。 ・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回に実施するガイダンスで指示します。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/action/index.html	–
177	177	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域行動論演習D(Colloquium on Regional Behavior D)	3	選択必修	2	後期	木曜日5・6時限	○古村健太郎、杉山 祐子、菅我 亨、羽渕 一代、増山 篤、日比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、蹇 訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	調査したデータの整理・分析についての具体的な方法を学び、身につけること	1～2年次を通して講義形式で学んだ社会学・社会心理学・人類学・統計学・地理情報科学などの調査方法を、実際の調査データ分析にどのように使っていくかを具体的に学んでいきます。コア科目・専門科目と実習科目と有機的に連携し架橋する科目であり、たとえば調査データの教材として、総務省E-statからの政府統計データや地域経済システムRESAS、地理情報システム、その年度の「社会調査実習」での調査データを利用することもあります。	調査方法論についての講義と具体的な調査データを教材に用いら演習の繰り返しです。グループワークで作業を実施することもあります。そのなかで、講義形式では学ばきれない個別のデータについての分析法を学び、実習では十分にカバーできない調査プロジェクト全体の目的の中の個別調査やデータのもつ意味の解釈を学びます。いずれも、実習科目履修および卒業研究にとって必須のポイントです。 一部集中的に、ソフトを利用した統計データ分析等の訓練をおこなうことがあります。	教員の指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	心理学関連	–	特になし。	特になし。	演習のなかでのワークへの参加と貢献が評価の対象となります。	演習	講義、演習、実習のそれぞれの要素をミックスした形式です。	地域行動コースの学生は、地域フィールドワーク実習Ⅱと並行してかならず履修すること。	第1回のガイダンスで説明します。実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	–	–
178	178	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	地域政策実習(Regional Policy Practicum)	3	選択必修	2	後期	木曜日7～10時限	小谷田 文彦	地域志向科目	レベル3	CP・DP 2 解決していく力	青森県の課題とその対策について理解すること 青森県の課題について、独自の解決案を立案し、説明できるようになること	青森県庁中南県民局の協力を受け、講義を行います。 地域の課題を専門職員と共に考え、政策提案を目指します。 昨年度は青森県庁職員をお招きし、青森県における冬の農業について発表会を行いました。	第1回　講義の紹介 第2回　地域の課題と施策について 第3回　課題についての調査発表 第4回　政策提案1 第5回　政策提案2 第6回から第9回　第2回から第5回と同様 第10回から第13回　同上 第14回　最終発表 第15回　予備日	[予習]考察する課題について自ら調べ検討して下さい。 [復習]講義中に検討した内容について更に自ら調べて下さい。	経済学関連	経営学関連	社会学関連	–	用いません。	講義中に指示します。	講義内の発表(50%)、資料等の成果物(50%)で評価します。	実習	講義、演習形式	特になし	水曜日10時から11時	koyata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	–
179	179	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域地理学A(Regional Geography A)	2	選択必修	2	前期	集中	北村 繁(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	世界の気温・降水量の分布と、それがかたちづくられるメカニズムを理解すること 気候区分について学ぶとともに、植物がどのように気候環境に適応して分布しているかを理解すること 上記の学習を通じて、気温・降水量という身近な気候要素から、気候帯や生物環境を見通す力を養うこと	世界の諸地域の自然環境、特に、熱帯・温帯・冷帯・乾燥帯などにおける気候・植生の特徴について理解を深めるとともに、その分布について学ぶ。	1. イントロダクション、「地球はまるい」、地球儀と縮尺 2. 方位、緯度と経度 3. 気温と降水量の分布、大気をあたためるもの 4. 大気循環と熱交換 5. 降雨のしくみと降水量の分布 6. フェーンと季節風 7. 気候分類(アリソフ、ソーンスウェイト、ケッペン) 8. ケッペンの気候分類(具体的な分類手順)、小レポートの出題、植物の分類① 9. 植物の分類②、熱帯の環境と植生(①全般) 10. 熱帯の環境と植生(②湿潤熱帯、③季節性熱帯) 11. 熱帯の環境と植生(④乾燥熱帯)、温帯の環境と植生(①全般) 12. 温帯の環境と植生(②気候の概要、③雨の多い湿潤な温帯) 13. 温帯の環境と植生(③雨の少ない湿潤な温帯、④乾燥した温帯) 14. 冷帯の環境と植生、寒帯の環境と植生 15. 植生の高度変化 ※数字は講義の順序を示しており、必ずしも実際の授業回に対応していない場合があります。 ※講義中の問いかけに対する学生の応答の状況から判断されるクラスの理解度に応じて、講義の速度を調節する場合があります。	インターネット(グーグルサイト)で講義に使用するスライドと同様のものを載せていますので、予習・復習に利用してください。アドレス(URL)等は講義1回目「イントロダクション」の中でお知らせします。	地理学関連	–	–	–	教科書は特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。	◎仁科淳司(2003)『やさしい気候学』、古今書院、120 pp. ◎福井英一郎(1966)『自然地理学』(朝倉地理学講座4)、朝倉書店 ◎シュミットヒューゼン(1959)『植生地理学』、朝倉書店(宮脇昭訳、1968)、308pp. ◎斎藤功ほか(1990)『環境と生態』(地理学講座3)、古今書院、258pp. ◎林一六(1990)『植生地理学』、大明堂、270pp. ◎堀田満ほか(1997)『植物の生態地理』(朝日百科植物の世界13)、朝日新聞社、352pp. など(他にも、講義中に配布する資料で紹介します。)	平常評価(講義中に指名されての応答・講義中の自発的な質問):5% 中間評価(小レポート):15% 期末評価(学期末に複数課題のレポートを出題):80%	講義	LCDで、教室前方に資料を提示しながら講義を進めることが多いので、前方スクリーンが見える位置に着席するようにしてください。 なお、講義中に指名して問いかけますので、あらかじめこて来ください。	高校で地理を選択していたかどうかは問いません。ただし、本講義は、高校の地理と重複があるので、高校で地理を選択していた人には、より理解しやすいかもしれません。	なし	講義1回目(イントロダクション)の中でお知らせします	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
180	180	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域地理学B (Regional Geography B)	2	選択必修	2	後期	集中	北村 繁(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	土壌の種類やできかたを学ぶ。土壌が気候や植生などの環境によって変化する存在であることを知ること。 気候率によって、気候・植生・土壌の間の物質循環が異なることを理解すること。 上記の学習を通じて、気候帯ごとに物質循環の違いを見通して、環境中の土壌資源や生物資源を利用する、ということの重要性を学ぶこと	まず、土壌生成の基礎を学習し、続いて、熱帯・温帯・冷帯・乾燥帯などに形成される土壌の種類やその利用法について、気候・植生との関係や環境中での物質循環の見地から理解を深める。	1. イントロダクション、土壌とは何か、土壌の機能、土壌の肥沃性 2. 土はなにからできているか 、土はどのように形成されるか①(無機成分) 3. 土はどのように形成されるか②(有機成分)、土と気候①（温度） 4. 土と気候 ②(降雨)、土の分類 5. 小テスト、世界の気候帯①(大気循環と気候帯) 6. 世界の気候帯②(亜熱帯、アリソフの気候分類) 7. 湿潤熱帯の気候的特徴と植生、湿潤熱帯の土壌① 8. 湿潤熱帯の土壌② 9. 季節性熱帯の気候的特徴と植生、季節性熱帯の土壌① 10. 季節性熱帯の土壌② 11. 湿潤な温帯の気候的特徴と植生、湿潤な温帯の土壌① 12. 湿潤な温帯の土壌② 13. 乾燥した温帯の気候的特徴と植生、乾燥した温帯の土壌、半乾燥～乾燥熱帯の気候的特徴と植生 14. 半乾燥～乾燥熱帯の土壌、冷帯・寒帯の気候的特徴と植生 15. 冷帯・寒帯の土壌、火山灰土壌 ※数字は講義の順序を示しており、必ずしも実際の授業回に対応していない場合があります。 ※講義中の問いかけに対する学生の応答の状況から判断されるクラスの理解度に応じて、講義の速度を調節する場合があります。	インターネット(グーグルサイト)で講義に使用するスライドと同様のものを載せていますので、予習・復習に利用してください。アドレス(URL)等は講義1回目「イントロダクション」の中でお知らせします。	地理学関連	–	–	–	教科書は特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。	◎小山正忠(1986)『土壌学』、大明堂、292pp. ◎斎藤功・野上道男・三上岳彦(1990)『環境と生態(地理学講座5)』、古今書院、258pp. ◎松井健(1988)『土壌地理学序説』、築地書館、316pp. ◎大羽裕・永塚鎮男(1988)『土壌生成分類学』、養賢堂、330pp. ◎岩田修二・小疇尚・小野有五・編(1995)『世界の山やま ヨーロッパ・アメリカ』、岩波書店、165pp. など(他にも、講義中に配布する資料で紹介します。)	平常評価(講義中に指名されての応答・講義中の自発的な質問):5% 中間評価(小テスト):15% 期末評価(記述式試験、学期末に実施):80%	講義	LCDで、教室前方に資料を提示しながら講義を進めることが多いので、前方スクリーンが見える位置に着席するようにしてください。なお、講義中に指名して問いかけますので、あらかじめご了承ください。	地誌A／地域地理学Aを予め履修していることが望ましい(その方が内容の理解が深まります。ただし、地誌A／地域地理学Aを前提とした講義ではありません)	なし	講義1回目(イントロダクション)の中でお知らせします。	なし
181	181	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	地域データ分析I/Regional Data Analysis I)	2	選択必修	2	前期	木曜日5・6時限	大橋 忠宏	–	レベル2	CP・DP 2 解決していく力	経済経営分野に関する地域のさまざまな課題を発見／整理する方法とデータを活用するための情報処理の基本的考え方を理解し、コンピュータを活用して基礎的なデータ処理ができるようになること	地域の課題解決に向けて、まず課題を明確化するための代表的な方法を学ぶ。次に、さまざまな地域課題解決に向けた情報処理のための基礎的な考え方とコンピュータによる計算方法を学習する。後半では、データ処理の基礎及び需要予測の方法と青森県内の分析事例を元に地域データの活用方法について学習する.	第1回:ガイダンス、地域などの課題を数理的に考えるための手順と仕組み 第2回:地域などの課題を明確化する方法①:ブレーンストーミングで弘前の課題を議論する 第3回:地域などの課題を明確化する方法②:課題の整理や構造化(KJ法やISM法) 第4回:コンピュータを利用した数式の処理①:社会科学分野で利用する関数と一変数の微分 第5回:コンピュータを利用した数式の処理②:多変数関数の微分 第6回:コンピュータを利用した数式の処理③:データ処理と行列基礎(加法や積など) 第7回:コンピュータを利用した数式の処理④:線含出し法による連立方程式の解き方 第8回:データ処理の基礎①:データからわかること 第9回:データ処理の基礎②:地域のデータにはどのようなものがあり、どう整理するか？ 第10回:データ処理の基礎③:情報処理内容を記述する方法とコンピュータ処理での誤差 第11回:需要を予測する①:エクセルを利用した回帰分析と最小二乗法 第12回:需要を予測する②:地域の諸活動を支える交通を例としたサービスの特徴とデータ 第13回:需要を予測する③:交通需要モデルとその性質など 第14回:需要を予測する④:弘前市の城東環状100円バスや大鰐線を例とした需要モデルの活用例 第15回:需要を予測する⑤:四段階推定法による交通需要予測の応用と実務での活用	予め配付プリントに目を通しておく講義の流れがわかりやすくなるでしょう. 毎回の講義での小レポートに関して、できなかった問題については、解説を元にできるだけ早くやり直しておくと理解が深まるでしょう.	経営学関連	経済学関連	–	–	授業で配布するプリントにて適宜紹介します.	梶尾建生・程鵬・三輪冠奈.『経営情報処理の実践』、同文舘出版. 高井英造・真鍋龍太郎(編).『問題解決のためのオペレーションズリサーチ入門:Excelの活用と実務的例題』. 日本評論社. 秋山孝正・上田孝行(編).『すぐわかる計画数学』. コロナ社. 永星浩一、福山博文(編).『情報解析と経済』. 勁草書房. など	講義毎に小レポートを課し、複数回のレポートを総合的に判断して成績を評価する. なお各レポートの評価は、内容の理解度や論理的な思考力、処理方法の的確さを総合的に判断する.	講義	考え方・計算方法について講義し、必要に応じてコンピュータを利用した演習を行う. 授業の最後に、質問・感想をメールで提出し、必要に応じて次回の講義最初に回答する.	情報処理入門Aの知識があるとコンピュータを利用した演習に無理なく取り組めるでしょう.	木曜日10:30~11:30	tada-oh(at)hirosaki-u.ac.jp(at)を半で置き換えて下さい.	なし
182	182	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	地域データ分析II(Regional Data Analysis II)	2	選択必修	2	後期	木曜日5・6時限	大橋 忠宏	–	レベル2	CP・DP 2 解決していく力	経済経営分野の問題について、地域のデータを活用して、企画立案で必要となるプロジェクト期間の計算や時間可能な施設規模の見積、的確な意思決定を支援する方法の基本的な考え方を理解し、コンピュータを利用して分析できるようになること	経済経営分野では、地域での最適な生産や輸送などに代表されるように、問題の最適化を考えることが多い。講義の前半では最適化問題を解くための方法である数理計画法の基礎とコンピュータを利用した計算方法について学習する. 中盤以降は、企画立案等で必要なプロジェクトに含まれる各作業期間等の管理方法、複数の評価基準を含む意思決定の方法と地域での活用事例、時間可能な業務空白数や店舗容量の設計方法と特定地域を想定とした活用に関する演習, 在庫管理の方法について学習する.	第1回:ガイダンス 第2回:数理計画法(効率的な生産や輸送、最適化問題の表現・分析)①:問題の表現, 線形計画法 第3回:数理計画法②:線形計画問題の解法(シンプレクス法) 第4回:数理計画法③:非線形計画問題の基礎(ラグランジュの未定乗数法, K-T条件) 第5回:数理計画法④:エクセルのソルバーを利用した数理計画問題の解法 第6回:PERT(日程を管理する方法)①プロジェクトの日程を表現する 第7回:PERT②プロジェクトの日程管理を計算する 第8回:AHP(複数の評価基準を含む意思決定)①問題の階層的表現, 一対比較 第9回:AHP②ウェイトの計算と整合度 第10回:AHP③青森県内観光地の魅力度評価適用事例を使って地域への活用を考える 第11回:待ち行列理論(レジやへ気店等の行列の評価)①窓口が一つのモデル 第12回:待ち行列理論②複数窓口対応, 乱数の生成とシミュレーション 第13回:待ち行列理論③弘前での新規出店を想定して席数や駐車場台数について考える 第14回:在庫の管理①:在庫の考え方と経済的発注量 第15回:在庫の管理②:さまざまな在庫モデルと在庫切れを防ぐための在庫の考え方	予め配付プリントに目を通しておく講義の流れがわかりやすくなるでしょう. 毎回の講義での小レポートに関して、できなかった問題については、解説を元にできるだけ早くやり直しておくと理解が深まるでしょう.	経営学関連	経済学関連	–	–	授業で配布するプリントにて適宜紹介します.	高井英造・真鍋龍太郎(編).『問題解決のためのオペレーションズリサーチ入門:Excelの活用と実務的例題』. 日本評論社. 秋山孝正・上田孝行(編).『すぐわかる計画数学』. コロナ社. 加藤豊, 小沢正典.『ORの基礎: AHPから最適化まで』. 実勢出版. 刀根薫.『増補 オペレーションズリサーチ読本』. 日本評論社. など	講義毎に小レポートを課し、複数回のレポートを総合的に判断して成績を評価する. なお各レポートの評価は、内容の理解度や論理的な思考力、処理方法の的確さを総合的に判断する.	講義	方法論と計算方法について講義し、コンピュータを利用した演習を行う. 授業の最後に質問・感想をメールで作成・提出し、必要に応じて次回の授業で回答する.	前期の地域データ分析の経験が理解を助けるでしょう.	木曜日10:30~11:30	tada-oh(at)hirosaki-u.ac.jp(at)を半で置き換えて下さい.	なし
183	183	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域フィールドワーク実習I(Regional Fieldwork Practicum I)	3	選択必修	2	前期	木曜日7～10時限	○古村健太郎、杉山 祐子、菅我 亨、羽渕 一代、増山 篤、日比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、露 訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	フィールドワークの方法について自覚的に取得し、卒業研究の調査に必要なスキルを経験的に身につけること グループワークのなかで自分の役割を見いだし、調査プロジェクトをすすめること	地域フィールドワーク実習は、青森県の地域研究を大きなテーマとして、複数のグループがそれぞれ異なる課題を設定し、調査設計から文献調査、現地調査、データの整理と分析、報告の作成まで一連の調査プロジェクトを主体的に学ぶことを目的としています。履修者は、基本的に自分の希望に応じてグループに入り、実習を行うことになります。 ※ 第1回はガイダンスをおこない、そこで調査グループ分けもおこないます。必ず出席すること。	地域フィールドワーク実習は、おもな受講者として社会調査実習Ⅰおよび Ⅱをすでに履修した3年次以上を想定しています。フィールドワーク(現地調査)をふくむ調査プロジェクトへの主体的参加がもとめられますが、実習の目的は2つです。第一は、自らが興味と関心を持ってグループ調査の諸々のワークに参与し、自分の役割を見いだしながら調査プロジェクトをすすめることです。第二は、そうしたグループワークの作業のなかで、卒業研究につながる調査方法やデータ整理・分析の方法、探究目的に応じた議論を構成することを、「やりながら」身につけることです。	授業時間に教員が次回の実習に必要な準備を指示します。その指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	心理学関連	–	特になし	調査結果をまとめるにあたって必要な文献などある場合には、実習時間中に適宜、教員から指示します。	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	実習	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	・地域行動コースの学生はからならず履修すること。(但し、社会言語学を専攻したい者については、この限りではない。) ・学生保険加入を履修の条件とします。 ・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回に実施するガイダンスで指示します。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/action/index.html	–
184	184	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域フィールドワーク実習II(Regional Fieldwork Practicum II)	3	選択必修	2	後期	木曜日7～10時限	○古村健太郎、杉山 祐子、菅我 亨、羽渕 一代、増山 篤、日比野 愛子、平井 太郎、近藤 史、白石 壮一郎、花田 真一、露 訪 淳一郎(国際連携本部)	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	フィールドワークの方法について自覚的に取得し、卒業研究の調査に必要なスキルを経験的に身につけること グループワークのなかで自分の役割を見いだし、調査プロジェクトをすすめること	地域フィールドワーク実習は、青森県の地域研究を大きなテーマとして、複数のグループがそれぞれ異なる課題を設定し、調査設計から文献調査、現地調査、データの整理と分析、報告の作成まで一連の調査プロジェクトを主体的に学ぶことを目的としています。履修者は、基本的に自分の希望に応じてグループに入り、実習を行うことになります。 ※ 第1回はガイダンスをおこない、そこで調査グループ分けもおこないます。必ず出席すること。	地域フィールドワーク実習は、おもな受講者として社会調査実習Ⅰおよび Ⅱをすでに履修した3年次以上を想定しています。フィールドワーク(現地調査)をふくむ調査プロジェクトへの主体的参加がもとめられますが、実習の目的は2つです。第一は、自らが興味と関心を持ってグループ調査の諸々のワークに参与し、自分の役割を見いだしながら調査プロジェクトをすすめることです。第二は、そうしたグループワークの作業のなかで、卒業研究につながる調査方法やデータ整理・分析の方法、探究目的に応じた議論を構成することを、「やりながら」身につけることです。	授業時間に教員が次回の実習に必要な準備を指示します。その指示にしたがって、予習と復習をおこなってください。	社会学関連	文化人類学関連	心理学関連	–	特になし	調査結果をまとめるにあたって必要な文献などある場合には、実習時間中に適宜、教員から指示します。	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	実習	実習作業への参加と貢献が評価の対象となります。	・地域行動コースの学生はからならず履修すること。(但し、社会言語学を専攻したい者については、この限りではない。) ・学生保険加入を履修の条件とします。 ・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります	第1回に実施するガイダンスで指示します。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/action/index.html	–

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
185	185	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	地域文化振興実習(Promotion of Regional Culture Practicum)	3	選択必修	2	前期	月曜日1～4時限	○尾崎名津子、渡辺 麻里子、山本 秀樹、李 良、横地 徳康、原 克昭	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	地域の文化資源とその歴史を理解すること 文化を通した地域振興を考えるために必要な能力を、文学・言語・思想・思想分野からのアプローチによって習得すること これからの青森県や津軽地方における、文化を通した地域振興のありようを提案すること	この実習は、青森県ならびに津軽地方の文化のありようを、文学・言語・思想の領域分野から学習する科目です。資料の解読・分析の手法を体得することを通して、地域に根ざした文化やその歴史を理解します。また、履修者各自が解読・分析した資料を地域振興に活用する方法を、具体的に提案できるようになることを目指します。	以下の予定で進めます。 第1回 ガイダンス(担当:尾崎) 第2回 タイムラインの作成方法を学び、青森と日本近現代文学に関する調査を行います。(担当:尾崎名津子(日本近現代文学)) 第3回 各自が作成したタイムラインを発表し、青森と日本近現代文学に対する知見を深めます。(担当:尾崎名津子(日本近現代文学)) 第4回「弘前案内ツアー」を作る(1)―地域に関わる文献を読んでみよう―(担当:渡辺麻里子(日本古典文学)) 第5回「弘前案内ツアー」を作る(2)―弘前を歩いてみよう―(担当:渡辺麻里子(日本古典文学)) 第6回「弘前案内ツアー」を作る(3)―発表とまとめ―(担当:渡辺麻里子(日本古典文学)) 第7回 地域方言との関わりで、世界の中で絶滅の危機に瀕している言語について学びます。(担当:山本秀樹(言語学)) 第8回 人類言語(舎地域方言)の音声を記述する方法について学び、記述演習を行います。(担当:山本秀樹(言語学)) 第9回 言語音声の記述演習を行います。(担当:山本秀樹(言語学)) 第10回 古記録・目録学の視座から、弘前藩を公式に諸藩大名の文芸思想環境を検証します。(担当:原克昭(日本倫理思想史)) 第11回 公式食度のコミュニケーション・ツールであった(連歌・俳句)の世界を追体験してみます。(担当:原克昭(日本倫理思想史)) 第12回 前川國男とモダニズム建築について学びます。(担当:李良(中国思想)) 第13回 弘前と近代中国―山田兄弟を中心に―(担当:李良(中国思想)) 第14回 映画で考える生命環境倫理学:青森と地域文化について(担当:横地徳康(西洋倫理学)) 第15回 映画で考える生命環境倫理学:農業と地域文化について(担当:横地徳康(西洋倫理学))	[予習]各回のテーマに基づき、事前に情報を収集することが必要です。 [復習]学習した内容を振り返りつつ、次回授業時の演習・発表に備えることが必要です。 その他は適宜、授業中の指示にしたがってください。	文学関連	言語学関連	思想関連	–	各回とも配付資料に基づいて進めます。	授業内で伝えます。	各テーマにおける発表や、担当教員による課題(レポート・試験など、形式は各担当教員による)に対する評価を合算して成績評価を行います。	実習	・6名の教員によるオムニバスです。 ・主に履修者各自による調査とその成果発表によって進めます。	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。 演習形式のため、積極的な参加を求めます。	各曜日の昼休み、他、随時。いつも研究室にいるとは限らないので、事前に連絡していただけると確実です。	2019年度取りまとめ:尾崎名津子 ozaki(at)hrosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	–
186	186	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	地域文化振興論(Promotion of Regional Cultural Resources)	3	選択必修	2	前期	金曜日3・4時限	○足達薫、宮坂朋、山田康子、関根 達人、上條 信彦、片岡 太郎	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	地域文化振興に関する諸問題を理解すること 考古学、民俗学、文化財科学、美術史学の各領域から地域文化振興に寄与するための基礎的知識を習得すること	○考古学、民俗学、文化財科学、美術史の各領域における地域文化振興の諸問題を理解する(見通す力)。 ○それぞれの学問的方法を活用して地域文化の振興に寄与するための基礎的知識を身につける(解決していく力)。 ○将来的に受講生が地域文化振興に参画し、多様なアイディアを提案・実施するための視野を広げること(見通す力、解決していく力)。	[予習]各モジュールで中心となる学問領域の性格や特徴について事前調べが必要です。 [復習]各モジュールで課されるレポートに備えるため、毎回の授業内容を配布資料やノートで復習することが必要です。	学際・新領域	考古学関連	民俗学関連	実務教員	各モジュールで指示します。	各モジュールで指示します。	各モジュールで課される課題(合計で6課題)を総合します(評価全体の100%)。 なお、授業回数の3分の2以上の出席が必要であり、それに満たない場合は不可とします。 各モジュールの課題は、授業の中で行われるミニレポート、授業後のレポート提出など、モジュールごとに提示し、回収します。	講義	各モジュールで連続した内容の講義となります。	考古学、民俗学、博物館関連学問、美術史学などの基礎知識に根ざした発展的講義です。受講にあたっては「文化資源学」の履修をしていることが条件となります。	水曜日13～14時、芸術史研究室(人文社会科学部3階)。この時間に不在となる場合は掲示で連絡します。	kaorucci ※hirosaki-u.ac.jp(※記号は@マークに変えてください)	4回目及び5回目には、国立歴史民俗博物館で民俗学を担当している小池淳一先生をお招きし、地域文化振興の諸問題についてご講義いただきます。
187	187	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	地誌A(Topography A)	2	選択必修	2	前期	集中	北村 繁(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	世界の気温・降水量の分布と、それがかたちづくられるメカニズムを理解すること 気候区分について学ぶとともに、植物がどのように気候環境に適応して分布しているかを理解すること 上記の学習を通じて、気温・降水量という身近な気候要素から、気候帯や生物環境を見通す力を養うこと	世界の諸地域の自然環境、特に、熱帯・温帯・冷帯・乾燥帯などにおける気候・植生の特徴について理解を深めるとともに、その分布について学ぶ。	1. イントロダクション、「地球はまるい」、地球儀と縮尺 2. 方位、緯度と経度 3. 気温と降水量の分布、大気をあたためるもの 4. 大気循環と熱交換 5. 降雨のしくみと降水量の分布 6. フェーンと季節風 7. 気候分類(アリソフ、ソーンスウェイト、ケッペン) 8. ケッペンの気候分類(具体的な分類手順)、小レポートの出題、植物の分類① 9. 植物の分類②、熱帯の環境と植生(①全般) 10. 熱帯の環境と植生(②湿潤熱帯、③季節性熱帯) 11. 熱帯の環境と植生(④乾燥熱帯)、温帯の環境と植生(①全般) 12. 温帯の環境と植生(②気候の概要、③雨の多い湿潤な温帯) 13. 温帯の環境と植生(③雨の少ない湿潤な温帯、③乾燥した温帯) 14. 冷帯の環境と植生、寒帯の環境と植生 15. 植生の高度変化 ※数字は講義の順序を示しており、必ずしも実際の授業回に対応していない場合があります。 ※講義中の問いかけに対する学生の応答の状況から判断されるクラスの理解度に応じて、講義の速度を調節する場合があります。	インターネット(グーグルサイト)で講義に使用するスライドと同様のものを載せていますので、予習・復習に利用してください。アドレス、(URL等は講義1回目「イントロダクション」の中でお知らせします。	地理学関連	–	–	–	教科書は特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。	◎仁科淳司(2003)『やさしい気候学』、古今書院、120 pp. ◎福井英一郎(1966)『自然地理学』(朝倉地理学講座4)、朝倉書店 ◎シュミットヒューゼン(1959)『植生地理学』、朝倉書店(宮脇訳、1968)、308pp. ◎斎藤功ほか(1990)『環境と生態』(地理学講座3)、古今書院、258pp. ◎林一六(1990)『植生地理学』、大明堂、270pp. ◎堀田満ほか(1997)『植物の生態地理』(朝日百科植物の世界13)、朝日新聞社、352pp. など(他にも、講義中に配布する資料で紹介します。)	平常評価(講義中に指名されての応答・講義中の自発的な質問):5% 中間評価(小レポート):15% 期末評価(学期末に複数課題のレポートを出題):80%	講義	LCDで、教室前方に資料を提示しながら講義を進めることが多いので、前方スクリーンが見える位置に着席するようにしてください。なお、講義中に指名して問いかけますので、あらかじめご了承ください。	高校で地理を選択していたかどうかは問いません。ただし、本講義は、高校の地理と重複があるので、高校で地理を選択していたんには、より理解しやすいかもしれません。	なし	講義1回目(イントロダクション)の中でお知らせします	なし
188	188	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	地誌B(Topography B)	2	選択必修	2	後期	集中	北村 繁(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	土壌の種類やできかたを学び、土壌が気候や植生などの環境によって変化する存在であることを知ること 気候帯によって、気候・植生・土壌の間の物質循環が異なることを理解すること 上記の学習を通じて、気候帯ごとに物質循環の違いを見通して、環境中の土壌資源や生物資源を利用する、ということの重要性を学ぶこと	まず、土壌生成の基礎を学習し、続いて、熱帯・温帯・冷帯・乾燥帯などに形成される土壌の種類やその利用法について、気候・植生との関係や環境中での物質循環の見地から理解を深める。	1. イントロダクション、土壌とは何か、土壌の機能、土壌の肥沃性 2. 土はなにからできているか、土はどのように形成されるか①(無機成分) 3. 土はどのように形成されるか②(有機成分)、土と気候①(温度) 4. 土と気候 ②(降雨)、土の分類 5. 小テスト、世界の気候帯①(大気循環と気候帯) 6. 世界の気候帯②(季節変動、アリソフの気候区分類) 7. 湿潤熱帯の気候的特徴と植生、湿潤熱帯の土壌① 8. 湿潤熱帯の土壌② 9. 季節性熱帯の気候的特徴と植生、季節性熱帯の土壌① 10. 季節性熱帯の土壌② 11. 湿潤な温帯の気候的特徴と植生、湿潤な温帯の土壌① 12. 湿潤な温帯の土壌② 13. 乾燥した温帯の気候的特徴と植生、乾燥した温帯の土壌、半乾燥～乾燥熱帯の気候的特徴と植生 14. 半乾燥～乾燥熱帯の土壌、冷帯・寒帯の気候的特徴と植生 15. 冷帯・寒帯の土壌、火山灰土壌 ※数字は講義の順序を示しており、必ずしも実際の授業回に対応していない場合があります。 ※講義中の問いかけに対する学生の応答の状況から判断されるクラスの理解度に応じて、講義の速度を調節する場合があります。	インターネット(グーグルサイト)で講義に使用するスライドと同様のものを載せていますので、予習・復習に利用してください。アドレス、(URL等は講義1回目「イントロダクション」の中でお知らせします。	地理学関連	–	–	–	教科書は特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。	◎小山正忠(1986)『土壌学』、大明堂、292pp. ◎斎藤功・野上道男・三上岳彦(1990)『環境と生態』(地理学講座3)、古今書院、258pp. ◎松井健(1988)『土壌地理学序説』、築地書館、316pp. ◎大羽裕・永塚鎮男(1988)『土壌生成分類学』、養賢堂、330pp. ◎岩田修二・小疇尚・小野有五・編(1995)『世界の山やま ヨーロッパ・アメリカ・南極編』、古今書院、165pp. など(他にも、講義中に配布する資料で紹介します。)	平常評価(講義中に指名されての応答・講義中の自発的な質問):5% 中間評価(小テスト):15% 期末評価(記述式試験、学期末に実施):80%	講義	LCDで、教室前方に資料を提示しながら講義を進めることが多いので、前方スクリーンが見える位置に着席するようにしてください。なお、講義中に指名して問いかけますので、あらかじめご了承ください。	地誌A／地域地理学Aを予め履修していることが望ましい(その方が内容の理解が深まります。ただし、地誌A／地域地理学Aを前提とした講義ではありません)	なし	講義1回目(イントロダクション)の中でお知らせします。	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
189	189	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	地方財政論(Local Public Finance)	2	選択必修	2	後期	木曜日3・4時限	金目 哲郎	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	地方財政の制度や機能について説明できること 地方財政にかかるデータを収集・読取できること 地方財政について国全体の財政や経済政策との関連で考える力を身に付けること	地方財政は、地域社会において、生産や生活を営む上で不可欠な財・サービスを供給するという重要な役割を担っており、日本では財政支出の過半を地方が占めています。地方財政の制度や理論をさまざまな角度から学ぶことによって、日本の地方財政の現実の姿を把握し、地域間格差や福祉、教育など今日焦点になっている問題領域と地方財政との関わりを考えていきます。また、授業内容に関連させて青森県内の自治体の財政状況も紹介する予定です。	第1回　地方財政とは何か(ガイダンス、地方財政とは何か) 第2回　地方財政とは何か(地方の営む財政とは) 第3回　国と地方の財政関係(事務配分と経費分担) 第4回　国と地方の財政関係(税源配分と政府間財政移転) 第5回　国と地方の財政関係(政府間財政関係のしくみ、最近の動向) 第6回　地方予算・経費の分類と構造(予算原則論、予算の種類・内容) 第7回　地方予算・経費の分類と構造(地方予算の特徴・改革課題) 第8回　地方予算・経費の分類と構造(経費の分類・推移、主な経費の決算のポイント) 第9回　地方税(地方税とは、地方税原則) 第10回　地方税(地方税体系) 第11回　地方税(主な地方税の概要と課題) 第12回　補助金(国庫支出金) 第13回　補助金(地方交付税) 第14回　地方債 第15回　地方公営企業と第三セクター 第16回　期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	[予習]予習が必要となる場合は、次回の授業で扱う資料を事前に配付しますので、予め読んできてください。 [復習]毎授業後、講義ノートや参考文献で復習してください。必要に応じて参考文献の該当箇所を紹介します。講義時に配付する「資料」により、理解を補足してください。資料には適宜にデータソース、(図表の出所)も示しておいので各自で財政状況を調べてみることができます。授業時間中に行う小テストの解答例を復習に活用してください。	経済学関連	–	–	–	教科書は特に指定しません。参考文献に挙げた『地方財政』の基本テキストが手元にあると体系的な理解に役立ちます。	篠原正博ほか編著『テキストブック地方財政』(2017)創成社 林宏昭・橋本恭之『入門 地方財政(第3版)』(2014)中央経済社 和田八束・星野泉・青木宗明編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣 林宣嗣『地方財政(新版)』(2008)有斐閣 その他の参考文献は講義の中で適宜に紹介します。	平常評価(小テスト等):10% 期末評価(期末試験):90% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。 なお、期末試験では、授業の理解度・習得度が採点基準となります。	講義	講義形式によります。板書による講義を基本とし、必要に応じ資料等を活用する予定です。	予備知識は特に必要としません。日ごろから地方財政に関する新聞記事を読み、皆さんに身近な地方自治体の行財政に注目しておくとよいでしょう。 また、関連科目として、経済法律コース特設講義「地域課題研究」では、弘前市役所職員のサポートによる「地方財政の実践」の場が提供されます。「理論」と「実践」の手法を併せて身に付けることができますので受講をすすめます。	水曜日12時～13時(他の曜日・時限でも可)	kaname-t(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	特になし。
190	190	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	地方自治論(Local Government)	2	選択必修	2	後期	金曜日3・4時限	児山 正史	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	日本の地方自治について理解すること	○日本の地方自治体の構造、歴史、政治、行政について学びます。	序章　講義の概要(第1回) 第1部　地方自治の構造・歴史 　第1章　地方自治体の構造 　　第1節　種類(第2回) 　　第2節　機関、第3節　財源、第4節　地方自治(第3回) 　第2章　地方自治の歴史 　　第1節　制度改革(第4回) 　　第2節　地域開発、第3節　革新自治体(第5回) 　　第4節　行政改革と地方の時代、第5節　民間活力(第6回) 　　第6節　地方分権と市町村合併(第7回) 第2部　地方自治体の政治 　第1章　首長(第8回) 　第2章　議会 　　第1節　制度、第2節　実態・評価(第9回) 　　第3節　改革(第10回) 　第3章　住民 　　第1節　法制度(第11回) 　　第2節　住民投票、第3節　多様な参加(第12回) 第3部　地方自治体の行政 　第1章　人事・予算・計画・評価(第13回) 　第2章　行政改革(第14回) 　第3章　住民の公益活動(第15回) ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合があります。	毎回の授業の後や小テストの前に復習する必要があります。	政治学関連	–	–	–	教科書は使用せず、レジュメ・資料を配布します。	授業中に配布するレジュメで適宜紹介します。	小テストの点数を合算して成績評価を行います。小テストの実施日・範囲は、前の回の授業や掲示で予告します。 授業で習ったことがどのくらい身についたかを基準に採点します。	講義	基本は講義形式です。レジュメの最後に問題している問題の答えを発表してもらいます。	特にありません。	金曜日7・8時限(他の曜日・時限でも可)。	koyamatd@hirosaki-u.ac.jp	特にありません。
191	191	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	中国史(Chinese History)	2	選択必修	2	後期	木曜日5・6時限	荷見 守義	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	中国史について、近世を中心に、時間の流れ・事件の展開過程を、時間軸に沿って理解する力を養うこと 中国史について、近世を中心に、史実の構造を分析できる判断力を養うこと	○中国近世(明・清代)を題材として、政治・外交・軍事など統治者側からの視点に、社会生活・文化などの視点を加味して、歴史像を組み立てて行く。 ○中国の歴史を流れとして把握することで、因果関係から史実の構造を理解する。	第1回　13世紀世界システムとはなにか 第2回　14世紀の危機 第3回　王朝交代と乱の諸相 第4回　朱元璋の登場 第5回　皇帝尊政とは 第6回　永楽帝の登場 第7回　永楽帝の政治(リアクションペーパー) 第8回　郷和の世界 第9回　中華と遊牧世界Ⅰ 第10回　中華と遊牧世界Ⅱ 第11回　貨幣の歴史学 第12回　租税の歴史学 第13回　法治と人治 第14回　裁判の歴史学(リアクションペーパー) 第15回　天空の玉座～皇帝と国王の象徴学～ 第16回　期末試験	[予習]前回までの内容を把握しておいてください。 [復習]配布プリントを読み返しておいてください。	歴史学関連	考古学関連	思想関連	–	配布プリントに基づいて授業を行います。	『中国歴史研究入門』(名古屋大学出版会) 『アジア歴史事典』(平凡社)	平常評価(リアクションペーパー):30% 期末評価(試験):70% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。	講義	講義形式	配布プリントと授業内容をしっかり復習して下さい。	月曜11:50～12:40	hasumim(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@に変換して下さい。	なし
192	192	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	中国文学A(Chinese Literature A)	2	選択必修	2	前期	月曜日3・4時限	植木 久行(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	中国文学を理解するための基礎知識を理解すること 中国古典詩(漢詩)の特色とその変遷史を理解すること 唐詩の名作を通して、漢詩鑑賞の方法を習得すること	まず中国文学の特色、続いて中国古典詩(漢詩)の歴史を、教材プリントを配付して講義します。その後、教科書を用いて、詩人の個性的な作風とその人生、および各詩誕生をめぐる逸話を通して、唐詩の魅力に迫ります。中国古典文学の精髄－詩(漢詩)の世界に触れることができます。	第1～第2回　中国文学の特色－非虚構の素材と言語表現の尊重ほか－ 第3～第4回　『詩経』と銭謙益詩－曹植・阮籍 第5～第6回　南朝詩－陶淵明・謝霊運 第7～第8回　唐詩－李白・杜甫ほか 第9回　宋詩－蘇軾・陸游－と元明清詩 第10～第12回　中間テスト、および「詩仙人の奇想－李白」 第13～第15回　「白玉楼中の人－李賀」、および期末テスト・レポート提出 　授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	授業で各回使用する配付教材(プリント)や教科書の該当箇所を事前に予習し、授業実施後には復習して下さい。	文学関連	–	–	–	初めは配付教材(プリント)を使用し、第10回目以降、植木久行『唐詩物語－名詩誕生の虚と実と』(大修館書店、あじあブックス039、1800円＋税)を、教科書として用います。	『吉川幸次郎全集』第1巻、前野直彬編『中国文学史』、松浦友久編『漢詩の事典』、植木久行編『中国の詩跡事典－漢詩の歌枕』。いずれも弘前大学附属図書館所蔵。	平常評価(授業への参加度、評価全体の15%)、中間評価(中間テスト、評価全体の20%)、期末評価(期末テスト・レポート、評価全体の65%)を合算して、最終的な評価を行う予定です。	講義	各回使用する配付教材(プリント)や教科書の該当箇所を、受講生に少しずつ読んでもらいながら、解説を加えます。	特になし	なし	なし	なし
193	193	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	中国文学B(Chinese Literature B)	2	選択必修	2	後期	月曜日3・4時限	植木 久行(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	中国古典小説の特色とその変遷史を理解すること 古典小説の名作に触れ、その内容を理解すること 唐詩の名作を通して、漢詩鑑賞の方法を習得すること	まず中国の古典小説の特色を述べ、続いてその歴史的変遷に関して、各時代の名作を中心に、教材(プリント)を配付して講義します。その後、教科書を用いて、詩人の個性的な作風とその人生、および各詩誕生をめぐる逸話を通して、唐詩の魅力に迫ります。中国古典小説の世界に触れることができます。	第1回　中国古典小説の特色－伝統的な「小説」観 第2～第3回　『搜神記』と『世說新語』－六朝の志怪・志人小説 第4～第5回　『鶯鶯伝』『李娃伝』『杜中記』－唐代の伝奇小説 第6回　中間テスト、中国白話小説の形成と展開 第7～第8回　『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』と「三言二拍」 第9～第10回　『紅楼夢』『儒林外史』と「剪燈新話」『聊斎志異』 第11～第13回　「人生を写す詩史－杜甫」 第14～第15回　「苦吟の神髄「雅鼓」－賈島」、および期末テスト・レポート提出 　授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	授業で各回使用する配付教材(プリント)や教科書の該当箇所を事前に予習し、授業実施後には復習して下さい。	文学関連	–	–	–	初めは配付教材(プリント)を使用し、第11回目以降、植木久行『唐詩物語－名詩誕生の虚と実と』(大修館書店、あじあブックス039、1800円＋税)を、教科書として用います。	『吉川幸次郎全集』第1巻、前野直彬編『中国文学史』、松浦友久編『漢詩の事典』など。いずれも弘前大学附属図書館所蔵。	平常評価(授業への参加度、評価全体の15%)、中間評価(中間テスト、評価全体の20%)、期末評価(期末テスト・レポート、評価全体の65%)を合算して、最終的な評価を行う予定です。	講義	各回使用する配付教材(プリント)や教科書の該当箇所を、受講生に少しずつ読んでもらいながら、解説を加えます。	特になし	なし	なし	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
194	194	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	哲学倫理入門(1)(Introduction to Philosophy and Ethics)	1	選択必修	2	前期	火曜日3・4時限	原　克昭	–	レベル1～2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	日本の歴史から現代にいたる諸事象を〈哲学・倫理学〉から捉え返す視座を獲得すること 日本をとり巡る環境に対して〈哲学・倫理学〉の視座から問題発見する力を修得すること 〈哲学・倫理学〉の学術的視座を日本の思想・歴史・文学・文化へと発展継承させる応用力を養成すること	〈哲学〉するとはどういうことか？〈倫理学〉とはどのような学問なのか？――この素朴かつ純粋な疑問に対して、本講義では『日本思想史』研究の視座からアプローチしてゆきます。西洋哲学倫理学とは異なり、日本思想史における〈哲学・倫理学〉は必ずしも個別の思想家による文献や発言から構築されているわけではありません。過去から現代にいたるあらゆる諸事象すべてが〈哲学・倫理学〉の研究対象となる可能性を秘めているのです。身近な時事テーマから形而上学的テーマにおよぶまで、みなさんなりに〈考える〉トレーニングを積みあげながら、ひろく日本の思想・歴史・文学・文化を研究するための入門としてみたい。	第1回　開講ガイダンス・スタートアップ 第2回　基礎知識の共有(1)日本思想史における〈哲学・倫理学〉の位相 第3回　基礎知識の共有(2)〈哲学・倫理学〉の見方・考え方 第4回　基礎知識の共有(3)〈哲学・倫理学〉の問題発見力 第5回　日本思想史から〈哲学〉テーマを考える(1)「祭と恵」 第6回　日本思想史から〈哲学〉テーマを考える(2)「生と死」 第7回　日本思想史から〈哲学〉テーマを考える(3)「愛と友情」 第8回　日本思想史から〈哲学〉テーマを考える(4)「幸福と不幸」 第9回　日本思想史から〈哲学〉テーマを考える(5)「自然と人間」 第10回　日本思想史から〈倫理学〉テーマを考える(1)「時間と空間」 第11回　日本思想史から〈倫理学〉テーマを考える(2)「自我と他者」 第12回　日本思想史から〈倫理学〉テーマを考える(3)「科学と迷信」 第13回　日本思想史から〈倫理学〉テーマを考える(4)「宗教と信仰」 第14回　日本思想史から〈倫理学〉テーマを考える(5)「歴史と未来」 第15回　まとめ～レポート作成のてびき ※上記の各テーマは暫定的にリストアップしたものです。 履修環境に応じて順序を入れ替えたり、履修者リクエストに応じてテーマ再設定にも対応します。	・授業プリントを活用した「受講シート」作成(「理解の定着・思考の深化) ・参考文献を活用した「最終レポート」作成(思考の論理化・文章化)	思想関連	歴史学関連	文学関連	–	各講ごとに授業プリント・受講シートを配布します。	・『今からはじめる哲学入門』(京都大学学術出版会、2019年) ・『高校倫理の古典で学ぶ：哲学トレーニング1・2(岩波書店、2016年) ・『現代倫理学事典』(弘文堂、2006年) ・『事典 哲学の木』(講談社、2002年) ・その他、各テーマごとに紹介します。(=「最終レポート」に活用)	平常評価(授業への出席参加度)：30% 中間評価(テーマ別受講シート)：30% 期末評価(論述型最終レポート)：40% 上記を合わせて総合的に評価します。	講義	上記テーマ別に、通常の講義形式で進めます。まずテーマごとに〈問題発見〉し文献資料を〈読み解く〉そして〈考える〉ことで、「受講シート」を作成して理解の定着・思考の深化をはかります。また学期末には、興味関心のあるテーマをもとに「最終レポート」を作成します。レポート作成のてびきは、講義期間中にレクチャーします。	日本の思想・歴史・文学・文化に対する興味関心と学習意欲さえ持ちあわせていれば、予備知識の有無は問いません。ひろく〈日本学〉研究の入門編として活用してみよう。	木曜日15:00～17:00／その他、在室時に随時対応します。研究室：人文社会科学棟402（日本倫理思想史研究室）	harakあっとhirosaki-u.ac.jp	人文学部「倫理学B」の読替科目です。
195	195	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	哲学倫理入門(2)(Introduction to Philosophy and Ethics)	1	選択必修	2	前期	火曜日3・4時限	横地　徳廣	–	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	西欧倫理学の歴史を学ぶこと	アリストテレス、カントの哲学を現象学的倫理学の観点から解釈します。	授業予定は、以下のとおりです。変更の場合は授業で事前に知らせます。 1　　ガイダンス 2～4　　アリストテレス倫理学とその諸解釈 5、6　　DVD講義：古代ギリシャの社会状況の説明 7～9　　カント倫理学とその諸解釈 10、11　DVD講義：近世西欧の社会状況の説明 12～15　倫理学と現象学 映像資料を用いた講義が行われるさい、授業を延長することがあります。 授業予定の詳細は、プリントが配布されます。	指定テキストと配布プリントを授業前、授業後に読むことが予習・復習となります。	思想関連	文学関連	歴史学関連	–	教科書は、横地ほか編著『戦うことに意味はあるのか：倫理学的機能への試み』(弘前大学出版会)です。 各自で購入してください。また、適宜、プリントが配布されます。	適宜、紹介されます。	平常評価(コメント点)：100%(ただし、全15回中10回以上の出席が必要) 特別評価(優秀なコメントや発言に加点)：＋α 受講生のみなさんは講義中に配布プリントの論述欄にコメントを記し、これが出席確認と評価対象となります。 哲学的に深い思索が示されているコメントや発言には加点が行なわれます。 コメントがきちんと記されていないペーパーにはコメント点が与えられません。 コメントや発言への評価は、原則として加点法によります。 上記を合算して最終的な成績評価が行なわれる予定です。 介護実習などによる公欠は、その証明書コピーを提出することで部分点が与えられます。 講義を欠席した学生は、追加レポートの提出によって部分点を獲得できます。	講義	講義を聞いて考えたことをコメント・ペーパーに書く形式です。	特になし	オフィスアワーは在室時です。西洋倫理思想史研究室（人文414）で。必ずメールで面会予約をとってください。	メールアドレスは人文414に掲示されます。	人文学部「倫理学A」の読替科目です。
196	196	人文社会科学部	統計学入門(Introduction to Statistics)	1	選択必修	2	前期	月曜日9・10時限	花田　真一	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力	記述統計を理解し、データを読み取れるようになること 相関関係を理解し、分析ができるようになること 統計的推定と検定の考え方を理解し、それを活用できるようになること	本講義は、データを扱う上で基礎となる統計学の知識を学ぶものである。 自分の意見や理論を説得的に相手に伝える際に重要な要素の一つに、データや数字の裏付けがあるか、というものがある。 アンケートや実験によって自らデータを得る場合もあるだろう。 また、高度情報化社会の現代においては、様々なデータが公開されており、以前に比べればデータの入手ははるかに容易になった。 しかし、分析の方法を知らなければそのようなデータはただの数字の塊に過ぎず、活用することができない。 また、他者の意見の裏付けとしてデータが用いられている場合に、分析手法に関する知識がなければその主張が本当に正しいか理解できない。 本講義では、統計学の知識の取得を通じてデータを用いた分析の基礎を学び、その楽しさを感じることを目標とする。 そして、統計データに基づいて社会を見通し問題を解決する力を涵養することを目指す。	第1回　ガイダンス 第2回　度数分布表・ヒストグラムを用いたデータの整理 第3回　基本統計量①：データを代表する指標 第4回　基本統計量②：散らばりを表す指標 第5回　データの分布 第6回　ここまでの振り返り 第7回　正規分布①：標準正規分布 第8回　正規分布②：正規分布の性質と確率統計 第9回　大数の法則と中心極限定理 第10回　母集団の推定 第11回　検定①：確率分布を用いた検定の基礎 第12回　検定②：平均の差の検定 第13回　相関 第14回　回帰分析の基礎 第15回　講義のまとめ 第16回　期末試験	【予習】事前にアップロードされた講義資料に目を通す 【復習】確認テストの内容を見返す	社会学関連	経済学関連	応用数学関連	–	指定しない	ガイダンスで紹介する	毎回の確認テスト：10% レポート課題：20% 期末試験：70%	講義	基本的に講義形式だが、毎回の講義の最後に確認テストを行い理解度をチェックする。また、可能であればよ2回はどPC演習を行う。	講義内で計算を行うことがあるので、電卓を持参すること。 予備知識等は要求しないが、関心のある社会問題やデータを分析することをイメージしながら講義を聴くことが望ましい。	月曜日14:30-15:30	shanada@hirosaki-u.ac.jp	受講生の理解度等に応じて内容を変更する場合があります

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
197	197	人文社会科学部社会経営環境地域行動コース	統計データ分析A (Statistical Data Analysis A)	2	選択必修	2	前期	金曜日5・6時限	花田 真一	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	記述統計の考え方を復習し、実際のデータに適用できるように理解を深めること 推測統計の考え方を理解し、仮説の検証により現状を見通す力をみにつけること 因果関係を設定したモデルの推定方法を理解し、原因と結果の関係を把握する力をみにつけること	統計学は、入手したデータを整理し、状況を把握する「記述統計」と入手したデータに基づいてデータの背後の母集団に対して分析を行う「推測統計」の2つに大別できる。 本講義では、統計学入門で学習した記述統計に基づいて整理したデータを利用して、データの背後にある原理を解き明かす推測統計について重点的に講義を行う。 具体的には回帰分析の基礎として必要な確率や検定について学び、実際の回帰分析の手法を学ぶ。 また、統計学は実際に利用してはじめて意味があるツールであるため、Excelを用いた実際の計算の仕方についても講義する。	第1回：ガイダンス：統計データ分析の必要性、確率の基礎 第2回：記述統計の復習と確率分布（平均、分散、標準偏差、確率変数、正規分布など） 第3回：検定の基礎（標本分布、信頼区間、平均の検定など） 第4回：相関関係（二値データの扱い、相関係数、散布図など） 第5回：演習①（Excelを用いて第1回～第4回の内容を実習） 第6回：回帰分析の概要（従属変数、独立変数、因果性、確率誤差項、推定回帰式など） 第7回：最小二乗法①（最小二乗法による推定、回帰係数の意味、変動の分解など） 第8回：最小二乗法②（決定係数、単相関係数、など、当てはまりの評価） 第9回：データに関する仮定（古典的仮定、ガウス＝マルコフ定理など） 第10回：仮説検定（検定による有意性の検証） 第11回：演習②（Excelを用いて回帰分析を実習） 第12回：定式化①（除外変数の問題、無関係変数の影響） 第13回：定式化②（独立変数の選択について、逐次的な探索、感応度分析など） 第14回：定式化③（関数系の選択、ダミー変数の利用、ラグ付き変数など） 第15回：講義のまとめ 第16回：期末試験	【予習】事前にアップロードされた講義資料を用意しておく 【復習】確認テストの内容を確認し、次回の講義に備える	経済学関連	社会学関連	応用数学関連	–	指定しない。 講義資料を講義の前に準備しておくこと	初回のガイダンスで紹介する。	毎回の確認テスト：10% 中間レポート：20% 期末レポート：10% 期末試験：60%	講義	基本的に講義形式だが、毎回の講義の最後に確認テストを行い理解度をチェックする。 講義資料は事前に弘大Moodle等にアップロードしておくので、各自で用意すること。 また、2回はどPC演習を行い、関連したレポートを課す。	「統計学入門」を履修していることが望ましいが必須ではない（並行履修でもよい）。 高校の数学Ⅰの統計に関する項目については、復習し理解しておいた方がよい。 毎回の講義内容の理解が一定以下だと次回以降の内容の理解に支障をきたす場合があるため、確認テスト等を活用してしっかり復習することが望ましい。	月曜日 14:30-15:30	shanada@hirosaki-u.ac.jp	受講生の理解度等に応じて内容を変更する場合があります。
198	198	人文社会科学部社会経営環境地域行動コース	統計データ分析B (Statistical Data Analysis B)	2	選択必修	2	後期	金曜日5・6時限	花田 真一	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	（主に社会科学における）データの性質と問題点を理解することデータの性質に合わせた統計分析手法とその注意点を知り、正確に見通す力をみにつけること 各自の関心に合わせて統計分析が行い課題を整理する力をみにつけること	統計データ分析Aに続いて、統計学を用いたデータの分析について解説する。 統計学はもともと実験データの把握と理解のために発展した側面が強く、「理想的な」データを分析する点に重点が置かれている。 しかし、とくに社会科学で扱うデータについては実験室のように環境を整えて採取することが難しく、測定誤差などのさまざまなノイズが混入する。 統計データ分析Bでは、データの性質と問題点を理解し、適した統計分析手法を選択できるようになることを目指して講義を行う。 また、フリーの行列言語Rを用いて講義で学んだ内容を実施するスキルもみにつける。	第1回：ガイダンス（統計調査の基礎） 第2回：データの分析（データの提示） 第3回：地域統計①（空間情報の示し方） 第4回：地域統計②（地域特性の示し方） 第5回：発展的な回帰分析①（確率を被説明変数としたモデル） 第6回：発展的な回帰分析②（内生性の対処と操作変数法） 第7回：演習①（第2回～第6回の内容をRを用いて実習する） 第8回：社会移動データ（階層間移動の指標について） 第9回：心理測定データ①（尺度構成法） 第10回：心理測定データ②（因子分析の基礎） 第11回：心理測定データ③（因子分析の実行） 第12回：時系列データ（季節調整、トレンドの分解） 第13回：演習②（第8回～第12回の内容をRを用いて実習する） 第14回：後期の復習 第15回：演習解説 第16回：期末試験	【予習】事前にアップロードされた講義資料を準備しておく 【復習】講義で学んだ手法を自分の関心のあるデータに当てはめてみる	社会学関連	経済学関連	応用数学関連	–	指定しない	ガイダンスで紹介します	毎回の確認テスト：10% 中間レポート：20% 期末レポート：10% 期末試験：60%	講義	基本的に講義形式だが、毎回の講義の最後に確認テストを行い理解度をチェックする。 また、2回はどPC演習を行う。	統計学入門及び統計データ分析Aを受講していることが望ましい（単位の取得については要求しない）	火曜日 14:30-15:30	shanada@hirosaki-u.ac.jp	受講生の人数や理解度に応じて内容を変更する場合があります。
199	199	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	トラベルスタディーズA (Travel Studies A)	2	選択必修	2	前期	集中	南 修平	–	レベル2	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	海外での学びを通して語学力を向上させること 異なる文化や社会、歴史に対する理解力を養い、それらを学ぶ意欲を高めること 様々な局面において、自分自身でそれらに対処していく力を身につけること	約2週間に渡って協定校（テネシー大学マーティン校）で語学を中心に学びます。出発前に現地での教育や生活に必要なことについて事前学習を通して準備し、帰国後はそれらの体験を振り返りながら各自の成果をまとめ、報告書を作成します。	本講義での学びは、大きく三段階に分けられます。 1. 事前学習 海外旅行に必要な基本的知識やスキルを習得する他、訪問先に関する歴史や文化を学びます。また、現地で予定されている様々な活動に必要な準備作業を行います。事前学習の開講時間や回数などの詳細は受講生と相談して設定します（昨年度は8回実施）。 2. 現地でのプログラムによる学習 協定校のスタッフが提供するプログラムに従って集中的な語学教育を受けつつ、キャンパス内外での実践的なトレーニングやリサーチ活動を行います。また、それ以外にも多くのイヴェントに参加し、現地の文化や人々の暮らしを学び、直接的な交流を行います。 アメリカの歴史や文化を知る上でとても有益な場所へのフィールドトリップも予定されています。事前に学んだことを生かして、訪問先でも積極的に自分で見聞します。 3. 帰国後のまとめ・総括 現地で体験し、学んだことを振り返り、それらの中で何を学び、どんな点で成長し、いかなる意義があったかを確認します。同時に、どのようなことが課題として明らかになったかについても、個々人で具体化し、今後の学習計画や大学生活に取り込んでいくようにします。	出発するまでに必要な準備は多岐に渡ります。学習面に加え、現地で実施されるプログラムにおいて各自が担当する課題があり、それらのリサーチや準備が求められます。 出発前には、講義外の時間にイングリッシュ・ラウンジを利用して、留学生やスタッフと積極的に会話を行い、英語を使う環境に慣れておくことを推奨します。	言語学関連	社会学関連	歴史学関連	–	事前学習では特定の教科書は使用せず、必要な教材は担当教員が準備します。研修先では教材が配布されます。	必要なものについては順次紹介します。	平常評価100% 事前学習でのパフォーマンス（各種課題に対する取り組み、手続き等への対応、参加度）、現地での活動状況、帰国後のレポートを総合して評価します。	講義	事前学習は受講者全員やグループ単位での活動で点から成ります。事務的な手続きも重要となるため、担当教員との確実なコミュニケーションをはかりながら、出発までに色々な学習や準備作業を行います。現地到着後は、研修先のスタッフや滞在先の学生をはじめ現地の人たちと関係を深めながら、お互いに学び合っていきます。	この科目の活かし方は自分次第です。何をするにも積極性が必要になります。 また、この科目では研修先で語学力を向上させる以外に、異文化を実践的に学ぶプログラムがたくさん用意されています。そして、海外に出かけるため、事務的な面も含めて期日までに整えておくポイントがいろいろあり、それらはとても大切です。これらを自分で責任をもって遂行することが求められますので、その点にご注意しておいてください。	火曜日9・10時限です。ただし、不在の場合もあるので、事前にアポイントメントをとることをお勧めします。	初回講義にてお伝えします。	特になし。
200	200	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	トラベルスタディーズB (Travel Studies B)	2	選択必修	2	後期	集中	ジャンソン M	–	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	海外での学びを通して語学力をより高め、それらを通じて異なる文化や社会、歴史に対する理解力を養うこと 日本と違って海外では、どんなひっくりする問題や文化の違いなどに遭遇するか予想がつかないが、そのような時、フランス語という言葉、フランスに関する知識で、自分で積極的に解決できるように努力することで、しっかり対応できる学びの場とすること	2週間に渡って協定校（ボルドーモンテーニュ大学）で語学を中心に学びます。	9月7日（土） 13:15（空港バス）弘前（BT）発 14:10　青森空港 着 15:10（JL146便）青森空港発 16:30　羽田空港着 22:55（AF293便）羽田国際空港（Terminal1）発 9月8日（日） 04:30 パリ CDG着 （Terminal 2E） 08:30（AF7620）パリ CDG発 （Terminal 2F） 09:45 ボルドー空港着 （Terminal B） ボルドー空港 → 宿泊先 9月09日（月）午前：語学研修（DEFLE）　午後：ボルドー市内見学 路面電車、カンコンス広場、ブルス広場の水鏡見学・視察 9月10日（火）午前：語学研修　午後：アキテーヌ博物館 9月11日（水）午前：語学研修　午後：ボルドーワイン博物館 9月12日（木）午前：語学研修　午後：歓迎会 9月13日（金）午前：語学研修　午後：サント・カトリーヌ通り商店街見学・視察 9月14日（土）午前：カビュサン市場見学・視察　午後：アキテーヌ門大型小売店 Auchan M&eacutezjadeck見学・視察 9月15日（日）午前：カビュサン市場見学・視察　午後：ボルドー国立歌劇場見学・自由行動 9月16日（月）午前：語学研修　午後：ボルドー市の町づくり視察・研究 サンタンドレ大聖堂見学 9月17日（火）午前：語学研修　午後：ボルドー地方ブドウ畑見学 9月18日（水）午前：語学研修　午後：ボルドー市の町づくり視察・研究 9月19日（木）午前：語学研修　午後：商店見学 9月20日（金）午前：語学研修　午後：自由行動・帰国準備 ＊ 事情によって日付変更の可能性あり. 9月21日（土） 07:30　宿泊先 → 市ボルドー空港 10:15 （AF7625便）ボルドー空港発（Terminal B） 11:35 パリ CDG着 – Terminal 2F 13:35 （AF 276便）パリ CDG発 （Terminal 2E） 9月22日（日） 08:20 成田空港着 09:20（リムジンバス）成田空港発 → 羽田空港 13:15 （JL145便）羽田空港発（第一Terminal） 14:30 青森空港着 14:45 （空港バス）青森空港発 15:40 弘前市（BT）着	現地で受ける語学研修や視察・研究に関する予習は、大切なので、しっかりと準備してください。そこで学んで得たことを帰国後にも十分に生かせるような実りある復習にするよう努力してください。	言語学関連	–	–	–	ボルドーモンテーニュ大学（DEFLE語学学校）が使用している教科書。	仏和・和仏辞典、かんたんフランス文法書辞典（朝日出版）。	評価は、ボルドーモンテーニュ大学（DEFLE語学学校）での成績、レポート（約1000字）を総合して行う。	講義	講義形式	特になし	5月から出発日の間に5回オリエンテーションを行う。	mjanson@hirosaki-u.ac.jp	–

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員（所属）	(11)地域志向科目	(12)難易度（レベル）	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習（予習・復習）等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
201	201	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	日本近現代文学（Modern and Contemporary Japanese Literature）	2	選択必修	2	後期	木曜日7-8時限	尾崎 名津子	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 3 学び続ける力	文学の批評理論の歴史と展開に関する基礎知識を身につけること。日本近現代文学を読み解く方法を学び、各自の興味関心を深めること	この講義は、文学の批評理論の歴史と展開に関する基礎知識を身につけることで、日本近現代文学を読み解く方法を学び、各自の興味関心を深めることを目指す科目です。授業では、文学の読解に関する基本的な考え方を解説します。たとえば、テクスト、作者、読者、アイデンティティ、ポストモダンなどをキーワードとして、現代において主要な批評理論を取り上げます。毎回の授業の後半では、具体的な文学作品を取り上げ、その回のテーマとなる批評理論を参照しつつ読解します。	第1回：イントロダクション 第2回：文学批評・文学理論概説 第3回：文学批評・文学理論の歴史 第4回：形式主義批評 第5回：読者反応批評 第6回：精神分析批評 第7回：フェミニズム批評 第8回：ジェンダー批評（ジュディス・バトラー） 第9回：中間試験（30分）および前半部分のまとめ 第10回：ジェンダー批評（イヴ・K・セジウィック） 第11回：クィア批評 第12回：ポストコロニアル批評（フランツ・ファノン） 第13回：ポストコロニアル批評（スピヴァクとバーバ） 第14回：新歴史主義批評 第15回：期末試験（30分）とふりかえり	[予習]第3回終了後以降、毎回配布するプリント（文学作品を掲載）を読了した上で、次回の授業に臨んでください。 毎回30分前後かかると思われます。 [復習]各回で学習する内容を理解したという前提で次の回の授業が展開していくため、授業時に配布するプリントに基づき、授業内容をよく理解することが必要です。	文学関連	思想関連	芸術関連		授業時にプリントを配布し、教科書とします。	以下の文献は全て弘前大学附属図書館に所蔵されています。 ケリー・イーグルトン／大橋洋一訳『文学とは何か 現代批評理論への招待』（岩波書店、2014年） 廣野由美子『批評理論入門『フランケンシュタイン』解剖講義』（中央公論新社、2005年）	平常評価：30%（授業への参加度。毎回の授業内容に対するリアクションペーパーの内容に基づく。単なる出席回数ではない。） 中間試験：35% 期末試験：35% 上記を合算して最終的な成績評価を行う。	講義	基本は講義形式です。授業の最後にその日の講義内容についての感想・質問を書いたリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。	予備知識は問われませんが、文学史に関する知識（高等学校卒業までに学習する程度）が具わっていた方が早く理解が深まります。	月曜日～金曜日の昼休み。 その他は相談に応じます。まずはメールでの連絡を求めます。 研究室：人文社会科学部棟230	ozaki(at)hirosaki-u.ac.jp	–
202	202	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	日本近現代文学演習Ⅰ(Modern and Contemporary Japanese Literature Colloquium Ⅰ)	2	選択必修	2	前期	月曜日7-8時限	尾崎 名津子	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 2 解決していく力	日本近現代文学の先行研究に関する調査の手法を習得すること テクスト分析の手法を習得すること 論理的妥当性を具えた独自の読解を示すこと	この演習では、日本近現代文学研究の基礎的なトレーニングを行います。まず、先行研究の調査や収集、また、それらの読解の方法を習得します。また、文学研究における作品読解の基本的な手法であるテクスト分析について学び、履修者各自が実践することで、読解方法の修得を目指します。	第1回：ガイダンス 第2回：資料探索の方法1―先行研究の探し方：講義パート 第3回：資料探索の方法2―一次資料の扱い方：講義パート 第4回：夏目漱石「夢十夜」：講義パート 第5回：夏目漱石「夢十夜」：発表パート 第6回：森鷗外「高瀬舟」：講義パート 第7回：森鷗外「高瀬舟」：発表パート 第8回：芥川龍之介「南京の基督」：講義パート 第9回：芥川龍之介「南京の基督」：発表パート 第10回：川端康成「伊豆の踊子」：講義パート 第11回：川端康成「伊豆の踊子」：発表パート 第12回：岡本かの子「老枝抄」：講義パート 第13回：岡本かの子「老枝抄」：発表パート 第14回：太宰治「桜桃」：講義パート 第15回：太宰治「桜桃」：発表パート 第16回：全体の総括と補足：講義パート	[予習]次の授業で扱われる作品を読了することが必要です。毎回30分～60分ほどかかります。 [復習]発表内容を振り返り、考察部分をより深い読解や調査内容の再検討が必要です。	文学関連	思想関連	芸術関連	–	松本和也編『テクスト分析入門 小説を分析的に読むための実践ガイド』（ひつじ書房、2016年）	以下の文献は全て弘前大学附属図書館に所蔵されています。 日本近代文学会関西支部編『作家/作者とは何か テクスト・教室・サブカルチャー』（和泉書院、2015年） 『岩波講座文学1 テクストとは何か』（岩波書店、2003年）	平常評価：20%（毎回講義内容に関してコメントを書き、提出する。） 演習発表：40% レポート：40% 上記を合算して最終的な成績評価を行います。	演習	・講義形式と演習形式の双方を行います。 ・発表はグループによって進めます。	日本近現代文学史に関する知識（高等学校卒業までに学習する程度）が具わっていた方が早く理解が深まります。	月曜日～金曜日の昼休み。 その他は相談に応じます。まずはメールでの連絡を求めます。 研究室：人文社会科学部棟230	ozaki(at)hirosaki-u.ac.jp	–
203	203	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	日本近現代文学演習Ⅱ(Modern and Contemporary Japanese Literature Colloquium Ⅱ)	2	選択必修	2	後期	月曜日7-8時限	尾崎 名津子	–	レベル2	CP-DP 2 解決していく力 CP-DP 3 学び続ける力	日本近現代文学をめぐる問題を自らの力で見出し、その検討のために妥当な論点を提案すること テクスト分析の手法に基づき、論理的妥当性を具えた独自の読解を示すこと 日本近現代文学研究のありようを理解し、各自の問題意識を深めること	この授業では、日本近現代文学の作品について個人で発表することを通じ、文学研究の基礎的なトレーニングを行います。具体的には、日本近現代文学演習Ⅰで学んだことを踏まえ、履修者それぞれが関心を寄せる作品・テーマを選択し、発表と質疑応答を行います。こうした演習を通して、日本近現代文学に関する様々な問題を履修者が自分の力で見出し、考察するとで妥当な視点を設定し、独自の読解を示すことが目指されます。また、現代の日本社会において文学作品やその研究が置かれている位置を見極め、履修者各自の思考や知見を深めることも目指します。	※以下に掲げられた作品は過年度のものです。実際には履修者が各自で選択します。 第1回：ガイダンス 第2回：演習発表と質疑応答―芥代鮮ニ「夜更けと梅の花」 第3回：演習発表と質疑応答―山川未明「景徳と菜女」 第4回：演習発表と質疑応答―三浦哲郎「メリー・ゴー・ラウンド」 第5回：演習発表と質疑応答―芥川龍之介「蜃気楼」 第6回：演習発表と質疑応答―芥川龍之介「トロッコ」 第7回：演習発表と質疑応答―三島由紀夫「サーカス」 第8回：演習発表と質疑応答―太宰治「ヴィヨンの妻」 第9回：演習発表と質疑応答―藤子・F・不二雄「ラスとも」 第10回：演習発表と質疑応答―宗権夏彦「嘘つき伊右衛門」 第11回：演習発表と質疑応答―芥代鮮ニ「夜更けと梅の花」（再論） 第12回：演習発表と質疑応答―森鷗外「舞姫」 第13回：演習発表と質疑応答―梶井基次郎「Kの昇天―或はKの溺死」 第14回：演習発表と質疑応答―太宰治「走れメロス」 第15回：全体の総括と補足	[予習]次回発表者が扱う作品を事前に読了しておくことが必要です。毎回30分～2時間ほどかかります。 [復習]発表内容を振り返り、考察部分を深めることが必要です。	文学関連	芸術関連	思想関連	–	各作品が収められた単行本（文庫本、全集の類）など。	以下の文献は全て弘前大学附属図書館に所蔵されています。 日本近代文学会関西支部編『作家/作者とは何か テクスト・教室・サブカルチャー』（和泉書院、2015年） 『岩波講座文学1 テクストとは何か』（岩波書店、2003年） また、日本近現代文学演習Ⅰで使用する教科書（松本和也編『テクスト分析入門 小説を分析的に読むための実践ガイド』（ひつじ書房、2016年）も参考になります。	平常評価：20%（毎回授業内容に関してコメントを書き、提出する。） 演習発表：40% レポート：40% 上記を合算して最終的な成績評価を行います。	演習	演習形式	日本近現代文学演習Ⅰの既修者であることが望ましいです。そうでない場合は要相談。 日本近現代文学史に関する知識（高等学校卒業までに学習する程度）が具わっていた方が早く理解が深まります。	月曜日～金曜日の昼休み。 その他は相談に応じます。まずはメールでの連絡を求めます。 研究室：人文社会科学部棟230	ozaki(at)hirosaki-u.ac.jp	–
204	204	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	日本経済史（Japanese Economic History）	2	選択必修	2	前期	木曜日9-10時限	池田 憲隆	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力	日本経済史に関する基本的文献や資料を把握すること 日本経済史の展開について、資料に基づきながら理解すること	この講義では、現在の日本経済を理解するという観点から、その歴史的変遷について概説します。過去の事実や制度あるいは構造がすべて現在に繋がっているわけではありませんが、その変化に着目することが現在の特徴に光を当てることになると考えています。	1. イントロダクション 2.「失われた20年」とは？ 3. 日本近代化の歴史的前提 4. 明治維新の制度改革 5. 貨幣・金融制度の整備 6. 近代的産業の生成と展開 7. 日本的資本主義システムの形成 8. 日清・日露戦争・第1次大戦と日本経済 9. 第1次大戦後の世界と日本経済 10. 世界大恐慌と「高橋財政」 11. 戦争経済と戦後改革 12. 戦後日本経済の混乱と再生 13.「高度経済成長」の過程と特質 14. 日本経済の頂点－1970年代後半から80年代前半 15.「バブル経済」の形成と崩壊 16. 期末試験 なお、授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	このシラバスや授業で紹介された参考文献や資料等について図書館などを利用して学習して下さい。	経済学関連	歴史学関連	経営学関連	–	教科書は使用しません。毎回、レジュメ（講義要綱）と参考資料を配布します。	三和良一『概説日本経済史 近現代 第3版』（東京大学出版会）が本講義に最も対応しています。その他に、杉山伸也『日本経済史』（岩波書店、2012年）を推奨します。	基本的には期末試験により評価しますが、毎回提出してもらう質問シートの内容も加味して総合的に評価します。	講義	毎回配布するレジュメ（講義要旨）と参考資料に基づいて、要点を解説するという講義形式です。	この科目は経済学および近現代史の基礎的知識をある程度前提にしていますが、講義を受講に主体的に学習することが期待されます。	木曜日13:00～14:00	nikeda(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし。
205	205	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	日本考古学（Japanese Archaeology）	2	選択必修	2	後期	水曜日5-6時限	上條 信彦	地域志向科目	レベル2	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 2 解決していく力	縄文文化とその社会の多様性について理解すること 特に北東北地域の縄文文化における特殊性を理解すること	生業（衣食住）および社会に関わる分野を中心に、研究の学史的整理と課題、現在の研究成果について述べる。特に三内丸山遺跡をはじめとする青森圏の縄文遺跡の特質について論じる。授業は、縄文時代の範囲を中心に、実物をみながら、自然科学分析の成果をふまえながら論じる。	① ガイダンス ② 考古学の研究法（1）資料の種類と特徴について ③ 考古学の研究法（2）編年研究と生業研究、その有効性と限界 ④ 自然環境の変遷と縄文時代の始まり ⑤ 縄文時代の食料獲得戦略 （1）食料採集活動 採集活動の復元法と野生植物質食料の種類 ⑥ 縄文時代の食料獲得戦略 （1）食料採集活動2 植物の加工法との展開 ⑦ 縄文時代の食料獲得戦略（2）狩猟活動 猟獲の対象と範囲 ⑧ 縄文時代の食料獲得戦略（2）狩猟活動 狩猟技術の種類とその発展 ⑨ 縄文時代の食料獲得戦略（3）漁労活動 漁労の対象と捕獲技術、漁労の範囲 ⑩ 狩猟採集社会をとりまく課題（1）縄文人の一生1 誕生と人生儀礼、精神文化 ⑪ 狩猟採集社会をとりまく課題（2）縄文人の一生2 縄文人の形質と婚姻 ⑫ 狩猟採集社会をとりまく課題（3）縄文人の一生3 縄文の衣服と装身具 ⑬ 狩猟採集社会をとりまく課題（4）縄文人の一生4 縄文社会の構造と死生観、葬送 ⑭ 狩猟採集社会をとりまく課題（5）縄文人の住居と集落、領域 ⑮ 狩猟採集社会をとりまく課題（6）縄文人の交流と流通	毎回資料を配付します。必ず目を通してください。	考古学関連	歴史学関連	博物館学関連	実務教員	毎回プリントを配付します。	特になし	小レポート（20%）、出席態度（10%）、期末試験（70%）により総合的に成績を評価します。	講義	講義形式が中心。プロジェクターを使いつつ、できるだけ実物資料も利用します。北日本考古学研究センターの展示室も利用します。	考古学に触れる（感じる）機会を大切にしたい。したがって、見学資料や地域に関する話題（マスコミなど）について、事あるごとに内容や意義などを求めることがあるので、関心を持って情報を得ておきたい。 学芸員資格・縄文検定・考古検定などを受験したい人は奨励する。	研究室HP：http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kamijo/（弘前大 考古）で検索 HPアドレス：kamijo(あっと)hirosaki-u.ac.jp（あっと）を@に変換してください。	–	–
206	206	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	日本語学（Japanese Linguistics）	2	選択必修	2	後期	集中	川瀬 卓（非常勤講師）	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力	日本語学（日本語史）の基礎的知識、および基本的な考え方を身につけること	ことばは変化し続けるものであり、私たちが現在使っていることばも歴史的所産として存在しています。日本語はかつてどのような姿をしており、それがどのように変化してきたのでしょうか。なぜそのように変化してきたのでしょうか。それを学ぶことは、人間とことばの関わりについて考える機会となり、ことばにおける私たちの洞察をより深いものにしてくれることでしょう。 この講義では、音韻史、表記史、文体史、語彙史、文法史、方言学、日本語学史の分野ごとに、日本語の歴史的変化を概説していきます。	第1回　導入 第2回　音韻史（1）上代特殊仮名遣い 第3回　音韻史（2）日本語の音の歴史変化 第4回　音韻史（3）頭音法則、アクセント 第5回　表記史　　漢字、平仮名、片仮名 第6回　文体史（1）様々な資料と文体 第7回　文体史（2）語彙・文法と文体 第8回　語彙史（1）語種、語彙体系、語構成 第9回　語彙史（2）語形、語義、位相 第10回　文法史（1）動詞の活用、係り結び 第11回　文法史（2）文法的意味、敬語、文法化 第12回　言葉の変異と諸方言 第13回　日本語学史（1）古代、中世、近世 第14回　日本語学史（2）近代、外国語としての日本語研究 第15回　まとめと試験 ※授業の進度に応じて、内容を変更することがあります。	[予習]あらかじめ日本語史に関する概説書・入門書を何か1冊読んでおいてください。 [復習]授業内容の要点を毎回見直すようにしてください。	言語学関連	文学関連		–	授業時に資料を配付します。	衣畑智秀編（2019）『基礎日本語学』ひつじ書房 木田章義編（2013）『国語史を学ぶ人のために』世界思想社 仁田義雄 他著（2009）『改訂版 日本語要説』ひつじ書房 その他、授業時に随時紹介します。	授業のリアクションペーパー（30%）、試験（70%） 6回以上欠席した者は、テストの受験資格を失います。	講義	基本的には講義形式で授業を進めますが、質疑応答を行うこともあります。 授業の最後に、授業内容の要点や質問を書いたコメントカードを提出してもらいます。次の日の授業でコメントカードの質問に答えるとともに、必要に応じて内容を補足して理解の助けとします。	専門性を意識した授業ですので、多少難易度が高く感じられるかもしれませんが、質問には丁寧に答えて、できるだけフォローしたいと思います。 概念や用語を単に覚えるだけではなく、それらの関係性やある結論に至るまでの考え方を理解するようにしてください。理解するとは、あらためて自分のことばで説明しなおせる（ストーリーとして語れる）ということです。	なし	ksuguru_posaune42(at)yahoo.co.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
207	207	人文社会科学部文化創生環境文化資源学コース	日本語学演習Ⅱ(Japanese Linguistics)	2	選択必修	2	前期	集中(4,5,6,7月の土曜日4回開講)＊詳細は掲示で確認	川瀬 卓(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	中世後期日本語の実態を観察・記述する方法の基礎を身につけること 中世後期日本語を視座として、日本語史を構築する方法の基礎を身につけること プレゼンテーションの能力、コミュニケーション能力を向上させること 調査結果をレポートとしてまとめる能力を身につけること	室町時代末に天草で出版された『エソポのファブラス(ESOPO NO FAVLAS)』について演習形式で読んでいきます。『エソポのファブラス』はイエズス会の外国人宣教師たちが日本語を学ぶために作られました。内容は現在でもイソップ物語としてよく知られていますので、みなさんにとっても身近なものだと思います。 導入として教員が講義したのち、受講生による演習発表形式にうつります。 導入では、『エソポのファブラス』の資料性、ポルトガル式ローマ字表記、『エソポのファブラス』に見られる言語現象の日本語史的な位置付けなどについて概説し、演習の実例を示します。 演習では、担当者が原文のローマ字表記を漢字・仮名交じり表記に改め、本文を読解するとともに、日本語史的問題について考察します。演習担当者の発表後、参加者全員で討論を行います。	第1回　導入 第2回　キリシタン資料概説 第3回　中世後期日本語の語彙、語法 第4回　演習の実例 第5回　受講生による演習発表(1) 第6回　受講生による演習発表(2) 第7回　受講生による演習発表(3) 第8回　受講生による演習発表(4) 第9回　受講生による演習発表(5) 第10回　受講生による演習発表(6) 第11回　受講生による演習発表(7) 第12回　受講生による演習発表(8) 第13回　受講生による演習発表(9) 第14回　受講生による演習発表(10) 第15回　受講生による演習発表(11) ※参加者の人数を見て、予定を変更することがあります。	講義時には復習に力を入れ、演習時には予習に力を入れてください。演習の準備に関する注意点は以下のとおりです。 ・演習担当者：辞書・資料を用いて、入念に準備を行うこと。演習資料は、見やすく、要点を押さえたものを作成すること。 ・担当者以外の受講生：次回演習の箇所の予習を行うこと(活発な質疑のために)。	言語学関連	文学関連	–	–	授業時に資料を配付します。演習時は発表担当者が資料を準備します。	大塚光信(1983)『キリシタン版エソポのハブラス私注』臨川書店 大塚光信・朱田陵輔(1999)『エソポのハブラス　本文と総索引』清文堂出版 (いずれも本学図書館所蔵) そのほか、授業時に随時紹介します。	演習発表(50%)、学期末レポート(50%)で評価します。 6回以上欠席した者は、学期末レポートの提出資格を失います。	演習	導入の数時間は講義ですが、そのあとは演習形式となります。	留意点：演習は実践形式の授業ですから、とくにやる気が求められます。専門性の高い授業ですが、できるだけのフォローはしていきたいと思います。 予備知識：日本語学、言語学に関する予備知識があるほうが望ましいですが、意欲とそれに伴う行動力さえあれば、ついていけると思います。 関連科目：とくに「日本語学」「日本語学演習Ⅱ」が関連します。	なし	ksuguru_posaune42@at.yahoo.co.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
208	208	人文社会科学部文化創生環境文化資源学コース	日本語学演習Ⅱ(Japanese Linguistics Colloquium Ⅱ)	2	選択必修	2	後期	集中(10,11,12,1月の土曜日4回開講)＊詳細は掲示で確認	川瀬 卓(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	日本語学の基本的な考え方を身に付けること コーパスを利用した日本語史研究の技法を身に付けること 演習発表を通して、プレゼンテーションの能力、コミュニケーション能力を向上させること 調査結果をレポートとしてまとめる能力を身につけること	本授業のテーマは「コーパスを用いた日本語史研究」です。コーパスとは、言語研究を行うための有用な情報を付加した言語資料のデータベースです。現在『日本語歴史コーパス』の登録が進んできており、日本語史研究において、コーパスを用いることが必須となりつつあります。この授業では『日本語歴史コーパス』を用いた日本語史研究の方法を学ぶとともに、コーパスを用いてできる研究(コーパスの可能性)、コーパスで行うのが難しい研究(コーパスの限界)についても学びます。	第1回　導入 第2回　『日本語歴史コーパス』の概説、操作 第3回　Excelを用いたデータ整理 第4回　Excelを用いたデータ分析 第5回　受講生による演習発表(1) 第6回　受講生による演習発表(2) 第7回　受講生による演習発表(3) 第8回　受講生による演習発表(4) 第9回　受講生による演習発表(5) 第10回　受講生による演習発表(6) 第11回　受講生による演習発表(7) 第12回　受講生による演習発表(8) 第13回　受講生による演習発表(9) 第14回　受講生による演習発表(10) 第15回　受講生による演習発表(11) ※参加者の人数を見て、予定を変更することがあります。	講義時には復習に力を入れ、演習時には予習に力を入れてください。演習の準備に関する注意点は以下のとおりです。 演習担当者：入念に準備を行うこと。演習資料は、見やすく、要点を押さえたものを作成すること。担当者以外の受講生：演習で扱う言語現象について、自らも考えておくこと(活発な質疑のために)。	言語学関連	文学関連	–	–	授業時に資料を配付します。演習時は発表担当者が資料を準備します。	国立国語研究所編(2005)『雑誌『太陽』による確立期現代語の研究―『太陽コーパス』研究論文集―』博文館新社 田野村忠温編(2014)『講座日本語コーパス　コーパスと日本語学』朝倉書店 『日本語学』33-14(特集「日本語史研究と歴史コーパス」、明治書院(いずれも本学図書館所蔵) そのほか、授業時に随時紹介します。	演習発表(50%)、学期末レポート(50%)で評価します。 6回以上欠席した者は、学期末レポートの提出資格を失います。	演習	導入の数時間は講義ですが、そのあとは演習形式となります。	留意点：演習は実践形式の授業ですから、とくにやる気が求められます。専門性の高い授業ですが、できるだけのフォローはしていきたいと思います。 予備知識：日本語学、言語学に関する予備知識があるほうが望ましいですが、意欲とそれに伴う行動力さえあれば、ついていけると思います。 関連科目：とくに「日本語学」「日本語学演習Ⅰ」が関連します。	なし	ksuguru_posaune42@at.yahoo.co.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
209	209	人文社会科学部文化創生環境文化資源学コース	日本古典文学(Classical Japanese Literature)	2	選択必修	2	後期	火曜日5・6時限	渡辺 麻里子	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	日本古典文学の読み方や考え方を身につけること 古典文学や『平家物語』についての基礎的知識を身につけること 日本中世における人々の生き方や考え方を学ぶこと 中世の文学や社会について調べる力を身につけること 中世日本の文化・思想・歴史を幅広く学び、理解を深めること	日本古典文学を代表する作品である『平家物語』を精読します。また『平家物語』や軍記物語に対する基礎知識を学びます 『平家物語』は単なる合戦譚ではなく、様々な人の生き方を描いた人間ドラマです。生死のかかった場面における人々の行動や心情を描き出すこの作品は、人はどう生きるべきか、いいては人間とは何かを考えるきっかけにもなります。 取り上げた代表的な章段を深く読み解くことによって、古典文学の魅力を味わい、日本文化への理解を深めましょう。また、中世日本社会の歴史や文化の諸相を学び、現代に通じる中世日本人の生き方や考え方を学びましょう。	以下の予定で進めますが、進度によっては変更することもあります。またリクエストがあれば検討します。 第1回:ガイダンス　日本古典文学と歴史 第2回:『平家物語』概説 第3回:祇園精舎――ごーンと鳴らない鐘―― 第4回:入道出去――平清盛の最期―― 第5回:忠度都落――平家の都落ち―― 第6回:義仲最期――武士と貴族―― 第7回:義仲最期――乳母子の契り―― 第8回:鵯越――源義経の戦法―― 第9回:一二の駒げ――功名武士とその生き方―― 第10回:二度の駆け――戦場における親子―― 第11回:敦盛最期――ノ谷合戦―― 第12回:敦盛最期――勝者のあはれ―― 第13回:那須与一――最も哀れなる物語―― 第14回:先帝御入水――天皇と合戦―― 第15回:能登殿の最期――滅びる平家―― 第16回:試験&レポート提出	予習は、配布する本文で、次回扱う章段を読んでおきます。 復習は、授業で解説した章段を自分で読み直します。また、授業で扱わなかった章段や、授業で紹介する参考資料については、自分自身で読むことを望みます。	文学関連	歴史学関連	思想関連	–	毎回資料プリントを配付し、それを教科書とします。	・日下力編『平家物語を知る事典』(東京堂出版、2005年 ・五味文彦編『平家物語図典』(小学館、2005年) ・大津雄一編『平家物語大事典』(東京書籍、2010年) (いずれも弘前大学図書館にて閲覧可)	試験60%・レポート30%・平常点(リアクションペーパー)10%で総合的に評価します。筆記試験は授業をどれだけ話を聞いて理解したかを、レポートは、自分でどれだけ調べ考えることを評価します。出席は、成績の前提です。	講義	講義形式で行います。その回で取り上げる章段について解説し、補足資料を配付します。必要に応じて、映像資料によって理解を深めます。毎回授業の終わりに、リアクションペーパーとして感想や質問、意見などを書いてもらいます。次の時間の開始時に、前回の皆さんからの質問にお答えし、フィードバックします。	予備知識は特に必要ありません。高校の古典が苦手だった方も関係ありません。勉強への意欲や、『平家物語』への関心があれば大丈夫です。あとは、一生懸命に講義を聞いて下さい。	木曜日5/6限、在室時は随時、事前にメールをしていただけると確実です。	mwata@hirosaki-u.ac.jp	特になし。
210	210	人文社会科学部文化創生環境文化資源学コース	日本古典文学演習Ⅰ(Classical Japanese Literature Colloquium Ⅰ)	2	選択必修	2	前期	水曜日5・6時限	渡辺 麻里子	–	レベル2～4	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	くずし字(特に平仮名)の読み方を学び、くずし字を解読できるようになること 『枕草子』を通して王朝世界の基礎知識を習得すること 古典文学作品の読み方や調べ方を身につけること 発表資料を作成し、発表の方法を習得すること、また他の受講生の発表を聞くことにより、良い発表とはどのような物かを学ぶこと 平安時代の文化の諸相を学ぶこと	日本古典文学の中から、平安文学を代表する『枕草子』を、演習形式で輪読します。 くずし字を一字ずつ学ぶことから始め、一話一話を精読し、読み解いていきます。担当者の発表を中心に行い、質疑、解説を加えながら進めます。 『枕草子』を通して、平安王朝文学の魅力を味わい、王朝社会の人々の、生き方や考え方を学びます。	以下の予定で進めますが、受講者の人数によって、演習発表の週が変わります。 第1回:ガイダンス――くずし字とは？―― 第2回:くずし字を学ぶ――①平仮名の成り立ち―― 第3回:くずし字を学ぶ――②くずし方三原則―― 第4回:くずし字を学ぶ――③漢字の変化―― 第5回:くずし字を学ぶ――④くずしの段階の変化―― 第6回:くずし字を学ぶ――⑤くずしの動き―― 第7回:『枕草子』概説―― 第8回:『枕草子』発表①――清少納言と後宮―― 第9回:『枕草子』発表②――四季折々の変化―― 第10回:『枕草子』発表③――清少納言と中宮定子―― 第11回:『枕草子』発表④――清少納言と漢文学―― 第12回:『枕草子』発表⑤――清少納言と和歌―― 第13回:『枕草子』発表⑥――清少納言の交友関係―― 第14回:『枕草子』発表⑦――宮中の生活―― （発表時は各回、1、担当者が発表、2、受講者は発表を聞いてコメントを書く、3、質疑・解説・補足） 第15回:くずし字を読んでみよう （『枕草子』ではない作品・今まで習ったものとは違うタイプの文字に挑戦してみます） 第16回:試験&レポート提出	講義時は、復習が大事です。習ったくずし字を復習して、自分のものにしていくためには復習がとても大切です。 演習時は、予習が大事です。各自、次週、発表が行われる箇所を自分で翻刻しておきましょう。その作品について理解度が深まります。 自分が発表担当の時には、発表資料を用意し、発表の練習をしておきます。また発表を聞いた後は、配布された資料をよく見直し、復習をします。	文学関連	思想関連	言語学関連	–	伊地知鐵男編『増補改訂　仮名変体集』(新典社) 第1回の授業から使用します。	枕草子研究会編『枕草子大事典』(勉誠出版) 田中重太郎著『枕草子全注釈』(角川書店) 萩谷朴『枕草子解釈』(同朋舎) すべて弘前大学図書館にあります。 その他参考文献は、適宜授業中に紹介します。	発表50%・試験40%・平常点(リアクションペーパー)10%によって総合的に評価します。発表は、くずし字の翻刻・釈文・現代語訳・解説などを行います。発表資料の作成方法は、過去の資料を見せて詳しく説明します。試験は、くずし字を読めるようになったかどうか、発表をよく聞いていたかどうか、理解度を確かめます。出席は、成績の前提です。	演習	前半の7回はくずし字の読み方を、講義形式で学びます。後半の7回は演習形式となります。 演習は、担当者の発表の後、解説を行いながら進めます。発表の準備は、進度に合わせて確認・指導します。毎回授業の終わりに、コメントペーパーに、講義時には質問や感想、演習時には発表者へのコメントなどを書いてもらいます。	予備知識は全く必要ありません。興味と「やる気」があれば大丈夫です。くずし字は、初めは誰でも、全くわかりません。一字ずつマスターしていくうちに、段々に読めるようになっていきます。くずし字を読むのは、パズルを解くような感覚で、わかるようになるとても楽しいそうです(過去の受講生の感想)。心配をせず、受講してください。	木曜日5/6限、その他、在室時は随時、事前にメール連絡をくださると確実です。	mwata@hirosaki-u.ac.jp ◎をeにに変えて下さい。	特になし。
211	211	人文社会科学部文化創生環境文化資源学コース	日本古典文学演習Ⅱ(Classical Japanese Literature Colloquium Ⅱ)	2	選択必修	2	後期	水曜日5・6時限	渡辺 麻里子	–	レベル2～4	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	くずし字(特に平仮名)の読み方を学び、くずし字を解読できるようになること 『御伽草子』を通して、中近世の基礎知識を習得すること 古典文学作品の読み方や調べ方を身につけること 発表資料を作成し、発表の方法を習得すること、また他の受講生の発表を聞くことにより、良い発表とはどのようなものかを学ぶこと 中世・近世の思想や文化を学び、日本文化への理解を深めること	室町～近世前期の文学である、御伽草子を取り上げます。 御伽草子には、「一寸法師」「浦島太郎」「物くさ太郎」など、現代にもよく知られた話が多くあります。くずし字を読むところから始めて、一話一話を精読し、読み解いていきます。担当者が発表し、それに対して質疑・解説を行いつつ進めます。 （御伽草子)を通して、室町～～近世期の文学の魅力を味わいましょう。 （今年度に取り組む作品は、今期の受講生と相談して決めます。）	第1回:ガイダンス　くずし字とは？ 第2回:「御伽草子」について概説 第3回:くずし字を学ぶ①――平仮名の基本―― 第4回:くずし字を学ぶ②――くずし字の変化―― 第5回:くずし字を学ぶ③――基本形と応用形―― 第6回:くずし字を学ぶ④――くずし字のバリエーション―― 第7回:くずし字を学ぶ⑤――読めない字の対応―― 第8回:作品発表① 第9回:作品発表② 第10回:作品発表③ 第11回:作品発表④ 第12回:作品発表⑤ 第13回:作品発表⑥ 第14回:作品発表⑦ 発表は、各回、1、担当者が各自発表、2、その他の受講生は発表を聞いてコメントを書く、3、質疑、解説・補足 第15回:くずし字の練習――色々な字を読んでみよう―― 第16回:試験&レポート提出	くずし字は次回に行う箇所を予習してきましょう。またくずし字の学習は復習が大事です。習ったくずし字をしっかり復習して、自分のものにしていきましょう。 演習時は、予習が大事です。各自、次週、発表が行われる箇所を自分で翻刻しておきましょう。それによって理解度が深まります。また発表者の配付資料を復習として読み、理解を深めましょう。 発表時には、自分が発表担当の時には、発表資料を用意し、発表の練習をしておきます。復習としては、発表者が配布した資料を読み、理解を深めます。	文学関連	思想関連	歴史学関連	–	伊地知鐵男編『増補改訂　仮名変体集』(新典社) 1回目の授業から使用します。	徳田和夫編『お伽草子事典』(東京堂出版)(弘前大学付属図書館にあります) 他、授業時に紹介します。	発表50%・試験40%・平常点(コメントペーパー)10%程度で、総合的に判断します。発表は、くずし字の翻刻・釈文・現代語訳・解説などを行います。試験は、くずし字を読めるようになったかどうかを評価します。出席は、成績の前提です。	演習	前半の6時間は、くずし字を学ぶ時間で、講義形式で行います。残りの時間は演習形式となります。 演習は、担当者が発表し、質疑や解説を行いながら進めます。毎時間終わりの時間に、コメントペーパーに感想・質問・意見などを書いてもらいます。演習発表の回には、発表者へのコメントを記します。	予備知識は必要ありませんが、興味とどやる気」は必要です。くずし字は、初めは誰も何も読めません。一字ずつマスターしていくうちに、パズルを解くように、読めるようになっていきます。日本古典文学 I を履修していなくても、II からの履修で構いません。授業は全く初めての人を対象に行いますので安心して受講してください。	木曜日5/6限、その他、在室時随時、事前にメールをいただけると確実です。	mwata@hirosaki-u.ac.jp ◎をeにに変えて下さい。	特になし。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
212	212	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	日本史 (Japanese History)	2	選択必修	2	後期	火曜日5・6時限	武井 紀子	–	レベル2～3	CP・DP 1見通す力 CP・DP 3学び続ける力	古代における東アジアと日本との関係について理解を深めること 東アジア諸国との関係を考慮しつつ、古代日本がどのような国づくりを行ってきたのかについて考えること 古代を事例として、国際社会と日本との関係について考える視点を身につけること	日本の歴史は、東アジア諸国と密接に関わりながら展開してきました。一方で、私たちの中には、日本の文化は独自のものだ、特殊なものだという観念が強くあります。日本文化のそうした独自性はどのような歴史的過程をへて形成されてきたのでしょうか。本講義では、八世紀奈良時代までの古代国家について取りあげ、東アジアとの関係を考慮しつつ、その特徴について考えます。	第1回　ガイダンス―東アジアと古代日本― 第2回　神話の世界と古代国家 第3回　中国王朝・古代朝鮮諸国との交流 第4回　遣隋使の派遣と推古期の諸政策 第5回　律令制の形成と東アジア 第6回　日本律令制の特徴 第7回　民衆と イ小の支配 第8回　長屋王と奈良朝貴族の生活 第9回　藤原氏と光明皇后 第10回　正倉院文書と木簡の世界①(:籍帳と荷札木簡) 第11回　正倉院文書と木簡の世界②(写経所文書と下級役人の生活) 第12回　遣唐使の派遣と天平文化 第13回　礼の受容と藤原仲麻呂政権 第14回　古代国家の衰退と終焉 第15回　平城京の落日―称徳から光仁・桓武へ― 学期末試験	【予習】各回のキーワードとなる用語を辞書で調べてくること。 【復習】毎回配布するプリントをよく読んで復習すること。また、授業中の分からない語句などは、自身で辞書を引き調べておこと。授業内容に関連する逸史などを読んでおくと理解が深まります。	歴史学関連	考古学関連	思想関連	–	特になし。授業中に資料プリントを配付します。	渡辺晃宏『平城京と木簡の世紀』(講談社、2001年) 佐藤信編『日本の時代史4 律令国家と天平文化』(吉川弘文館、2002年) 雨宮秀和『奈良の都と天平文化』(吉川弘文館、2013年) そのほか、授業中に適宜紹介します。	平常評価(毎回の授業でのリアクションペーパーの提出)30%、学期末試験70%によって総合的に評価します。 授業の三分の二以上の出席が評価の前提です。	講義	各回、講義形式で進めます。プリントで史料等を配布し、関連する写真や図版をスライドで示しながら講義します。参加者は各自ノートをとり、講義の終わりにリアクションペーパーにて授業内容に対するまとめ、質問・感想を書いて提出してもらいます。質問事項は、次の講義で答えてフィードバックしていきます。	予備知識の有無は問いません。史料レジュメを配りますが、しっかり読み込んで、授業内容のメモを取りながら受講して下さい。また、前回のプリントを見直すことがあるので、各回での配布物は毎回持って来て下さい。	火曜日10:00-12:00。ただし、研究室(人文333)在室時はいつ来ても構いません。 ※(at)を半に置き換えてください。	n-takei(at)hirosaki-u.ac.jp	特になし。
213	213	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	日本倫理思想 (Japanese Ethical Thought)	2	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	原 克昭	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 3学び続ける力	日本倫理思想に対する文化史的視座からのアプローチ方策を修得すること 文献資料を読み解きながら、前近代(古代～近世)と近現代の位相差を見極める字術的視座を獲得し、日本の思想・歴史・文学・文化に対する理解と思考を深めること	「倫理」と聞くと、どうしても「道徳・モラル」といったイメージがつきまとうかもしれません。しかし、前近代(古代～近世)から近現代にわたる日本思想史の視座から改めて捉えなおしてみるとき、一概に「道徳・モラル」といった既成概念には収束しえない「日本人らしさ」が浮えてきます。 本講義では、基本的な倫理概念をベースとして、日本の思想・歴史・文学・文化から時代縦断・ジャンル横断しながら学術的にアプローチすることで、過去から現代を見据えた「日本人像」の再発見をめざします。	第1回　スタートアップ：日本倫理思想の射程～「日本人像」のありか 第2回　時間倫理×歴史認識(1)～日本人の時間・空間意識 第3回　時間倫理×歴史認識(2)～日本人の時間倫理的基盤(暦・十干十二支・元号・改元) 第4回　時間倫理×歴史認識(3)～日本人の歴史叙述と未来志向(未来記・予言書) 第5回　生命倫理×うらない文化(1)～人寿の思想と占術数学(「平安時代の占星術) 第6回　生命倫理×うらない文化(2)～人寿の思想と占術数学Ⅱ(戦国時代の和算占術) 第7回　生命倫理×宗教倫理～日本人の死生観と他界観 第8回　宗教倫理×信仰史(1)～(カミ)と(ホトケ)の信仰世界～日本人は(無宗教)か?! 第9回　宗教倫理×信仰史(2)～(ヒトノ力ミ／怨霊／英雄)の信仰世界 第10回　宗教倫理×信仰史(3)～(怨霊／天狗道)の信仰世界 第11回　生活倫理×文芸思想(1)～(ウソ)も(カ夜)の日本思想史 第12回　生活倫理×文芸思想(2)～(裁き)と(正義)の日本思想史 第13回　生活倫理×文芸思想(3)～(江戸しぐさ)と(偽史)をめぐる日本思想史 第14回　生活倫理×文芸思想(4)～(神話)と(科学)をめぐる日本思想史 第15回　総括：日本倫理思想研究の可能性 ※その他、リクエストに応じてテーマ再設定にも対応します。	・授業プリントを活用した「受講レビュー」作成(理解の定着・思考の深化) ・参考文献を活用した「最終レポート」作成(調査方策の修得・論理的文章化)	思想関連	歴史学関連	文学関連	–	各講ごとに授業プリントを配布します(⇒「受講レビュー」「最終レポート」に活用)	・末木文美士『日本思想史の射程』(敬文舎、2017年) ・苅部直『日本思想史への道案内』(NTT出版、2017年) ・苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』(新書館、2008年) ・その他、各テーマ別に紹介します。(⇒「最終レポート」に活用)	平常評価(授業の参加度)：30% 中間評価(受講レビュー)：30% 上記をあわせて総合的に評価します。	講義	上記テーマ別に、通常の講義形式で進めます。まずテーマごとに初期設定した上で、授業プリントをベースに文献資料を読み解きながら講義を展開し、「受講レビュー」として理解の深化と思考の深化をはかります。 また学期末には、履修者各位の学域や興味関心に沿って「最終レポート」を作成してもらいます。レポート作成のてびきは、講義期間中にレクチャーします。	日本の思想・歴史・文学・文化に対する興味関心と学習意欲さえ持ちあわせていれば、予備知識の有無は問いません。ひろく「日本学」研究の基盤・応用として活用してみよう。	木曜日15:00～17:00／その他、在室時に随時対応します。 研究室：人文社会科学棟4Q2(日本倫理思想史研究室)	harakあっとhirosaki-u.ac.jp	人文学部「日本倫理思想史」の読替科目です。
214	214	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	日本倫理思想演習 (Japanese Ethical Thought Colloquium Ⅰ)	2	選択必修	2	前期	木曜日5・6時限	原 克昭	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 3学び続ける力	日本神話および神話注釈諸本の講読を通じて「神話世界」の理解を深めること 〇各時代ごとの享受・変容・再構築の諸相を考究することによって、日本思想史研究・倫理学研究の視座と方法論を修得すること	演習テーマは「神話の変容と再生でたどる日本倫理思想史」 日本思想史研究・倫理学研究の一環として、『古事記』(『日本書紀』をベースに各時代につけられた(つくられた)神話注釈諸本を講読します。前代の注釈をもとに新たな思想発現をくりかえす「日本神話」は、前近代(古代～近世)から近代そして現代をつなぐ思想環境の諸位相を知る他好の研究対象でもあります。古代／中世／近世／近代／現代の諸注釈を比較検証することで、日本人は「神話」をどのように捉えていたか、その思想史的断続性を読み解いてみます。	担当する諸文献パートの調査講読・新文作成・講読成果のしあげ	思想関連	文学関連	歴史学関連	–	レクチャー資料・神話注釈文献とともに、プリントを配布します。	・神野志隆光編『古事記日本書紀必携』(學燈社、1995年) ・平藤喜久子『神話学と日本の神々』(弘文堂、2004年) ・原克昭『中世日本紀論考―註釈の思想史』(法藏館、2012年) ・斎藤英喜『神話・伝承学への招待』(思文閣出版、2015年) その他、各時代・注釈文献ごとに紹介します。	平常評価(演習への参加度)：30% 中間評価(講読への参加度)：40% 期末評価(講読成果しあげ)：30% 上記をあわせて総合的に評価します。	演習	演習に際しての基礎知識の共有レクチャーおよび参加者による神話注釈文献の講読形式で進めます。	日本の思想・文学・歴史・文化に対する興味関心と学習意欲さえ持ちあわせていれば、予備知識の有無は問いません。「日本思想史」に関する文献をじっくりと読み解く機会として活用してみよう。	木曜日15:00～17:00／その他、在室時に随時対応します。 研究室：人文社会科学棟4Q2(日本倫理思想史研究室)	harakあっとhirosaki-u.ac.jp	人文学部「倫理学演習B」の読替科目です。
215	215	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	日本倫理思想演習 (Japanese Ethical Thought Colloquium Ⅱ)	2	選択必修	2	後期	木曜日5・6時限	原 克昭	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 3学び続ける力	日本宗教・信仰に関する思想文献の講読を通じて「神仏習合／神仏分離」をめぐる信仰世界に対する理解を深めること 各時代・各宗教宗派の思想環境の諸相と展開を考究することによって、日本思想史研究・倫理学研究の視座と方法論を修得すること	演習テーマは「日本宗教・信仰の諸相と展開相からたどる日本倫理思想史」 日本思想史研究・倫理学研究の一環として、日本特有の信仰形態である「神仏習合／神仏分離」に関する思想文献を講読します。(カミ)と(ホトケ)が共存する信仰世界を構築する思想基盤と宗教倫理観をさぐりながら、各宗教宗派による環境的位相差や時代的位相差を比較検証することで、日本人は(カミ)(ホトケ)をどのように捉えていたか、その思想史的断続性を読み解いてみます。	担当する諸文献パートの調査講読・新文作成・講読成果のしあげ	思想関連	歴史学関連	文学関連	–	レクチャー資料・宗教思想文献とともに、プリントを配布します。	・村山修一『本地垂迹』(吉川弘文館、1974年) ・安丸良夫『神々の明治維新』(岩波新書、1974年) ・末木文美士『中世の神と仏』(吉川弘文館、2003年) ・吉村均『神と仏の倫理思想』(北樹出版2009年) その他、各時代・各文献ごとに紹介します。	平常評価(演習への参加度)：30% 中間評価(講読への参加度)：40% 期末評価(講読成果しあげ)：30% 上記をあわせて総合的に評価します。	演習	演習に際しての基礎知識の共有レクチャーおよび参加者による宗教思想文献の講読形式で進めます。	日本の思想・文学・歴史・文化に対する興味関心と学習意欲さえ持ちあわせていれば、予備知識の有無は問いません。「日本宗教思想史」に関する文献をじっくりと読み解く機会として活用してみよう。	木曜日15:00～17:00／その他、在室時に随時対応します。 研究室：人文社会科学棟4Q2(日本倫理思想史研究室)	harakあっとhirosaki-u.ac.jp	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
216	216	人文社会科学部文化創生環境文化資源学コース	東アジア思想(East Asian Thought)	2	選択必修	2	後期	火曜日5・6時限	李　良	地域志向科目	レベル3	CP・DP　3学び続ける力	歴史地理的，知的空間としての東アジアという概念に対する透徹した理解力と展望力を涵養すること	東アジアという地理的、知的空間で展開された「知」ー例えば仏教、儒教ないし道教などーの体系とその変容へのアプローチによって、東アジア思想における多様性と統一性をより深く理解し、東アジアの知の空間における思想的連鎖を吟味してその今日的意味合いを考えてみることである。	1、オリエンテーション　東アジアという概念をめぐって 2、東アジアにおける漢字の問題 3、中国思想史概観(1)ー諸子時代を中心にー 4、中国思想史概観(2)ー儒教の問題を中心にー 5、仏教と東アジア 6、仏教と新儒学(朱子学の諸問題) 7、食の思想と行動 8、中間テスト 9、大航海時代と東アジア 10、イエズス会の宣教運動と東アジア 11、漢訳西学書の誕生とその影響 12、東アジアにおける実証主義学風の興起 13、「義理の格致」から「物理の格致」へ 14、近代初期の訳詞問題ー和製漢語の概念術語を中心に 15、講義の総括と討論 16、期末テスト	授業の中で指示します	思想関連	歴史学関連	言語学関連	実務教員	とくにつかいません。講義要綱を配布します。	参考文献(その他は講義都度に紹介します、なお、紹介する参考資料はすべて本学図書館所蔵あり) 1、岸本美緒『東アジアの「近世」』、山川出版社、1998/2005 2、石井正敏『東アジアと古代日本』、山川出版社、2003 3、J．M ロバーツ著、桜井万里子訳『古代ギリシアとアジア文明』、創元社、2003 4、尾形勇『東アジアの世界帝国』、講談社、1985/1990 5、吾妻重二編『東アジアと儒教』、東方書店、2005 6、森安孝夫対『シルクロードと唐帝国』、講談社、2007.2 7、ダニエル・ジャカール『アラビア科学の歴史』(知の再発見双書131)、2006.12	授業参加(40%)中間、期末テスト(60%)を勘案して評価します。	講義	講義形式ですが、時に映像資料を通して理解を深めることもあります。	とくにないですが、毎回授業に対するフィードバックがあること。	木曜日の正午より一時まで、その他のとき、臨時応変に対応します。	popo@hirosaki-u.ac.jp	ー
217	217	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	ビジネス戦略実習I(Business Stratgies Practicum I)	3	必修	2	前期	金曜日7～10時限	大橋　忠宏、加藤憲吉、實孝春、森樹男、保田　京良、大倉　邦夫、熊田憲、小杉雅俊、高島　克史、内藤　周子	地域志向科目	レベル3	CP・DP　1見通す力 CP・DP　2解決していく力 CP・DP　3学び続ける力	社会人基礎力(前に踏み出す力，考え抜く力，チームで働く力)を身につけること 企画提案力を身につけること 地域社会への理解を深め，視野を広げること	地域企業から提示された経営課題に対して，グループで話し合いながら，企画提案を考えます。具体的には，課題に対する調査・検討を行い，それを踏まえて仮の企画(仮説)を立て，さらにその企画が市場で通用するかどうか，市場で検証を行い，最終提案にまとめる，という実証的な体験を通した課題解決型学習を行います(後半部分はビジネス戦略実習Ⅱで実施予定)。	第1回　イントロダクション 第2～5回　事前調査(業界研究，企業研究など)と事前研修(ビジネスマナー研修など) 第6回～15回　企画提案作成のためのグループワーク 第16回　企画提案発表会(期末試験)	本授業は，自ら考え，行動する姿勢を求めていきます。 従って，予習復習においても，自主的積極的にグループで取り組むことを求めます。 また，機会を見つけて，青森県内で開催される地域や地域企業に関するシンポジウムや報告会・勉強会に積極的に参加するようにしてください。	経営学関連	–	–	特になし	授業において，必要に応じて指示します。	個人の社会人基礎力の成長(40%) グループワークの参加状況(30%) 企画提案の内容(30%) 上記を加味した上で，総合評価します	実習	実習形式です。 教室でのグループワークに留まらず，地域企業を何度も訪問し課題について話し合ったり，市場での検証を行うなど，学外での活動が多い，実践的な授業です。	・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります ・この授業は，与えられた課題を受け身的にこなすだけでは達成できません。よりよい結果を出すためには，自ら考え行動する姿勢が求められます。また，最後までやり抜くという気持ちを持つことも必要です。	木曜日8時40分～10時10分	katsushi@at.hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えて下さい	なし
218	218	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	ビジネス戦略実習II(Business Stratgies Practicum I)	3	必修	2	後期	金曜日7～10時限	大橋　忠宏、加藤憲吉、實孝春、森樹男、保田　京良、大倉　邦夫、熊田憲、小杉雅俊、高島　克史、内藤　周子	地域志向科目	レベル3	CP・DP　1見通す力 CP・DP　2解決していく力 CP・DP　3学び続ける力	社会人基礎力(前に踏み出す力，考え抜く力，チームで働く力)を身につけること 企画提案力を身につけること 地域社会への理解を深め，視野を広げること	地域企業から提示された経営課題に対して，グループで話し合いながら，企画提案を考えます。具体的には，課題に対する調査・検討を行い，それを踏まえて仮の企画(仮説)を立て，さらにその企画が市場で通用するかどうか，市場で検証を行い，最終提案にまとめる，という実証的な体験を通した課題解決型学習を行います(前半部分はビジネス戦略実習Ⅰで実施)。	第1回　イントロダクション 第2～10回　企画提案内容の実証のためのグループワーク 第11回～15回　最終企画提案作成・報告書作成・プレゼン準備のためのグループワーク 第16回　企画提案発表会(期末試験) なお，本授業は実質的には8～10月に実施することとなる予定です(グループにより多少の差はあるので注意すること)	本授業は，自ら考え，行動する姿勢を求めていきます。 従って，予習復習においても，自主的積極的にグループで取り組むことを求めます。 また，機会を見つけて，青森県内で開催される地域や地域企業に関するシンポジウムや報告会・勉強会に積極的に参加するようにしてください。	経営学関連	–	–	特になし	必要に応じて，指示します	個人の社会人基礎力の成長(40%) グループワークの参加状況(30%) 企画提案の内容(30%) 上記を加味した上で，総合評価します。	実習	実習形式です。 教室でのグループワークに留まらず，地域企業を何度も訪問し課題について話し合ったり，市場での検証を行うなど，学外での活動が多い，実践的な授業です。	・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります ・この授業は，与えられた課題を受け身的にこなすだけでは達成できません。よりよい結果を出すためには，自ら考え行動する姿勢が求められます。また，最後までやり抜くという気持ちを持つことも必要です。	木曜日8時40分～10時10分	katsushi@at.hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えて下さい	なし
219	219	人文社会科学部文化創生環境文化資源学コース	美術史資料実習I(Art History Practicum I)	3	選択必修	2	前期	火曜日7～10時限	宮坂　朋、足達　薫	地域志向科目	レベル3	CP・DP　1見通す力 CP・DP　2解決していく力 CP・DP　3学び続ける力	具体的な課題を自ら設定し，美術史研究の基礎的な方法を身につけること 美術史学研究で必要となる文献および視覚資料収集の方法を習得すること 美術作品の分析の基礎的方法を習得すること 作品記述の方法をブラッシュアップすること	文献資料と視覚的資料の収集と分析に関する具体的な課題および指導により，美術史学の基礎的方法を学びます。	下記の点に関するフィールドワークと資料分析を15回で行います。受講者各自の調査と発表が主体となります。 1回目：導入説明 2～5回目：文献資料の収集と分析 6～7回目：アカデミック・ライティング 8～10回目：プレゼンテーション 11～14回目：テーマの設定 15回目：まとめ (受講生による取り組みの進み具合に応じて予定を変更することがあります)。	実習の時間は主に指導と発表の時間になります。発表のための準備は各自で行います。	芸術関連	博物館学関連	歴史学関連	–	特にありません。	適宜配布します。	授業への参加度(発表と提出物)によります。	実習	テーマ設定、文献資料収集、視覚的資料収集、各資料の分析等の作業を行うことによって、美術史の専門語文を書く準備をします。	実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります。	宮坂朋のオフィスアワー　火曜日5/6限目	宮坂朋の研究室電話番号0172-39-3243 宮坂朋のメールアドレス　tomo※hirosaki-u.ac.jp (記号はアットマークです)	欠席5回で不可です。
220	220	人文社会科学部文化創生環境文化資源学コース	美術史資料実習II(Art History Practicum II)	3	選択必修	2	後期	火曜日7～10時限	宮坂　朋	地域志向科目	レベル3	CP・DP　1見通す力 CP・DP　2解決していく力 CP・DP　3学び続ける力	美術史学の研究で必要となる資料収集の基礎的方法を習得すること 美術作品と文献資料の分析の基礎的方法を習得すること 作品記述の方法をブラッシュアップすること パネルを作成して，自分の研究成果を発表すること	美術作品を研究して、パネルを制作するという課題により、美術史学の基礎的方法を学びます。	パネルのテーマ設定、資料収集と分析、作成までを15回で行います。 1回目：導入説明 2～5回目：テーマ設定 6～7回目：文献資料・視覚的資料の収集及び分析 8～10回目：プレ発表とその修正 11～14回目：パネルの作成 15回目：まとめ (受講生による取り組みの進み具合に応じて予定を変更することがあります)。	実習の時間は主に指導と発表の時間になります。発表のための準備は各自で行います。	芸術関連	博物館学関連	歴史学関連	–	特にありません。	授業中適宜指示します。	授業への参加度(発表およびレポート、パネル)から総合的に判断します。無断欠席は認めれません。やむをえず休む時は，必ず授業の前(可能なかぎり前日)まで連絡すること。	実習	実習室や講義室での作業と外部の調査、見学を組み合わせるものです。	学内外での作業のため、【学生教育研究災害保険】にかならず加入してください(これは入学時に加入しているんもいますので保護者の方に確認してください)。手続きは生協でおこないます。授業は15回です。 実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります。	宮坂朋のオフィスアワー　火曜日5/6限目	宮坂朋の研究室電話番号0172-39-3243 宮坂朋のメールアドレス　tomo※hirosaki-u.ac.jp (記号はアットマークです)	欠席5回で不可です。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
221	221	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	美術史実習I(Art History Practicum I)	2	選択必修	2	前期	火曜日7～10時限	宮坂 朋、足達 薫	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	自分の目を通して美術作品を観察する基礎的な方法を学ぶこと 観察の結果を総合して，言葉で的確に作品記述を行なう基礎的な方法を学ぶこと	美術作品の見学、観察および作品記述の基礎訓練を行います。	実習室での作品観察の訓練、弘前市および青森県内の複数箇所(例 弘前市博物館、青森県立美術館、弘前市内の建築)での見学や調査実習を組み合わせて15回行います。 見学の後はかならず「報告・発表」を全員が行い、批判的に検討する作業を行います。レポートの提出が頻繁にあります。 1回目:導入 2～5回目:作品観察の基礎 6～8回目:絵画の観察 9～11回目:彫刻の観察 12～14回目:建築の観察 15回目:まとめ (受講生による取り組みの進み具合に応じて予定を変更することがあります)。	作品見学や観察の後、必ず発表とレポート提出があります。	芸術関連	博物館学関連	歴史学関連	–	特にありません。	授業中適宜提示します。	授業への参加度(発表およびレポート)から総合的に判断します。 無断欠席は認められません。やむをえず休む時は、必ず授業の前(可能なかぎり前日)まで連絡すること。	実習	実習室や講義室での作業と外部の調査、見学を組み合わせるものです。	欠席5回で不可となります。	宮坂朋のオフィスアワー 火曜日5/6限目	宮坂朋の研究室電話番号0172-39-3243 宮坂朋のメールアドレス tomo※hirosaki-u.ac.jp (ただし※はアットマーク)	学内外での作業のため、【学生教育研究災害保険】にかならず加入してください。これは入学時に加入しているものです。手続きは生協でおこないます。授業は15回です。実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります。
222	222	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	美術史実習II(Art History Practicum II)	2	選択必修	2	後期	火曜日7～10時限	宮坂 朋	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	作品調査により作品の分析力を身につけること 研修旅行のためのパンフレット作成を通じ、美術史研究の方法を身につけること 作品記述の方法をブラッシュアップすること	美術史実習Iをさらに発展させた内容です。実際の文化財の調査や研修旅行を通じて，さらに実践的に学びます。 弘前市および青森県内の文化財の調査研究と、東京への研修旅行(11月～12月に予定、2日間)の準備と事後報告を組み合わせて15回行います。 1回目:導入と計画 2回目:予備調査の発表 3～6回目:作品分析と発表 7～8回目:パンフレット制作 9～14回目:作品分析と発表 15回目:まとめ (受講生による取り組みの進み具合に応じて予定を変更することがあります)。	以下の点について、調査と発表を繰り返して実力を高めます。 ・研修旅行の計画と事前調査 ・パンフレットの作成 ・研修旅行の実施 ・作品記述・分析	最近、アカデミックなレポートの書き方が分かっていなかったり，毎回の実習での作品観察と記述がおろそかになったりしている例が多く見られます。分からないところは必ず質問して解決し、よく理解した上で取り組んでください。(「指示を待つ」のではなく積極的に参加し、事前準備にも時間をかけてください。	芸術関連	博物館学関連	歴史学関連	–	特にありません。	授業中適宜提示します。	授業への参加度(発表およびレポート)から総合的に判断します。 無断欠席は認められません。やむをえず休む時は、必ず授業の前(可能なかぎり前日)まで連絡すること。	実習	実習室や講義室での作業と外部の調査、見学を組み合わせるものです。	学内外での作業のため、【学生教育研究災害保険】にかならず加入してください。これは入学時に加入している入もいますので保護者の方に確認してください)。手続きは生協でおこないます。 授業は15回です。 実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります。	宮坂朋のオフィスアワー 火曜日5/6限目	宮坂朋の研究室電話番号0172-39-3243 宮坂朋のメールアドレス tomo※hirosaki-u.ac.jp (記号はアットマークです)	欠席5回で不可です。
223	223	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	プロジェクトマネジメント実習I(Project Managment Practicum I)	4	選択必修	2	前期	月曜日1～4時限	大橋 忠宏、加藤 恵吉、黄 孝春、森 樹男、保田 浪良、大倉 邦夫、熊田 亮一、小杉 雅俊、高島 克史、内藤 周子	地域志向科目	レベル4	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	社会人基礎力(前に踏み出す力，考え抜く力，チームで働く力)を身につけること 課題を自ら発見し、その課題を解決するためのプロジェクトをマネジメントする力を身につけること 地域社会への理解を深め，視野を広げること	ビジネス戦略実習で学習したことを活かし，プロジェクトをマネジメントする力を身につけるために，自ら地域の課題を発見し，その解決のためのプロジェクトを企画し，マネジメントするという実践的な活動を行います。	受講者は，以下のようなプロジェクトから1つ選択し，実施するものとします。 ①課題発見型プロジェクト(自らが地域課題を設定し，市場での検証を行いながら，課題解決案を提示する) ②会社説明会プロジェクト(内定をもらった企業を中心に，企業を呼び3年生向けに会社説明会を開催。) ③ビジネス戦略実習のマネジメント(中間報告会，オープンキャンパス，最終報告会，報告書作成など) ④ビジネス戦略実習における学生カンパニーのマネジメント	[予習]どのようにしたらプロジェクトがうまく進行するのか，事前に仮説を立てたうえで，活動に望んでください。 [復習]プロジェクトを遂行していく中で改善が必要だと思った点について，次回までに改善案を考えておくこと。	経営学関連	–	–	特になし	授業において，必要に応じて指示します。	個人の社会人基礎力の成長(40%) プロジェクト遂行能力(30%) プロジェクトの成果(30%) 上記を加味した上で，総合評価します	実習	実習形式です。 教室でのグループワークに留まらず，学生カンパニーの活動に同行するなど，学外での活動が多い，実践的な授業です。	・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります。 ・活動の時期が，大学の学事歴と異なる場合があります。 ・この授業は，与えられた課題を受け身的にこなすだけでは達成できません。よりよい結果を出すためには，自ら考え行動する姿勢が求められます。また，最後までやり抜くという気持ちを持つことも必要です。	木曜 17時40分～18時30分事前にメールで連絡があれば，その都度対応	mori(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
224	224	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	プロジェクトマネジメント実習II(Project Managment Practicum II)	4	選択必修	2	後期	月曜日1～4時限	大橋 忠宏、加藤 恵吉、黄 孝春、森 樹男、保田 浪良、大倉 邦夫、熊田 亮一、小杉 雅俊、高島 克史、内藤 周子	地域志向科目	レベル4	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	社会人基礎力(前に踏み出す力，考え抜く力，チームで働く力)を身につけること 課題を自ら発見し、その課題を解決するためのプロジェクトをマネジメントする力を身につけること 地域社会への理解を深め，視野を広げること	ビジネス戦略実習IおよびプロジェクトマネジメントI実習Ⅰで学習したことを活かし，プロジェクトをマネジメントする力を身につけるために，自ら地域の課題を発見し，その解決のためのプロジェクトを企画し，マネジメントするという実践的な活動を行います。	受講者は，プロジェクトマネジメント実習Ⅰの活動を継続して実施するか，以下のプロジェクトを1つ選択し，実施するものとします。 ①課題発見型プロジェクト(自らが地域課題を設定し，市場での検証を行いながら，課題解決案を提示する) ②会社説明会プロジェクト(内定をもらった企業を中心に，企業を呼び3年生向けに会社説明会を開催。) ③ビジネス戦略実習における学生カンパニーのマネジメント	[予習]どのようにしたらプロジェクトがうまく進行するのか，事前に仮説を立てたうえで，活動に望んでください。 [復習]プロジェクトを遂行していく中で改善が必要だと思った点について，次回までに改善案を考えておくこと。	経営学関連	–	–	特になし	授業において，必要に応じて指示します。	個人の社会人基礎力の成長(40%) プロジェクト遂行能力(30%) プロジェクトの成果(30%) 上記を加味した上で，総合評価します	実習	実習形式です。 教室でのグループワークに留まらず，学生カンパニーの活動に同行するなど，学外での活動が多い，実践的な授業です。	・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります。 ・活動の時期が，大学の学事歴と異なる場合があります。 ・この授業は，与えられた課題を受け身的にこなすだけでは達成できません。よりよい結果を出すためには，自ら考え行動する姿勢が求められます。また，最後までやり抜くという気持ちを持つことも必要です。	木曜 17時40分～18時30分事前にメールで連絡があれば，その都度対応	mori(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
225	225	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	文学基礎論A(The Basics of Literary Theory A)	1	選択必修	2	後期	月曜日7-8時限	小野寺 進	–	レベル1～2	CP・DP 2解決していく力	英詩の基礎とイギリス小説の読み方の基礎を時代および形式の側面から学ぶこと イギリス文学の奥深さと英語を読むことの楽しみを味わうこと	学期を通して，前半を英詩、後半をイギリス小説に分け、それぞれテキストに沿って講義を行います。また講義では取り上げる英詩やイギリス小説作品を原文で鑑賞していきます。	授業計画 第1回:詩について:詩の形式とリズム 第2回:花咲くイングランド:スペンサーとシェイクスピア 第3回:動乱の時代:ヘリックとハーバート 第4回:理性から感情へ:グレイとブレイク 第5回:自然の中から:ワーズワスとシェリー 第6回:懐疑と楽天:テニソンとブラウニング 第7回:現代詩への急傾斜:ハウスマンとイェイツ 第8回:小説以前の小説 第9回:ノンフィクションからフィクションへ 第10回:ピカレスク小説あるいは喜劇的叙事詩 第11回:コシックロマンスのさまざま 第12回:連載小説作者あるいは教養小説 第13回:言語遊戯としての語り 第14回:新しい社会小説あるいは性的人間の登場 第15回:メタフィクションあるいは小説についての小説 第16回:定期試験	毎回の授業終了後に復習点と、次回の予習点についてお知らせします。	文学関連	芸術関連	思想関連		新井明『英詩鑑賞入門』(研究社出版)、川口喬一『イギリス小説入門』(研究社出版)	必要があれば授業にて紹介します。	授業での積極的発言およびレポート(20%) と定期試験(80%)を総合して評価します。	講義	主にスライドを用いた講義になりますが、教科書に掲載されている実際の作品を読むことや、小説では映画化された作品を鑑賞することあります。	毎回の出席が必要ですので、休むことがないよう留意してください。	水曜日5・6時限	susumu(at)hirosaki-u.ac.jp ＊(at)は@に置き換えてください。	—

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
226	226	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	文学基礎論B(The Basics of Literary Theory B)	2	選択必修	2	前期	火曜日9-10時限	堀 智弘	–	レベル2～4	CP-DP 1 見通す力	文学作品を織り成す多層的な意味や文学作品が有する文化的機能を解釈するためのさまざまなアプローチを理解すること さまざまな批評的なアプローチを生み出してきた思想的文化的背景を理解すること 英語のテキストの読解を上達して、批評的な英語に慣れ親しみ、英文読解の能力を高めること	西欧、特に英語圏において、古典的な時代から21世紀にいたるまで、文学批評がどのように発展してきたのかを講義します。	第1回　イントロダクション(授業の概要) 第2回　人文主義 第3回　構造主義(ソシュールと構造言語学) 第4回　構造主義(レヴィ＝ストロースと構造人類学) 第5回　脱構築批評の背景－西洋の形而上学 第6回　脱構築批評(デリダとポスト構造主義) 第7回　精神分析(フロイト) 第8回　精神分析(ラカン) 第9回　ジェンダー批評(フェミニズム) 第10回　ジェンダー批評(クイアー批評) 第11回　イデオロギーと言説(アルチュセール) 第12回　イデオロギーと言説(パフチンとフーコー) 第13回　人種とポストコロニアリズム(ヘンリー・ルイス・ゲイツJr.他) 第14回　人種とポストコロニアリズム(サイード) 第15回　ポストモダニズム 第16回　期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	[予習] 毎回のテキストの指定された範囲(英文)を予習して授業に臨んでください。 [復習] 毎回の内容を自分なりに整理して復習することが必要となります。	文学関連	思想関連	芸術関連	–	Mary Klages, Literary Theory for Beginners (For Beginners Books)	授業時に随時紹介します。	平常点(課題や授業参加等) 50% 期末試験 50% 上記を合算して最終的な成績評価を行う予定です。	講義	講義と演習を織り交ぜて授業を行います。 学生は担当の範囲の日本語訳等の作成と発表が求められます。	受講にあたっては特段の予備知識は必要としませんが、西洋の思想についての基礎知識があれば理解の助けとなるでしょう。	火曜日12:00〜13:00	horitomo(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
227	227	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文学と文化(Literature and Culture)	2	選択必修	2	前期	火曜日3-4時限	尾崎 名津子	–	レベル2	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 3 学び続ける力	日本近現代文学を考える上で、文学作品が置かれていた社会的な状況を理解すること 日本近現代文学作品を通し、近現代の史的変遷の中で様々に変容した文化、思想のあり方を理解すること 日本近現代文学を読み解く方法を学び、各自の興味関心を深めること	この授業では、明治維新以降の文学(日本近現代文学)について、〈都市〉という観点から理解を深めることを目指します。特に、言語表現と作品執筆・発表時の社会状況との関係に注意を向け、それぞれの作品に表現されているものを読み解き、見極め、意味づける技術を習得します。日本近現代文学は、近代以降の日本の進展と常にともにあります。社会や歴史と決して無関係ではない文学のありようを具体的に知る上で、〈都市〉という観点は有効です。なぜなら、〈都市〉というものの自体が、近現代の史的な時間の中で、その実相や象徴性ともに様々に変容する運動体として在ったからです。文学は、こうしたダイナミックな動きを言葉にしましたし、同時にその変化に影響されてもきました。この授業では、文学をより広い視野のもとで位置づけることができるようになることを目指しています。	第1回:イントロダクション―なぜ〈都市〉という観点から考えるか 第2回:森鷗外「舞姫」 第3回:森鷗外「雁」 第4回:江戸川乱歩「目羅博士」 第5回:谷崎潤一郎「秘密」 第6回:堀辰雄「木曜館」 第7回:樋口作之助「わが町」 第8回:中間試験(30分)と前半のふりかえり 第9回:川島雄三「わが町」(1)―プレテクストの読みかえ 第10回:川島雄三「わが町」(2)―「王将」との比較 第11回:江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」 第12回:宇野浩二「夢見る部屋」 第13回:龍胆寺雄「アパアトの女たちと僕と」(1)―「モダン都市」の生起 第14回:龍胆寺雄「アパアトの女たちと僕と」(2)―集合住宅の生活 第15回:期末試験(30分)とふりかえり	[予習]各テーマや作品について、自分でできる限りでの情報収集が必要です。 [復習]各回の授業内容をノート等をもとに振り返るとともに、授業で取りとげられた文学作品の全体を読了することが望ましいです。	文学関連	社会学関連	歴史学関連	–	授業時にプリントを配布し、教科書とします。	以下の文献は全て高知大学附属図書館に所蔵されています。 東郷克美、吉田司雄編『都市と文学を読む』(鼎書房、2017年) 前田愛『都市空間のなかの文学』(筑摩書房、1982年)	平常評価:30%(毎回講義内容に関してコメントを書き、提出する。) 中間試験:35% 期末試験:35% 上記を合算して最終的な成績評価を行います。	講義	基本的に講義形式で進めます。授業の最後にその日の講義内容についての感想や質問を書いたりアクション・ペーパーを提出してもらい、次回の授業の際に紹介・回答するという方法をとります。	日本近現代文学史に関する知識(高等学校卒業までに学習する程度)が具わっていた方が早く理解が深まります。	月曜日～金曜日の昼休み。その他は相談に応じします。まずはメールでの連絡を求めます。 研究室 人文社会科学部棟230	ozaki(at)hirosaki-u.ac.jp	–
228	228	人文社会科学部	文学入門(Introduction to Literature)	1	選択必修	2	前期	木曜日9-10時限	渡辺 麻里子	–	レベル1～2	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 2 解決していく力 CP-DP 3 学び続ける力	日本古典文学の読み方や考え方を身につけること 古典文学の世界の、基礎的な知識を身につけること 古典世界の人々の生き方や考え方を知ること 古典文学についての疑問や問題を考え、調べる力を身につけること 日本の文化・思想・歴史を幅広く学び、理解を深めること	日本の古典文学作品には、当時の人々が、どのような考え方で生きていたのかが克明に記されています。それは現代と共通する点もあり、また異なる点もあります。 古典文学作品の中から、古典世界を考える上で大事なテーマ、夢・鬼・異界・生命観などについて学びます。テーマごとに古典の作品や文章を解説します。しっかりと考え、自分の疑問を持ち、読み深め、考える力、見通す力を身につけられるようにします。また自分で調べることにより問題解決を行うこと、を行います。高校の古典が苦手だった人にも、わかりやすく説明しますので、授業では古典文学作品を読み解くことの楽しさを体験してもらいます。 古典世界における日本人の考え方を、歴史・美術・思想の分野の考え方も合わせつつ学び、日本文化への理解を深めます。高校の教科書には載らないような作品を様々に紹介することにより、古典文学の深い世界に入り、自分でも学び続ける力を身につけられるようにします。	以下の予定で、各回テーマを決めて進めます。(ただし、進度によって、前後することがあります。) 第1回　ガイダンス――日本古典文学を学ぶ意義―― 第2回：古典世界における夢の役割――①『宇治拾遺物語』「夢買う人のこと」を読む―― 第3回：古典世界における夢の役割――②未来を告げる夢の話―― 第4回：古典世界における夢の役割――③異界と通じる夢の話―― 第5回：古典世界における鬼の存在――①『正談抄』「古備真備入唐のこと」を読む―― 第6回：古典世界における鬼の存在――②スーパースター吉備真備と鬼―― 第7回：絵巻と説話――「吉備大臣入唐絵巻」の謎―― 第8回：異界と人間世界――①『今昔物語集』「羅城門」の話から―― 第9回：異界と人間世界――②異界との境界『今昔物語集』から―― 第10回：異界と人間世界――③様々な鬼たち―― 第11回：芥川龍之介の「羅生門」――古典との共存―― 第12回：歴史と文学――①『宇治拾遺物語』に描かれる応天門の変―― 第13回：歴史と文学――②『伴大納言絵巻』に描かれる応天門の変―― 第14回：日本人の生命観――「撰集抄」に描かれる人道人間―― 第15回：日本人の生命観――「長谷雄草紙」に描かれる人間―― 第16回：試験＆レポート提出	予習は、各回、次回授業で用いるプリントを配布するので、読んでおいて下さい。復習は、授業で解説した箇所を読み直して理解を深めて下さい。また、なるべく参考文献を読むことを求めます。	文学関連	思想関連	歴史学関連	–	毎回授業時にプリントを配布し、それを教科書とします。	小峯和明著『説話の森――中世の天狗からイソップまで――』(岩波現代文庫、二〇〇一年 黒田日出男『吉備大臣入唐絵巻の謎』(小学館、二〇〇五年 (いずれも弘前大学図書館にて閲覧可能) その他、適宜、授業時に紹介します。	試験60%、レポート30%、毎回のリアクションペーパー10%を目安として、総合的に評価します。 筆記試験は授業の内容をどれだけ理解したか、レポートは、自分でどれだけ調べ考えることが出来たかを評価します。出席は成績の前提です。	講義	・主に講義によって進めます。 ・毎回プリント資料を配付します。 ・時には、意見を発表してもらいます。 ・毎回の授業の終わりに、リアクションペーパーに、質問・感想・意見などを書いてもらいます。 ・次の時間は、リアクションペーパーに書かれた質問に答えることから始めます。	予備知識は特に要りませんが、高校の古文が苦手でも全く関係ありませんが、勉強する意欲は必要です。	木曜5/6限、その他在室時は随時。事前にメールをいただけると確実です。	mwata@hirosaki-u.ac.jp @を＠に変えて下さい。	特になし。
229	229	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化財科学(Science of Cultural Properties)	2	選択必修	2	後期	水曜日3-4時限	片岡 太郎	–	レベル3	CP-DP 1 見通す力 CP-DP 2 解決していく力	文化財を保存・分析する際の倫理を熟知すること 文化財の健康状態を診断する方法、保存修復する方法、自然科学的な分析方法を学び、文化財の保存の在り方と文化財からどのような情報が得られるかを理解すること	文化財科学は、自然科学的な基礎知識を応用して、文化財の価値を維持したまま後世へ保存する「保存科学」と文化財の価値を高める「分析科学」を二本柱とした学問です。本授業では、国内外の文化財の保存・自然科学分析の事例を通して、文化財科学の歴史と発展を紐解き、現代社会における文化財科学の役割と機能について学びます。	授業予定(変更されることもあります。変更される場合は授業中に連絡します) 第1回　ガイダンス。何故、文化財科学は生まれたか。 第2回　文化財科学の歴史、文化財を保存・分析する際の倫理について。 第3回　文化財の健康状態診断1　－文化財の材質を知る－ /木や漆などの有機材料、鉄や銅などの無機材料を知る方法/ /蛍光X線分析装置や顕微鏡を使った材質同定方法/ 第4回　文化財の健康状態診断2　－現在の状態を記録する－ /デジタルカメラやIDスキャナを用いたデジタル記録/ /デジタル顕微鏡やReflectance Transformation Imagingを使った表面診断－/ 第5回　文化財の健康状態診断3　－劣化状態を調べる－ /X線CT、レントゲン等を使った内部診断/ 第6回　文化財の保存1　－有機材料で構成された保存修復－ 第7回　文化財の保存2　－無機材料で構成された保存修復－ 第8回　文化財の保存3　－遺跡を保存する－ 第9回　文化財の保存4　－展示・保管・運搬時の環境と取扱い方－ 第10回　文化財の自然科学的調査1　－古環境を復元する－ 第11回　文化財の自然科学的調査2　－年代を測定する－ 第12回　文化財の自然科学的調査3　－製作技法を考える－ 第13回　文化財の自然科学的調査4　－産地を考える－ 第14回　災害時の文化財レスキュー活動について 第15回　全体のまとめ	必要に応じて資料を配布しますので、必ず目を通して下さい。	学際・新領域	博物館学関連	考古学関連		必要に応じて、講義中に紹介します。	沢田正昭『文化財保存科学ノート』近未来社1997、沢田正昭『遺物の保存と調査』クバプロ2003	出席(20%)、レポート(40%)、記述式の期末試験試験(40%)を総合的に判断して成績評価を行います。	講義	主にスライドを使った講義形式です。	高校程度の化学と物理学の知識があれば、講義内容がより理解できますが、必須ではありません。	水曜日(14:30～16:00)	taro@hirosaki-u.ac.jp	–
230	230	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化財科学実習I(Cultural Properties Practicum I)	2	選択必修	2	前期	火曜日7～10時限	片岡 太郎	地域志向科目	レベル3	CP-DP 2 解決していく力	文化財を観察し、目視ではわからない情報を引き出す技術と記録する技術を習得すること	文化財科学は、自然科学的な基礎知識を応用して、文化財の価値を維持したまま後世へ保存する「保存科学」と文化財の価値を高める「分析科学」を二本柱とした学問です。本実習では主に分析する技術と記録する技術について学びます。	授業予定(変更されることもあります。変更される場合は授業中に連絡します) (1) 文化財をデジタル記録するための技術 デジタルカメラを使った写真撮影技術 Structure from Motionによる3次元計測技術 Reflectance Transformation Imagingを使った表面情報の抽出 (2) 漆器の製作技術を調査するための技術 顕微鏡を使って漆工品の重ね塗り技法を調べる 電子顕微鏡と蛍光X線分析装置を使った無機材料の素材同定 X線CTを使った三次元画像解析	必要に応じて資料を配布しますので、必ず目を通して下さい。	学際・新領域	博物館学関連	考古学関連	–	特定の教材・テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。	沢田正昭『文化財保存科学ノート』近未来社1997、沢田正昭『遺物の保存と調査』クバプロ2003	実習への取り組み(40%)と期末レポート(60%)から総合判断して成績評価を行います。	実習	様々な科学機器やパソコンを使用しながらの実習となります。	特になし	水曜日(14:30～16:00)	taro@hirosaki-u.ac.jp	–

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
231	231	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化財科学実習Ⅲ(Cultural Properties Practicum Ⅲ)		2	選択必修	2	後期	火曜日7～10時限	片岡 太郎	地域志向科目	レベル3	CP・DP 2 解決していく力	文化財を観察し、主に目視ではわからない情報を引き出す技術と考古資料の取扱い方を習得すること	文化財科学は、自然科学的な基礎知識を応用して、文化財の価値を維持したまま後世へ保存する「保存科学」と文化財の価値を高める「分析科学」を二本柱とした学問です。本実習では考古資料の劣化状態を分析する技術と脆弱な考古資料への対処方法について学びます。	授業予定(変更されることもあります。変更される場合は授業中に連絡します) (1) 脆弱遺物の発見時におけるファーストエイド 遺跡の発掘中には様々な素材の遺物が発見されます。 中には手にとって持てないようなとても脆い遺物があります。 脆弱遺物の取り扱いと取り上げ方法について実践を通して学びます。 (2) 遺跡出土金属資料の劣化状態の観察 金属(鉄など)が腐触する過程を理解する実習を行います。 顕微鏡を使って錆の進行状態を観察し、劣化状態を把握する方法を学びます。 (3) 遺跡出土木質資料の劣化状態の観察 樹木や草本の種類を特定する技術を学びます。 顕微鏡を使って観察し、重さなどの計測から、遺跡出土木質資料が劣化状態を理解する実習を行います。 乾燥が及ぼす木材への収縮・変形への影響を実見し、メカニズムを理解します。	必要に応じて資料を配布しますので、必ず目を通して下さい。	学際・新領域	博物館学関連	考古学関連	–	特定の教材・テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。	沢田正昭『文化財保存科学ノート』近未来社1997、沢田正昭『遺物の保存と調査』クバプロ2003	実習への取り組み(40%)と期末レポート(60%)から総合判断して成績評価を行います。	実習	顕微鏡を使って文化財を観察します。接着剤や水浸しの木材などを使いますので、汚れても良い服装で実習に望んで下さい。	特になし	水曜日(14:30～16:00)	taro@hirosaki-u.ac.jp	–
232	232	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化財保存活用実習Ⅰ(Preservation and Utilization of Cultural Properties Practicum Ⅰ)		3	選択必修	2	前期	木曜日7～10時限	関根 達人	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	文化財の観察から始まり、それを記録・分析し、報告書を作成するための技術を習得すること	主に野外調査の方法について実地と見学をとおして学びます。	1)文化財の野外調査の方法を学ぶ ①発掘調査の方法に関してスライドとテキストにより学びます。 ②測量実習 ③史跡弘前城跡本丸石垣発掘調査現場の見学 2)文化財の修復・活用を学ぶ ①弘前市内の建造物群の修復現場などの見学を予定しています。 ②史跡堀越城跡の整備現場の見学 史跡整備事業中の堀越城跡の整備現場を見学し、史跡の整備の理念と手法を学びます。	実習の際に配られるプリント類を見直し、復習することをお勧めします。	考古学関連	博物館学関連	歴史学関連	–	実習の際にプリント類を配布します。	実習の際に指示します。	出席と授業への取り組みにより成績評価します。	実習	野外での実習が中心です。	弘前市内の文化財を見学する際に自転車を利用します。 野外での調査実習を伴なうので、履修する学生は基本的に、学務部学生課で扱っている学生教育研究災害保険への加入(4年間で3200円程度)を必要とします。 5月の大型連休と夏休み期間中に北海道で行う発掘調査実習に参加する必要があります(経費はかかりません)。	水曜日1・2時限目	sekine(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	–
233	233	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化財保存活用実習Ⅲ(Preservation and Utilization of Cultural Properties Practicum Ⅲ)		3	選択必修	2	後期	木曜日7～10時限	関根 達人	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	文化財の観察から始まり、それを整理して展示する方法や、文化財を記録・分析し、報告書を作成するための技術を習得すること	主に屋内での資料整理方法について学びます。	(1)文化財の基本的な整理方法を学ぶ 発掘調査実習の出土遺物や、弘前大学高橋啓二氏コレクションの整理作業を通して遺物の整理方法を学びます。 (2)文化財の記録方法を学ぶ 拓本と写真撮影の方法を学びます。 (3)文化財の活用方法を学ぶ 人文社会科学部附属北日本考古学研究センターの展示作業と、史跡や資料館の見学により、文化財の活用方法を学びます。	実習の際に配られるプリント類を見直し、復習することをお勧めします。	考古学関連	博物館学関連	歴史学関連	–	実習の際にプリント類を配布します。	実習の際に指示します。	実習の際に指示します。	実習	屋内での資料整理実習が中心です。	施設や資料館など学外での見学実習を伴いますので、履修する学生は基本的に、学務部学生課で扱っている学生教育研究災害保険への加入(4年間で3200円程度)を必要とします。	水曜日1・2時限目	sekine(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	–
234	234	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化財論(Studies of Cultural Properties)		2	選択必修	2	後期	木曜日5・6時限	関根 達人	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	様々な種類の文化財の特徴を理解するとともに、それらの保護に関する施策などについて学ぶこと	「文化財とはなにか?」にはじまり、文化財の種類や保護・活用の在り方など、文化財に関する基礎的な知識の習得をめざします。私たちは、今日まで親や先祖が受け継いできた多くの知識・習俗のなかで生きてきました。文化は地域によって異なるし、ある地域においても時代と共に変化します。そうしたなかで、文化財とかつ文化を守るということは、どういうことでしょうか。過去のあらゆる文化財を守ることは非現実的です。それならば、意図する文化財をなぜ守らなくてはいけないのでしょうか。文化は、人々が長い時間をかけて、自然との共生の中で築き挙げられてきました。文化財について学ぶことは、そうした文化を理解するための重要な手段といえます。わが国の文化財保護には、人と自然の営みを一体のものとして理解しようとする、いわば古くて新しい発想が存在します。スライドを多用し、様々な文化財を紹介するなかでそうした発想がどこから生まれてきたかについても考えてみたいと思います。	第1回　ガイダンス 第2回　「文化財」とはなにか？何故文化財について学ぶ 必要があるのか？ 第3回　文化財の種類と保護　建造物 第4回　文化財の種類と保護　有形登録文化財・伝統的建造物群 第5回　文化財の種類と保護　美術工芸品1 第6回　文化財の種類と保護　美術工芸品2 第7回　文化財の種類と保護　有形民俗文化財 第8回　文化財の種類と保護　無形民俗文化財・無形文化財 第9回　文化財の種類と保護　記念物(史跡) 第10回　文化財の種類と保護　記念物(名勝・天然記念物) 第11回　文化財の種類と保護　埋蔵文化財 第12回　地域の専門家による特別授業 第13回　世界遺産 第14回　文化財保護法の改正について 第15回　文化財の活用・期末試験	ノートや配られたプリント類を見直すことで復習することをお勧めします。	博物館学関連	–	–	特に指定しません。必要に応じてプリント類を配布します。	特に指定しません。必要に応じてプリント類を配布します。	文化財についての中間レポート30点と期末試験70点で成績評価します。	講義	講義形式です。スライドやビデオによりいろいろな文化財を見ることが出来ます。今年度は地域の専門家として弘前市公園緑地課弘前城整備活用推進室の今野沙良子さんをお招きし、文化財保護の最前線に関する特別授業を6回予定しています。	皆さんの身の回りにも、多種多様な文化財が存在しています。普段の生活では見過ごしてしまう文化財もたくさんあります。なにげないモノのなかに、重要な歴史的事実を見いだすことは、ふとな知的好奇心を満足させてくれます。関心の持ち方次第で、それまで見過ごされてきたものが「お宝」にもなるのです。「世界遺産」から「わが家の家宝」まで、文化財に対して身構えず親しむことからはじめましょう。	水曜日1・2時限目	sekine(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	–
235	235	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化財論実習Ⅰ(Cultural Properties Practicum Ⅰ)		2	選択必修	2	前期	木曜日7～10時限	関根 達人	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	文化財の観察から始まり、それを記録・分析し、報告書を作成するための技術を習得すること	文化財論実習Ⅰでは主に野外調査の方法について実地と見学をとおして学びます。	1)文化財の野外調査の方法を学ぶ ①発掘調査の方法に関してスライドとテキストにより学びます。 ②測量実習 ③史跡弘前城跡本丸石垣発掘調査現場の見学 2)文化財の修復・活用を学ぶ ①弘前市内の建造物群の修復現場などの見学を予定しています。 ②史跡堀越城跡の整備現場の見学 史跡整備事業中の堀越城跡の整備現場を見学し、史跡の整備の理念と手法を学びます。	実習の際に配られるプリント類を見直し、復習することをお勧めします。	考古学関連	博物館学関連	歴史学関連	–	実習の際にプリント類を配布します。	実習の際に指示します。	出席と授業への取り組みにより成績評価します。	実習	野外での実習が中心です。	弘前市内の文化財を見学する際に自転車を利用します。 野外での調査実習を伴なうので、履修する学生は基本的に、学務部学生課で扱っている学生教育研究災害保険への加入(4年間で3200円程度)を必要とします。 5月の大型連休と夏休み期間中に北海道で行う発掘調査実習に参加する必要があります(経費はかかりません)。	水曜日1・2時限目	sekine(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	–
236	236	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化財論実習Ⅱ(Cultural Properties Practicum Ⅱ)		2	選択必修	2	後期	木曜日7～10時限	関根 達人	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	文化財の観察から始まり、それを整理して展示する方法や、文化財を記録・分析し、報告書を作成するための技術を習得すること	文化財論実習Ⅱでは主に屋内での資料整理方法について学びます。	(1)文化財の基本的な整理方法を学ぶ 発掘調査実習の出土遺物や、弘前大学高橋啓二氏コレクションの整理作業を通して遺物の整理方法を学びます。 (2)文化財の記録方法を学ぶ 拓本と写真撮影の方法を学びます。 (3)文化財の活用方法を学ぶ 人文社会科学部附属北日本考古学研究センターの展示作業と、史跡や資料館の見学により、文化財の活用方法を学びます。	実習の際に配られるプリント類を見直し、復習することをお勧めします。	考古学関連	博物館学関連	歴史学関連	–	実習の際にプリント類を配布します。	実習の際に指示します。	出席と授業への取り組みにより成績評価します。	実習	屋内での資料整理実習が中心です。	施設や資料館など学外での見学実習を伴いますので、履修する学生は基本的に、学務部学生課で扱っている学生教育研究災害保険への加入(4年間で3200円程度)を必要とします。	水曜日1・2時限目	sekine(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	–
237	237	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化資源学(Cultural Resources)		1	選択必修	2	後期	金曜日9・10時限	○片岡 太郎、宮坂 朋、関根 達人、山田 慶子、山本 秀樹、李 良、原 克昭、横地 優子、尾崎 名津子、渡辺 麻里子	地域志向科目	レベル1～2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	多様なかたちで継承される人間の文化を「資源」として理解すること 文化資源の社会的意義や問題点等に関し、基礎的な知見を習得して、主体的な問題関心を形成すること	考古・芸術・民俗・言語・文学・思想の6つの系統から人間の文化、およびそれを資源と捉えることの意義や問題点について学びます。	授業予定(変更されることもあります。変更される場合は授業中に連絡します) 1回目　宮坂　西洋古典考古学研究史と文化遺産概念の変化について学びます。 2回目　関根　文化資源として、身の回りにある本指定の文化財について学びます。 3回目　上條　考古学とはどんな学問なのか、実際の発掘調査の事例を用いて学びます。 4回目　片岡　文化財科学とは？(文化財の保存) 5回目　片岡　文化財科学とは？(自然科学分析の応用) 6回目　山田　民俗学とはどのような学問か、具体的な例を挙げてその方法を学びます。 7回目　山本　言語の系統と著書性ない、類型的特徴について学びます。 8回目　李　歴史と思想文化の角度から、地域の歴史社会と文化伝統について学びます。 9回目　原　アプローチ方策の可能性から、文化資源学としての「日本思想史」研究の射程を学びます。 10回目　原　科学洋学思想との関係から、「日本思想史」の具体的事象を学びます。 11回目　横地　「文化」、「資源」とは何か、哲学的語源学の観点から考える仕方を学びます。 12回目　横地　「財」、「学」とは何か、哲学的語源学の観点から考える仕方を学びます。 13回目　尾崎　明治・大正期の文学において、雑誌メディアが果たした役割を学びます。 14回目　尾崎　昭和期の文学において、雑誌メディアが果たした役割を学びます。 15回目　渡辺　文化財としての「本」に注目し、和本(和装本)とは何かを学びます。	各回の内容をよく復習して下さい。	学際・新領域	文学関連	考古学関連	–	各回の内容をよく復習して下さい。	特に教科書は使いません。各教員が必要に応じて授業時に資料等を配布します。	各教員によるレポートや試験等による評価を総合して判定しますので、毎講義出席して、各教員から出される課題を確認して下さい。	講義	各教員によるオムニバス授業です。	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。	月曜日12時～13時	itsuko@hirosaki-u.ac.jp	この授業は、文化創生課程文化資源学コースのコア科目で、コースに所属する学生の必修科目です。文化資源学コースに所属を希望する学生は必ず履修して、単位を取得して下さい。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
238	238	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化資源活用論(Cultural Resource Utilization)	3	選択必修	2	前期	金曜日9-10時限	片岡　太郎、横地　優展、足達　薫、関根　達人、上條　信彦、原　克昭、李　良、宮坂　朋、山田　顕子、尾崎　名津子、山本　秀樹、渡辺　麻里子)	地域志向科目	レベル3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　3 学び続ける力	人間の文化を文化資源として捉える意義を多角的な視点から考察すること 多様な文化資源の活用にまつわる諸課題に対して主体的に考える能力を修得すること	文化資源学コースの考古・芸術・民俗・言語・文学・思想の6つの系統の観点から、文化資源の活用と保護に関する最新トピックスを紹介しつつ、文化資源の活用の意義、その方法や問題点について学びます。	(講義の原番および講義内容)(予定) 上條　ガイダンス・ツーリズムからみた古代道路 足達1　名探偵になるための絵画教室(1)現場の観察 足達2　名探偵になるための絵画教室(2)足跡の捜査 山田　ローカルな文化の生き延び方 渡辺　文章資料調査の現状と意義―寺社資料を中心に― 尾崎　日本近現代文学におけるアーカイブの思想 山本　滅びつつある言語を含め、初めて接した言語の構造を分析・記述する方法について学びます。 李1　地域思想文化のネットワークについて考える。 李2　東北地域で生んだ思想家を調べてみよう 原　日本の漢学をめぐる文化資源を捉えなおし、その漢字・漢文リテラシー活用の諸相と実践を検証します。 宮坂1　文化遺産の危機 宮坂2　文化資源活用VS保存 片岡　有形文化財の3次元計測とデジタルアーカイブの活用について 関根　国史跡津軽氏城跡弘前城跡を例に文化資源の保護と活用の具体的な取り組みを考えます。	[予習]各回のテーマに基づき、事前に情報を収集することが必要です。 [復習]各回で学習した内容をよく復習して下さい。	学際・新領域	歴史学関連	文学関連	–	特に教科書は使いません。各教員が必要に応じて授業時に資料等を配布します。	授業内で指示します。	出欠を含む各回の担当教員による評価を総合して判定しますので、毎講義出席して、各教員から出される課題を確認して下さい。	講義	主にスライドや資料を用いた講義で、各教員によるオムニバス授業です。	文化資源学コースの講義のため、文化創生課程のコア科目・基礎科目および、2年次に文化資源学コース教員開講の発展科目を受講済であることを前提に講義を進めます。本講義が文化資源学コース開講の初めての受講の場合、講義内容についていけない恐れがあります。	本年度担当:上條　昼11:50～12:40が在室の可能性が高い。	kamijo@hirosaki-u.ac.jp	–
239	239	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	ベンチャービジネス論(Venture Business)	1	必修	2	後期	月曜日5-6時限	○森　樹男、熊田　雲、高島　克史、大倉　邦夫	地域志向科目	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	青森県内において起業にかかわる人の生の声を聴き、起業マインドを養成すること 青森県内で活躍している人の話を通じて、日常生活では知ることができない青森県の価値を理解すること 青森県内で活躍している人の話を通じて、自らを深く内省すること	青森県内において積極的に起業にかかわっている人をゲストスピーカーに招き、起業家マインドを養成することを目的とした講義である。またゲストスピーカーの話を通じて、青森県内の課題あるいは地域企業が抱える課題を理解しようとするものである。 本講義は、自己のキャリアを考えることも目的としている。実務家・起業家の話を聞き、積極的に質問や意見をすることから自己省察する場でもある。	第1回:オリエンテーション 第2回:ワークショップ①:自らのキャリアと起業 第3回:ゲストスピーカー①:起業支援の政策 第4回:ゲストスピーカー②:公的機関による起業支援 第5回:ゲストスピーカー③:公的機関による経営支援 第6回:ワークショップ②:公的支援策の意義を検討・発表 第7回:ゲストスピーカー④:金融支援 第8回:ゲストスピーカー⑤:起業家による創業時を中心とした講演 第9回:ゲストスピーカー⑥:起業家による地域活性化と起業に関する講演 第10回:ワークショップ③:起業家の意義を検討・発表 第11回:ゲストスピーカー⑦:社会的起業家の講演 第12回:ゲストスピーカー⑧:女性起業家の講演 第13回:ゲストスピーカー⑨:民間団体による企業支援 第14回:ゲストスピーカー⑩:幅広く事業展開している起業家の事例 第15回:ワークショップ④:社会的起業家の意義を検討・発表 第16回:レポート提出と振り返り 具体的な講演者名はオリエンテーション時に説明いたしますので、受講希望者は必ず出席してください。	予習:普段から、ビジネス雑誌や新聞など関心をもってみるようにしてください。 また、機会をみつけて地域や地域企業について考えるシンポジウムや報告会に積極的に参加し、自分なりの考えを持つように努めてください。 復習:講演を聞いた自らの意見と講演者への質問を毎回ミニレポートとして提出してください。可能な限り講義中に質問に対する回答を示したいと考えています。	経営学関連	経済学関連	社会学関連	実務教員	第1回の講義時に指定します。	必要に応じて紹介します	講義への貢献(積極的な発言):10%、ワークショップへの参加と発言:40%、レポート:50%の総計で評価します。 5回以上の欠席があった場合は、レポート点やワークショップでの貢献にかかわりなく不可となります。	講義	パワーポイントを使った講義形式とグループワークが中心です。	必要に応じて、DVD・新聞やビジネス記事を活用し、経営の現場について理解を深めます。	木曜日8時40分～10時10分	katsushi@t.hirosaki-u.ac.jp ※(at)は半角に置き換えてください	受講希望者多数の場合は、履修者を制限します。 受講希望者はかならず第1回講義オリエンテーションに出席してください。
240	240	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	法学演習I(Law Colloquium I)	3	選択必修	2	前期	月曜日7-8時限	長谷河亜希子	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	消費者法の基礎知識を身につけること レジュメの作成作法を学ぶとともに、毎回の発表を通じてプレゼン能力も磨くこと	消費者法分野の様々なトピックスについて、演習方式で学ぶ。	演習15回(毎回、受講生の皆さんに報告していただきます) 第1回目に報告分担を決めますので、この授業の受講者は必ず出席してください。 国民生活センター発行のWeb版「国民生活」の特集一覧を眺めてみてください。 http://www.kokusen.go.jp/wko/data/bn-tokusyu.html ここで取り上げられている問題など、様々な消費者問題について、「国民生活」の特集論文などを利用して、学んでいきたいと思います。 テーマの例) ・儲けそうたら情報商材のトラブル ・ビッグデータの活用と個人情報保護 ・みんなで減らそう!食品ロス ・消費者政策50年 ・広告と消費者トラブル ・シェアリングエコノミーと消費生活 ・若者の消費者トラブル対策を考える ・消費者裁判手続特例法の活用に向けて ・ネット広告の実態と法的問題点 ・クレジットカードの布施使用から身を守るために ・製品事故の防止と被害救済 ・自動運転の諸問題	報告者:自分の担当箇所の報告資料の作成 報告者以外の出席者:教科書を読んで予習し、質問を考えてくる(全員、毎回の質問を義務付けます)	法学関連	–	–	–	適宜指定。	適宜指定	授業での報告、毎回の授業での質問・発言、出席回数。 詳しくは第1回目の授業で説明します。	演習	演習方式	民法の知識があることを前提とします。 消費者問題は、日々発生しています。新聞、ニュース等に常に注意を払うようにしてください。私語、途中退室、スマホの使用は厳禁です。	火曜日7-8時限、研究室は人文棟3階の323研究室	–	–
241	241	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	法学演習III(Law Colloquium III)	3	選択必修	2	後期	水曜日1-2時限	成田　史子	–	レベル3	CP・DP　2 解決していく力	日本の労働法について、学説・判例を分析し、解釈論・立法論を検討する技能を体得すること	本講義は、受講者数にもよるが、数名でグループを作り、毎回の各テーマに沿った判例・裁判例や研究論文を調べ、分析し、グループごとに報告を行う。また、最新の立法案についても検討をし、グループごとに報告を行う。 毎回の講義では、前半に担当グループによる報告を行い、後半は、受講者全員で議論を行う。 報告を割り当てられたグループのみならず、毎回全員が当日扱う判例や文献等を事前にしっかりと予習していることが求められる。 くわえて、後半の議論では、必ず発言し、議論に積極的に参加することが求められる。	第1回　ガイダンス 第2回　ガイダンス- 判例・論文の検索方法・分析の仕方等 第3回　非正規労働-有期労働契約 第4回　非正規労働-パート労働 第4回　非正規労働-労働者派遣 第5回　労働時間規制-労働時間の概念 第6回　労働時間規制-労働時間制度 第7回　人事-配転 第8回　人事-出向・転籍 第9回　就業規則の法的性質 第10回　就業規則の変更 第11回　集団的労使関係-労働組合 第12回　集団的労使関係-団体交渉-労働協約 第13回　労働法制の現代的課題-働き方改革の評価 第14回　労働法制の現代的課題-働き方改革の課題 第15回　総括 (※受講者数等により、シラバスの内容と実際の演習内容とが異なる場合には、その都度説明する。)	報告を割り当てられたグループは、当日までにレジュメを用意する。 報告を割り当てられていない受講者も、当日検討する判例や文献について、目を通し、自分なりの分析や見解を検討してくることが要求される。 講義当日は、グループによる報告後、受講者全員で議論を行い、必ず一回は発言を求められるため、必ず予習をしてくること。 なお、前期「労働法」の単位を取得していることが望ましい。	法学関連	–	–	–	水町勇一郎『労働法[第7版]』(有斐閣、2018) 村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選[第9版]』(有斐閣、2016) 最新版六法	特になし。	平常評価(グループワークへの参加姿勢、報告の質、議論への参加等):70% 期末評価(期末レポート):30% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う。	演習	主にグループ学習・研究により進める。	グループワークを中心とするため、他の受講者に迷惑となるような無断欠席・遅刻等は厳禁。	火曜1・2限	http://hueZjm.hirosaki-u.ac.jp/html/10000051_ja.html	特になし。
242	242	人文社会科学部	法学入門(Introduction to Law)	1	選択必修	2	前期	火曜日3-4時限	長谷河亜希子	–	レベル1	CP・DP　1 見通す力	様々な社会問題について日々学ぶ習慣を身に着けること 法と権利にかかわる市民(皆さん)の役割を認識すること 法学の基礎知識・理念について学ぶこと 裁判など、法的紛争の解決手法について学ぶこと	この授業は、教養教育科目の法学ではありません。 2年生以降、法学を専門的に履修する学生を念頭に置いた授業です。そのため、様々な法律の概要を取り上げるというタイプの授業ではありません。将来、専門的には法学を学ぶ際の視点、考え方を養い、判例・文献調査等を自力で行うことができるようになってもらうための授業です。 様々な社会問題があることをまずは知ってください。	講義15回(うち2回分は裁判傍聴、市議会傍聴) ・法とは何か、法の体系、歴史 ・リーガルリサーチの手法 ・法的紛争の解決の仕組み(刑事裁判(裁判員裁判を含む)・民事裁判・裁判所の種類) ・様々な法の担い手とその役割(被害者・市民・弁護士・検察官等々) ・様々な社会問題と法(消費者と法、外国人と法、家族と法、行政と市民など) ・裁判傍聴 ・市議会傍聴	適宜指示します。	法学関連	–	–	–	椎方桂子・豊島明子・長谷河亜希子編著『日本の法』日本評論社2017年	適宜提示。	感想文(4～5回)+レポート(2種類)。いずれも提出必須。詳しくは初回に説明します。	講義	基本的には講義形式で、時折感想文の提出を求める。そのほか、各自、裁判傍聴、市議会傍聴に行っていただきます(その結果をレポートにまとめる)。	新聞を毎日読むこと。社会問題への強い関心があれば、法学は楽しい学問となることでしょう。	火曜日7-8時限、研究室は人文棟3階の323研究室	–	–

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
243	243	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	簿記システムⅠ(Bookkeeping Ⅰ)	1	必修	2	後期	火曜日7・8時限	加藤 恵吉	–	レベル1～2	CP・DP 1見通す力	企業経営にとって必要不可欠な簿記システムに関する基礎的なスキルを身につけること	簿記は、日々の経営活動を記録・計算・整理し、経営成績と財政状態を明らかにする技能である。 簿記は世界各国で企業の経営活動を記録する方法として広く使われている。 本講義では初級の複式簿記を講義する。	第 1回:簿記の構造 第 2回:損益計算書 第 3回:貸借対照表 第 4回:簿記上の手続き 第 5回:商品売買 第 6回:約束手形 第 7回:貸倒引当金と貸倒損失 第 8回:有価証券の処理 第 9回:固定資産と減価償却 第10回:決算の手続 第11回:精算表 第12回:財務諸表 第13回:試算表 第14回:会計専門職(税理士)の講義:会計専門職の仕事・内容について 第15回:問題演習 第16回:定期試験 (授業の構成上学習項目が前後することがあります。 また、第9回～第12回の間に小テストが盛り込まれます。)	必ずテキストと問題集の復習を行うこと。実際手を動かし解答することが肝要。	経営学関連	–	–	–	開講時に指示する。	『現代会計学』新井清光著 中央経済社	期末テスト(75%)、小テスト(仕訳・計算問題など)及び平常評価(25%)。 平常評価は課題の作成および質問時に積極的に発言することが求められる。 期末試験は、仕訳、精算表、試算表の作成など総合的に出題する。	講義	講義形式で行なう。なお、後方に座っている方には前に出てきてもらって問題を解いてもらうことがある。	企業戦略コースに所属した場合、当科目は必修科目になります。 出席をとります。毎年欠席過多で失格となる者がいるので注意。	月曜12:00～12:30	随時、個別に対応する。	再履修者が若干多い科目ですが、ビジネスには必要不可欠な知識及びスキルです。頑張って単位取得してください。 簿記検定試験3級に準拠しますので是非チャレンジしてください。
244	244	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	簿記システムⅡ(Bookkeeping Ⅱ)	2	選択必修	2	前期	月曜日9・10時限	加藤 恵吉	–	レベル2～3	CP・DP 2解決していく力	日商簿記検定2級程度の商業簿記を理解すること	簿記システムⅠ(日商簿記検定3級程度)の学習をベースに、さらに株式会社を中心とした商業簿記の学習を進める。	第1回 ガイダンス(株式会社簿記の範囲) 第2回 商品売買 第3回 現金・預金の処理(銀行勘定調整表) 第4回 手形・小切手の処理 第5回 有価証券 第6回 固定資産の種類と会計処理 第7回 引当金 第8回 社債、株式の処理 第9回 法人税の課税所得の計算 第10回 リース会計、外貨建取引 第11回 税効果会計 第12回 精算表、財務諸表 第13回 本支店会計 第14回 連結会計 第15回 問題演習 第16回 最終試験	復習は必要不可欠。また、講義終了後、納得できるまで何度もテキスト・問題集の問題を解くこと。	経営学関連	–	–	–	開講時に指示する。	『現代会計学』新井清光著 中央経済社	期末試験(75%)、小テスト(and/or)平常評価(25%)。 ただし、欠席が講義実施回数の1/3以上の者は成績評価の対象外とする。	講義	講義形式(パワーポイントを用い講義を進める)。	当講義は、簿記システムⅠのアドバンス科目ですので同科目を履修してから受講することが望ましいが、基礎レベルの簿記の知識がある学生の履修は妨げない。	月曜12:00～12:30	随時、個別に対応する。	日商簿記検定2級の範囲はボリュームが増し、で学ぶことが多くなってきています。頑張って資格取得も目指しましょう。
245	245	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	保存科学実習Ⅰ(Preservation Science Practicum Ⅰ)	3	選択必修	2	前期	火曜日7～10時限	片岡 太郎	地域志向科目	レベル3	CP・DP 2解決していく力	考古資料の保存処理は、よく観察し、現状の劣化状態を記録することに始まります。文化財の劣化状態を把握した上で、考古資料の保存処理の実践を通して文化財の保存技術を習得すること	文化財科学は、自然科学的な基礎知識を応用して、文化財の価値を維持したまま後世へ保存する「保存科学」と文化財の価値を高める「分析科学」を二本柱とした学問です。本実習ではこれらについて実践形式で行います。	授業予定(変更されることもあります。変更される場合は授業中に連絡します) (1) 遺跡出土金属資料の保存処理実習 文化財カルテの作成方法を学びます。 遺跡出土鉄製品や金属製品を資料とし、劣化状態を把握した上で、劣化状態に応じた保存処理実習を行います。 保存処理方法はある程度体系化されていますが、時間があれば本実習では受講者の新しいアイディアに基いて新しい方法を試みる実習も行いたいと思います。 (2) 環境計測 文化財にダメージを与える因子は、光、温度、湿度、生物、大気汚染など様々です。文化財を後世へより良い状態で伝えるためには、最適な展示・保管環境を整えなければなりません。 実際に環境を計測して、そこから読み取れる情報を解析し、より良い環境にするためにはどのような手段があるかディスカッションします。 ※北日本考古学研究センターの展示室等の環境調査を予定しています。 ※弘前市内の博物館施設の見学等を予定しています。	必要に応じて資料を配布しますので、必ず目を通して下さい。	学際・新領域	博物館学関連	考古学関連	–	特定の教材・テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。	沢田正昭『文化財保存科学ノート』近未来社1997、沢田正昭『遺物の保存と調査』パブロ2003	実習への取り組み(40%)と期末レポート(60%)から総合判断して成績評価を行います。	実習	接着剤や防錆剤を使いますので、汚れても良い服装で実習に望んで下さい。	特になし	水曜日(14:30～16:00)	taro@hirosaki-u.ac.jp	–
246	246	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	保存科学実習Ⅱ(Preservation Science Practicum Ⅱ)	3	選択必修	2	後期	火曜日7～10時限	片岡 太郎	地域志向科目	レベル3	CP・DP 2解決していく力	考古資料の保存処理は、よく観察し、現状の劣化状態を記録することに始まります。文化財の劣化状態を把握した上で、考古資料(木質)の保存処理の実践を通して文化財の保存技術を習得すること	文化財科学は、自然科学的な基礎知識を応用して、文化財の価値を維持したまま後世へ保存する「保存科学」と文化財の価値を高める「分析科学」を二本柱とした学問です。本実習では特に保存科学＜遺跡出土木製品の保存＞について実践形式で行います。	授業予定(変更されることもあります。変更される場合は授業中に連絡します) (1) 土層転写 遺跡の発掘は地層の秩序に基いて、層の新旧を明確としたうえで調査が行われます。層位学的な検討は考古学の基本であり博物館でも地層標本をよく見かけますが、本実習では、地層標本作成する技術＜土層転写＞を学びます。 (2) 遺跡出土木質資料の保存処理実習 実際の遺跡出土木質資料を資料とし、劣化状態を文化財カルテに記録した上で、劣化状態に応じた保存処理実習を行います。 保存処理方法はある程度体系化されていますが、時間があれば本実習では受講者の新しいアイディアに基いて新しい方法を試みる実習も行いたいと思います。 (3) 屋外文化財の保存処理実習 屋外に展示されている碑石や石造文化財の保存処理を行います。	必要に応じて資料を配布しますので、必ず目を通して下さい。	学際・新領域	博物館学関連	考古学関連	–	特定の教材・テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。	沢田正昭『文化財保存科学ノート』近未来社1997、沢田正昭『遺物の保存と調査』パブロ2003	実習への取り組み(40%)と期末レポート(60%)から総合判断して成績評価を行います。	実習	接着剤や水洗しの木材を使いますので、汚れても良い服装で実習に望んで下さい。	特になし	水曜日(14:30～16:00)	taro@hirosaki-u.ac.jp	–
247	247	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	マーケティング論Ⅰ(Marketing Ⅰ)	2	選択必修	2	前期	金曜日5・6時限	保田 宗良	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	企業のマーケティング活動の展開を把握すること 消費者行動とマーケティング活動の関係性、今後の変革を理解すること 個別企業のブランド戦略の検討課題を包括して、競争戦略を考案すること	○マーケティングの基礎理論、マーケティング活動に必要な知識を説明する。 ○消費者行動論とマーケティング活動の関係性、今後の変革を、事例を用いて学習する。 ○ブランド戦略を多角的に基礎理論を踏まえて学習する。 ○ブランド戦略の応用研究を紹介する。	1 マーケティングを学習する意義 2 マーケティングとは何か 3 マーケティングのパラダイム革新 4 消費者行動とマーケティング 総論 5 消費者行動とマーケティング 各論 6 マーケティングのSTP 7 ポジショニングの事例考察 8 ブランドとは何か 9 ブランドロイヤルティ 10 ブランド構築のマーケティング 11 マーケティングの新しいアプローチ 12 サービス・マーケティングとブランド 13 都市、地域のブランド戦略 14 マーケティング研究の新たな動向 15 半期の総括 期末試験	毎回、講義終了時に教科書を活用し、講義のエッセンスを復習します。またその時、次回の予習の範囲を示唆します。	経営学関連	–	–	–	陶山計介・鈴木雄也・後藤こず恵(2017)『よくわかる現代マーケティング』ミネルヴァ書房	講義時間に紹介します。	中間レポート(50点)＋学期末試験(50点)で評価します。 正確な事実関係の把握していること、自分の意見が展開されていることを重要視します。	講義	通常の講義形式ですが、受講者の意見を求めます。興味深いDVDを複数回利用して事例研究を進めます。	マーケティング論Ⅰの受講を予定している人は、必ずこの講義を履修してください。	木曜日・金曜日(12時～12時30分)、他の日時でも研究室にいる時は、随時質問等を受け付けます。	yasuda(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@に置き換えてください。	なし
248	248	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	マーケティング論Ⅱ(Marketing Ⅱ)	2	選択必修	2	後期	金曜日5・6時限	保田 宗良	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	個別企業のマーケティング戦略論の特質を把握すること サービス・マーケティングの検討課題を理解すること ウェブ・マーケティングの応用を検討すること	○マーケティング戦略論の各論を学習する。 ○サービス・マーケティングを事例にもとづき考察し、検討課題を把握する。 ○マーケティング研究の最新動向を紹介し、ウェブ・マーケティングの応用を理解する。	1 前期の復習 2 選択と集中、競争戦略 3 セグメンテーション戦略、消費者行動研究 4 STPの考察 5 マーケティングリサーチの役割 6 価格戦略のメカニズム 7 新製品開発の事例研究 8 流通システム論 9 サプライチェーン・マネジメント 10 サービス・マーケティング総論 11 サービス・マーケティング各論 12 青森県の観光マーケティング 13 ウェブ・マーケティングの課題と展望 14 マーケティングの社会的責任 15 マーケティング研究の最新動向、半期の総括 期末試験	毎回、講義終了時に教科書を活用し、講義のエッセンスを復習します。またその時次回の予習の範囲を示唆します。	経営学関連	–	–	–	青木幸弘編(2015)『ケースに学ぶマーケティング』有斐閣	講義時間に紹介します。	中間レポート(40点)＋学期末試験(40点)＋小テスト5回(20点) 正確な事実関係の把握と課題に対応する力量を重要視します。小テストの追試はありません。	講義	通常の講義形式ですが、度々受講者に意見を求めます。	マーケティング論Ⅰの受講が履修の条件です。	木曜日・金曜日(12時～12時30分)、他の日時でも研究室にいる時は、随時質問を受け付けます。	yasuda(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@に置き換えてください。	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
249	249	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	マクロ経済学 Ⅱ(Macroeconomics Ⅱ)	1	選択必修	2	後期	火曜日5・6時限	山本 康裕	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力	経済学及びマクロ経済学が前提としている仮定と基本用語を理解すること 国内総生産、物価のデータを作成するための諸概念を理解すること 国民所得と利子率の決定メカニズムを理解し、マクロ経済がいかに変動するかを習得すること	マクロ経済学は、近代経済学の基礎科目の一つである。マクロ経済学を習得することは、応用経済学の理解につながる。 まずは、経済学及びマクロ経済学とは何かという議論から出発し、経済学の基本用語や経済を分析する際においている仮定について解説を行う。 その後、一国全体の経済活動の水準(国民所得)が決定するメカニズムと分析方法を講義してゆく。その分析方法を用いれば、政府の財政・金融政策が国民所得と利子率をいかに変動させるかを見通す力を習得することができる。	講義の構成は下記となる。 第1回　日本経済の現状 第2回　経済学及びマクロ経済とは何か及び経済学の基本用語 第3回　国民所得の諸概念 第4回　名目及び実質GDPと物価指数 第5回　古典派経済学の学説 第6回　ケインズ経済学の有効需要の原理 第7回　消費関数 第8回　45度線分析Ⅰ 第9回　45度線分析Ⅱ(乗数メカニズム) 第10回　45度線分析Ⅲ(税金の導入) 第11回　流動性選好仮説 第12回　利子率の決定と金融政策の効果 第13回　LM曲線の導出 第14回　IS曲線の導出 第15回　国民所得と利子率の同時決定及び財政金融政策の効果	この講義は積み上げ式の講義であり、全ての講義が後の講義の礎となる。講義した内容を十分に復習しないと次回の講義を理解することは困難である。よって、講義の復習が予習を兼ねていることを十分に留意する必要がある。	経済学関連	経営学関連	法学関連	–	講義にてレジメを配布する。	初回の講義にて紹介する。	毎回の講義の最後に講義の感想及び理解できなかったことを記述したノートを提出し、それを出席点として総計30点とする。講義をしっかりと聞いていないと判断した場合は出席点としてカウントしないこともある。期末試験は70点であり、合計得点を評価とする。	講義	レジメを配布し、板書により講義をおこなう。出席者は、適宜板書の内容をレジメに書き取る必要がある。	義務教育程度の数学の知識が必要であるが、講義にて使用する数学やグラフについては適宜説明してゆく。	火曜日14時20分から15時50分	メールアドレスは公開しません。	なし
250	250	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	マクロ経済学 Ⅱ(Macroeconomics Ⅱ)	2	選択必修	2	前期	火曜日5・6時限	山本 康裕	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	貿易のある経済における国民所得、利子率の決定メカニズムと財政金融政策の効果を理解すること 国民所得、利子率、物価の同時決定メカニズムを理解すること 財政金融政策の変更、株価及び原油価格の急な変動などが生じた場合、国民所得、利子率、物価がいかに変動するかを見通す力を習得すること 労働者一人当たりの生産が長期的にいかなる要因で成長をするかを理解すること	まずマクロ経済学にて学習したIS－LM分析を復習し、より詳細な分析を行う。次にIS-LM分析を他国と貿易を行う経済に適用し、財政金融政策の効果を論じる。その後は、国民所得と物価・インフレ率の水準が如何に決定されるかを講義する。消費・投資に関してより高度な理論を解説し、経済成長論を講義して授業を終える。	本講義の構成は下記になる。 第1回　IS-LM分析の復習とクラウディングアウト効果 第2回　貿易を行う経済におけるIS-LM分析Ⅰ 第3回　貿易を行う経済におけるIS-LM分析Ⅱ 第4回　金融政策の効果の決定要因 第5回　貨幣の信用創造と金融政策手段 第6回　古典派経済学の体系 第7回　総供給曲線の導出 第8回　総需要曲線の導出 第9回　国民所得、物価、利子率の同時決定と財政金融政策の効果 第10回　コストプッシュインフレとディマンドプルインフレ 第12回　インフレ率と失業率 第12回　消費理論 第13回　投資理論 第14回　経済成長論Ⅰ 第15回　経済成長論Ⅱ	この講義は積み上げ式の講義であり、全ての講義が後の講義の礎となる。講義した内容を十分に復習しないと次回の講義を理解することは困難である。よって、講義の復習が予習を兼ねていることを十分に留意する必要がある。	経済学関連	経営学関連	法学関連	–	講義にてレジメを配布する。	特になし	毎回の講義の最後に講義の感想及び理解できなかったことを記述したノートを提出し、それを出席点として総計30点とする。講義をしっかりと聞いていないと判断した場合は出席点としてカウントしないこともある。期末試験は70点であり、合計得点を評価とする。	講義	レジメを配布し、板書により講義をおこなう。出席者は、適宜板書の内容をレジメに書き取る必要がある。	義務教育程度の数学の知識が必要である。マクロ経済学を履修済みである必要がある。	火曜日7・8時限	公開しません。	特になし
251	251	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	ミクロ経済学 Ⅰ(Microeconomics Ⅰ)	1	選択必修	2	後期	金曜日9・10時限	小谷田 文彦	–	レベル2	CP・DP 2 解決していく力	完全競争市場における均衡分析、消費者の効用最大化について理解すること	ミクロ経済学はマクロ経済学と並ぶ近代経済学の基礎科目です。 ミクロ経済学を理解することによって、関連する応用経済学の理解が明確になります。 「ミクロ経済学とは何か」という話から始め、消費者、企業といった経済主体の最適な行動原理と、それらが所属する市場について学びます。	第 1回　歴史・定義・理論モデル 第 2回　完全競争市場・需要 第 3回　供給曲線・市場均衡 第 4回　均衡分析の初歩 第 5回　均衡分析の応用 第 6回　価格弾力性 第 7回　蜘蛛の巣定理 第 8回　無差別曲線 第 9回　最適消費点 第10回　最適消費点 第11回　個別需要曲線 第12回　家計の理論の応用 第13回　生産の理論 第14回　限界生産性逓減の法則 第15回　等量曲線 第16回　学期末試験	[予習]講義中に指示する内容を調べておいて下さい。 [復習]講義中で解答した演習問題を自力で解答できるようにして下さい。	経済学関連	–	–	–	用いません。	金谷貞男・吉田真理子(2008)『グラフィックミクロ経済学(第2版)』(新世社) 西村和雄(2011)『ミクロ経済学入門(第3版)』(岩波書店) 古沢泰治他著(2012)『ベーシック経済学』有斐閣	学期末試験で評価します。 出席点・平常点の評価はありません。	講義	通常の講義です。	経済学入門を履修済みであれば理解が容易になります。	水曜日午前10時から11時	koyata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	—
252	252	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	ミクロ経済学 Ⅱ(Microeconomics Ⅰ)	2	選択必修	2	前期	木曜日5・6時限	小谷田 文彦	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	完全競争市場における均衡分析、消費者の効用最大化について理解すること	企業の生産、費用の理論を中心に講義を行います。 また、不完全競争、公益産業、公共財の理論、市場の失敗と厚生経済学の基礎、国際経済学の初歩的な講義も行います。	第 1回　総費用曲線 第 2回　限界原理 第 3回　長期の分析 第 4回　独占市場 第 5回　その他の不完全競争の話題 第 6回　パレート最適 第 7回　完全競争の最適性 第 8回　公共財 第 9回　消費者余剰 第10回　独占産業と公益産業 第11回　開放経済 第12回　貿易の利益 第13回　リカードの比較生産費説 第14回　国際経済学とミクロ経済学 第15回　後期のまとめ 第16回　学期末試験	[予習]講義中に指示する内容を調べておいて下さい。 [復習]講義中に解いた演習問題を自力で解けるようになっておいて下さい。	経済学関連	–	–	–	用いません。	金谷貞男・吉田真理子(2008)『グラフィックミクロ経済学(第2版)』(新世社) 西村和雄(2011)『ミクロ経済学入門(第3版)』(岩波書店) 古沢泰治他著(2012)『ベーシック経済学』有斐閣	学期末試験(100%)で評価します。 出席点・平常点による評価はありません。	講義	通常の講義形式です。	経済学入門を履修済みであれば理解が容易になります。	水曜日10時から11時	koyata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	—
253	253	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	民俗学 (Folklore)	2	選択必修	2	後期	月曜日9・10時限	山田 厳子	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	日本の東北地方の民俗事象の特徴を知り、それに対してどのような研究がなされてきたか、研究の蓄積を理解すること それによって、東北地方で民俗調査を始めるための基礎知識を身につけること	1テーマを2～3時間かけて、それぞれの研究史を学びます。研究史の先に自身の研究テーマが設定できることを目指します。	1　イントロダクション 2 「東北」へのまなざし 3 「民俗」とは何か 4 「子ども」をめぐる前近代 5　子殺しの「近代」 6　産婆の呪術 7　オシラ神の「発見」 8　各地のオシラ神 9　東北の熊野信仰 10　能舞と修験の伝承 11　山伏神楽の修得 12　岩木山と赤倉山 13 落ま と「鬼」 14　白神山地と鬼伝説 15　東北の巫女と戦争	単元の内容を調べる 関心を持った事象について参考文献を探して読む。	民俗学関連	博物館学関連	歴史学関連	–	授業中指示します。	福島正人編『身体の構築学』(ひつじ書房 宮本常一編『菅江真澄全集』未来社	コメントペーパー、中間試験、期末試験で評価します。	講義	なるべく映像や写真を見せて、事象を具体的に把握できるように努めます。	民俗と文化、青森県の声の文化人門が関連科目です。	月曜日12時～13時	itsukoあとhirosaki-u.ac.jp	—
254	254	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	民俗学実習 Ⅰ(Folklore)	2	選択必修	2	前期	火曜日7～10時限	山田 厳子	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	フィールドワークの方法について理解すること 2018年度に実施した調査の報告書を読み込むこと 民俗学の基礎知識を身につけること	テキストを分担して読み、発表しながら、調べる力を身につけ、調査方法、基礎知識を身につけます。	1　イントロダクション 2　調査地の説明 3　山鉄・屋台・囃子に関わる先行研究―秋田、岩手― 4　山鉄・屋台・囃子に関わる先行研究―八戸― 5　ゲストスピーカー　八戸市教育委員会　小林力氏「八戸の三社祭り」 6　ゲストスピーカー　鰺ヶ沢町教育委員会　中田喜矢氏「鰺ヶ沢の白八幡宮大祭」 7　家と屋敷　家族生活　親類と同族　村落の構成 8　耕地と生産　山と海の生産　正月と盆　農耕儀礼 9　誕生儀礼　性と年齢の秩序　婚姻儀礼　葬送儀礼 10　恵と失祖祭祀　禁忌と祈願　氏神と氏子　神の示現と芸能 11　シャーマニズムと予言　巫きもの　寺と仏 12　昔話と伝説　都市民俗学 13　調査準備　班分けと課題 14　予備調査１ 15　予備調査２	発表準備が必要です。	民俗学関連	博物館学関連	歴史学関連	–	福田アジオ・宮田登編『日本民俗学概論』吉川弘文館	授業中指示します。	出席と発表、予備調査への取り組みで評価します。	実習	前半はテキストの議論を通じて予備知識を得ます。	特になし	月曜日12時～13時	itsukoあとhirosaki-u.ac.jp	—

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
255	255	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	民俗学実習Ⅱ(Folklore Practicum Ⅱ)	2	選択必修	2	後期	火曜日7～10時限	山田　厳子	地域志向科目	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	フィールドワークの成果をテキストとして編集する方法を学ぶこと 3月に調査地である野辺地町で成果報告をすること	調査報告書を作成し、編集作業を行います。併せて発表準備を行います。	8月16日～19日　民俗学実習で野辺地町のフィールドワーク 1　データ発表　1班2班 2　データ発表　3班4班 3　全体討議 4　目次作成作業 5　目次案実読み合わせ 6　全体討議 7　テキスト編集一次作業 8　一次作業テキスト読み合わせ 9　テキスト修正 10　テキスト編集第二次作業 11　読み合わせと修正 12　発表分担と打ち合わせ 13 最終編集作業 14　発表 15　校正作業	原稿の作成と編集作業	民俗学関連	博物館学関連	歴史学関連	–	学生の作成したテキストを用います	授業中指示します。	原稿と発表、作業を併せて評価します。	実習	原稿作成と読み合わせ、編集作業、修正、発表を行います。	野辺地町と協同で実習を行います。	月曜日12時～13時	itsukoあとhirosaki-u.ac.jp	前期を修得していないと後期からの受講はできません。
256	256	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	民俗誌実習Ⅰ(Folklore Documents Practicum Ⅰ)	3	選択必修	2	前期	火曜日7～10時限	山田　厳子	地域志向科目	レベル3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	2018年度の成果をふまえて、野辺地町で実習を行い、調査報告書を作成すること	基礎的な事象の確認をし、実習地で平先してフィールドワークを行う力を養います。	1　イントロダクション 2　調査地と実習の概要の説明 3　山鉾・屋台・囃子に関わる先行研究一秋田、岩手一 4　山鉾・屋台・囃子に関わる先行研究一八戸一 5　ゲストスピーカー　八戸市教育委員会　小林力氏「八戸の三社祭り」 6　ゲストスピーカー　鰺ヶ沢町教育委員会　中田香矢氏 「鰺ヶ沢の白八幡宮大祭」 7　家と屋敷　家族生活　親類と同族　村落の構成 8　耕地と生産　山と海の生産　正月と祭　農耕儀礼 9　誕生儀礼　性と年齢の秩序　婚姻儀礼　葬送儀礼 10　墓と先祖祭祀　禁忌と祈願　氏神と氏子　神の示現と芸能 11　シャーマニズムと予兆　憑きもの　寺と仏 12 昔話と伝説　都市民俗学 13　調査準備　班分けと課題 14　予備調査1 15　予備調査2	発表準備が必要です。	民俗学関連	博物館学関連	歴史学関連	–	福田アジオ・宮田登編『日本民俗学概論』吉川弘文館	授業中適時指示します。	発表で評価します。	実習	分担発表。	民俗学実習Ⅰ、Ⅱの履修が条件です。	月曜日12時～13時	itsukoあとhirosaki-u.ac.jp	—
257	257	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	民俗誌実習Ⅲ(Folklore Documents Practicum Ⅲ)	3	選択必修	2	後期	火曜日7～10時限	山田　厳子	地域志向科目	レベル3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	フィールドワークの成果を報告書にまとめ、成果を調査地に還元すること	夏休みのフィールドワークの成果を報告書にまとめます。原稿執筆、編集、討議、発表を行います。	8月16日～19日　民俗学実習で野辺地町のフィールドワーク 1　データ発表　1班2班 2　データ発表　3班4班 3　全体討議 4　目次作成作業 5　目次案実読み合わせ 6　全体討議 7　テキスト編集一次作業 8　一次作業テキスト読み合わせ 9　テキスト修正 10　テキスト編集第二次作業 11　読み合わせと修正 12　発表分担と打ち合わせ 13 最終編集作業 14　発表 15　校正作業	原稿執筆と修正が必要です。	民俗学関連	博物館学関連	–	–	自分たちが書いた報告書がテキストです。	授業中適宜指示します。	原稿、編集作業、議論、発表で評価します。	実習	発表、討議	民俗誌実習Ⅰの受講が必要です。	月曜日12時～13時	itsukoあとhirosaki-u.ac.jp	—
258	258	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	民俗と文化(Folklore and Culture)	2	選択必修	2	前期	月曜日9・10時限	山田　厳子	地域志向科目	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　3 学び続ける力	民俗学の基礎的な術語を知り、解説できること 日常の中から民俗学的な課題を発見できること	民俗学に関わる術語がどのように生み出されていったのか、具体的な事例を通して学びます。 術語の背景となる民俗事象については、映像を用いて把握します。 身体技法については古武術の専門家をゲストスピーカーとして招いて、私たちの身体の使い方の歴史性を把握します。	1　イントロダクション 2　世界の中の民俗学 3　柳田國男と日本民俗学 4　民俗学と近代 5　身体技法と「民俗」ゲストスピーカー　T傳流伝承者小山睦秀氏 6　カラとホトケ 7　先祖 8　アジアの中の「盆」 9　祭り 10　まれびと 11　異人 12　家の寝哀 13　憑きもの 14　日常の中の「憑き」 15　まとめ	予習　単元について予備知識を得る。 復習　授業を通して認識の変化を把握する。	民俗学関連	博物館学関連	歴史学関連	–	レジュメを用意します。	柳田國男『明治大正史世相篇』ちくま文庫　中公新書　筑摩書房　他	小テストと記述式のテスト、コメントペーパーで評価します。	講義	映像を用いますコメントペーパーに質問や議論したいことを書き、それについて紹介したり、答えたりします。	特になし	月曜日12時～13時	itsukoあとhirosaki-u.ac.jp あとを@に変換	基礎教育「青森県の声の文化入門」は関連科目です。「青森県の地域社会とジェンダー」にも一部関連授業があります。「民俗学」は関連科目です。
259	259	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	民法(Civil Law)	2	選択必修	2	前期	木曜日7・8時限	吉村　顯眞	–	レベル2	CP・DP　3 学び続ける力	債権各論(契約、事務管理、不当利得、不法行為)の全体構造を理解すること 基本的概念・制度・重要な論点を理解すること	『民法』では、講学上「債権各論」と言われる分野、すなわち民法典第3編にある第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」、第5章「不法行為」といった、4つの債権発生原因について概説していきますが、ここで学ぶ主な内容は次の3つです。 　第1は契約成立とその効力です。これは契約全体に共通する諸問題を説明していきます。例えば、売買契約当事者は履行段階において互いに何を主張できるのか、契約成立後に一方の債務が災害により実現できなくなった場合にどのように対処するのか、債務者が履行しない場合にどのように契約を終了させるのかといったことを内容としています。第2は各契約類型における成立要件やその効力などについて説明していきますが、特に売買契約と賃貸借契約に重点を置きます。第3は法律が債権を発生させる場合として特に重要な不法行為と不当利得を説明していきます。例えば、交通事故で他人に損害を与えた場合の損害賠償の成立要件や加害者の賠償責任を減免責する抗弁などを内容としています。 　なお、この授業では現行民法ではなく、2020年4月1日に施行させる新しい債権法を対象とします。	第1回　オリエンテーション、債権各論の全体構造、契約の基本原則 第2回　契約総論①：契約の成立、約款 第3回　契約総論②：契約の効力(同時履行の抗弁、危険負担) 第4回　契約総論③：契約解除(要件) 第5回　契約総論④：契約解除(効果) 第6回　契約各論①：売買契約(悪質、手付など) 第7回　契約各論②：売買契約(効果)、賃貸借契約(当事者間の関係) 第8回　契約各論③：賃貸借契約(第三者との関係) 第9回　契約各論④：賃貸借契約(借地借家法) 第10回　契約各論⑤：請負契約、委任契約 第11回　契約各論⑥：組合契約、和解契約 第12回　法定債権①：事務管理、不当利得(侵害利得、給付利得、特殊の不当利得) 第13回　法定債権②：不当利得(多数当事者間の不当利得) 第14回　法定債権③：不法行為(要件と効果) 第15回　法定債権④：不法行為(被告の抗弁) 第16回　期末試験	復習していることを当然のこととして授業を進めていきます。 なお、復習をする際には、教科書を読むのはもちろん、授業時に紹介する参考文献も読んで、知識をさらに定着させていってもらいたい。	法学関連	–	–	–	初回の授業までに指示します。	適宜、紹介します。	期末試験(100%)によって判断する。 なお、補充的に平常点・レポート(10～20%)を評価します。	講義	講義形式	『民法Ⅰ』『私法学』を前提にして授業を進めます。	水曜日10:30～11:30	初回の授業時にお知らせします。	特にありません。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
260	260	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	ユーラシア史（Eurasian History）	2	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	亀谷 学	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	ある一つのテーマに沿って西アジア・中央アジアの歴史を理解すること 西アジア・中央アジアの文化を知ることによって自文化をはじめとする他の文化を相対化する視点を養うこと イスラーム世界の中での多様性について理解すること	西アジア・中央アジアに及ぶイスラーム世界における都市について、個々の都市を歴史学的な視点から取り上げて解説してゆくことによって、イスラーム都市の基本的な要素について理解し、また一方で、都市の中に見られる違いからイスラーム世界の中での多様性を考える。さらに、中東の都市文化が様々な類型の人々が関わって形成されてきたというその様相についても具体的に解説する。	第1回　イントロダクション 第2回　古代西アジアの都市 第3回　メッカ：イスラーム誕生の町 第4回　メディナ：預言者ムハンマドの町 第5回　クーファ：軍営都市とシーア派の都市 第6回　ダマスクス：ウマイヤ朝の首府 第7回　エルサレム：三宗教の聖地 第8回　バグダード：アッバース朝の都 第9回　コルドバ：西方イスラーム世界の都市文化 第10回　イスラーム世界における都市論 第11回　カイロ：中世アラブ・イスラーム文化の中心地 第12回　イスファハーン：イラン・イスラーム文化の形成 第13回　サマルカンド：中央アジアのイスラーム都市 第14回　フェス：北アフリカ西部の迷宮都市 第15回　イスタンブル：オスマン帝国化の国際都市	[予習]授業で扱われるそれぞれの都市について、図書やウェブサイトなどから情報を収集し、その基本的な知識を押さえておく。 [復習]授業で扱われた題材について、授業内容と関連する情報の調査や参考文献を読むなどして理解を深める。	歴史学関連	–	–	–	プリント、資料を配布する。教科書は特に指定しないが、毎回の授業において適宜参考となる文献を紹介する。	三浦徹『イスラームの都市世界』(山川出版社、1997年) 佐藤次高（編）『西アジア史①アラブ』（新版世界各国史8、山川出版社、2002年） 永田雄三（編）『西アジア史②イラン・トルコ』（新版世界各国史9、山川出版社、2002年） 板垣雄三、後藤明編『事典イスラームの都市性』（亜紀書房、1992年） 深見奈緒子『世界のイスラーム建築』（講談社現代新書1779、2005年） ※以上はすべて附属図書館にて閲覧可能。 この他にも授業中に適宜参考文献を挙げる。	成績は授業の各回における課題の提出による評価が50%、期末課題による評価が50%とする。期末課題では授業で解説した内容を踏まえながら、ある一つの都市を取り上げたレポートを予定している。	講義	原則として講義形式を取るが、適宜、画像・映像・音声等の資料を用いるほか、毎回コメント課題を行う時間を設ける。	特になし。	水曜12:00～12:30	kameya.m(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
261	261	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	ヨーロッパ地域学（European Regional Studies）	2	選択必修	2	後期	木曜日9・10時限	齋藤 義彦	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	戦後国際社会と欧州事情を概観することにより、戦後ドイツの特色を理解すること 戦後日本との比較の視点を獲得すること	国際社会や欧州連合との関係に留意しつつ、ドイツ連邦共和国の仕組みの由来を俯瞰します。また、随時時事的なドイツの動向を参照し現状を歴史的展開の中で分析します。	1）導入（戦後の世界、ヨーロッパ、ドイツ、日本） 2）戦後世界体制とドイツ 3）戦後欧州体制とドイツ 4）欧州石炭鉄鋼共同体条約までのドイツ 5）ローマ条約までのドイツ 6）ブラント内閣までのドイツ 7）コール内閣までのドイツ 8）ドイツ統一までのドイツ 9）中間まとめと中間試験（40分） 10）戦後ドイツの社会（1） 11）戦後ドイツの社会（2） 12）ドイツ統一 13）シュレーダー政権のドイツ 14）メルケル政権のドイツ 15）まとめ 16）期末試験 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	[予習]各回のテーマについてあらかじめ予備的な理解をすること [復習]各回のテーマの理解を深めるために追加的な資料に当たること	歴史学関連	政治学関連	思想関連	–	指定されません	仲正昌樹『日本とドイツ　二つの戦後思想』光文社新書2005年 三島憲一『戦後ドイツ』岩波新書　1991年	授業での成果（30%）と中間・期末試験（70%）を総合的に評価します	講義	講義形式	新聞の国際欄とくにヨーロッパ関係の記事に注目してください。 国際関係に関する幅広い基礎科目、テーマ科目を履修してください。	月曜7・8時限または昼休み時間	yosihiko(at)hirosaki-u.ac.jp (at)は@に置き換えてください	なし
262	262	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	量的社会調査演習（Quantitative Social Research）	2	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	古村 健太郎	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	質問紙調査の基本的な知識を身につけること 簡単な質問紙調査については、設計と実施ができるようになること 一般の質問紙調査の適切／不適切な点を判断できるようになること	社会調査の設計、準備、データ収集・分析といった一連の手続きやデータの読み方について、実践的に学ぶことを通して、社会調査の手続きと結果の読み取り方の習得を目指します。授業では、半期をかけて青森県と関連する特定テーマについての質問紙を作成してもらいます（テーマは初回に提示する）。	第1回：オリエンテーション 第2回：調査の企画 第3回：調査の流れ 第4回：データ収集の手法 第5回：調査のデザイン1ー問いをあたためる 第6回：調査のデザイン2ー仮説を立てる 第7回：調査のデザイン3ー仮説から質問へ 第8回：質問紙の作成1ー質問の仕方 第9回：質問紙の作成2ーレイアウト 第10回：サンプリング 第11回：確認テスト 第12回：データの整理と分析1ーデータの単純集計 第13回：データの整理と分析2ーデータのクロス表分析 第14回：データの整理と分析3ーアーカイブデータの利用と二次分析 第15回：まとめ ※授業の内容は、進捗状況に合わせて変更することがあります。	平常課題では、授業の予習・復習となる課題を出します。復習は、教科書で該当するセクションを読み、基本事項を確認するとともに、発展的な話題についてもフォローするようにしてください。	社会学関連	心理学関連	–	–	嘉亮・杉野勇『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社	特になし	平常課題（小テスト含む）（30%）、レポート（質問紙の作成）（30%）、テスト（40%）から評価します。	演習	各自が予習を行なった上で授業中の演習で質問紙設計を進める形式を とります。受講生には演習課題への積極的な参加と発言を求めます。	データの分析・整理の際には、PC（統計解析ソフトR）を用いた演習を行う予定です。	火曜日5・6時限、他の時間帯も問い合わせがあれば、可能な限り対応します。	–	–
263	263	人文社会科学部	歴史学入門（1）（Introduction to History）	1	選択必修	2	前期	火曜日3・4時限	中村 武司	–	レベル1～2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	16世紀以降の世界史／グローバル・ヒストリーにかかんして、歴史の流れを把握すること 16世紀以降の世界史／グローバル・ヒストリーについての基本的な知識や概念、考え方を理解すること	この講義では、16世紀のいわゆる「大航海時代」から20世紀初頭の帝国主義の時代にいたる世界史／グローバル・ヒストリーを、とくにヨーロッパに注目して概観します。そのさい、従来のヨーロッパ中心主義的な歴史解釈をくりかえすのではなく、近代ヨーロッパが、アジアやアメリカ、アフリカといった世界の様々な地域との相互の交流や関係なくしては成立しえなかったことを論じる予定です。	1.　　イントロダクション 2.　　世界システム分析とは何か 3.　　前近代ユーラシアの世界システム 4.　　1571年――グローバル化のはじまり（前） 5.　　1571年――グローバル化のはじまり（後） 6.　　17世紀の危機とオランダの繁栄 7.　　バルト海帝国の盛衰 8.　　財政軍事国家イギリス 9.　　大西洋奴隷貿易の展開と廃止 10.　　東インド会社とアジア 11.　　環大西洋革命と世界システムの再編 12.　　パクス・ブリタニカの時代 13.　　大分岐――ヨーロッパとアジア 14.　　移民の世紀 15.　　世界システムと帝国主義の時代 16.　　期末試験	予習：必要におうじて、授業中に指示します。 復習：かならず授業内容の復習を行うようにして下さい。参考文献を確認したり、授業で分からなかった点を自ら調べたりすることで、授業内容への理解を深められるよう心がけて下さい。	歴史学関連	–	–	–	教科書は使用しません。配布するレジュメに即して授業を進めます。	秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書、2012年） 加藤祐三・川北稔『世界の歴史25 アジアと欧米世界』（中公文庫、2010年） 川北稔『世界システム論講義――グローバル・ヒストリー入門』（岩波新書、2014年） 水島司『グローバル・ヒストリー入門』（山川出版社、2010年） 以上の文献は、図書館に所蔵されています。ぜひ参考文献も授業中に適宜紹介します。	平常評価（小テストやリアクション・ペーパーなど）：50% 期末評価（期末試験）：50% 上記を合算のうえ、出席回数が全講義回数の3分の2に満たない場合、あるいは期末試験を受験しなかった場合は評価の対象としませんので、ご注意して下さい。	講義	講義形式で進めます。授業の回によっては、その時間の最後に小テストを実施したり、授業についての質問・感想を記したリアクション・ペーパーを執筆してもらうことがあります。また予習・復習をかねて、ミニ・レポートを課題として設定することもあります。	高校世界史の知識を前提に授業を進めますので、受講にあたり、高校世界史教科書（A・Bや教科書会社は問わない）を再読して、近世から近代の西洋史の記述を確認することを強く推奨します。	毎週火曜日、12:00-12:40（人文社会科学部校舎407号室：ヨーロッパ史研究室） 研究室を不在にしていることもありますので、面談を希望する場合は、事前にメールにて予約することを勧めます。	Eメール・アドレス：take_nk(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)を@に変更して送信して下さい HPアドレス（researchmap）：URL＝http://researchmap.jp/read0106710	–
264	264	人文社会科学部	歴史学入門（2）（Introduction to History）	1	選択必修	2	前期	月曜日9・10時限	荷見 守義	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力	中国史について、古代から中世までの流れを、王朝支配の特質から把握する力を養うこと 中国史について、史料の重要性を理解する力を養うこと	○中国史について、古代から中世までの流れを、王朝統治者の視点から見て行く。 ○中国史について、歴史理解上必須な史料について、文字文化の側面も加味して理解して行く。	第1回　イントロダクション 第2回　秦始皇帝の奔走 第3回　秦ー統の虚実 第4回　漢・劉邦とその時代（リアクションペーパー） 第5回　平骨・金石・墳墓から統へ 第6回　漢・武帝とその時代 第7回　司馬遷と正史の伝統 第8回　試験と官僚制（リアクションペーパー） 第9回　科挙のLくみ 第10回　鮮卑族と中国の統一 第11回　隋の役割 第12回　唐・辛世民と長安 第13回　漢字と一統 第14回　陶磁器の発達（リアクションペーパー） 第15回　北宋・趙匡胤のなぞ 第16回　期末試験	[予習]特段ありません。 [復習]配布プリントは授業後、必ず復習して下さい。	歴史学関連	言語学関連	考古学関連	–	授業は配布プリントに基づいて行います。	『アジア歴史事典』（平凡社）	平常評価（リアクションペーパー）30% 期末評価（試験）：70% 上記を合算して最終的な成績評価を行います	講義	講義形式	配布プリントと授業内容についてよく復習して下さい。	月曜11:50～12:40	hasumim(at)hirosaki-u.ac.jp (at)は@に変換して下さい。	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
265	265	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	歴史基礎論A(The Basics of History A)	1	選択必修	2	後期	木曜日9-10時限	亀谷 学	–	レベル1	CP・DP 1 見通す力	西アジア・中央アジアの歴史を通史的に理解し、その特徴について把握すること 現代のイスラーム世界を理解するための基礎的な前提について理解すること 歴史学的な思考について具体例に触れながら習得し、様々な地域の歴史を考察するときに応用可能な視点を養うこと	本講義では西アジアを中心に、その周辺世界まで含みつつ、文明の勃興から近代の始まりとなる19世紀までの歴史について概説する。その際、各回に一人の人物を取り上げて、その人物が生きれた時代背景や、彼が行なった事跡、そして構成に与えた影響などについて解説する。その際、関連して、これまでの歴史学の研究しの中で行われてきた議論を紹介し、歴史学的な思考やその議論のあり方についても取り上げて考察する。	第1回　イントロダクション 第2回　ハンムラビとメソポタミアの文明 第3回　アレクサンダー三世と西アジアの大帝国 第4回　イエスと一神教の拡大 第5回　コンスタンティヌス大帝と古代末期の始まり 第6回　ホスローニ世と古代末期西アジアの変容 第7回　ムハンマドとイスラームの創唱 第8回　ムアーウィヤとイスラーム共同体の分裂 第9回　マンスールとアッバース朝イスラーム帝国の基礎づくり 第10回　マアムーンとイスラームの多民族社会へ 第11回　ニザーム・アルムルクと外来軍事集団 第12回　サラディンと十字軍と対峙する西アジア 第13回　バイバルスとモンゴル帝国の進攻 第14回　メフメト二世とオスマン朝の帝国化 第15回　ムハンマド・アリーと西アジア近代の始まり ※理解度などを勘案して授業の進度を変更することがあります。	[予習]概ね時代順に進めるため、それに沿って概説などを読み、準備をする。 [復習]授業で扱われた題材について、授業内容と関連する情報の調査や参考文献を読むなどして理解を深める。	歴史学関連	–	–	プリント、資料を配布する。教科書は特に指定しないが、毎回の授業において適宜参考となる教科書を紹介する。	佐藤次高(編)『西アジア史①アラブ』(新版世界各国史8、山川出版社、2002年) 永田雄三(編)『西アジア史②イラン・トルコ』(新版世界各国史9、山川出版社、2002年) 歴史学研究会編『古代のオリエントと地中海世界』(世界史史料1、岩波書店、2012年) 歴史学研究会編『南アジア・イスラーム世界・アフリカ：18世紀まで』(世界史史料2、岩波書店、2009年) 歴史学研究会編『帝国主義と各地の抵抗①南アジア・中東・アフリカ』(世界史史料8、岩波書店、2008年) ※以上はすべて附属図書館にて閲覧可能。 この他にも授業中に適宜参考文献を挙げる。	成績は授業の各回における課題の提出による評価が50%、期末課題による評価が50%とする。期末課題としては授業で解説した内容を踏まえながら、ある一人の人物を取り上げたレポート課題を予定している。	講義	原則として講義形式で取るが、適宜、画像・映像・音声等の資料を用いる。ほか、毎回コメント課題を行う時間を設ける。	特になし。	水曜12:00-12:30	kameya.m(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
266	266	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	歴史基礎論B(1)(The Basics of History B)	2	選択必修	2	前期	水曜日5-6時限	武井 紀子	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	古代から近代までの歴史の流れを学び、日本がどのような歴史的展開をしてきたのかを大づかみに把握すること これまで歴史学上しての日本史がどのようなことを問題にしてきたのかを学び、日本の歴史を考える上で不可欠な視点について理解すること	本講義では、古代から近代までの日本の歴史を概説し、各時代の特徴を講義していきます。天皇制や官僚制、国家の制度、文化・社会の問題や価値の問題など、現代の日本を形づくる諸要素が、どのように形成されていったのかについて学びます。	第1回　ガイダンス ― 日本の歴史における都市 ― 第2回　飛鳥の宮と前期難波宮 第3回　藤原京から平城京へ 第4回　長岡京・平安京の時代 第5回　古代地方官衙と社会 第6回　古代の都鄙間交通 第7回　平泉と鎌倉 第8回　武士と荘園 第9回　中世都市と宗教・流通経済 第10回　戦国大名の分国支配 第11回　描かれた近世都市 第12回　江戸・京・大坂 第13回　諸藩の城下町づくり 第14回　江戸時代の民衆と旅 第15回　明治維新と近代殖産興業 学期末試験	【予習】各回のキーワードとなる用語を辞書で調べてくること。 【復習】各回配布するプリントをよく読んで復習すること。また、授業中の分からない語句などは、自身で辞書を引き調べておくこと。授業内容に関連する通史などを読んでおくと理解が深まります。	歴史学関連	考古学関連	地理学関連	–	特になし。授業中に資料を配付します。	『新体系日本史 都市社会史』(山川出版社、2001年) そのほか、授業中に適宜紹介します。	平常評価(毎回の授業でのリアクションペーパーの提出)30%、学期末試験70%によって総合的に評価します。 授業の三分の二以上の出席が評価の前提です。	講義	各回、講義形式で進めます。プリントで史料等を配布し、関連する写真や図版をスライドで示しながら講義します。参加者は各自ノートをとり、講義の終わりにリアクションペーパーに授業内容に対するまとめ、質問・感想を書いて提出してもらいます。質問事項は、次の講義で答えてフィードバックしていきます。	予備知識の有無は問いません。史料レジュメを配りますが、しっかり読み込んで、授業内容のメモを取りながら受講して下さい。また、前回のプリントを見直すことがあるので、各回での配布物は毎回持って来て下さい。地歴・公民の教員を目指す人は、受講して下さい。	火曜日10:00-12:00。ただし、研究室(人文333)在室時はいつ来ても構いません。	n-takei(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)を@に置き換えて下さい。	特になし。
267	267	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	歴史文化演習A(1)(Historical Cultures Practicum A)	2	選択必修	2	前期	火曜日7-8時限	中村 武司	–	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	英語論文の精読をつうじて、英語の読解能力および学術論文の批判的な読み方を養うこと 長い19世紀のイギリス史ならびにイギリス帝国史をめぐる諸問題や方法論への理解を深めること	西洋史、とくに長い18世紀のイギリス史・イギリス帝国史にかんする英語論文を精読し、その内容への理解を深めるとともに、論文の研究史上の意義について履修者で討論・検討します。	授業では、次の論文を輪読する予定です。 P. J. Marshall, 'Empire and British identity: the maritime dimension', in David Cannadine (ed.), Empire, the sea and global history: Britain's maritime World, c.1763-c.1840 (Basingstoke and New York: Palgrave Macmillan, 2007). 第1回：ガイダンス 第2～4回：Introduction and Section I (pp. 41–45)の講読 第5～6回：Section II (pp. 45–47)の講読 第7～9回：Section III (pp. 47–50)の講読 第10～12回：Section IV (pp. 50–53)の講読 第13～15回：Section V and VI (pp. 53–56)の講読 受講者の人数や希望によっては、輪読する英語論文を変更することもあります。	本授業は予習ならびに復習が不可欠です。かならず以下の点を留意して受講して下さい。 予習：歴史学の学術論文は、高校までの英語文法の知識で充分に読むことができるので、事前に分からない単語・熟語を英和辞典で調べるなどして時間をかけて丁寧に論文を読んでくること。また、論文中に出てきた人名や地名、歴史的事項についても、参考図書や事典などできちんと調べること。 復習：授業後、調べた単語・熟語を覚えるようにしかけると同時に、論文の内容への理解を深めるために、もう一度読み直すようにすること。	歴史学関連	–	–	初回の授業のさいにテキストを配布します。	川北稔『帝国と植民地――18世紀イギリス帝国の変質』、浜下武志・川北稔編『(地域の世界史11)支配の地域史』(山川出版社、2000年) 近藤和彦編『イギリス史研究入門』(山川出版社、2010年) Armitage, David, The ideological origins of the British Empire (Cambridge: Cambridge University Press, 2000)[平田雅博・岩井淳・大西晴樹・井藤早紀訳『帝国の誕生――ブリテン帝国のイデオロギーの起源』(日本経済評論社、2005年)] Colley, Linda, Britons: forging the nation, 1707–1837 (New Haven and London: Yale University Press, 1992)[川北稔監訳『イギリス国民の誕生』(名古屋大学出版会、2000年)] Marshall, P. J. (ed.), The Oxford history of the British Empire II: the eighteenth century (Oxford: Oxford University Press, 1998) 以上の文献は、図書館に所蔵されています。ほかの参考文献も授業中に適宜紹介します。	受講生の出席・予習状況(30%)、テキストの理解度(30%)、課題レポートの成績(40%)から、総合的に評価します。 なお、出席回数が全授業回数の3分の2に満たない場合は評価の対象としませんので、注意して下さい。	演習	演習形式で実施します。 第1回の授業のさいに、テキストの担当箇所と順番を決定します。 次回以降の授業では、各受講生は担当箇所を日本語訳を作成して説明し、その内容や疑について教員とほかの受講生のあいだで検討します。演習という受講生の主体的な参加がもとめられる授業形態から、とくに無断欠席は授業放棄とみなしますので、注意して下さい。	上述の(17)準備学習(予習・復習)等の内容に留意して、履修して下さい。	毎週火曜日、12:00-12:40(人文社会科学部校舎407号室：ヨーロッパ史研究室) 研究室を不在にしていることもありますので、面談を希望する場合は、事前にメールにて予約することを勧めます。	Eメール・アドレス：take_nk(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)を@に変更して送信して下さい HPアドレス(researchmap)：URL＝http://researchmap.jp/read0106710	–

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
268	268	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	歴史文化演習A(2) (Historical Cultures Practicum A)	2	選択必修	2	前期	火曜日5・6時限	武井 紀子	-	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	日本史の様々な史料の属性を知り、読解する力を身につけること 基本的な辞書類の使い方、史料の読み方など、日本史研究の基礎を学ぶこと 様々な史料の読解と扱い方を身につけ、歴史文化を深く理解し探求する力を身につけること	皆さんがよく知る日本の歴史は、今日まで残されてきた様々な史料によって明らかにされてきたものです。歴史を学ぶ、研究するには、第一にそうした史料からあらゆる情報を引き出す事が重要になります。本演習では、古代・中世の様々な史料を紹介し、自分でそれを読み解いていく練習をしていきます。文書の実際の写真を使って史料を読んでいくのも楽しいです。地域の博物館などに出かけたときに、その土地の文化を深く理解し、歴史的関心を持って学び続ける力を身につけます。	下記の通り、進めていきます。 第1回　　ガイダンス ― 日本史の史料について ― 第2回～第3回　律令格式を読む 第4回　　古代の行政文書を読む 第5回～第6回　木簡・金石文を読む 第7回～第8回　平安貴族の日記を読む 第9回　　説話文学と文字資料を読む 第10回～第11回　中世武家文書を読む 第12回～第13回　中世の義利記録を読む 第14回～第15回　戦国武将の文書を読む	【予習】各史料の報告を担当する人は、各史料の内容についてレジュメを作って報告準備をしてきて下さい。 そのほかの参加者は、講義で扱う史料を事前に自分で読んでおいて下さい。 【復習】授業での内容を踏まえて、毎回課題を出しますので、小レポートにまとめて次週までに提出します。	歴史学関連	考古学関連	文学関連	-	教科書は使用しません。第1回の時に扱う資料のプリントを配ります。 漢和辞典・国語辞典・古語辞典などがあると便利です。	佐藤進一『新版 古文書学入門』(法政大学出版局、1997年) 歴史学研究会編『日本史史料』(岩波書店、1996年～2006年) 苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』(吉川弘文館、2015年) 池田温編『日本古代史を学ぶための漢文入門』(吉川弘文館、2006年) そのほか、授業中に適宜紹介します。	授業への参加度30%、平常評価(担当史料の報告および授業における質疑応答などの発言)30%、期末のレポート40% 課題を総合して評価します。	演習	講義と演習を組み合わせて行います。 各史料の報告者を決めて、内容などについて報告してもらいます。 その上で、該明講義を加えながら、参加者と史料を再度読んでいきます。 参加者は、次の授業までに講義で扱った資料について、講義の内容を踏まえてレポートにまとめて提出します。	予備知識は必要としませんが、受講者は辞書類を引いて根気よく調べていく必要があります。	火曜日10:00～12:00。ただし、研究室(人文333)在室時にはいつ来ても構いません。	n-takei(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)をｰに置き換えて下さい。	特になし。
269	269	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	歴史文化演習B(1) (Historical Cultures Practicum B)	2	選択必修	2	後期	水曜日5・6時限	荷見 守義	-	レベル2	CP・DP 2 解決していく力	中国史を学ぶ際に必須になる漢文史料の取り扱いについて習熟すること 中国史を史料を通して理解していく力を養うこと	中国史を史料を通して理解していく力を養うこと ○『明史』神宗本紀の万曆10年(1582)から読み進めます。 ○教員が注釈を付したハンドアウトを使いながら、翻訳や解説は学生が輪番で取り組みます。	第1回　ガイダンス 第2回　正史と『明史』について 第3回『明史』神宗本紀　万曆10年の条 第4回　関連する事項についての講義　旧暦の扱いについて 第5回『明史』神宗本紀　万曆11年の条 第6回　関連する事項についての講義　簡単な漢文読み方講座 第7回『明史』神宗本紀　万曆12年の条① 第8回『明史』神宗本紀　万曆12年の条② 第9回　関連する事項についての講義　苦難と苦都の構造について 第10回『明史』神宗本紀　万曆13年の条 第11回『明史』神宗本紀　万曆14年の条 第12回　関連する事項についての講義　実録について 第13回『明史』神宗本紀　万曆15年の条 第14回『明史』神宗本紀　万曆16年の条 第15回　まとめと振り返り　レポート	[予習]前回までの内容を把握しておいて下さい。 [復習]各回の内容を事前に予習してまた上で、復習することが必要です。	歴史学関連	言語学関連	文学関連	-	配布プリントで演習を行います。 ※漢和辞典(電子辞書不可)を持参して下さい。	演習時に紹介します。	平常評価(課題への取組)70% 期末評価(レポート)30% 以上を合算して最終的な評価を成績評価を行う予定です。	演習	講義と演習を折衷した形式で行います。	毎回の予習・復習をしっかり行って下さい。	月曜11:50～12:40	hasumim(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)を@に換えて下さい。	なし
270	270	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	歴史文化演習B(2) (Historical Cultures Practicum B)	2	選択必修	2	後期	月曜日9・10時限	亀谷 学	-	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	歴史研究の基礎となる歴史史料を読み解くことによって、より正確な歴史理解の方法を身につけること あるひとつの史料を起点として、関連する様々な史料を探究することで、自ら資料を探し出してゆく力を養うこと	西アジア史・中央アジア史を研究するために必要な基礎的な知識について解説しながら、実際の史料の講読を行います。そして、どのようにすれば西アジア史・中央アジア史に関わる史料を読んでその意味を正確に理解できるようになるか、そして読み解いた史料をもとにしてどのように議論を組み立ててゆくかを、学んでゆきます。	第1回　イントロダクション 授業全体の概要についてお話しします。 第2回～第5回　西アジア史・中央アジア史研究のための言語 西アジア史・中央アジア史の研究を行うために必要な言葉について解説し、その簡単な基礎を学びます。 第6回～第9回　西アジア史・中央アジア史の史料を探して読む 言語、各時代、地域、ジャンルなどで分類される様々な史料の中から、自分が関心のあるテーマについて書かれていると考えられる史料を探し、本当に書かれているか読んでみます。 第10回～第13回　西アジア史・中央アジア史の史料に書かれていることを考える 実際に史料を読み進めてみて、書かれていることを正確に理解できているか、できていないければどうすればできるようになるのかを学びます。 第14回～第15回　西アジア史・中央アジア史の史料に書かれていることから考える 自ら読んだ史料からどのような事実や考えを導き出すことができるのかについて考え、議論します。 ※受講者数に応じて授業の進め方を変更する場合があります。	[予習]演習形式が中心となるため、毎回の授業の前に、その回のテクストを読んでくる予習を行う。 [復習]授業でのテクスト読解に関する議論を整理し、予習段階での読解を修正する。また、関連する参考文献を読むなどして理解を深める。	歴史学関連	-	-	-	適宜資料を配布します。	島田虔次ら編『アジア歴史研究入門 4(内陸アジア・西アジア)』(同朋舎、1984年) 小杉泰、林佳世子、東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』(名古屋大学出版会、2008) 三浦徹、黒木英充、東長靖編『イスラーム研究ハンドブック』(米光教育文化研究所、1995) ※いずれも図書館で閲覧可能。 その他、授業中に紹介します。	テクスト読解の評価を含む期末課題等と平常点により評価します。	演習	まず講義形式で解説した事柄を、その次に自ら実践してみるという手順で進めます。	なし	水曜12:00～12:30	kameya.m(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
271	271	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	歴史文化演習B(3) (Historical Cultures Practicum B)	2	選択必修	2	後期	月曜日3・4時限	今井 正浩	-	レベル2	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	西洋古典古代の政治思想史に関する英文の論考の講読を通して、専門の学術論文を原典で読解する力を養うこと 上記の力を養うことによって、ヨーロッパの歴史文化的源流の一つとしての西洋古典古代（(Classical Antiquity)についての基本的理解に向けて、資料読解等の実践的なスキルを身につけること	西洋古典古代の政治思想史に関する比較的読みやすい英文論考を講読を通して、叙事詩人ホメロスからキリスト教の大思想家アウグスティスにいたるまでの西洋古典古代の政治思想の展開を丹念に辿ります。	第1回　洋古典古代の政治思想史の展望 第2回　ホメロス『イリアス』オデュッセイア』にみる政治観(論考読解・発表・討論) 第3回　ヘシオドス『神統記』『農耕と暦日』にみる政治観(論考読解・発表・討論) 第4回　初期ギリシア哲学者たちの政治思想(1)(論考読解・発表・討論) 第5回　初期ギリシア哲学者たちの政治思想(2)(論考読解・発表・討論) 第6回　ソフィストたちの政治思想(1)(論考読解・発表・討論) 第7回　ソフィストたちの政治思想(2)(論考読解・発表・討論) 第8回　ソクラテスの政治思想(論考読解・発表・討論) 第9回　プラトンの政治思想(1)(論考読解・発表・討論) 第10回　プラトンの政治思想(2)(論考読解・発表・討論) 第11回　アリストテレスの政治思想(1)(論考読解・発表・討論) 第12回　アリストテレスの政治思想(2)(論考読解・発表・討論) 第13回　ヘレニズム期の政治思想―エピクロス派―(論考読解・発表・討論) 第14回　ヘレニズム期の政治思想―ストア派―(論考読解・発表・討論) 第15回　アウグスティヌスとキリスト教の政治思想(論考読解・発表・討論) なお、授業の進行状況等によってシラバスの内容と異なってくる場合は、その都度説明をします。	各回の授業後に復習点、次回の予習点を伝えます(なお、予習・復習は、最低でも各2時間ときっとかかります)。	歴史学関連	思想関連	-	-	Fred D. Miller, Jr., Classical Political Thought, in Zeyl, D.J.(ed.), Encyclopedia of Classical Philosophy.(London, Chicago, 1997),pp.439-445.	教材として使用する予定の Fred D. Miller, Jr.英文論考の論末に専門的な参考文献が多数紹介されています。	平常評点評価(授業への参加度)(50パーセント)＋学期末に提出するレポートの評点(50パーセント)を合算して評価します。	演習	英文論考の講読を主体とした演習形式の授業です。	履修にあたって、古典ギリシア語・ラテン語の知識は問いませんが、語学の知識が理解を一層深めることは言うまでもありません。日本語で書かれた代表的な古典ギリシア語・ラテン語の基礎文法書を紹介しますので、ぜひ挑戦してみてください。 （1）水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』(岩波書店刊、1990年) （2）田中利光著『ラテン語初歩／改訂版』(岩波書店刊、2002年)	毎週月曜日の午後4時～6時をオフィスアワーの時間帯として設定します。	Eメールアドレス masahiro@hirosaki-u.ac.jp	なし
272	272	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	労働経済学(Labor Economics)	2	選択必修	2	前期	月曜日7・8時限	李 永俊	-	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	賃金や労働時間の決定過程や失業発生のメカニズムなどの労働市場の仕組みを理解すること	労働経済学では、人々が労働の代価として受け取る賃金や給料はどのようにして決まるのか、なぜ人々の間でその受取額に差があるのかなどの私たちにとってきわめて身近な問題を経済学の枠組で分析します。本講義においては、労働市場の仕組みを十分に理解するために、労働市場とその他の市場との連いを把握することを目指します。	1. 労働経済学への招待 2～5. 労働供給 6. 労働供給モデルの応用 7～9. 労働需要 10～11. 労働市場の均衡 12～13. 賃金格差 14～15. 地域労働市場 16. 期末テスト	労働経済学は応用経済学の1つです。ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、統計学入門を準備学習として復習してください。	経済学関連	-	-	太田聡一・橘木俊詔(2004)『労働経済学入門』有斐閣、図書館本館。	川口大司(2017)『労働経済学―理論と実証をつなぐ―』有斐閣 大橋勇雄・中村二朗(2004)『労働市場の経済学』有斐閣、図書館本館。 清家篤(2015)『労働経済』東洋経済新報社 大竹文雄(1998)『労働経済学入門』日本経済新聞社、図書館本館。	平常評価(出席とレスポンスペーパー):20% 中間試験(中間テスト、中間レポート):20% 期末評価(期末試験):60%	講義	講義形式で行います。就業の最後にはレスポンスペーパーやミニテストなどを実施します。	講義ではできうる限り、図表を用いてわかりやすい解説に努めますが、受講生にも参考書などを読み、問題に取り組む積極的な姿勢を期待します.	毎週水曜日 10時00分～12時00分	yglee@hirosaki-u.ac.jp	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
273	273	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	労働法(Labor and Employment Law)	2	選択必修	2	前期	水曜日3・4時限	成田 史子	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	日本の労働法について、体系的に理解すること	労働法とは、労働・雇用をめぐる様々な現象を規律する規範の総称であり、①個別的労働関係法、②労働市場法、③集団的労働関係法の三つの分野からなります。 このうち、本講義では、①個別的労働関係法のなかでも、特に労働条件に関わる諸規制に焦点を当て、現行法の内容を判例・学説の検討を通して学びます。 最近の雇用・労働をめぐるニュースや青森県の状況等も取り上げます。	第1回 イントロダクション 第2回 労働法の歴史・労働関係の特色・労働条件規制システム 第3回 労働法の法源・体系と個別的労働関係法 第4回 労働法上の当事者 第5回 賃金 第6回 最低賃金制度 第7回 労働時間の概念 第8回 労働時間制度の基本的枠組み 第9回 労働時間制度の特例 第10回 休暇 第11回 雇用関係の終了・解雇 第12回 雇用関係の終了・解雇以外による終了 第13回 雇用関係の成立・採用の自由 第14回 雇用関係の成立・採用内定 第15回 期末試験(60分)とふりかえり (※講義の進行状況等により、シラバスと実際の内容とが異なる場合には、その都度説明します。)	各回のテーマについて、指定の教材、判例に目を通しておいてください。	法学関連	–	–	–	水町勇一郎『労働法(第7版)』(有斐閣、2018年) 村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選(第9版)』(有斐閣、2016年) 最新版六法(出版社は問いません)	特になし。	中間評価(リアクションペーパー):20% 期末評価(期末試験):80% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	講義	講義形式で進め、毎回、レジュメを配布します。	労働問題に関連する新聞記事やニュースをチェックするようにしてください。 なお、遅刻・途中退室・私語・携帯使用、無断の撮影・録音等は他の受講者の迷惑となるため厳禁です。	火曜日1・2時限	http://hue2.jm.hirosaki-u.ac.jp/html/10000051_ja.html	特になし。
274	274	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化資源学コース特設講義A(1)「日本美術史・近世編」(Cultural Resources Program Special Lecture A)	2	選択必修	2	前期	月曜日7・8時限	須藤 弘敏(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	日本の文化がどういう形で展開してきたかを具体的な情報を元に把握できること 知っているつもりでも実際に自分のことばでは語れないという状態を改めること	日本の美術工芸の展開について、16世紀から19世紀までの桃山時代、江戸時代の作例を取りあげながら、その特徴を理解していきます。 江戸時代は絵画と工芸の全盛期で、大名から町人農民まで多くの人々が愛好し、日本列島全域に展開したことが重要です。造形と社会のかかわりに注目しながら、一点一点具体的に作品を見ていきます。特に、視野をアジアやヨーロッパに広げて、何が本当に日本的な文化なのか、具体的に考えるための授業です。	1 日本美術 中世から近世近代への展開 2 城と障壁画 力の表徴 狩野永徳と長谷川等伯 3 風俗画と浩中浩外図 みやこの華 4 狩野探幽と狩野派 絵画と政治 5 俵屋宗達と岩佐又兵衛 雅びの光と陰 6 尾形光琳と琳派 デザインニッポン 7 浮世絵の成立 芝居と役者絵 8 浮世絵の展開 春信・歌麿 美人画の確立 9・10 浮世絵の黄金時代 北斎・広重 メディア芸術の始まり 11 かざりの華 蒔絵・根付・衣装・陶器 12 南画 夢見る画 13 応挙と蘆雪 町絵師の頂点 14 奇想の絵師 若冲と蕭白 15 円空と江戸時代の仏像 語られない日本仏像史 16 期末試験	教科書の解説を必ず事前事後に読むとともに、図書館にある美術全集などを用務と同時に詳しく「見る」ことが必要です。	芸術関連	歴史学関連	博物館学関連	–	辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館	小学館版『日本美術全集』(図書館大型図書コーナーに配架)ほか 良質の画像データが閲覧できるwebsiteについても講義中に紹介します	期末試験と不定期にある出席点 期末試験は記述式(持ち込み不可)で、講義内容の理解度をはかるもの	講義	毎回スライドの画像を見ながら解説していきます。適宜質問を相互に行います。	できれば実際に作品を見る機会を持ってほしいところです。受講者数によっては市内で見学に行くこともあります。	なし(非常勤のため)	hongmin 以下は学内通例の表記	–
275	275	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化資源学コース特設講義B(1)「宗教学A」(Cultural Resources Program Special Lecture B)	2	選択必修	2	後期	水曜日5・6時限	諸岡 道比古(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	宗教を通して生・生きることを自分自身で考えること	「宗教学とは何か」を隣接科目との関連から考察するとともに、宗教学がどのようにして成立したか、を考えることで、知識人が考える宗教とは何か、宗教の本質とは何かを検討致します。	1～2. 宗教学とは何か？隣接科目との関連について。 3～5. 宗教とは何か、宗と教、宗の教、教の宗について(日本と中国の場合)。 6～8. Religionは宗教か？ religioとReligionについて(キケロ、アウグスティヌス、 トマス・アクィナス)。 9～10. 現代における意味での宗教はいつ成立したか？ 11. 大学における宗教学講座の成立について。 12～13. 宗教学成立前史(世界史的状況について)。 14～15. 英国における宗教の本質探究－理神論の系譜について。 16. 試験。	紹介された参考文献を手掛かりに提示された問題について、自分ならばどう考えるか、をつねに検討すること。	思想関連	–	–	–	教材をその都度紹介します。	その都度紹介します。	期末試験と授業参加度(80%と20%)を勘案し、総合的に評価します。	講義	内容が理解できているか、随時質問をしながら授業を進めます。また質問があればその場で受けます。	高校までで学習したことを前提とし、それ以上の予備知識を必要としない、自分で考える講義を目指します。	–	morooka(at)hirosaki-u.ac.jp ＊(at)は＠に置き換えてください	–
276	276	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	文化資源学コース特設講義D(1)「宗教学B」(Cultural Resources Program Special Lecture D)	3	選択必修	2	後期	木曜日5・6時限	諸岡 道比古(非常勤講師)	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力	先人たちが考えた宗教観を手掛かりに、宗教を通して生・生きることを自分自身で考えること	宗教学Aの知識を簡単に紹介した上で、知識人が考える宗教とは何か、宗教の本質をどのように考えているかを検討します。特に自然的宗教と積極的宗教との関係を明らかにすることから知識人の宗教観を検討します。	1. 宗教学とは何か？の概略について 2～4. 英国理神論の系譜について(ハーバートのチャーベリー、ロック、トーランド、ティンダルの宗教思想) 5. ドイツ観念論の系譜における宗教観一般について 6～7. レッシングの宗教思想について 8～9. カントの思想とその宗教観について 10～11. フィヒテの思想とその宗教観について 12～13. シュライエルマッハーの思想とその宗教観について 14～15. シェリングの思想とその宗教観について 16. 試験	授業で紹介された先人の考え方をもとにして、自分ならどう考えるか、をつねに検討し、同時に参考文献も手掛かりとすること。	思想関連	–	–	–	教材をその都度紹介しますが、教科書は使用しません。	その都度紹介します。	期末試験と授業参加度(80%と20%)を勘案し、総合的に評価します。	講義	内容が理解できているか、随時質問をしながら授業を進めます。また質問があれば、その場で受けます。	高校までで学んだことを前提としますが、それ以上の知識は必要としない授業を目指します。ただ自分で考えることは必須です。	–	morooka(at)hirosaki-u.ac.jp ＊(at)は＠に置き換えてください	–
277	277	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	多文化共生コース特設講義A(1)「異域と世界をつなぐ1A」(Cultural Coexistence Program Special Lecture A)	2	選択必修	2	前期	金曜日7・8時限	○熊野 真規子、小野寺 進	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	◎同科目(1A→1B→1A→1B)2年間の課程を終えることで、グローバルな視点で地域に貢献できる生き方を身につけること 1Aについて チームとして協働する力[コラボカ・パートナーシップ]を身につけること 自己評価の習慣を身につけること	・「地域と世界をつなぐ1A」と「地域と世界をつなぐ1A」は部分的に同時間帯(別内容授業も含む)で、外国語・外国文化を切り口に「地域活性化」に取り組む学生主体のプロジェクト学習です。 ・「地域と世界をつなぐ1A」の履修はプロジェクト未経験者向けです。 ・モデルとして「弘前×フランス」プロジェクトに参画します。	◎4/12(金) オリエンテーション ※授業回数にカウントされません スケジュール詳細 留意点、次回までの課題 大まかに以下の4つを核とする活動が組み合わされます。 ○地域を発見する ・アイスブレイク、地域課題 ・まちあるき入門(フィールドワーク)と視点の発見(弘前路地裏探偵団 坂本崇氏) ○地域を深く知る、発信する ・取材入門(弘前経済新聞 フリーライター 工藤健氏) ＋グループワーク(取材打合せ、編集打合せ、取材活動、編集) ○地域のネットワークを築く ・多世代間交流入門(協力・弘前市ペタンク協会) ・文化・スポーツを通じた地域貢献(NPOスポネット 鹿内英氏) ・地域イベントスタッフ研修(弘前城リレーマラソン) ○自分を実現する一歩を踏み出す マルシェ・ワークショップ グループワーク(企画立案、企画準備) 詳細はオリエンテーションで ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。 ※ゲストスピーカーの都合などにより内容や予定が異なる場合があります。	下準備や打ち合わせ、取材インタビュー、イベントスタッフなど、講義で学んだことを実践したり、授業時間外の活動から授業へフィードバックしたりなど、授業時間外の活動を楽します。意欲ある学生の参加に限ります。	学際・新領域	–	–	実務教員	必要に応じて、プリント等を配布します。	必要に応じて、授業で紹介します。	平常評価(活動記録を含むポートフォリオ)70%と期末評価(自己評価、グループ内評価)30%で総合的に判断します。	講義	学生主体のプロジェクト学習です。 チームとして協働し、1つのプロジェクトを実施するという形をとります。	・「弘前×フランス」プロジェクトをつうじて取り組みますが、フランス語学習歴の有無は問いません。 ・8月下旬以降のイベント運営および「振り返り」は後期のIB、IIBの授業内容に含まれます。 ・授業運営の都合上、履修人数の上限を15名程度とします。	オリエンテーションでお知らせします。	kumano(at)hirosaki-u.ac.jp(熊野) susumu(at)hirosaki-u.ac.jp(小野寺) ※(at)は＠に置き換えてください。 ・弘前フランス語HPにプロジェクトのページがあります。→http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/french/ ["Place de la Francophonie"または"フランフォニー広場"で検索可] ・Twittwer→https://twitter.com/Hirodai_French ・Facebook→http://www.facebook.com/pages/Place-de-la-Francophonie/251115382701 69	–

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
278	278	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	多文化共生コース特設講義B(1)「地域と世界をつなぐIB」(Cultural Coexistence Program Special Lecture B)	2	選択必修	2	後期	集中	○熊野真規子、小野寺進	地域志向科目	レベル2～3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	同科目(IA→IB→IIA→IIB)2年間の課程を終えることで、グローバルな視点で地域に貢献できる生き方を身につけること IBについて チームとして協働する力(コラボカ・パートナーシップ)を身につけること 自己評価の習慣を身につけること 課題検証力を身につけること	・「地域と世界をつなぐIB」と「地域と世界をつなぐIIB」は同時間講科目(部分的に別時間帯、同時間帯に別内容授業も含む)で、外国語・外国文化を切り口に「地域活性化」に取り組む学生主体のプロジェクト学習です。 ・「地域と世界をつなぐIB」は、イベント、企画終了後の振り返り、持続に向けての課題検証力、引継ぎを丁寧に行っていきます。「地域の専門家」による授業を含みます。	9月上旬(2回) イベント運営体験(ワークショップ、かみどで朝市)、大学間交流(まちあるき) 9月下旬(2回) 地域イベント主催「フランス日和～マルシェ2019」 10月 (2回) ・主催イベント振り返りワークショップ (・アンケート集計作業) ・リーフレット振り返り1回(弘前経済新聞 フリーライター 工藤健氏) 11月(4回) ・主催イベント振り返り(弘前経済新聞 フリーライター 工藤健氏)・ボランティアスタッフ、出店者意見交換会 ・1%申請事業振り返り 12月 (3回) ・次年度事業方針 1月(2回) ・次年度事業申請等準備 ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。 ※ゲストスピーカーの都合などにより内容や予定が異なる場合があります。	下準備や打ち合わせ、講義で学んだことを実践したり、授業時間外の活動から授業へフィードバックしたりなど、授業時間外の活動を要します。	学際・新領域	–	–	実務教員	必要に応じて、プリント等を配布します。	必要に応じて、授業で紹介します。	平常評価(活動記録を含むポートフォリオ)70%と期末評価(自己評価、グループ内評価)30%で総合的に判断します。	講義	学生主体のプロジェクト学習です。 チームとして協働し、1つのプロジェクトを実施するという形をとります。 講義形式、グループワーク、演習、学生主体による準備学習、体験、研修などの実習が含まれます。	・「弘前×フランス」プロジェクトをつうじて取り組みますが、フランス語学習歴の有無は問いません。 ・IAの8月下旬以降のイベント運営および「振り返り」を含みます。 ・授業運営の都合上、履修人数の上限を15名程度とします。	初回授業でお知らせします。	kumano(at)hirosaki-u.ac.jp(熊野) susumu(at)hirosaki-u.ac.jp(小野寺) ※(at)は@に置き換えてください。 ・弘大フランス語HPにプロジェクトのページがあります。→http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/french/「Place de la Francophonie」または「フランコフォニー広場」で検索可] ・Twittwer→https://twitter.com/Hirodai_French ・Facebook→http://www.facebook.com/pages/Place-de-la-Francophonie/251112538270169	–
279	279	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	多文化共生コース特設講義C(1)「地域と世界をつなぐIIA」(Cultural Coexistence Program Special Lecture C)	3	選択必修	2	前期	集中	○熊野真規子、小野寺進	地域志向科目	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	同科目(IA→IB→IIA→IIB)2年間の課程を終えることで、グローバルな視点で地域に貢献できる生き方を身につけること IIAについて チームとしての協働力(リーダーシップ、働きかける力)を身につけること 自己評価力、課題検証力を向上させること	・「地域と世界をつなぐIA」と「地域と世界をつなぐIIA」は部分的に同時間帯(別内容授業も含む)で、外国語・外国文化を切り口に「地域活性化」に取り組む学生主体のプロジェクト学習です。 ・「地域と世界をつなぐIIA」はプロジェクト経験者向け(原則としてIA・IB既修者向け)です。 企画力、プレゼン力に磨きをかけます。リーダーシップを「体験」し、自分にあったリーダーシップの取り方を考えます。 ・「弘前×フランス」プロジェクトに参画します。	◎4/12(金) オリエンテーション ※授業回数にカウントされません スケジュール詳細 留意点、次回までの課題 大まかに以下の4つを核とする活動をリードしたり、サポートしたりする活動が組み合わされます。 実務経験のある講師から、ネットワークの可能性や意義、モチベーション・コントロールについても学びます。 ○地域の発見をリードする ・アイスブレイク、地域課題 ・まちあるき入門と視点の発見(弘前路地裏探偵団 坂本崇氏)サポート ○地域発信をサポートする ・取材グループワーク(取材打合せ、編集打合せ、取材活動、編集:弘前経済新聞 フリーライター 工藤健氏)サポート ○地域のネットワークをリードする ・地域、イベント協力者、連携者のネットワークの可能性を知る(HLS弘前 辻正太氏) ○目的の実現をリードする ・マルシェ・ワークショップのグループワーク(企画立案、企画準備)サポート ・モチベーションをコントロールする(SEEDS NETWORK 理事長 大西晶子氏) ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。 ※ゲストスピーカーの都合などにより内容や予定が異なる場合があります。	下準備や打ち合わせ、取材インタビュー、イベントスタッフなど、講義で学んだことを実践したり、授業時間外の活動から授業へフィードバックしたりなど、授業時間外の活動を要します。意欲ある学生の参加に限ります。	学際・新領域	–	–	実務教員	必要に応じて、プリント等を配布します。	必要に応じて、授業で紹介します。	平常評価(活動記録を含むポートフォリオ)70%と期末評価(自己評価、グループ内評価)30%で総合的に判断します。	講義	学生主体のプロジェクト学習です。 チームとして協働し、1つのプロジェクトを実施するという形をとります。 教員はファシリテーターを務めます。 講義形式、グループワーク、学生主体による準備学習、チームビルディングの強化のための下級生サポートなどが含まれます。	・「地域と世界をつなぐ」IIAは、「地域と世界をつなぐ」IAおよび旧履修を終えた人向けのプロジェクト学習です。 ・8月下旬以降のイベント運営および「振り返り」は後期のIIBの授業内容に含まれます。	オリエンテーションでお知らせします。	kumano(at)hirosaki-u.ac.jp(熊野) susumu(at)hirosaki-u.ac.jp(小野寺) ※(at)は@に置き換えてください。 ・弘大フランス語HPにプロジェクトのページがあります。→http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/french/「Place de la Francophonie」または「フランコフォニー広場」で検索可] ・Twittwer→https://twitter.com/Hirodai_French ・Facebook→http://www.facebook.com/pages/Place-de-la-Francophonie/251112538270169	–

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
280	280	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース・多文化共生コース	文化資源学・多文化共生コース特設講義C(2)「日本語教育入門(Cultural Resources Program Special Lecture C)	3	選択必修	2	前期	水曜日7-8時限	鹿嶋 彰	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	日本語非母語話者の視点から日本語を見ることによって、一言語としての日本語の特徴を理解すること 多言語多文化共生のツールである「やさしい日本語」の特徴、特に「やさしい日本語」の「やさしさ」について、基礎的な理解を得ることと基礎的な日本語を説明する力や、「やさしい日本語」を使用する基礎的な技能を得ることによって、身の回りの多文化共生に貢献できるようになること	この講義は、日本語非母語話者の視点から、私たちが日常に用いている日本語を見直すことにより、日本語を客観的に理解するための新しい視点を模索し、日本語を身の回りの多文化多言語共生を支えるツールとして利用していく方法を考えるための科目です。日本社会は、おおむねどこに行っても日本語が通じる社会ですが、急速に多言語多文化の側面を持つようになってきており、多言語多文化共生が求められるような社会に変貌してきています。日本語を、この共生のためのツールとして用いるためには、日本語母語話者、非母語話者が共通に理解できる可能性の高い「やさしい日本語」が求められますが、非母語話者の視点から日本語を見たことがない日本語母語話者には、日本語自体の特徴や、どのようにすれば「やさしく」なるかが自明ではありません。この授業では、日本語教育の場面で、学習者が困難を覚える問題から考察をスタートし、言語学的知見、日本語非母語話者、母語話者が持つ日本語の視点等を検討し、受講者間で共有しながら、将来、受講生が、日本語を多言語多文化共生のツールに利用していけるような眼を育てることを目指しています。	[予習]各テーマは課題より始めるので、教科書の該当部分を読み、課題を解いて教室に持参してください。 [復習]授業後、必ず内容を振り返り、学習した内容に沿って課題について復習してください。そして、リフレクションペーパーを書き、次回の授業時に提出してください。	言語学関連	教育学関連	社会学関連	–	荒川洋平『日本語という外国語』講談社現代新書2013 (2009) 東 弘雄『やさしい日本語ー多文化共生社会へ』岩波新書1617 (2016)	授業で適宜紹介します。	平常評価(予習、課題への取り組み、授業への参加度、授業後の振り返り等を、リフレクションペーパーの内容に基づき評価する。評価全体の60%) 期末評価(授業終了時に期末課題を提出します。評価全体の40%) 上記を合算して成績評価を行います。	講義	・各学習項目は、留学生日本人学生混合のグループで課題を討議し、問題点を明らかにするところから開始します。 ・問題点を明らかにした後、テーマについて講義を行います。	・日本人学生、留学生ともに受講を歓迎します(留学生は、原則的に日本語プレイスメントテストで中上級以上と判断された学生に限定します。それ以外の留学生(日本語非母語話者で、受講を希望する方は、担当講師にご相談ください)。 ・受講にあたって、日本語教育、日本語学、言語学等の予備知識は必要ありません。 ・リフレクションペーパーの提出が全体の2/3未満だった場合、単位を出しません。	火曜日の午後2時2分から3時50分までを、オフィスアワーとします。その時間は、国際連携本部サポートオフィス(総合教育棟2階)にいますので、こちらにおいでください。	Eメールアドレス akashima@hirosaki-u.ac.jp	なし
281	281	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース	多文化共生コース特設講義D(1)「地域と世界をつなぐII B」(Cultural Coexistence Program Special Lecture D)	3	選択必修	2	後期	集中	○熊野 真理子、小野寺 進	地域志向科目	レベル3～4	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	同科目(IA→IB→IIA→IIB)2年間の課程を終えることで、グローバルな視点で地域に貢献できる生き方を身につけること IIBについて チームとしての協働力(リーダーシップ、働きかける力)を身につけること 目的を実現する力、自己評価力、課題検証力を向上させること	・「地域と世界をつなぐIB」と「地域と世界をつなぐIIB」は同時間講其目(部分的に別時間帯、同時間帯に別内容授業も含む)で、外国語・外国文化を切口に「地域活性化」に取り組む学生主体のプロジェクト学習です。 ・「地域と世界をつなぐIIB」は、イベント、企画終了後の振り返り、持続に向けての課題検証力、引継ぎを丁寧に行っていきます。「地域の専門家」による授業を含みます。	9月上旬(2回) イベント運営体験(ワークショップ、かみどて朝市)、大学間交流(まちあるき) 9月下旬(2回) 地域イベント主催「フランス日和～マルシェ2019」 10月 (2回) ・主催イベント振り返りワークショップをリードする (+アンケート集計作業) ・主催イベント振り返り(弘前経済新聞　フリーライター　工藤健氏) 11月(4回) ・ボランティアスタッフ、出店者意見交換会等をリードする ・1%申請事業振り返りをする(グループワーク) 12月 (3回) ・次年度事業方針をサポートする、引継ぎをする 1月(2回) ・次年度事業申請等準備をサポートする ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。 ※ゲストスピーカーの都合などにより内容や予定が異なる場合があります。	下準備や打ち合わせ、講義で学んだことを実践したり、授業時間外の活動から授業へフィードバックしたりなど、授業時間外の活動を要します。	学際・新領域	–	–	実務教員	必要に応じて、プリント等を配布します。	必要に応じて、授業で紹介します。	平常評価(活動記録を含むポートフォリオ)70%と期末評価(自己評価、グループ内評価)30%で総合的に判断します。	講義	学生主体のプロジェクト学習です。 チームとして協働し、1つのプロジェクトを実施するという形をとります。 講義形式、グループワーク、演習、学生主体による準備学習、体験、研修などの実習が含まれます。	・IIAの8月下旬以降のイベント運営および「振り返り」が含みます。	初回授業でお知らせします。	kumano(at)hirosaki-u.ac.jp (熊野) susumu(at)hirosaki-u.ac.jp (小野寺) ※(at)は@に置き換えてください。 ・弘大フランス語HPにプロジェクトのページがあります。→http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/french/ [“Place de la Francophonie”または“フランフォニー広場”で検索可] ・Twitter→https://twitter.com/Hirodai_French ・Facebook→http://www.facebook.com/pages/Place-de-la-Francophonie/251111	―
282	282	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律コース特設講義A(1)「現代産業論」(Economic and Law Program Special Lecture A)	2	選択必修	2	前期	火曜日7-8時限	池田 憲隆	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	日本あるいは世界の産業に関する主要なトピックスを把握すること 産業に関する主要なトピックスについて、データや専門的知見に基づいて理解すること	経済学における産業の位置づけを概観したうえで、まず全産業の基盤になる素材産業からエネルギー産業へ、さらに耐久消費財産業についてやや詳しくみていきます。	1. イントロダクション 2. 産業の定義と歴史的発展論 3. 機械制大工業の開始と繊維産業 4. 鉄鋼業の確立 5. 石油精製業の生成 6. 電力業の展開 7. 電力業の現状と課題 8. 日本の中小企業(ビデオ教材) 9. アメリカの自動車工業の形成 10. 日本の自動車工業の発展 11. 自動車工業の現状と未来 12. 電機・電子産業の歴史的発展 13. TV産業の展開 14. コンピュータと関連産業の展開 15. 大量生産・大量消費の行方 16. 期末試験 なお、授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	新聞や雑誌などに注意を払うように心掛けましょう。また、インターネットはとても便利ですが、使い方に工夫が必要でしょう。授業で紹介された参考文献や資料等については、ぜひ図書館を利用して学習して下さい。	経済学関連	経営学関連	学際・新領域	–	教科書は使用しません。毎回、レジュメ(講義要綱)と参考資料を配布します。	和田一夫『ものづくりの寓話』(名古屋大学出版会、2009年) 青島・武石・クスマノ編著『メイド・イン・ジャパンは終わるのか』(東洋経済新報社、2010年) その他は、毎回のレジュメに記載します。	基本的には期末試験によりますが、毎回提出してもらう質問シートの内容も加味して総合的に評価します。	講義	毎回配布するレジュメ(講義要旨)と参考資料に基づいて、要点を解説するという講義形式です。1回後像教材を復習する予定です。	この科目は経済学および経営学の基礎的知識をある程度前提にしていますが、講義を受講に主体的に学習することが期待されます。	木曜日13:00～14:00	nikeda(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
283	283	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律コース特設講義A(2)「経済理論史」(Economic and Law Program Special Lecture A)	2	選択必修	2	前期	火曜日7-8時限	福田 進治	–	レベル3	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	現代の経済学を歴史的視点から検討する力を身に付けること 経済学の研究のための理論的基礎を身に付けること	この授業では、ミクロ経済学の歴史を学びながら、より高度な経済学の研究のために必要な理論の基礎を身に付けます。とくに、ミクロ経済学の研究のためには一般均衡理論の基礎を身に付けることが重要です。これらを身に付けながら、市場経済の基本的原理に関する理解が深まるばかりでなく、将来、より高度な経済学の研究に取り組むことが容易になると思われます。	第1回　イントロダクション 第2回　一般均衡理論 第3回　ワルラス法則 第4回　序数的効用 第5回　無差別曲線 第6回　パレート最適 第7回　厚生経済学 第8回　市場メカニズム 第9回　最適化行動 第10回　コブ＝ダグラス型関数 第11回　消費理論 第12回　スルツキー方程式 第13回　顕示選好 第14回　生産理論 第15回　分配理論	授業の進行に沿って、参考書を読むなど、予習することが望ましいです。また、毎回の授業終了後、講義ノートを読み返して、重要な点を確認し、不明な点を調べるなど、復習することが必要です。	経済学関連	–	–	–	使用しません。	○ヴァリアン『入門ミクロ経済学』(第9版)勁草書房、2015年 ○チャン『現代経済学の数学基礎』(第4版)全2冊、シーエーピー出版、2010年	学期中に授業内容に関するレポート課題を計3回出題します。第1回と第2回は平常評価(60%)、第3回は期末評価(40%)に相当します。授業内容を理解して、課題意識をもって検討し、自分の言葉で報告する努力と能力を評価します。これらのレポート課題の得点の合計を最終評価とします。	講義	通常の講義形式の授業です。講義を聴いて、授業内容を理解しながらノートを取る力を養って下さい。	この授業では、ミクロ経済学の歴史とマクロ経済学の歴史を隣年で扱います。どちらか関心のある方を受講して下さい。今年度の授業を受講する際は「市場経済論」および「ミクロ経済学」を事前に履修しておくことが望ましいです。簡単な数学(高校数学Ⅱレベルの微分法など)を用います。	火曜日～金曜日12:00～13:00	shinji(at)hirosaki-u.ac.jp	特になし。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
284	284	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律コース特設講義A(3)「地域課題研究」(Economic and Law Program Special Lecture A)	2	選択必修	2	前期	水曜日3・4時限	金目　哲郎	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	地域が直面する行財政の課題を具体的に理解すること 現行の施策を理解し、その効果や問題点を考える力を身につけること 地域課題を解決するための方策を提案できるようになる素地をつくること	弘前市の総合計画や予算などを手がかりに、以下の点について、学生がグループ単位で調査・研究活動をします。 (1)弘前市が直面する具体的な課題の発見、(2)当該課題に対して講じられている現行施策の調査、(3)現行施策の効果や不十分な点の検討、(4)当該課題を解決するための施策案の発表 授業時間外に学生自らが計画的に行動し、授業時間内は学生による発表や、教員・学生・実務者との意見交換の場となります。	【第1回～第4回】課題の設定 第1回　ガイダンス、弘前市の予算や施策・総合計画の説明 第2回　学生のグループ編成、課題の設定 第3回　調査研究活動計画案の作成 第4回　調査研究活動計画案の発表 【第5回～第10回】課題の発見、現行施策の調査 第5回　調査研究活動計画の見直し・確定 第6回　具体的な地域課題の発見、日程調整・調査項目の検討 第7回　市役所へのヒアリングの実施 第8回　関係機関へのヒアリングの実施 第9回　調査結果の集約と検証(ヒアリング結果のとりまとめ) 第10回　調査結果の集約と検証(報告資料の作成) 【第11回～第13回】現行施策の検討、解決策の提示 第11回　調査結果の中間報告 第12回　解決策の検討、必要に応じて再ヒアリング 第13回　最終報告案の作成 【第14回～第15回】学習活動プロセスの発表 第14回　発表会の予行 第15回　プレゼンテーション形式の「学習成果発表会」と討論 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	学生によるグループでの打合せ・ヒアリング調査など、授業時間外や学外での活動を要します。また、調査研究活動計画や発表資料の準備が必要です。	経済学関連	法学関連	学際・新領域	実務教員	特になし。	「弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2次期弘前市総合計画」 上記は、弘前市ホームページで入手できます。 http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/	平常評価(グループ活動に対する貢献、中間報告・発表会の取組状況):90% 期末評価(レポート):10% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	講義	・学生がグループ単位で調査研究活動を行います。 ・弘前市職員が授業時間内に調査研究活動への助言を行い、学生が授業時間外に関係機関と連絡調整のうえ学外でヒアリング調査等を実施します。	・予備知識は不要です。 ・受講上の留意点、レポート提出、グループ分け等について、第1回のガイダンスで説明します。関心のある学生は、ガイダンスに必ず出席してください。	水曜日12時～13時（他の曜日・時限でも可）	kaname-t(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は半角表会の取組状況):90% 期末評価(レポート):10% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	・弘前市役所職員と学生とが協働して地域課題を考える、とても貴重な機会となるでしょう。 ・地域課題の取り組みに関心や意欲はあるが「何から始めたらよいかわからない」という学生の受講を大歓迎します。
285	285	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース・企業戦略コース・地域行動コース	経済法律コース・企業戦略コース・地域行動コース特設講義B(1)「消費者問題の理論と実践」(Special Lecture B)	2	選択必修	2	後期	木曜日3・4時限	福田　進治、保田　宗良、加藤　恵子(非常勤講師)	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力 CP・DP 3学び続ける力	今日の消費者問題の状況を理解すること 消費者問題を解決する方策を提案すること 現代社会を消費者として生きる力を身に付けること	今日の日本社会では、強引な勧誘や不公正な契約、架空請求や不当表示など、消費生活をめぐるトラブルが絶えず生じています。また、私たち自身の消費生活のあり方が社会環境や自然環境に影響を与えることが問題になっています。 この授業では、消費者問題、消費者市民社会、消費者志向経営などについて学ぶとともに、調査や討論などの実践的な取り組みを通して理解を深め、その成果を消費者教育活動の実践という形で地域社会に還元することを目指します。	第1回　イントロダクション(福田) 第2回　消費者問題と消費者市民社会 (1)(福田) 第3回　消費者問題と消費者市民社会 (2)(福田) 第4回　消費者志向経営とマーケティング (1)(保田) 第5回　消費者志向経営とマーケティング (2)(保田) 第6回　多文化共生社会における消費行動 (1)(加藤) 第7回　多文化共生社会における消費行動 (2)(加藤) 第8回　環境・資源問題と消費行動 (1)(加藤) 第9回　環境・資源問題と消費行動 (2)(加藤) 第10回　食品表示をめぐる諸問題 (1)(加藤) 第11回　食品表示をめぐる諸問題 (2)(加藤) 第12回　持続可能な社会への消費行動 (1)(加藤) 第13回　持続可能な社会への消費行動 (2)(加藤) 第14回　消費者教育活動の実践 (1)(福田・保田・加藤) 第15回　消費者教育活動の実践 (2)(福田・保田・加藤)	日頃から消費者問題に関係するニュースに耳を傾けて下さい。自分自身の生活の中で消費者問題について考えて下さい。適宜課題を出しますので、積極的に取り組んで下さい。	学際・新領域	経済学関連	教育学関連	実務教員	使用しません。	授業中に必要に応じて紹介します。	○平常評価(50%):毎回の授業の終わりに、小レポートを提出してもらいます。平常の授業に臨む姿勢と各回の授業の理解度を確認します。 ○期末評価(50%):授業全体の内容と消費者教育活動への参加の経験を踏まえて、最終レポートを提出してもらいます。授業全体の理解度と到達度を判定します。	講義	本学の教員と消費生活アドバイザー(非常勤講師)のオムニバスによる授業です。前半(第1回～第5回)は、教員による講義形式の授業により、基本的知識を身に付けます。後半(第6回～第13回)は、消費生活アドバイザーの指導の下、受講生による調査・討論・発表などの実践的な取り組みを折り込みながら、消費者問題について主体的に考えます。第14回と第15回は、消費者教育活動の実践として地域の教育啓発活動に参加します。	消費者問題に関心のある人は、可能であれば、教養科目・学部越境型地域志向科目「青森の多様性と活性化－消費者問題の取り組み－」(前期開講)も受講して下さい。	○福田 月曜日～金曜日 12:00～13:00 ○保田 木曜日・金曜日 12:00～12:30	○福田 shinji[at]hirosaki-u.ac.jp	この授業では、消費者問題全般を学ぶとともに、青森県における消費者市民社会形成の取り組みを学びます。このため、青森県内で消費生活アドバイザーとしてさまざまな活動に取り組まれている方(加藤)に非常勤講師として講義を担当して頂くことをお願いしています(上記「授業の内容予定」参照)。 みなさんは消費者問題に関心があるかどうかに関わらず、消費者として生活しています。卒業後も、消費者として生活していくでしょう。しかし、みなさんが消費者問題を学ぶ機会は非常に少ないというのが現状です。最近、この授業で消費者として社会生活を送っていくための基礎知識と基本的スキルを身に付けて下さい。
286	286	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	経済法律コース特設講義B(2)「医療経済学」(Economic and Law Program Special Lecture B)	2	選択必修	2	後期	集中	青木　研(非常勤講師)	-	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	現代の医療サービス市場における問題や医療政策上の課題にどのようなものがあるかを理解すること 先に見た問題がどういった問題なのかを経済学を使って再評価できること 問題が生じる仕組みを病院・医師・患者のインセンティブに注意しつつ経済学を使って理解し、解決策を検討できること	増加し続ける国民医療費、公的医療保険の赤字、医師不足など、現代日本の医療は多くの問題を抱えています。 この講義では、経済学のツールを使うことで当該問題がそもそも解消すべき問題なのか、分配の問題なのか、配分の問題なのかなど経済学的な視点から再評価します。 さらに既存の医療制度の下で病院・医師・患者らの当事者がどのように行動するインセンティブを持つのかに注目することで、先の問題が生じる仕組みを理解し、有効な解決策について検討します。	第　1回　から　第　4回　日本医療の抱える問題 ＋ 経済学の視点について 第　5回　から　第　8回　需要側の問題:患者の行動 第　9回　から　第12回　供給側の問題:病院の行動 第13回　から　第15回　再考　日本の医療問題:他国の医療制度 第16回筆記試験	[予習]講義中に指示します。 [復習]講義中に指示します。	経済学関連	健康科学関連	-	-	真野俊樹著『医療危機 ― 高齢社会とイノベーション―』(中公新書 2449)中央公論新社、2017年。 河口洋行著『医療の経済学（第3版）』日本評論社、2015年。	授業参画(40%)、試験(60%)	講義	講義＋グループに分かれての議論	経済学の知識は前提としません。 講義開始まで に教科書(中公新書)を購入しておいて下さい。	—	ken-aoki[at]sophia.ac.jp	—

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
287	287	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律コース特設講義C(1)「先進国経済論」(Economic and Law Program Special Lecture C)	3	選択必修	2	前期	木曜日7-8時限	細矢 浩志	–	レベル3	CP・DP 1見通す力 CP・DP 3学び続ける力	第二次世界大戦後のアメリカ・ヨーロッパ経済の展開過程と基本構造についての基礎的な知識を習得すること 現代世界経済におけるアメリカ・ヨーロッパ経済社会の位置を探るのに必要な視点や問題領域を開拓できるようになること	講義では、アメリカ・ヨーロッパ諸国(必要に応じて日本)の経済の現状と課題について国際的・歴史的な視点から分析・解説していきます。さらに いわゆる「先進国」経済の基本的な特徴や日米欧の三極体制の対立と協調の性格など、先進資本主義諸国経済をめぐる問題について、世界経済システムとその展開とのかかわりのなかで考えてみることを目的にしています。今期は「ヨーロッパ経済」編とし、EUの経済統合を中心に解説・検討します。	第1回:イントロダクション〜欧州連合(EU)の基礎知識 第2回:EU概観 第3回:欧州統合の歩み(1)〜1960年代第二次大戦後から 第4回:欧州統合の歩み(2)〜1960年代第二次大戦後から 第5回:関税同盟と市場統合(1)〜経済統合理論とEEC関税同盟 第6回:関税同盟と市場統合(2)〜市場統合・理論と現実 第7回:通貨統合(1)〜単一通貨ユーロのメカニズム 第8回:通貨統合(2)〜通貨統合の歴史:通貨協力から通貨統合へ 第9回:通貨統合(3)〜通貨統合の諸問題 第10回:EU共通政策と財政(1)〜共通農業政策と地域政策 第11回:EU共通政策と財政(2)〜雇用・成長政策と財政問題 第12回:EU経済の現状と課題(1)〜ユーロ導入後のEU経済 第13回:EU経済の現状と課題(2)〜EU東方拡大 第14回:EU経済の現状と課題(3)〜ユーロ危機と統合の行方 第15回:小括と展望 *授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	[予習]配付資料や参考文献等に目を通してください。 [復習]配布資料等を見直しノートを整理してください。必要に応じて参考文献等を読み知識を確実なものにしてください。そして授業の中で示された「論点」について自分なりの解答を探してみてください。	経済学関連	経営学関連	政治学関連	–	教科書は使用しません。適宜プリントを用意する予定です。	田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治『現代ヨーロッパ経済(第5版)』有斐閣, 2018年 高屋定美編『EU経済』ミネルヴァ書房, 2010年 田中素香編『世界経済・金融危機とヨーロッパ』勁草書房, 2010年 その他, 授業で適宜指示します。	授業内容の理解度と, 理論的な思考力や学習意欲・問題関心の成長度とを総合して評価します。筆記試験90%(理解力30%, 論理的構成力30%, 表現力30%), 授業への参加態度10%(事前準備, 質問・意見等)	講義	配付資料と提示教材(スライド等)に沿って解説します。	特別な準備は必要ありませんが, up-to-dateな話題とくに欧州債務危機とかユーロ危機と呼ばれる問題)を取り上げますので, 日頃から新聞を読んで直近情勢に慣れ親しんでおく必要があります。	月曜日 17:40〜18:30	hosoya(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	大学の講義とは、中・高校のように無批判的・丸暗記的な学習を行なう場ではなく、さまざまな問題に対する自分なりの解答を得るのに必要な情報やヒントを探す場であると考えています。したがって、授業は受講生諸君の自主的な学習を基礎にして成り立っていることを肝に銘じ、主体的に学ぶ姿勢をもって臨んでくれることを希望します。
288	288	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース	経済法律コース特設講義C(2)「産業組織論」(Economic and Law Program Special Lecture C)	3	選択必修	2	前期	金曜日5-6時限	小谷田 文彦	–	レベル2	CP・DP 1見通す力 CP・DP 2解決していく力	不完全競争市場における企業の最適化行動を理解すること	産業組織論はミクロ経済学の応用分野です。 ミクロ経済学との最も大きな違いは、産業組織論が想定する市場の状況が、多くの場合、不完全競争である点です。 また、理論的な分析だけでなく実証的な政策分析を行い、現実との対応を重視することが特徴です。 産業組織論の知識は、青森県や地方における経済、地域政策を考える上での理論的基礎を与えてくれるでしょう。 本講義では理論と現実の関連に常に注意を払いながら、さまざまな経済政策の実践的な面とその理論的根拠について解説します。	第 1回 産業組織論の課題と歴史 第 2回 産業組織論分析の基礎 第 3回 独占企業の価格設定 第 4回 自然独占と規制 第 5回 参入の経済効果 第 6回 ゲーム理論の基礎 第 7回 ゲーム理論の応用 第 8回 寡占市場の理論 第 9回 カルテル 第10回 市場支配力、集中度と市場画定 第11回 合併と企業結合規制 第12回 戦略的行動と市場の独占 第13回 垂直的な統合と制限 第14回 技術革新 第15回 産業組織論と国際経済学 第16回 学期末試験	[予習]講義中に指示するキーワードについて調べておいて下さい。 [復習]講義中に指示する内容を復習して下さい。	経済学関連	経営学関連	–	–	用いません。	泉田成美・柳川隆(2008)『プラクティカル 産業組織論』(有斐閣) 新庄浩二 編(2003)『産業組織論』(有斐閣ブックス) 植草益 他(2002)『現代産業組織論』(NTT出版)	学期末試験(100%)で評価します。平常点・出席点はありません。	講義	通常の講義形式です。	ミクロ経済学I, IIが履修済みであれば、理解が容易になります。	水曜日10時から11時	koyata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	—
289	289	人文社会科学部社会経営課程経済法律コース・企業戦略コース・地域行動コース	経済法律・企業戦略・地域行動コース特設講義C(3)「証券論」(Special Lecture C)	3	選択必修	2	前期	火曜日5-6時限	森田 芳郎(非常勤講師)	–	レベル3	CP・DP 1見通す力	資本市場に求められる役割と意義を説明することができるようになること 株式、投資信託、債券についての基礎を説明することができるようになること 10年後の日本経済を自分なりの着想で討議できること	資本市場に求められる役割とは何か、激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説します。□	①4月16日(火)「ガイダンス」 【講師】野村證券(株) 青森支店 ②4月23日(火)「経済情報の捉え方」 【講師】野村證券(株) 青森支店 ③5月7日(火)「金融資本市場の役割とその変化」 【講師】野村證券(株) 青森支店 ④5月14日(火)「債券市場の役割と投資の考え方Ⅰ」 【講師】野村證券(株) 青森支店 ⑤5月21日(火)「債券市場の役割と投資の考え方Ⅱ」 【講師】野村證券(株) 青森支店 ⑥5月28日(火)「株式市場の役割と投資の考え方Ⅰ」 【講師】野村證券(株) 青森支店 ⑦6月4日(火)「株式市場の役割と投資の考え方Ⅱ」 【講師】野村證券(株) 青森支店 ⑧6月11日(火)「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」 【講師】野村ホールディングス(株) コーポレート・シティズンシップ 推進室 SCO 池上 浩一 ⑨6月18日(火)「投資信託の役割とその仕組み」 【講師】野村證券(株) 青森支店 ⑩6月25日(火)「リスク・リターンとポートフォリオ分析」 【講師】野村證券(株) 投資顧問事業部 ⑪7月2日(火)「外国為替相場とその変動要因について」 【講師】野村證券(株) 金融公共公益法人部 ⑫7月9日(火)「資本市場における投資家心理」 【講師】野村證券(株) 金融公共公益法人部 ⑬7月16日(火)「産業展望と投資の考え方」 【講師】野村證券(株) 青森支店 ⑭7月23日(火)「ライフプランニングと資産形成」 【講師】野村證券(株) 投資情報部 ⑮7月30日(火)「資産形成と非課税制度」 【講師】野村證券(株) 青森支店	金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。□	経済学関連	経営学関連	–	実務教員	毎回配布します。	「証券投資の基礎」野村證券投資情報部 編/丸善株式会社	レポート評価(40%)、平常点(60%)	講義	予備知識は必要ありません。講義への積極的な参加を求めます。	なし	授業前後	なし	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
290	290	人文社会科学部社会経営講程企業戦略コース	経済法律・企業戦略コース特設講義D(1)「子どもと法律」(Economic and Law Program Special Lecture D)	3	選択必修	2	後期	金曜日3・4時限	平野 潔	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	子どもを取り巻く諸問題の現状を、ゲストスピーカーの講義を聴いて理解すること グループワーク等を通じて考えぬいた具体的な解決策を提示すること 子どもを取り巻く様々な問題に関心を持ち、「子の利益」に沿った解決策を考え続けること	近年、子どもを取り巻く様々な社会問題が生じています。その中には、法律が深くかかわる問題も少なくはありません。この講義では、数ある子ども法律に関する問題の中から「少年非行」「面会交流」「児童虐待」を選び、レクチャーやグループワークなどを通じて解決策を考えていきます。	第1回　ガイダンス 第2回「子どもと法律」総論 第3回～第6回　少年非行 　第3回　レクチャー 　第4回　グループディスカッション 　第5回　グループワーク 　第6回　プレゼンテーション 第7回～第10回　面会交流 　第7回　レクチャー 　第8回　グループディスカッション 　第9回　グループワーク 　第10回　プレゼンテーション 第11回～第14回　児童虐待 　第11回　レクチャー 　第12回　グループディスカッション 　第13回　グループワーク 　第14回　プレゼンテーション 第15回　まとめ ※取り上げるテーマに関しては、変更になる可能性があります。詳しくは第1回のガイダンスで説明します。	(予習)関連法規に事前に目を通してきてもらうことがあります。 (復習)テーマごとに参考文献を紹介しますので、興味を持った分野に関しては積極的に本を読んでみてください。また、子どもをめぐる法律問題の新聞記事やテレビのニュースにも目を通すようにしてください。	法学関連	教育学関連	心理学関連	実務教員	とくに使用しません。必要に応じてレジュメ等が配布されます。	テーマに合わせて、その都度参考文献を紹介します。	レポート:20% グループディスカッション・グループワークへの参加度:25% プレゼンテーション(質疑応答含む):55%	講義	本講義は、3つのテーマについてそれぞれ4回の授業で構成されます。 1回目は、家庭裁判所調査官にレクチャーをしてもらい、その講義の最後の20分程を使って、講義を聴いて考えたことレポートとしてまとめてもらいます。 2回目は、レポートをもとにグループに分かれてディスカッションをしてもらいます。 3回目は、グループごとに報告の準備をしてもらいます。 4回目は、グループディスカッションでまとめられた意見を、グループごとに報告してもらいます。 ※授業形態についても一部変更になる場合があります。その場合には、第1回講義の際に説明します。	・履修者の知識に大きな差はないですし、どんな意見を言っても恥ずかしくないので、ディスカッション等のある授業を敬遠している学生も、気軽に参加してください。 ・外部から講師を招いて講義をお願いするので、大学生として「弘大生として」恥ずかしくない態度で臨んでください。 ・基本的に予備知識は不要です。この講義を受けて興味が湧けば、講義後にその分野の新聞記事を調べたり、本を読んだりして理解を深めてください。	木曜1・2時限(8:40-10:10) ※オフィス・アワー以外でも、研究室に在室していれば質問等には応じますが、その場合には事前にメールで連絡をもらえると助かります。	k-hirano(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	各テーマの第1回目の授業には、家庭裁判所調査官をゲストスピーカーとしてお招きし、実務経験を踏まえてぜひとも考える法律問題についてレクチャーをしていただきます。 ※教育学部の「法学特殊講義」と同時間講します。
292	292	人文社会科学部社会経営講程企業戦略コース	企業戦略コース特設講義A(1)「観光と地域振興」(Corporate Strategy Program Special Lecture A)	2	選択必修	2	前期	月曜日7・8時限	森 樹男、高島 克史	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	青森県の観光の現状を理解し、新しい魅力を発掘できるようになること 魅力ある観光コンテンツを考案し、それを発信する方法を身につけること 観光客誘致に繋がる情報発信の実践力を身につけること	特定の地域をフィールドとして、学生目線による観光コンテンツの調査や考察を行い、観光の実態を理解します。また、その地域の観光コンテンツになりそうなものを発掘し、それらを観光コンテンツとして商品化し、販売することを考えます。また、その観光コンテンツの情報発信を行い、そのことが観光客の誘致に繋がるかどうかを検証していきます。	①講義：JR東日本の取組、フィールドとする地域の現状と観光振興、など ②観光コンテンツ調査・事前学習、現地調査、情報整理など ③観光コンテンツ発掘・現地取材準備、コンテンツ撮影など ④観光マップ制作：コース策定、シナリオ作成、画像編集など ⑤観光コンテンツの情報発信と検証 ⑥成果発表会 授業は毎週の授業と授業時間外(週末や夏休みなど)に行うフィールドワークを組み合わせて実施するものです。詳細は、1回目の授業で確認してください。	[予習]観光コンテンツを議論するために必要な情報などは事前に調べてきてください。 [復習]確認や調査が足りなかったことについて調べ、次回に備えてください。	経営学関連	経済学関連	–	–	特になし	必要に応じて提示します。	「事前学習」20% 「フィールドワークの活動状況」50% 「最終成果発表内容とレポート内容」30% をふまえて総合的に評価します。	講義	講義及びフィールドワーク中心の授業です。	・実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります。 ・日頃より、観光に関する情報に感度を高め、情報収集に努めてください。 ・可能であれば、さまざまな観光地に出かけ、観光コンテンツについて体験するよう心がけてください。	木曜 17時40分～18時30分事前にメールで連絡があれば、その都度対応	mori(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
293	293	人文社会科学部社会経営講程企業戦略コース	企業戦略コース特設講義A(2)「サービス経営論」(Corporate Strategy Program Special Lecture A)	2	選択必修	2	前期	集中	中村 友哉(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	多面的な角度からサービス経営を理解すること サービス経営に関する基礎的な知識や理論を使い自分なりに新たなサービス事業の事業計画を考え、提示すること	ホテル・観光業や、カフェ、理髪店、プロスポーツ、小売店、スマホアプリなど身近にあふれ、無意識に接することの多いサービス活動を取り上げサービスをマネジメントするという視点から、そこで重要となる考え方や概念を習得します.	第1回　：オリエンテーション 第2回　：マネジメントとは何か 第3回　：サービス経営のマネジメント 第4回　：サービスの創造と経験 第5回　：サービス人材の育成 第6回　：サービスの品質 第7回　：おもてなしとロイヤルティ 第8回　：新規事業の作成プラン：個人ワーク 第9回　：新規事業の作成プラン：発表 第10回：サービスによる価値の創造：サービス・ドミナント・ロジックの考え方 第11回：複合型サービスによる価値の創造 第12回：ITサービスによる価値の創造 第13回：メンテナンスサービスによる価値の創造 第14回：新規事業の作成プラン：グループワーク 第15回：新規事業の作成プラン：各グループの発表 第16回：まとめとテスト(40分)	皆さんを取り巻くサービス活動に関心をもってください また、講義後には必ず新聞や雑誌等でサービス活動に関する最新の事例などを探して、事例分析をしてください.	経営学関連	–	–	–	特になし	伊藤宗彦・高室祐史(2010)「1からのサービス経営」碩学社.	講義への参加度、テスト、レポートの総計で評価します.	講義	パワーポインを使った講義、演習形式です. 必要に応じて適時資料を配布します.	特になし	–	tomoya(at)ur-fukui.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	–
294	294	人文社会科学部社会経営講程企業戦略コース	企業戦略コース特設講義B(3)「フードビジネス論」(Corporate Strategy Program Special Lecture B)	2	選択必修	2	後期	水曜日9・10時限	牛田 泰正(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	フードビジネス経営の基本的知識と理解を深めること	フードビジネス経営が今日どのように展開されているのか、その概要を把握する。 前半は、フードビジネスにおける基本的知識(歴史、動向、メニューの在り方、メニュー計画など)について学ぶ。 後半は業種と業態の考え方、メニューマーケティングの知識、手法を学んだ後、グループダイナミクスを応用して実際の物件を想定したケーススタディを演習し、飲食店経営の実際を学ぶ。	第1回　オリエンテーション・フードビジネスの歴史 第2回　概要と動向 第3回　フードビジネスにおけるマーケティング思考 第4回　メニュープランニング1―レストランの商品は何か　QSC 第5回　メニュープランニング2―立地について 第6回　メニュープランニング3―6つ留意点　グループづくり 第7回　真実の瞬間―ロールプレイ 第8回　業種・業態の考え方とコンセプトづくり 第9回　ケーススタディ―あるB の喫茶店 第10回　マーケティングリサーチ―SWOT分析、ポジション分析 第11回　メニューエンジニアリング　(グループ編成) 第12回　人材は人財―人の使い方 第13回　計数管理―利は元にあり 第14回　グループ討議 第15回　グループ発表 第16回　期末試験	普段より、飲食店経営に関する新聞や雑誌、ニュースに関心を持ってほしい。 外食する時はなぜ客が並ぶのか、どうしたらもっと流行るようになるのかなど考える習慣をつけてほしい。 話題の新店を視察し、気づいたことをメモする。 テレビの情報番組などを活用し、外食企業の現状について理解するよう努めてください。	経営学関連	–	–	実務教員	適宜プリントを配布する	フードビジネス(社団法人全国調理師養成施設協会) フードマーケティング(社団法人全国調理師養成施設協会)	授業への積極的参加度10点(発表など) グループ発表30点 学期末試験60点 上記を合算して、最終的な成績評価をおこなう予定です。	講義	講義は講義内容をまとめたプリントを使いながらおこないます。 グループによるフィールド活動を講座の中心として、調査分析、提案を成果物として最終的に発表します。 ケーススタディ演習、ロールプレイなど、座学と演習を織り交ぜた授業です。	なし	なし(非常勤講師のため)	ushiday(at)yoto-gakuen.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
295	295	人文社会科学部社会経営講程企業戦略コース	企業戦略コース特設講義B(2)「サービス企業論」(Corporate Strategy Program Special Lecture B)	2	選択必修	2	後期	火曜日5・6時限	○森 樹男、大倉 邦夫	地域志向科目	レベル2	CP・DP 1 見通す力	サービス産業のビジネスモデルを理解できること サービス企業のマネジメントについて理解できること サービス企業の現場での取組、工夫を理解できること	本授業は、サービス産業に関わる企業が自らのビジネスモデル、サービスマネジメント、儲かりのロジック、現場での取組・工夫などについて3～4回程度講義するものです。2019年度は3社を予定しています。企業自らが語るサービス経営に触れることにより、サービス企業の経営はどのようなものか、どのようなビジネスモデルで経営されているのかという点を深く考えることができ、サービス産業に対する理解を深めることができます。	第1回　　イントロダクション 第2～4回　サービス企業の経営① 第5回　　事例の振り返り 第6～8回　サービス企業の経営② 第9回　　事例の振り返り 第10回～12回サービス企業の経営③ 第13回　　事例の振り返り 第14回～15回全体総括 ※企業については、シラバス作成時点では交渉中です。 　平成30年度は、JR東日本、スーパーホテル、星野リゾートの協力を得て実施しました。	[予習]授業で取り上げる企業について、概要等を調べたり、新聞等で最近の動きを確認するようにして授業に臨んでください。 [復習]紹介された企業の活動に対して、経営者がどのような取り組みを行っているのか、調べてみてください。	経営学関連	–	–	–	適宜資料を配付します。	授業の中で、必要に応じて提示します。	授業への積極的参加度20%(グループワークなど) 振り返りレポート30%(10%×3回) 期末レポート50% 上記を合算して、最終的な成績評価をおこなう予定です。	講義	講義とグループワークによって実施します。	ベンチャービジネス論、サービス経営論を受講していることが望ましい。	木曜 17時40分～18時30分事前にメールで連絡があれば、その都度対応	mori(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
296	296	人文社会科学部社会経営課程企業戦略コース	企業戦略コース特設講義C(1)「監査論」(Corporate Strategy Program Special Lecture C)	3	選択必修	2	前期	集中	大沼　宏	–	レベル3	CP・DP　3学び続ける力	企業会計における監査の役割、監査の社会に果たす役割、会計システムと監査システムの変化と展望を考えていく思考的基礎を提供すること 会計制度の根幹を成す監査という仕組みを通じ、社会構造を異なった視点から検証すること 会計システムを通して、信頼のネットワークが社会にいかに形成されているかを認識すること	講義では受講者に自発的に発想及び発言することを求める。そこで、毎回授業計画に沿って行われる講義内容とそのテーマに対する各人の発言とレポートを通じた講義を行う。講義中の発言も評価にカウントする。講義への積極的な参加を履修者には期待する。ただし、履修者数が多数に渡る場合、グループを形成して、グループ単位での発表を求めることもある。	【各回の目標】 第1回:会計監査の必要性:監査の必要性と起源について学習する。 第2回:会計専門職による監査:会計専門職について学習することを通じて監査人の資質と会計職業倫理についての理解を深める。 第3回:監査期待ギャップ問題:全業不正と監査の関わりと期待ギャップについて学習する。 第4回:金融商品取引法監査制度:金融商品取引法の下での公認会計士監査の意味について学習する。 第5回:会社法監査制度(1):会社法の下での監査役監査の意味について学習する。 第6回:会社法監査制度(2):会社法の下での会計監査人監査の意味について学習する 第7回:監査基準と監査手続き:監査基準の体系とこれに沿って構築された一連の監査手続について学習する。 第8回:監査報告書:監査報告書の形式から監査証明書の意味について学習する。 第9回:他の監査人等の利用と内部監査:企業のグローバル化がもたらす他の監査人等の利用の実態について学習する。 第10回:内部統制監査:内部統制の役割と内部統制監査について学習する。 第11回:継続企業の前提の監査:継続企業の前提を監査する意味について学習する。 第12回:不正な支出の監査:不正な支出について学習することを通じて監査の限界を学習する。 第13回:四半期レビューと中間監査:四半期レビューや中間監査などの新しい監査の形態を学習する。 第14回:環境・CSRと監査・保証:環境監査と環境会計の意味と目的を学習する。 第15回:社会の要請と監査の変化:社会の要請によって監査の実態そのものが変化していくことを理解する。 第16回:テスト	第1回:教科書ケース1の復習とレポート作成、ケース2の予習 第2回:教科書ケース2の復習とレポート作成、ケース3の予習 第3回:教科書ケース3の復習とレポート作成、ケース4の予習 第4回:教科書ケース4の復習とレポート作成、ケース5の予習 第5回:教科書ケース5の復習とレポート作成、ケース6の予習 第6回:教科書ケース6の復習とレポート作成、ケース7の予習 第7回:教科書ケース7の復習とレポート作成、ケース8の予習 第8回:教科書ケース8の復習とレポート作成、ケース9の予習 第9回:教科書ケース9の復習とレポート作成、ケース10の予習 第10回:教科書ケース10の復習とレポート作成、ケース11の予習 第11回:教科書ケース11の復習とレポート作成、ケース12の予習 第12回:教科書ケース12の復習とレポート作成、ケース13の予習 第13回:教科書ケース13の復習とレポート作成、ケース15の予習 第14回:教科書ケース15の復習とレポート作成、ケース16の予習 第15回:教科書ケース16の復習とレポート作成、ケース16の予習	経営学関連	–	–	–	吉見宏『ケースブック監査論(第5版)』(新世社、2014年) ←版に注意！	山浦久司『監査論テキスト(第6版)』(中央経済社、2015年)	出席点(講義参加点):40% 試験点:60%	講義	基本的には講義形式を採用しつつも、学生の発言を取り入れながら講義を進める。講義の後半ではケースの問題を解き、その内容の説明を求める。教員と学生とのインタラクティブな講義を狙っている。	講義には積極的に参加することが求められる。また、「会計学」については履修済みである方が好ましい。とはいえ、当該科目未履修の学生であっても監査の概要を知ることが出来ると、大沼は期待している。	研究室に在室のときは随時可能で。	isoriho@msn.com; yhohnuma@yahoo.co.jp	詳しい講義日程については人文社会科学部の掲示板に掲載します。
297	297	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域行動コース特設講義A(1)「社会言語学・標準語と東京語論」(Community Initiative Program Special Lecture A)	2	選択必修	2	前期	火曜日3-4時限	佐藤　和之	–	レベル2	CP・DP　1見通す力 CP・DP　2解決していく力 CP・DP　3学び続ける力	国語や社会という狭義の用語に捉われない、広い見識をもった人材を育てるとともに、ことばを通して社会や人間、文化といったものに自分の意見をもち、自分のことばで説明できるようになること ことば(日本語)を客観的に分析し説明できるスキルを積み、国語教員や社会教員、日本語教員、公務員、出版社や新聞社、放送事業会社などで活躍する人材を育てること	この講義は前期開講「地域行動コース特設講義A(1)・C(1):社会言語学講義・標準語と東京語論」、後期開講「地域行動コース特設講義B(1)・D(1):社会言語学講義・言語変識と言語行動」として開講されます。社会言語学の実力を身に付けるつもり(＝通年科目の)で講義に参加してください。	方言との関係から、今年度はとくに共通語や標準語の成立事情を講義する。共通語は「どこで話される」ことばで、「誰が話す」ことばか、いつ頃、自然発生的に生まれた日本語か、このことの答を求めて、江戸語や東京語と関連づけながら考える。 方言の立場から言えば、もし弘前に、日本の首都が移築(＝遷都)されたら津軽弁は日本の標準語になり得るのか。このことを1600年前後の江戸構築を通して皆で考えたい。 1.　江戸から東京へ 2.　国語の成立 3.　東京語、標準語、共通語 4.　地方社会の共通語獲得 5.　共通語と方言 6.　共通語のイメージ 7.　方言のイメージ 8.　東京のイメージとイメージ成立の背景 9.　地方社会の地域イメージと方言イメージ(札幌。弘前。仙台。千葉。松本。金沢。大垣) 10.　地方社会の地域イメージと方言イメージ(京都。高知。広島。福岡。鹿児島。那覇) 11.　方言主流社会と共通語中心社会 12.　場面の違いとことばの使い分け行動 13.　方言はスティグマか 14.　世代と地域で変わる共通語の手本 15.　方言は無くなるか 16.　試験	とくに求めません。ただし、講義への積極的参加、たとえば講義中に意見を求められることが多いので、双方向の授業形式に負担を感じない学生の参加が期待されます。	言語学関連	社会学関連	教育学関連	–	とくにありません。講義中に資料を配付します	講義中に、関連する文献や論文を適宜紹介します	参加者の考えを求める対話形式の講義なので、講義中の反応と学期末の試験、あるいはレポートによって評価します	講義	対話形式(受講者としての意見や考えを求められる)の講義です。パワーポイントとビデオを使用します。 関連科目は、言語学、社会学、都市学、人類学、心理学などです。	この授業では「ことば」とその使い手である「人間」、人間の集合体である「社会」といった概念をしっかり強く意識して講義します。(14)の到達目標に記しましたが、将来、国語教員や社会教員、日本語教員、公務員、出版社や新聞社、放送事業会社などで活躍することを希望する学生、あるいは会社での文書業務を取り扱ったりコミュニケーション業務を得意にしたい学生の基礎学問となる内容を講義します。 国語や日本語、方言、標準語、あるいは社会言語学的な研究方法に興味がある学生の参加は大歓迎ですが、興味をもてるかもしれないという須程の出発点からの参加も歓迎します。そういう専門性を意識した講義内容になっていることを知った上で受講してください。	研究室に在室のときは随時可能です。 火曜日11時50分から13時00分は確実に相談にのることができます。	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/	所属が文化創成課程か社会経営課程かにかかわらず、ことばへの興味をもつ学生に向けて開講する講義です。能動的な授業への参加姿勢が大切です。 日本語の多層的な構造や社会言語学の研究方法を学びたい外国人留学生の履修も可能です。日本語の概説講義でないことにだけ注意してください。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
298	298	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域行動コース特設講義B(2)「社会言語学・言語意識と言語行動」(Community Initiative Program Special Lecture B)	2	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	佐藤　和之	–	レベル2～4	CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	国語や社会という狭義の用語に捉われない、広い見識をもった人材を育てるとともに、ことばを通して社会や人間、文化といったものに自分の意見をもち、自分のことばで説明できるようになること。 ことば(日本語)を客観的に分析し説明できるスキルを積み、国語教員や社会教員、日本語教員、公務員、出版社や新聞社、放送事業会社などで活躍する人材を育てること	この講義は前期開講「地域行動コース特設講義A(1)・C(1):社会言語学講義・標準語と東京語論」を受け、「地域行動コース特設講義B(1)・D(1):社会言語学講義・言語意識と言語行動」として後期開講されます。 前期に「地域行動コース特設講義A(1)・C(1):社会言語学講義・標準語と東京語論」を受講できなかった学生でも日本人の言語意識と言語行動(ことばの使い分けとその理由)を学びたい学生なら理解できる授業展開をします。	前期は、方言との関係から、今年度はとくに共通語や標準語の成立事情を講義する。共通語は「どこで話されるこことばで、「誰が話す」ことばか、いつ頃、自然発生的に生まれた日本語か。このことの答を求めて、江戸語や東京語と関連づけながら考えました。 後期は、ことばの使い手である「人間」の、その言い方(＝表現)をする「意識」(＝言語意識)と、その結果としてのことば使いという「行動」(言語行動)について講義します。とくに方言は無くなっているはず(私は方言を使いません)という学生がほとんど)なのに、実際には方言が使われていたり、意図的に使っていたりする現実社会があります。関西方言は東北方言よりもずっと勢いがあるようです。方言と共通語を使い分けることについて、方言を使った方が人間関係がうまく保てそうな社会に住む人たち(方言話者)の立場から、ことばを使い分ける実態(使い分け行動)とそれをしようとする理由(使い分け意識)について科学的に説明します。 ところで太宰治は1909年(明42年)の生まれです。旧金木町(現五所川原市)に生まれ育ちました。1900年前後を中心として盛んになる言文一致運動や言文一致教育と共に育ります。太宰の育った1900年代初頭を考えると、太宰が文学作品を言文一致体で表現するには、標準語への翻訳と言文一致体での表現という複雑な執筆過程を経たことを予想します。太宰の作品を通して明治の方言話者の標準語の習得と範疇に近づきます。 1. 近代国家と国語の成立 2. 国語と標準語 3. 国語調査委員会と言文一致運動 4. 太宰文学と方言 5. 太宰の文体に表出する言語意識 6. 井伏鱒二へ、津軽のことばで 7. 地方社会の言文一致運動 8. 方言撲滅教育 9. 東京のことば・津軽のことば 10. 隣のあたる坂道(石坂洋次郎)と戦後日本の東京語意識 11. サザエさんと東京語 12. 現代人の方言意識 13. 方言主流社会の共通語 14. 国語に関する世論調査 15. 変容する日本の方言 16. 試験	とくに求めません。ただし、講義への積極的参加、たとえば講義中に意見を求められることが多いので、双方向の授業形式に負担を感じない学生の参加が期待されます。	言語学関連	文学関連	心理学関連	–	とくにありません。講義中に資料を配付します	講義中に、関連する文献や論文を適宜紹介します	参加者の考えを求める対話形式の講義なので、講義中の反応と学期末の試験によって評価します	講義	対話形式(受講者としての意見や考えを求められる)の講義です。 パワーポイントとビデオを使用します。 関連科目は、言語学、社会学、都市学、人類学、心理学などです。	この授業では「ことば」とその使い手である「人間」、人間の集合体である「社会」といった概念をしようしょう強く意識して講義します。(14)の到達目標に記しましたが、将来、国語教員や社会教員、日本語教員、公務員、出版社や新聞社、放送事業会社などで活躍することを希望する学生、あるいは会社での文書業務を取り扱ったりコミュニケーション業務を得意にしたい学生の基礎学問となる内容を講義します。 国語や日本語、方言、標準語、あるいは社会言語学的な研究方法に興味がある学生の参加は大歓迎ですが、興味をもてるかもしれないという消極的出発点からの参加も歓迎します。そういう専門性を意識した講義内容になっていることを知った上で受講してください。	研究室に在室のときは随時可能です。 火曜日11時50分から13時00分は確実に相談にのることができます。	http://human.co.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/	所属が文化創成課程か社会経営課程かにこだわれず、ことばへの興味をもつ学生に向けて開講する講義です。能動的な授業への参加姿勢が大切です。 10月から日本にやってきた留学生への案内です。日本語の多層的な構造や社会言語学の研究方法を学びたい外国人留学生の履修も可能ですが、日本語教育や日本語の概説講義でないことに注意してください。
299	299	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域行動コース特設講義C(1)「社会言語学・標準語と東京語論」(Community Initiative Program Special Lecture C)	3	選択必修	2	前期	火曜日3・4時限	佐藤　和之	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	国語や社会という狭義の用語に捉われない、広い見識をもった人材を育てるとともに、ことばを通して社会や人間、文化といったものに自分の意見をもち、自分のことばで説明できるようになること。 ことば(日本語)を客観的に分析し説明できるスキルを積み、国語教員や社会教員、日本語教員、公務員、出版社や新聞社、放送事業会社などで活躍する人材を育てること	この講義は前期開講「地域行動コース特設講義A(1)・C(1):社会言語学講義・標準語と東京語論」、後期開講「地域行動コース特設講義B(1)・D(1):社会言語学講義・言語意識と言語行動」として開講されます。社会言語学の実力を身に付けるつもり(＝通年科目の)で講義に参加してください。	方言との関係から、今年度はとくに共通語や標準語の成立事情を講義する。共通語は「どこで話されるこことばで、「誰が話す」ことばか、いつ頃、自然発生的に生まれた日本語か。このことの答を求めて、江戸語や東京語と関連づけながら考える。 方言の立場から言えば、もし弘前に、日本の首都が移築(＝遷都)されたら津軽弁は日本の標準語になり得るのか。このことを1600年前後の江戸構築を通して皆で考えたい。 1. 江戸から東京へ 2. 国語の成立 3. 東京語、標準語、共通語 4. 地方社会の共通語獲得 5. 共通語と方言 6. 共通語のイメージ 7. 方言のイメージ 8. 東京のイメージとイメージ成立の背景 9. 地方社会の地域イメージと方言イメージ(札幌。弘前。仙台。千葉。松本。金沢。大垣) 10. 地方社会の地域イメージと方言イメージ(京都。高知。広島。福岡。鹿児島。那覇) 11. 方言主流社会と共通語中心社会 12. 場面の違いことばの使い分け行動 13. 方言はスティグマか 14. 世代と地域で変わる共通語の手本 15. 方言は無くなるか 16. 試験	とくに求めません。ただし、講義への積極的参加、たとえば講義中に意見を求められることが多いので、双方向の授業形式に負担を感じない学生の参加が期待されます。	言語学関連	社会学関連	教育学関連	–	とくにありません。講義中に資料を配付します	講義中に、関連する文献や論文を適宜紹介します	参加者の考えを求める対話形式の講義なので、講義中の反応と学期末の試験、あるいはレポートによって評価します 。	講義	対話形式(受講者としての意見や考えを求められる)の講義です。 パワーポイントとビデオを使用します。 関連科目は、言語学、社会学、都市学、人類学、心理学などです。	この授業では「ことば」とその使い手である「人間」、人間の集合体である「社会」といった概念をしようしょう強く意識して講義します。(14)の到達目標に記しましたが、将来、国語教員や社会教員、日本語教員、公務員、出版社や新聞社、放送事業会社などで活躍することを希望する学生、あるいは会社での文書業務を取り扱ったりコミュニケーション業務を得意にしたい学生の基礎学問となる内容を講義します。 国語や日本語、方言、標準語、あるいは社会言語学的な研究方法に興味がある学生の参加は大歓迎ですが、興味をもてるかもしれないという消極的出発点からの参加も歓迎します。そういう専門性を意識した講義内容になっていることを知った上で受講してください。	研究室に在室のときは随時可能です。 火曜日11時50分から13時00分は確実に相談にのることができます。	http://human.co.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/	所属が文化創成課程か社会経営課程かにこだわれず、ことばへの興味をもつ学生に向けて開講する講義です。能動的な授業への参加姿勢が大切です。 日本語の多層的な構造や社会言語学の研究方法を学びたい外国人留学生の履修も可能です。日本語の概説講義でないことにだけ注意してください。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
300	300	人文社会科学部社会経営課程地域行動コース	地域行動コース特設講義D(1)「社会言語学・言語意識と言語行動」(Community Initiative Program Special Lecture D)	3	選択必修	2	後期	火曜日3・4時限	佐藤　和之	–	レベル2〜4	CP・DP　2 解決していく力 CP・DP　3 学び続ける力	講義では、国語や社会という狭義の用語に捉われない、広い見識をもった人材を育てると共に、ことばを通して社会や人間、文化といったものに自分の意見をもち、自分のことばで説明できるようになること ことば(日本語)を客観的に分析し説明できるスキルを積み、国語教員や社会教員、日本語教員、公務員、出版社や新聞社、放送事業会社などで活躍する人材を育てること	この講義は前期開講「地域行動コース特設講義A(1)・C(1):社会言語学講義・標準語と東京語論」を受け、「地域行動コース特設講義B(1)・D(1):社会言語学講義・言語意識と言語行動」として後期開講されます。 前期に「地域行動コース特設講義A(1)・C(1):社会言語学講義・標準語と東京語論」を受講できなかった学生でも日本人の言語意識と言語行動(ことばの使い分けとその理由)を学びたい学生なら理解できる授業展開をします。	前期は、方言との関係から、今年度はとくに共通語や標準語の成立事情を講義する。共通語は「どこで話されるJ」ことばで、「誰が話すJ」ことばか。いつ頃、自然発生的に生まれた日本語か。このことの答を求めて、江戸語や東京語と関連づけながら考えました。 後期は、ことばの使い手である「人間」の、その言い方(＝表現)をする「意識」(＝言語意識)と、その結果としてのことば使いとJ「行動」(言語行動)について講義します。とくに方言は無くなっているはずJ「私は方言を使いませんという学生がほとんど」なのに、実際には方言が使われていたり、意図的に使っていたりする現実社会があります。関西方言は東北方言よりもずっと契いがあるようです。方言と共通語を使い分けることについて、方言を使った方が人間関係がうまく保てそうな社会に住む人たち(方言話者)の立場から、ことばを使い分ける実態(使い分け行動)とそれをしようとする理由(使い分け意識)について科学的に説明します。 とこうで太宰治は1909年(明42年)の生まれです。旧金木町(現五所川原市)に生まれ育ちました。1900年前後を中心として盛んになる言文一致運動や言文一致教育と共に育ちます。太宰の育った1900年代初頭を考えると、太宰が文学作品を言文一致体で表現するには、標準語への翻訳と言文一致体での表現という複雑な執筆過程を経たことを予想します。太宰の作品を通して明治の方言話者の標準語の習得と葛藤に近づきます。 1. 近代国家と国語の成立 2. 国語と標準語 3. 国語調査委員会と言文一致運動 4. 太宰文学と方言 5. 太宰の文体に表出する言語意識 6. 井伏鱒二へ、津軽のことばで 7. 地方社会の言文一致運動 8. 方言撲滅教育 9. 東京のことば・津軽のことば 10. 隣のあたる張道(石坂洋次郎)と戦後日本の東京語意識 11. サザエさんと東京語 12.　現代人の方言意識 13. 方言主流社会の共通語 14. 国語に関する世論調査 15. 変容する日本の方言 16. 試験	とくに求めません。 ただし、講義への積極的参加、たとえば講義中に意見を求められることが多いので、双方向の授業形式に負担を感じない学生の参加が期待されます。	言語学関連	文学関連	心理学関連	–	とくにありません。講義中に資料を配付します	講義中に、関連する文献や論文を適宜紹介します	参加者の考えを求める対話形式の講義なので、講義中の反応と学期末の試験によって評価します。	講義	対話形式(受講者としての意見や考えを求められる)の講義です。 パワーポイントとビデオを使用します。 関連科目は、言語学、社会学、都市学、人類学、心理学などです。	この授業では「ことば」とその使い手である「人間」、人間の集合体である「社会」といった概念をしょうしょう強く意識して講義します。(14)の到達目標に記しましたが、将来、国語教員や社会教員、日本語教員、公務員、出版社や新聞社、放送事業会社などで活躍することを希望する学生、あるいは会社での文書業務を取り扱ったりコミュニケーション業務を得意にしたい学生の基礎学問となる内容を講義します。 国語や日本語、方言、標準語、あるいは社会言語学的な研究方法に興味がある学生の参加は大歓迎ですが、興味をもてるかもしれないという消極的出発点からの参加も歓迎します。そういう専門性を意識した講義内容になっていることを知った上で受講してください。	研究室に在室のときはいつでも、対応可能です。 火曜日11時50分から13時00分は確実に相談にのることができます。	http://human.co.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/	所属が文化創成課程か社会経営課程かにとらわれず、ことばへの興味をもつ学生に向けて開講する講義です。能動的な授業への参加姿勢が大切です。 10月から日本にやってきた留学生への案内です。日本語の多層的な構造や社会言語学の研究方法を学びたいN外国人留学生の履修も可能ですが、日本語教育や日本語の概説講義でないことに注意してください。
301	301	人文社会科学部	【学芸員】博物館概論(Museology)	2	選択必修	2	前期	月曜日1・2時限	○上條　信彦、山田　巌子、出　佳奈子(教育学部)、田中　和明(農学生命科学部)、中村　剛之(自神自然環境研究所)、須藤　弘敏(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP　1 見通す力	博物館・ミュージアムの成り立ちと、それが社会や地域にとってなぜ必要で、まだどう位置付けられているかについて、基本的な知識と積極的な関心を獲得すること	○博物館と社会や文化、教育、生涯学習の関係について学ぶ ○ヨーロッパと日本における博物館・ミュージアムの成り立ちについて学ぶ 日○本を中心とした自然史系博物館園、考古学系博物館、民俗学芸博物館、美術館についての現状を理解する	1〜5　博物館の定義、博物館と博物館法、社会教育施設としての博物館、博物館と学芸員、博物館と地域社会(担当　須藤弘敏) 6〜7　ヨーロッパにおける博物館の成り立ちと展開(担当　出佳奈子) 8〜9　日本における博物館の成り立ちと展開(担当　須藤弘敏) 10　植物園・自然史系博物館について(担当　田中和明) 11〜12　植物園・自然史系博物館について(担当　田中和明) 13　考古学系博物館について(担当　上條信彦) 14　民俗学芸博物館について(担当　山田巌子) 15　美術館について(担当　須藤弘敏) 16　期末試験 開講順序は入れ替わることがあります	問題意識を持って各回の講義を聴き、次の回の受講に役立てる姿勢が求められます。各回の担当教員はすでに受講した内容を皆さんがきちんと把握している前提で講義をおこなうからです。	博物館学関連	–	–	–	なし	授業中に指示されます	授業への参加度および期末試験成績による総合評価。試験はすべての回の内容から出題され、講義内容の理解度と関心の持ち方を評価します(持ち込み不可)。	講義	講義形式	講義を聴くだけでなく、実際に博物館や美術館などを訪ねて、その魅力と課題を自分自身で楽しんだり考えたりすることが何より必要です。ミュージアムの利用経験がみなさん自身の学習に直接反映されます。	各担当教員単独担当科目参照	各担当教員単独担当科目参照 上條：kamijo(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は半に置き換えてください	博物館学芸員資格取得のための最初の必修科目です。その他にも教育関係や公務員を目指す人にとっても有益な授業です。
302	302	人文社会科学部	【学芸員】博物館教育論(Museum Education Studies)	2	選択必修	2	後期	集中	植月　学(非常勤講師)	–	レベル3	CP・DP　1 見通す力	博物館における教育普及活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法について習得すること	○博物館が持つ様々な教育機能と、教育を通じた社会との関わりについて学ぶ ○教育プログラムの立案や教材の作成を経験する	1. 博物館教育の基礎 2. 博物館教育と学校教育 3. 博物館教育の特色 4. 生涯学習としての博物館教育 5. 博物館教育の理論 6. 博物館教育のあゆみ 7. 博物館教育と展示 8. 様々な教材 9. 教育プログラム 10. 館種ごとの教育活動 11. 博物館教育に関わる人材・組織 12. 連携する博物館(1) 博学連携 13. 連携する博物館(2) 教育施設・地域連携 14. ユニバーサル・ミュージアム 15. 成果発表とふりかえり	普段から多くの博物館を見学し、博物館の現状を知っておくことが講義のより深い理解につながります。	博物館学関連	–	–	–	特になし	必要に応じて講義の中で゙紹介します	参加度25%、小テスト25%、グループによるプレゼン25%、最終レポート25%	講義	講義、実地研修、グループ゚ワークからなります。また、研修は学外の博物館での実施を予定しています。	普段から博物館が提供する多様な教育機会(講演会、体験学習など)に参加していることが望ましいです。	なし	なし	2月中旬の4日間程度を予定しています。詳細については掲示を確認してください。
303	303	人文社会科学部	【学芸員】博物館経営論(Museum Management)	2	選択必修	2	後期	集中	植月　学(非常勤講師)	–	レベル3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	現在の博物館を取り巻く経営上の課題について理解すること 博物館の役割と目指すべき方向性について考えること	博物館経営に関連する様々な内的、外的要素を紹介します。それぞれの現状と課題、将来像について討論も交えながら考えます。	1. イントロダクション 2. 博物館の設置とミッション 3. コレクション 4. 組織と人員 5. 財政 6. 施設 7. 事業 8. 危機管理 9. マーケティング 10. 博物館評価 11. 広報 12. 指定管理者制度 13. 外部との連携 14. 博物館と地域社会 15. まとめ 16.　期末試験	各テーマについて事前に資料を配るので、予習してきてください。講義では資料に対して意見を求めます。終了後は自分の考えをまとめ、試験に備えてください。	博物館学関連	–	–	–	特になし	必要に応じ゙講義中で紹介します	参加度(各回の出席および リアクションペーパー)：50% 期末試験：50%	講義	講義主体ですが、随時グループディスカッションをおこないます	「博物館概論」を履修済みであること 各地のミュージアムを実際にたくさん訪わること	なし	なし	土日2回、計4日間を予定しています。詳細については掲示を確認してください。
304	304	人文社会科学部	【学芸員】博物館情報・メディア論(Museum Information and Media)	2	選択必修	2	前期	集中	山下　俊介(非常勤講師)	–	レベル3	CP・DP　1 見通す力 CP・DP　2 解決していく力	○博物館情報・メディア論および関連分野の学識を得る ○上記の学識に基づいて、博物館活動を深く理解できるようになる ○本分野における新情報を自ら入手できるようになる	○博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う ○博物館情報を公開するにあたって必要とされる著作権や肖像権などの権利、個人情報保護の実際についてよく理解する ○博物館情報・メディア論の新しい知見や関連情報を入手する方法を身につけ、活用できるようになる	1. 博物館情報・メディア論の射程 2. 博物館活動における情報の諸相 3. 博物館情報の受発信と双方向活用 4. 博物館と視聴覚メディア、情報教育 5. 博物館における情報機器・インターネットの活用 6. 博物館資料をめぐる権利・知的財産(1) 7. 博物館資料をめぐる権利・知的財産(2) 8. 博物館資料のドキュメンテーションとデータベース(1) 9. 博物館資料のドキュメンテーションとデータベース(2) 10. 博物館におけるコンテンツ制作(1) 11. 博物館におけるコンテンツ制作(2) 12. 博物館活動の情報化と分析 13. 映像アーカイブ 14. 学術資料アーカイブとメタデータ 15. まとめ なお、授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明を行う.	関連情報の収集・整理、文献の読解等を含む予復習を必要とする.	博物館学関連	–	–	–	なし	博物館情報学入門 / 安沢 秀一(監修)：勉誠出版. 2003. 博物館学III — 博物館情報・メディア論+博物館経営論 / 大堀 哲.水島英治 ほか：学文社. 2012. ほか講義中に紹介する.	平常評価(講義への参加度、講義内容へのリアクションペーパーに基づく)40% 最終レポート60% 以上の合算により評価する.	講義	講義形式で進める.加えて、ミニ実習、博物館等施設を観覧しながらの学習、グループワークなどを行うことがある.	博物館概論を履修済みであることが望ましい.未履修の場合は、博物館概論の書籍を読んでおくこと.事前に幅ひかの博物館・美術館を訪問し、各館公式ホームページ等を確認、利用しておくこと.	なし	なし	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
305	305	人文社会科学部	【学芸員】博物館資料保存論(Preservation Museum Collection)	3	選択必修	2	前期	集中	○片岡 太郎、中村 剛之(白神自然環境研究所)	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	○博物館で資料を管理する意義と資料の劣化要因について基礎的腐知識を得ること(見通す力) ○博物館資料を損ねる可能性のある対策について基礎的な知識を得ること(解決する力)	学芸員資格取得のために必要な科目です。博物館の資料の多くは耐用年数を大きく越えて保存されています。また、様々な要因で傷つき、損なわれる可能性があるデリケートな存在です。この授業では、資料を保管する上で知っておかなくてはならない悪い影響を与える諸要因について、写真や実物を見ながら解説します。また、考古資料の材質や内部構造の調査などの方法についても紹介します。	授業予定(変更されることもあります。変更される場合は授業中に連絡します) 担当:中村 1回目 資料保存の意義 2回目 温度と湿度の影響 3回目 光の影響 4回目 大気中の汚染物質 5回目 虫やカビの害 6回目 IPMの考え方と実践 7回目 人的な影響 8回目 博物館と自然保護 担当:片岡 9回目 博物館資料の保管方法 10回目 博物館資料(有機質文化財)の保管方法 11回目 博物館資料(無機質文化財)の保管方法 12回目 文化財レスキューと文化財ドクター 13回目 博物館資料の健康診断 14回目 博物館環境の調査方法 15回目 博物館環境(温度・湿度)の調査実践	授業の中で指示します	博物館学関連	学際・新領域	考古学関連	–	特に教科書は使いません。必要に応じて授業時に資料等を配布します。	石崎武志編著(2012)博物館資料保存論 講談社. ほかの参考文献については授業中に示されます。	集中講義の最後に課される筆記試験によって評価します。	講義	2名の教員による集中講義です。また、授業の一部では弘前大学資料館を使った環境測定に関する実習を行います。	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。	片岡:水曜日(14:30〜16:00)	taro@hirosaki-u.ac.jp	—
306	306	人文社会科学部	【学芸員】博物館資料論(Museum Collection)	3	選択必修	2	前期	月曜日1・2時限	○関根 達人、大高 明史(教育学部)、上條 信彦、武井 紀子、山田 厳子、須藤 敏弘(非常勤講師)、田中 和明(農学生命科学部)、中村 剛之(白神自然環境研究所)、鎌田 耕太郎(非常勤講師)、宮坂 朋、渡辺 麻里子、足達 薫	–	レベル2	CP・DP 3 学び続ける力	ミュージアムが扱う多様な資料に関する基礎知識を修得すること	動物・植物・鉱物・文化財・考古・歴史・民俗・民族・美術など各分野にわたる博物館資料の記品知識を具体的に講義します.	大高(教育学部)、足達・上條・関根・武井・宮坂・山田・渡辺(人文社会科学部)、田中・中村(農学生命科学部)、須藤・鎌田(非常勤) 以上の教員がそれぞれの専門分野の資料について基本的な知識や用語を講義します。各教員が1〜3回の講義と期末筆記試験1回	講義後に配布された資料等で復習することが必須です。	博物館学関連	–	–	–	なし 資料は各回配布されます。	講義時に指示されます。	出席点と期末筆記試験(50:50) 講義内容をきちんと理解できているかを問います。 1回欠席するごとに減点され、全回出席が原則です。	講義	講義形式 一部市内の現地見学の回もあります。	原則として、既に博物館概論や博物館教育論などを先に履修していなければなりません。第1回の講義時に詳しい連絡があるので必ず出席して下さい 講義回によっては教室が変更されることがあります。第1回の講義時に配布される スケジュール表や掲示をよく見て確認して下さい	各担当教員が個々に担当している授業科目を参照して下さい	関根達人 sekine(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	—
307	307	人文社会科学部	【学芸員】博物館展示論(Museum Exhibition)	3	選択必修	2	前期	集中	植月 学(非常勤講師)	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	○博物館を特徴づける活動であり、学芸員として必須の知識である展示の理念と手法を理解すること(見通す力) ○博物館における展示の実践的技術を学ぶこと(解決する力)	展示の理論、歴史についてふれたあと、実例をもとに各種の展示手法・技術を解説します。実際に展示の企画を経験し、プレゼンもおこなってもらいます。	1. イントロダクション 2. 展示の諸類型 3. 展示企画の実際1 4. 展示企画の実際2 5. 企画・構想 6. 調査 7. 空間構成 8. ケースと照明 9. グラフィック 10. 映像展示と構造展示 11. 広報 12. 展示解説 13. 展示評 14. 企画発表価 15. まとめ	講義の前後に実際に博物館で展示を見学し、来館者としての目線と、企画者としての目線の双方を経験してください。	博物館学関連	–	–	–	特になし	必要に応じて講義の中で紹介します	参加度(出席と毎回のリアクションペーパー)および企画プレゼン内容を総合して評価します。	講義	講義を主体としますが、遠宜大学資料館等にて実地見学をおこないます。後半には各自が企画した展示のプレゼンをおこなってもらいます。	普段から様々な種類の博物館の展示を見学し、自分なりに評価をすることが重要です。	なし	なし	土日2回、計4日間を予定しています。詳細な日程については掲示を確認してください。
308	308	人文社会科学部文化創生課程文化資源学コース	【学芸員】博物館実習I(Museum Internship I)	3	学芸員関係科目	1	後期	月曜日1・2時限	○関根 達人、大高 明史(教育学部)、上條 信彦、武井 紀子、山田 厳子、須藤 弘敏(非常勤講師)、田中 和明(農学生命科学部)、中村 剛之(農学生命科学部)、鎌田 耕太郎(非常勤講師)、宮坂 朋、渡辺 麻里子	–	レベル2	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	博物館資料の取り扱いや保存整理に関する基本を知ること	博物館・美術館などに展示・収蔵される多様な分野のの実物資料を実際に手にとって、その性質や扱う上での基本知識や技術を学びます。	基本的に毎週1回の実習です。 ただし、設定された時間割以外の日曜日などに学外で行う回もあるので、第1回の授業時に行われる説明を必ず聞き、渡されるスケジュール表を毎回確認してください。 なお教室はこの講義回ごとに異なります。	実習Iで学ぶ内容は4年次に行われる実習IIにつながります。 モノに関する用語や扱う際のポイントをしっかり身に付けることが大切です。	博物館学関連	–	–	–	なし	なし	出席点です。 全回出席が求められます。 欠席することに大きく減点され、3回以上欠席した場合は不可となります。	実習	実習です。 回によって開講場所が異なります。 学外の現地見学となる場合もあります。	「博物館資料論」を受講済みでないと履修できません。 現地見学の際に必要となる交通費は各自の負担です。	担当教員巣地開講科目参照	関根達人 sekine(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は＠に置き換えてください	特になし
309	309	人文社会科学部	【学芸員】博物館実習II(Museum Internship II)	4	選択必修	2	前期	集中	植月 学(非常勤講師)	–	レベル4	CP・DP 2 解決していく力	○博物館資料を適切に取り扱えること(解決する力) ○博物館資料を用いて展示を企画し、制作できること ○展示解説や教育プログラムを通じて、他者に資料の価値を的確に伝えられること ○博物館の諸設備について学び、正しく使えるようになること	展示の構想から資料の選定、解説の制作、展示作・撤収作業まで展示に関わる一連の流れを経験してもらいます。また、作り上げた展示をもとに、展示解説や展示評価、補助資料の作成など応用的作業もおこないます。	1 オリエンテーション 2・3 資料の取扱いに関する実習 4・5 調査・収集に関する実習 6〜11 展示に関する実習 展示計画の作成、展示資料の選定 借用手続き、検証 パネル・キャプション類作成等の実務 資料の列品、ライティング等の実務(模擬展示) 12・13 実習成果発表、意見交換 14・15 展示教育に関する実習 展示内容の学習、展示解説の実務 常設展示の課題発見調査と利用者動向の調査 展示手法の学習、展示調査と利用者動向調査の結果による課題の検討・協議 16・17 施設・設備に関する実習 18・19 管理業務に関する実習 20 ふりかえり、およびレポート	学芸員資格関係科目の総仕上げとなる科目ですので、これまでの科目の内容をよく復習しておいてください	博物館学関連	–	–	–	特になし	特になし	実習への参加度(40%)、成果発表(30%)、およびレポート(30%)による総合評価	実習	主に大学資料館において実習をおこないます。一部学外の関連施設での実習も予定しています。	博物館等見学調査記録課題を提出して審査済みで、なおかつ原則として学芸員資格を取得するための授業科目をすべて履修済みであることが履修の条件です。実習に係る交通費は各自で負担していただくことがあります。	なし	なし	9月に5日間程度で実施予定です(2部構成)。詳細な日程、班構成の決定については掲示を確認してください。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
310	310	人文社会科学部	【教職】教育原理 (Philosophy and History of Education)	2	教職関係科目	2	前期	集中	走井 洋一(非常勤講師)	-	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決する力	①教育という営みの意味と機能、可能性と限界を理解できる。 ②学校教育の成り立ちやその歴史的経緯を踏まえて、その目的や理念を理解できる。 ③人間形成、教育、学校についての自分なりの考えを構築できる。	「教育とは何か」について考えるのが本科目の目的です。 特に、教育が人間にとってどのような意味や機能、そして限界があるのかを、さまざまな教育思想、学校教育の歴史、諸科学が明らかにしてきた人間の生まれながらの能力の内実を踏襲しながら、考えていくことにします。 具体的には以下の授業計画にしたがって理解を深めていきます。	1)オリエンテーション(本科目のねらいと内容、授業に臨む際の留意点、評価方法、等について)、教育の必要性について考える 2)教育に関する(ことば)――「教育」 3)教育に関する(ことば)――「学校」・「人間形成」 4)ホモ・エドゥカンドゥスの来歴(1)――相反する子ども観・子どもを生まれながらに善いものとみなす教育観①(J. J. ルソー) 5)ホモ・エドゥカンドゥスの来歴(2)――子どもを生まれながらに善いものとみなす教育観②(J. H. ペスタロッチ、F. W. A. フレーベル) 6)ホモ・エドゥカンドゥスの来歴(3)――子どもを善いものとみなす教育観③(E. ケイ)、子どもを生まれつき善くないものとみなす教育観(I. カント) 7)(学校)の誕生と「ホモ・エドゥカンドゥス」の論理の内在化(1)――近代的な(学校)の誕生の背景 8)(学校)の誕生と「ホモ・エドゥカンドゥス」の論理の内在化(2)――様々な教育法の台頭 9)(学校)の誕生と「ホモ・エドゥカンドゥス」の論理の内在化(3)――近代的な(学校)による「ホモ・エドゥカンドゥス」の論理の内在化 10)「ホモ・エドゥカンドゥス」の現実――「教育の必要性」に対する疑問 11)「ホモ・ディスケンス」の子ども――「学び」の機能と意味 12)教えることと教育すること 13)「ホモ・エデゥカンス」としての大人――教育の必要性の錯誤 14)教育の必要性――「私たち」の範囲拡大と公の教育 15)これまでのまとめ	【各授業前学修】各回で扱うテキストの該当箇所をよく読んでください。 【各授業後学修】授業で学んだことについてキーワードをあげ、それについて説明できるようにしてください。 また、疑問がなくなるようにテキストをはじめとした文献を調べ、復習してください。	教育学関連	思想関連	歴史学関連		柳野・走井ほか[2011]『教育の現在(改訂版)―子ども・教育・学校をみつめなおす』学術出版会。 をテキストとして使用します。また、授業時には資料を配付します(配付はmoodleを通じて行う予定です。)。	授業のなかで適宜紹介します。	①レポート[40%](Rubricにおいて授業内で示す) ②小テスト[40%](Rubricにおいて授業内で示す) ③受講態度(「フィードバック」への取り組み)[20%](授業の内容を踏まえているか否か)	講義	講義型式で授業を行うが、フィードバックの内容を踏まえながら、受講者の課題議論・問題理解を深めながら、実施します。	なし	なし	hashirin@tokyo-kasei.ac.jp	レポート、小テスト、フィードバックはすべてmoodle上で行います。資料の配付もmoodleを用いる予定ですので、moodleの利用、PCの利用に習熟しておくことが望ましまます。
312	312	人文社会科学部	【教職】教育の社会制度論 (Social Institutional Theories of Education)	2	教職関係科目	2	後期	木曜日5-6時限	桐村 豪文(教育学部)	-	レベル2	CP・DP 1 見通す力	○現代の教育制度について、その背景にある様々な社会的課題も併せて、大衆を理解する。 ○昨今の教育改革について、全体の政策の流れを踏まえて理解する。 ○教育制度の在り方について、批判的に思考できる。	○冷戦終結後、教育をめぐる対立は、かつての保守／革新の対立軸から別の形へと変わってきた。安定しない対立軸のもと、揺れ動く教育改革は、それでも次々に打ち出されてきた。我々は、こうした改革の波をどう受け止めるべきなのか。 ○本授業では、こうした課題について正しく思考するため、教育制度の基礎について理解し、教育政策が作られる過程やその正当性を評価する視点についても学ぶ。 ○また、グローバル化、情報化、少子高齢化などの社会変化の中で、教育はどのように変化することが求められているのか、その課題と現在進行する諸政策について学ぶ。 ○そのうえで、改めて教育制度・教育政策がどうあるべきかについて、自ら思考することを求める。	第1回 ガイダンス 第2回 現代の教職と学校 第3回 戦後における学校教育の整備と発展(1) 第4回 戦後における学校教育の整備と発展(2) 第5回 現代社会における学校教育の課題状況(1) 第6回 現代社会における学校教育の課題状況(2) 第7回 戦後日本のあゆみ 第8回 学校教育を支える法制度(1) 第9回 学校教育を支える法制度(2) 第10回 中央における教育行政の組織と運営 第11回 地方における教育行政の組織と運営 第12回 教育課程行政とカリキュラム開発 第13回 学校の組織と経営 第14回 学校経営の現代的課題と学校組織の特徴 第15回 地域コミュニティの中の学校経営 第16回 最終試験	【予習】教科書の指定する箇所を次回までに読解すること。 【復習】毎回授業後にミニッツペーパーの提出を求める。次回の授業までにオンラインで提出してもらう。	教育学関連	-	-		浜田博文編著(2014)『教育の経営・制度(新・教職課程シリーズ)』一藝社	高見茂,松本均,南部広孝編著(2018)『教育制度(教職教養講座)』協同出版 河野和清編著(2017)『現代教育の制度と行政(改訂版)』福村出版	平常評価(ミニッツペーパー):30% レポート:20% 期末試験:50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定。 詳細は第1回授業で説明する。	講義	○講義を聴く。 ○問いをもとにワークを行う。 ○ミニッツペーパーを提出する。	特になし	火曜日13時～15時	kirimura@shirosaki-u.ac.jp(%を@に変更)	特になし
313	313	人文社会科学部	【教職】発達心理学 (Theory of Developmental Education)	2	教職関係科目(前期と後期の授業内容は同じです。どちらを受講しても構いません。なお、両方受講する必要はありません。)	2	前期及び後期	前期水曜日9-10時限 後期水曜日1-2時限	佐々木正晴(非常勤講師)	-	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	○生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 ○生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を 理解する。 ○教育との活動の関係性について、答えを見つけることができる。	学習を積み重ねてはじめてひとはひとになる。学習の成立に“教育”の活動はいかに関与するのか、本稿では、主に心理活動に障害を抱える事例に対する機能形成実験から学習成立の原理を探る。これにより、生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。	第1回 人間関係の始まり 第2回 環境と機能形成 第3回 心の活動の生得性と習得性 第4回 幼児、児童及び生徒の心身の発達-理論と教育 第5回 運動の発達に関する理論と機能形成実験 第6回 言語・認知の発達に関する理論と機能形成実験 第7回 社会性の発達に関する理論と機能形成実験 第8回 動機づけ・学習意欲の理論と実験例 第9回 他者の行動理解と学習評価 第10回 発達を総合的に見る 第11回 描画行動の障害と形成 第12回 新生児における実験 第13回 言語活動の総括 第14回 教育活動の概念と方法 第15回 総括	[予習] 各テーマに関して事前に課題を出す。 [復習] 各テーマの結論をまとめる。□	心理学関連	教育学関連	-	-	なし。プリント配布。	授業で配布するプリントにて適宜紹介する。	講義で毎回小レポートを課する。(15回×3点＝45点)。翌週提出する大きなレポート3回(3回×10点＝30点)、最終16回目試験(25点)。 レポート、試験はテーマに応じて論理的に構成されているか、評価する。	講義	演習方式を取り入れる。	受講にあたっては特段の予備知識は必要とない。□	特になし	sasaki(at)hirogaku-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	特になし
314	314	人文社会科学部	【教職】教育課程論 (Curriculum Theory (Curriculum Building))	3	教職関係科目	2	前期	集中	浅田 豊(非常勤講師)	-	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	○中等教育の教育課程の理論的側面や実際面を理解すること(見通す力) ○カリキュラムに関する諸課題を解決する上での基礎的な技能を身に付けること(解決していく力) ○カリキュラム並びにカリキュラムマネジメントの在り方を継続的に考察することができること(学び続ける力)	中等教育を中心とした教育課程の意義、類型及び領域等について触れ、教育課程を編成する法的根拠としての学習指導要領の特質と課題について検討する。(カリキュラム・マネジメントを含む。)	授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 カリキュラムとは何か 第3回 学習指導要領の変遷①(1947年～教育の現代化) 第4回 学習指導要領の変遷②(「ゆとり」～2008年告示) 第5回 現行学習指導要領の特質・構造 第6回 今日の学力観(PISA型学力)と教育課程 第7回 「学力低下論」 第8回 諸外国の教育課程 第9回 総合的な学習の時間および特別活動 第10回 教育課程の編成原理・条件 第11回 教育課程経営とカリキュラム・マネジメント 第12回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程①(メディア・リテラシー) 第13回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程②(国際理解教育) 第14回 教科横断的な教育内容の実践と社会に開かれた教育課程③(環境教育) 第15回 総合討論 第16回 試験及び総括	[予習] 初回前には、学習指導要領を熟読しておいてください。初回以降に、次回分をその都度配布しますので、よく読んでおいてください。 [復習] 各授業中に、個人あるいはグループで考察する課題を示しますので、復習時間に継続して検討しておいてください。	教育学関連	-	-		中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、中学校学習指導要領解説(平成29年6月告示)	『新しい時代の教育課程第3版』(田中耕治他、有斐閣アルマ)	試験に相当する課題(60%)及び授業での提出物(40%)で評価する。	講義	講義を中心としつつ適宜アクティブラーニングの方法をとります。	学問的にともに楽しく学び合うということを実感していただければ幸いです。	なし	なし	特になし
315	315	人文社会科学部	【教職】道徳の歴史と方法 (Method and History of Moral Education)	3	教職関係科目(前期と後期の授業内容は同じです。どちらを受講しても構いません。なお、両方受講する必要はありません。)	2	前期及び後期	前期:金曜日1-2時限 後期:金曜日1-2時限	毛内 嘉蔵(非常勤講師)	-	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解した上で、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法について学修し、実際に模擬授業を通して実践的指導力を身に付ける。 (到達目標) ①道徳の本質を理解できる。 ②道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題を理解している。 ③子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標や内容を理解している。 ⑤道徳教育の指導計画や教育活動全体を通した指導の必要性を理解している。 ⑥道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 ⑦道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 ⑧授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成できる。 ⑨道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 ⑩模擬授業を通して、授業改善の視点を身に付けている。	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる「特別の教科道徳」(以下「道徳科」)の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的指導力を身に付けることを到達目標とする。	第1回 道徳教育の意義と原理 第2回 道徳教育の歴史的変遷 第3回 現代社会における道徳教育の課題と役割 第4回 道徳教育及び道徳科の目標と内容 第5回 道徳性の発達と道徳教育の基本的な在り方 第6回 道徳教育の指導計画(全体計画・別案)の作成とその意義 第7回 道徳科の年間指導計画の作成とその方針 第8回 道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計 第9回 道徳科における教材とその分析(教材分析法) 第10回 道徳科の特質を生かした多様な指導方法 第11回 道徳科の授業づくり①(授業のねらいと指導過程) 第12回 道徳科の授業づくり②(明確な指導観に基づいた学習指導案の書き方) 第13回 道徳科の授業づくり③(模擬授業) 第14回 道徳科の指導と評価の一体化 第15回 道徳教育推進上の課題 定期テスト	授業の中で適宜指示する。	教育学関連	-	-	-	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』小寺正一/藤永芳純編著『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社	文部科学省『中学校学習指導要領』その他、随時指示・配布する。	授業態度等の状況(授業後の振り返りカードの提出、演習への参加等)(30%)、 学習指導案(ねらい、主題設定理由、学習指導過程、板書等)の提出(35%)、定期試験(35%)の総合評価。	講義	講義及び模擬授業を基本とする。	特になし	非常勤講師のため設定なし	monai@akibi.ac.jp	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
316	316	人文社会科学部	【教職】特別活動論（Extracurricular Activity）	2	教職関係科目	2	前期	集中	林 尚示（非常勤講師）	–	レベル2～3	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	○特別活動の動態を理解すること(見通す力) ○学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の立案・実施に関する基礎的な技能を体得すること(解決していく力)	学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体であることがわかる。	第1回 授業オリエンテーション 第2回 特別活動と学級活動の概要説明 第3回 学級活動の指導案作成 第4回 学級活動の模擬授業 第5回 学級活動レポート 第6回 学級活動のDVD視聴と分析 第7回 生徒会活動の概要説明 第8回 生徒会活動の指導計画作成 第9回 模擬生徒会活動 第10回 生徒会活動・学校行事レポート 第11回 学校行事の概要 第12回 学校行事のDVD視聴と分析 第13回 学校行事の指導計画作成 第14回 模擬学校行事 文化的行事、等 第15回 模擬学校行事 健康安全・体育的行事、等 第16回 期末試験	[予習]各自の経験してきた特別活動について振り返って経験をまとめておいてください。 [復習]授業内容の要点をまとめて次回の授業につなげてください。	教育学関連	–	–	–	林尚示編、2016『教師のための教育学シリーズ9特別活動—理論と方法—』学文社.	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』2017年。	期末試験(60%)・レポート(20%)・模擬的授業参加度(20%)を目安として総合的に評価する。	講義	一斉学習、個別の指導案作成、グループ討議、グループでの指導案作成、模擬授業、等	遅刻せずに出席してください。	授業の間の休み時間に教室で対応する。	所属学部の教務・学務担当者を経由してご連絡ください。haya5510(at)gmail.com ※(at)は#に置き換えてください	特になし。
317	317	人文社会科学部	【教職】教育方法論（Educational Methods）	3	教職関係科目（前期と後期の授業のどちらを受講しても構いません。なお、両方受講する必要はありません。）	2	前期及び後期	前期：月曜日5・6時限 後期：集中	浅田 豊（非常勤講師）	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	○基本的な教育技術の習得、情報機器を活用した授業づくり、主体的・対話的で深い学びの理論、パフォーマンス評価等の学習評価に関し理解すること(見通す力) ○授業設計・運営上の諸課題を解決するための基礎的な技能を身に付けること(解決していく力) ○よりよい教育方法の在り方を継続的に考察することができること(学び続ける力)	本授業は、学習者の学びに対する意欲を引き出すための授業方法について、経験的に学ぶことを目的としている。つまり、授業で取り扱う学習項目よりも、むしろ自分たちがどのような授業を受けているのかを、方法論的に意識化できるようにすることに重点を置いている。また最近の新しい教育内容に現場がどのように対応していくのかについても考える。	授業計画 第1回： オリエンテーション 第2回： 教職課程における学びの振り返り 第3回： 教育技術の基本(教材、教授行為、学習形態) 第4回： 主体的・対話的で深い学びの原理 第5回： 主体的・対話的で深い学びの実践①問題解決型学習(問題提起編) 第6回： 主体的・対話的で深い学びの実践②問題解決型学習(解決編) 第7回： 主体的・対話的で深い学びの実践③テクスト分析 第8回： 主体的・対話的で深い学びの実践④背景分析 第9回： 学習評価に関する理論 第10回： 指導と評価の一体化(パフォーマンス評価) 第11回： ルーブリックをつくる 第12回： パフォーマンス課題の設計(設計編) 第13回： パフォーマンス課題の設計(検討編) 第14回： 主体的・対話的で深い学びの実践⑤ワールドカフェ 第15回： 教育方法論に関する総合的な演習	[予習] 初回前には、学習指導要領を熟読しておいてください。初回以降に、次回分をその都度配布しますので、よく読んでおいてください。 [復習] 各授業中に、個人あるいはグループで考察する課題を示しますので、復習時間に継続して検討しておいてください。	教育学関連	–	–	–	独自に作成・編集した資料を配布する。	中学校学習指導要領(平成29年3月告示)、中学校学習指導要領解説(平成29年4月告示) ルネ・ホップス著：森本洋介、和田正人監訳(デジタル時代のメディア・リテラシー教育：中高生の日常のメディアと授業の融合)東京学芸大学出版会、2015年	授業中に課す課題の提出(100%)	講義	講義を中心としつつ、適宜アクティブラーニングの方法をとります。	学問を通じて、楽しく共に学び合うということを実感してもらえれば幸いです。	なし	なし	特になし
318	318	人文社会科学部	【教職】生徒・進路指導の理論と方法（Study on Student guidance）	3	教職関係科目	2	前期	月曜日9・10時限	田名場忍（教育学部）	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力	○生徒の理解と指導について、その理論的背景を理解する ○学校不適応、非行、ならびにいじめの指導について基礎的な視点を獲得する	生徒指導は、発達的視点もふまえて個々の生徒の適応・自己実現・社会性の伸張を図る教育活動です。生徒の理解と指導の方法について、心理的発達に関する理論を基礎に、不登校を中心とした学校不適応、非行、ならびにいじめの予防や指導について考察します。	第1回 ガイダンス、生徒指導の定義 第2回 生徒指導の目標、生徒指導の沿革 第3回 生徒指導の現状 第4回 生徒指導の基礎理論(1)：自己に関する理論、自己実現 第5回 生徒指導の基礎理論(2)：自我同一性 第6回 生徒指導の基礎理論(3)：発達の理論 第7回 生徒指導の基礎理論(4)：発達課題、道徳性の発達 第8回 生徒指導における生徒理解と対応 第9回 生徒指導各論(1)：非行少年 第10回 生徒指導各論(1)：非行少年の指導 第11回 生徒指導各論(2)：いじめ 第12回 生徒指導各論(2)：いじめの指導 第13回 生徒指導各論(3)：不登校 第14回 生徒指導各論(3)：不登校の指導 第15回 学習状況の確認(試験含む)と振り返り	授業内容はすべて、教員志望者としての自分自身のあり方と実習で関わる生徒の日々の行動を理解する鍵になります。授業内容と自らの体験を折に触れ照合し、自己分析と省察をおこなってください。	心理学関連	教育学関連	–	–	適宜資料を配布します。	「新教育心理学体系③ 生徒指導」小野寺正巳編（中央法規出版） 「入門 生徒指導・相談」森崎武編（福村出版）	最終試験によって評価します。	講義	講義形式で実施します。	特になし。	田名場オフィスアワー：前後期ともに水曜日9:00～10:00	田名場@メールアドレス：etanaba@hirosaki-u.ac.jp	特になし。
319	319	人文社会科学部	【教職】教育相談の理論と方法（Study on ducational Counseling）	2	教職関係科目（前期と後期の授業のどちらを受講しても構いません。なお、両方受講する必要はありません。）	2	前期	土曜日	吉中 淳（教育学部）	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	理論に裏打ちされた実践力をつけること、生徒理解の基本的視点と、生徒の自己実現・適応・メンタルヘルスを促す技法を修得することを目標とします。	教育相談やカウンセリングの基礎となる考え方と人間関係の理論等を課します。また、教育現場でそれぞれの技法を実践してきた非常勤講師3名が、自らの実践技法や事例理解の方法を伝えます。	○集中講義で実施します。 第1回：オリエンテーション （担当：吉中） 第2回：学校における教育相談の意義と課題 （担当：吉中） 第3回：組織的教育相談の必要性 （担当：吉中） 第4回：教育相談に関する基礎的理論 （担当：松田） 第5回：いじめ・不登校と教育相談 （担当：松田） 第6回：教育相談の基礎的概念 （担当：長野） 第7回：子どもにとっての問題行動の意味 （担当：長野） 第8回：学校教育における カウンセリングマインド （担当：長野） 第9回：学校不適応の理解と対応 （担当：小玉） 第10回：年間計画作成、児童生徒・保護者面談の進め方 （担当：小玉） 第11回：支援計画作成演習（事例検討） （担当：小玉） 第12回：チーム支援、学校内外の資源の活用 （担当：小玉） 第13回：子どもの発するシグナルの把握 （担当：立原） 第14回：カウンセリングの基礎的技法 （担当：立原） 第15回：傾聴スキルトレーニング （担当：立原） ※順番や内容を変更する場合があります。	講義内容の復習と、演習体験の熟成に努めてください。	教育学関連	教育学関連	健康科学関連	実務教員	テキストは使用しません。適宜資料を配布します。	石隈利紀 (2004). 学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス— 誠信書房 上地安昭 (1990). 学校教師のカウンセリング基本訓練—先生と生徒のコミュニケーション入門 北大路書房 桑原知子(1999). 教室で生かすカウンセリング・マインド—教師の立場でできるカウンセリングとは 日本評論社	評価は、教育学部教員と非常勤講師が各々に提示する課題の成績を、担当時間数に応じ按分して総合的に行います。	講義	土曜日に集中講義で行います。	非常勤講師のスケジュールに合わせて日程調整がなされます。調整結果はできる限り早く掲示しますので、掲示に注意していてください。 例年、講義の日程や開始時刻を間違える学生が後を絶たないのでくれぐれも注意してください。	吉中のオフィスアワー：未曜日12:00～13:00	吉中のメールアドレス yosinaka@hirosaki-u.ac.jp	特にありません。
321	321	人文社会科学部	【教職】国語科教育法（Teaching Methods for Japanese Language and Literature）	2	教職関係科目	2	前期	水曜日3・4時限	鈴木 愛理（教育学部）	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力	・国語教育の構造に関する基本的な知識が理解できている。(見通す力)	・国語教育に関わる話題をできるだけ広く取り上げながら、討議を通して、国語教育実践を行っていくための基礎的な知識および思考力の習得をめざす。	第1回：オリエンテーション 序 第2回：言語生活を振り返るための教材例① 佐藤雅彦「じゃないですか禁止令」 第3回：言語生活を振り返るための教材例② 星野博美「割れたグラス」 第4回：言語生活を振り返るための教材例③ 西尾実「おじさん、寒いね」 第5回：国語教育目標論の成果と課題 第6回：構想力の本質と目標論的可能性 第7回：着想すること① —実感把握論— 第8回：着想すること② —言語生活の探究— 第9回：予期すること① —予期することの位置と意義— 第10回：予期すること② —アフォーダンス理論— 第11回：省察すること① —省察・自己評価— 第12回：省察すること② —振り返る学習過程— 第13回：希望すること① —ポートフォリオ評価— 第14回：希望すること② —対話性— 第15回：構想力を育む国語教育 ※都合により、内容や予定が変更になる可能性があります。	[予習]教科書の該当箇所を熟読し、疑問に思ったことや考えたことなどをノートに書く。 [復習]授業で学んだことについて、よく整理しておくこと。	教育学関連	–	–	–	・竜田徹『構想力を育む国語教育』渓水社、2014 ・山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015	・文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編」「高等学校学習指導要領解説 国語編」 ・ジェニ・ボラック・デイ他(山元隆春訳)「本を読んで話し合う!リテラチャーサークル実践入門」渓水社、2013 ・このほかにも適宜紹介しますので、自学自習に励んでください。	・平常点(授業への参加度、読書ノートの内容)に基づく、単なる出席回数ではない。:60% ・期末評価(レポートを課す):40% 上記を合算して成績評価を行います。	講義	講義も行いますが、読書会を取り入れます。	特になし	水曜日1 3:00～14:00	esuzuki(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は#に置き換えてください	特になし
322	322	人文社会科学部	【教職】国語科授業論（Japanese Language and Literature Teaching Theory）	2	選択必修	2	後期	水曜日3・4時限	鈴木 愛理（教育学部）	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	・中等教育における国語教育の理論と方法に関する基本的な知識が身についている。(見通す力) ・中等教育における国語科の教材について分析・考察し、それをもとに授業を構想し、学習指導案を作成することができる。(解決する力)	・中学校・高等学校の国語科教員として授業を担当するために必要な知識と技術について学ぶとともに、国語科授業を構想することを通して、国語科教育の理論と実践のあり方について理解を深める。	第1回：中等教育における国語科教育がめざすもの 第2回：中等教育の国語科における授業と評価 第3回：「読むこと」の学習指導 —物語・小説— 第4回：「読むこと」の学習指導 —中学校・詩— 第5回：「読むこと」の学習指導 —高等学校・詩— 第6回：「読むこと」の学習指導 —中学校・説明文— 第7回：「読むこと」の学習指導 —高校・評論文— 第8回：読書の指導 第9回：模擬授業および検討会① 中学校・小説 第10回：模擬授業および検討会② 高校・小説 第11回：模擬授業および検討会③ 中学校・詩 第12回：模擬授業および検討会④ 高校・詩 第13回：模擬授業および検討会⑤ 中学校・説明文 第14回：模擬授業および検討会⑥ 高校・評論文 第15回：まとめ ※都合により、内容や予定が変更になる可能性があります。	[予習]教科書を熟読し、疑問に思ったことや考えたことなどをノートに書くこと。 [復習]授業で学んだことを、よく整理するようにしてください。	教育学関連	–	–	–	・山元隆春編著『教師教育講座 第12巻 中等国語教育』協同出版、2014 ・山元隆春ほか編『国語科重要用語事典』明治図書、2015 ・吉田尚行「国語の授業の作り方」文学通信、2018 ・文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編」、「高等学校学習指導要領解説 国語編」	・授業時に適宜指示しますので、自学自習に励んでください。	・模擬授業(板書、ワークシート等含む):30% ・模擬授業検討会への参加:20% ・学習指導案:20% ・読書ノート:30%	講義	講義、討議、模擬授業などを組み合わせて行います。	特にありません。	水曜日の13:00～14:00	esuzuki(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は#に置き換えてください	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
323	323	人文社会科学部	【教職】社会科教育法(Teaching Methods for Social Studies)	2	教職関係科目	2	前期	水曜日3・4時限	小塚 史朗(教育学部)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	中学校社会科の目標・内容・方法への理解を深めるとともに、社会科授業を分析・開発する基礎的な力を養う。	次の3つのトピックを柱に、授業を進めます。 (1)社会科の成立・歴史的展開を、各時期を代表する教育実践を取り上げ検討する。 (2)1980年代以降に問われた教育課題と、それに対応した授業研究の動向を検討する。 (3)学習指導要領に示された目標・内容構成を検討し、学習指導計画を立案する。	1. ガイダンス 2. 中学校社会科の教科構造 3. 社会科の歴史Ⅰ－成立期の社会科と問題解決学習－ 4. 社会科の歴史Ⅱ－日生連の社会科研究と実践「水害と市政」－ 5. 社会科の歴史Ⅲ－高度経済成長期の社会科と発見・探求学習－ 6. 新しい社会科授業の模索Ⅰ－安井俊夫氏の歴史授業論－ 7. 新しい社会科授業の模索Ⅱ－モノを活用した社会科授業－ 8. 新しい社会科授業の模索Ⅲ－参加型学習論－ 9. 新しい社会科授業の模索Ⅳ－探求学習の発展－ 10. 教育改革の動向と現行学習指導要領の特質 11. 学習指導要領の目標と内容構成 12. 社会科における教材研究のあり方 13. 学習指導案の様式と書き方Ⅰ－単元指導計画の立案－ 14. 学習指導案の様式と書き方Ⅱ－本時の指導計画の立案－ 15. 社会科における評価法 16. まとめ	・授業づくりには多大な労力・時間が必要となります。授業時間外にも教材研究を進めてください。	教育学関連	–	–	–	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』を準備してください。 その他、授業内で適宜、資料を配布します。	授業の進行に合わせて、適宜紹介します。	学期末試験、提出物、平常点によって総合的に評価します。	講義	主として講義によって進めますが、適宜、グループワーク等を組み入れていきます。	魅力的な社会科授業を考案するためには、教員の課題意識が不可欠です。普段から社会・教育の動向に関心を払い、問題意識を深めておいてください。また自ら「社会」に出向いて視野を広げることも大切にしてください。	月曜日13:00～14:00	f-kodama(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし
324	324	人文社会科学部	【教職】社会科授業論(Practice in Social Studies)	2	教職関係科目	2	後期	水曜日3・4時限	小塚 史朗(教育学部)	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	・社会科授業の構成要素および各分野の学習内容領域への理解を深める。 ・中学校社会科の教材研究と授業運営に関わる基礎的な技術を身につける。 ・社会科授業を観察・分析・評価する力を身につける。	はじめに、社会科授業を成り立たせている諸要素について理解を深めるとともに、教材研究の進め方を考えていきます。その後、中学校社会科の学習内容領域に即してグループないし個人で教材研究に取り組み、その効果的な学習指導のあり方を模擬授業を通して実際的に学んでいきます。最後に、これらの一連の学びを通した自身の成長と課題について省察していきます。	1. ガイダンス 2. 社会科授業の構成要素 3. 基礎的な指導技術と各場面での指導のポイント 4. 社会科の学力と教材研究 5. 歴史的分野の学習指導(1)古代・中世史 6. 歴史的分野の学習指導(2)近世史 7. 歴史的分野の学習指導(3)近代史 8. 歴史的分野の学習指導(4)現代史 9. 地理的分野の学習指導(1)自然、人口 10. 地理的分野の学習指導(2)資源・産業、交通 11. 地理的分野の学習指導(3)世界地誌 12. 地理的分野の学習指導(4)日本地誌 13. 公民的分野の学習指導(1)政治 14. 公民的分野の学習指導(2)経済 15. 公民的分野の学習指導(3)国際 16. まとめ	本科目のなかで教材研究の時間を設けますが、不足する場合は各自で進めてください。 また他者の授業の参観で学んだことは、自分の授業に活かすような掛けてください。	教育学関連	–	–	–	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』を準備してください。 教材研究に際しては中学校の教科書・資料集を使用しますが、こちらで準備します。	教科書・資料集のだけで教材研究を進めるのは困難です。各自で関連文献を探し、教科書叙述の背景にある各学問の成果・動向に触れるようにしてください。的確な文献・データ・情報を入手することも、社会科教員に求められる必須の能力です。	平常点と演習への取り組み、提出物によって総合的に評価します。	講義	主として演習(模擬授業)を中心に進めていきます。	・初回ガイダンスで分担と日程を決定します。必ず出席してください。 ・前期開設の「社会科教育法」を履修していることが望ましいです。前期に作成した学習指導案の修正も行います。 ・多くの受講生にとって初めて模擬授業です。失敗して当然ですが、経力、前の授業者が指摘されたことを繰り返さないように心掛けてください。 ・授業力は、他者の授業を観察・分析することによっても磨かれます。演習担当ではない回も積極的に参加してください。	月曜日13:00～14:00	f-kodaka(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし
325	325	人文社会科学部	【教職】地理歴史科教育法(Teaching Methods for Geography and History)	3	教職関係科目	2	後期	木曜日9・10時限	篠塚 明彦(教育学部)	–	レベル3	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	高校地理歴史の目標・内容・方法への理解を深めるとともに、地理歴史科授業の教材研究や授業づくりについての基礎的な能力を身につける。	まず地理歴史科の成立とその展開・課題を代表的な実践の検討も交えながら理解を深めます。その後、模擬授業とその後の省察を通じて指導計画・指導内容の検討といった授業づくりの実際について学んでいきます	1. オリエンテーション、グループ分け 2. 地歴科の成立と学習指導要領の変遷 3. 過去の実践に学ぶ 4. 地歴科改革とその課題 5. 教科書の役割と授業づくり 6. 教材の選定と教材研究 7. 授業の導入と展開 8. 授業方法の実際 9. 模擬授業:世界史(1)アジア 10. 模擬授業:世界史(2)ヨーロッパ・アメリカ 11. 模擬授業:日本史(1)前近代 12. 模擬授業:日本史(2)近現代 13. 模擬授業:地理(1)系統地理 14. 模擬授業:地理(2)地誌 15. 振り返りとまとめ 受講者数によっては予定が変更になることがあります。	・受講者間での意見交流の機会を多く設ける予定です。そこで指摘されたことを通じて、自身の授業づくりを改善するようにしてください。	教育学関連	–	–	–	・文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史科編』 ・その他、授業内で適宜、資料を配布します。	・二谷貞夫他編『中等社会科ハンドブック』(学文社) ・授業の進行に合わせて適宜紹介します。	平常点と模擬授業への取り組み、提出物によって総合的に評価します。	講義	講義と演習(グループ学習)によって進めていきます。	他の受講生の授業から学べる点、気付くことが多々ありますので、模擬授業担当ではない回も自身の授業と比較しながら積極的姿勢で臨んで下さい。	水曜日10－11時	a-shino@hirosaki-u.ac.jp	なし
326	326	人文社会科学部	【教職】社会科授業構成論I(Theory on Instructional Materials in Social Studies I)	3	教職関係科目	2	前期	火曜日3・4時限	小塚 史朗(教育学部)	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	・中学生の関心や発達特性を踏まえた授業を創造することができる。 ・教科書および資料集以外の文献やデータを活用して授業づくりを進めることができる。 ・教科指導に関わる自己の成長と課題を把握する。	社会科の発展的な授業づくりに取り組みます。Tuesday実習での授業観察を基盤にして、中学生の発達特性・社会認識を踏まえた授業づくりを進めます。また、最新の人文・社会諸科学の知見を積極的に活用して、教科書・資料集に依存しない授業を開発します。後半では、後期Tuesday実習に向けて地域学習に関する基礎的作業に取り組みます。	1. オリエンテーション 2. 教材研究Ⅰ(学習内容の検討) 3. 教材研究Ⅱ(資料収集と指導計画の立案) 4. 教材研究Ⅲ(学習指導案の完成) 5. 模擬授業:歴史的分野Ⅰ アイヌ文化 6. 模擬授業:歴史的分野Ⅱ 自由民権運動 7. 模擬授業:歴史的分野Ⅲ 日本国憲法制定史 8. 模擬授業:地理的分野Ⅰ ネパール 9. 模擬授業:地理的分野Ⅱ 自然災害と防災 10.模擬授業:公民的分野Ⅰ 政治参加・民主主義 11.模擬授業:公民的分野Ⅱ 社会的排除 12.模擬授業:公民的分野Ⅲ 地域活性化 13.社会科の地域学習と地域調査 14.地域調査の計画づくり 15.フィールド調査 16.まとめ	教科専門科目を担当されている先生方に助言をもらい、学問研究の成果を取り入れるよう心掛けてください。	教育学関連	–	–	–	中学校の教科書・資料集はこちらで準備します。	各自に割り当てられたテーマに関連する文献を、担当教員が紹介します。また、各自で必要となる文献・資料を収集してください。これらを活用しながら発展的な授業づくりを進めていきます。	演習への参加状況、提出物(学習指導案、レポート)によって総合的に評価します。	講義	講義形式	歴史学・地理学・政治学・社会学を担当している先生方にも積極的に助言をもらうよう心掛けてください。	小塚:月曜日 13～14時	小塚:f-kodama@hirosaki-u.ac.jp	なし
327	327	人文社会科学部	【教職】公民科教育法(Curriculum and Instruction in Civics)	3	教職関係科目	2	前期	木曜日9・10時限	篠塚 明彦(教育学部)	–	レベル3	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	高校公民科の目標・内容・方法への理解を深めるとともに、公民科授業の教材研究や授業づくりについての基礎的な能力を身につける。	まず公民科の成立とその展開・課題を代表的な実践の検討も交えながら理解を深めます。その後、模擬授業とその後の省察を通じて指導計画・指導内容の検討といった授業づくりの実際について学んでいきます。	1. オリエンテーション、グループ分け 2. 公民科の成立と学習指導要領の変遷 3. 過去の実践に学ぶ 4. 公民科の課題 5. 教科書の役割と授業づくり 6. 教材の選定と教材研究 7. 授業の導入と展開 8. 授業方法の実際 9. 模擬授業:現代社会(1)現代社会の諸課題 10. 模擬授業:現代社会(2)社会と個人 11. 模擬授業:政治経済(3)政治分野 12. 模擬授業:政治経済(4)経済分野 13. 模擬授業:倫理(1)青年期の課題 14. 模擬授業:倫理(2)現代と倫理 15. 振り返りとまとめ 受講者数によっては予定が変更になることがあります。	・受講者間での意見交流の機会を多く設ける予定です。そこで指摘されたことを通じて、自身の授業づくりを改善するようにしてください。	教育学関連	–	–	実務教員	・文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民科編』 ・その他、授業内で適宜、資料を配布します。	・二谷貞夫他編『中等社会科ハンドブック』(学文社) ・その他、授業の進行に合わせて適宜紹介します。	平常点と模擬授業への取り組み、提出物によって総合的に評価します。	講義	講義と演習(グループ学習)によって進めていきます。	・他の受講生の授業から学べる点、気付くことが多々ありますので、模擬授業担当ではない回も自身の授業と比較しながら積極的姿勢で臨んで下さい。	水曜日10－11時	a-shino@hirosaki-u.ac.jp	なし
328	328	人文社会科学部	【教職】社会科授業構成論II(Structural Theory of Social Studies Education II)	3	教職関係科目	2	後期	火曜日3・4時限	篠塚 明彦(教育学部)	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	・中学校社会科の基礎的な教材研究力と指導技術を習得する。 ・社会科授業を分析する力を習得するとともに、教科指導における自己の成長と課題を把握する。	・中学校社会科の教材研究と指導計画の立案、授業の省察検討を、中学校Tuesday実習と関連付けながら行っていきます。 この授業では特に「凍結」に焦点化し、各分野の専門的知見をいかに社会科授業へ生かすか、生徒たちにとって意義ある学習は何かを、具体的な授業づくりを通じて学んでいきます。	1. オリエンテーション・教材研究Ⅰ(指導内容の立案) 2. 教材研究Ⅱ(学習指導案の完成) 3. 模擬授業:凍結塗り 4. 模擬授業:継ぎみ 5. 模擬授業:ローカル鉄道 6. 模擬授業:地域医療 7. 模擬授業:学校給食会 8. 模擬授業:東北の自然環境 9. 模擬授業:民次郎一揆 10. 模擬授業:菊池九郎 11. 模擬授業:施策第8師団 12. 模擬授業:まつり 13. 模擬授業:凍結三味線 14. 社会科の評価と試験問題 15. 振り返りとまとめ ＊3～7回は、中学校T実習と関連したテーマとなる。8～10回はその他の受講生(小学校実習、人文学部生)向けのテーマとなる。 ＊受講者数によっては、授業計画が変更することもある。	・各グループにテーマを割り振り、共同で教材開発と授業づくりを進めます。授業内で進まない場合は、班員で適宜、集まって作業を進めてください。	教育学関連	–	–	実務教員	文部科学省『中学校社会科学習指導要領解説』	・グループごとに担当教員を訪問し、各資料の提供および指導案への助言を受けてください。	・平常点、提出物、模擬授業によって総合的に評価します。	講義	・模擬授業を中心に演習形式で進めます。	・他者と協同して授業づくりを進めることも、この授業の大切な狙いの一つです。グループ活動に積極的に参加してください。	水曜日10－11時(篠塚) 月曜日13－14時(小塚)	a-shino@hirosaki-u.ac.jp f-kodaka@hirosaki-u.ac.jp	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名【英文名】	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
329	329	人文社会科学部	【教職】社会科地理歴史科授業構成論(Structural Theory of Geography and History Education)	3	教職科目	2	前期	火曜日3・4時限	小瑶史朗 篠塚明彦	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	・中学生の関心や発達特性を踏まえた授業を創造することができる。 ・教科書および資料集以外の文献やデータを活用して授業づくりを進めることができる。 ・教科指導に関わる自己の成長と課題を把握する。	社会科の発展的な授業づくりに取り組みます。Tuesday実習での授業観察を基盤にして、中学生の発達特性・社会認識を踏まえた授業づくりを進めます。また、最新の人文・社会諸科学の知見を積極的に活用して、教科書・資料集に依存しない授業を開発します。後半では、後期Tuesday実習に向けて地域学習に関する基礎的作業に取り組みます。	1. オリエンテーション 2. 教材研究Ⅰ(学習内容の検討) 3. 教材研究Ⅱ(資料収集と指導計画の立案) 4. 教材研究Ⅲ(学習指導案の完成) 5. 模擬授業:歴史的分野Ⅰ アイヌ文化 6. 模擬授業:歴史的分野Ⅱ 日本国憲法制定史 7. 模擬授業:地理的分野Ⅰ 自然災害と防災 8. 模擬授業:地理的分野Ⅱ ネパール 9. 模擬授業:公民的分野Ⅰ 家族 10. 模擬授業:公民的分野Ⅱ エスニシティ 11. 模擬授業:公民的分野Ⅲ 政治参加 12. 模擬授業:公民的分野Ⅳ グローバル化 13. 社会科の地域学習と地域調査 14. 地域調査の計画づくり 15. フィールド調査 16. まとめ	Tuesday実習での授業観察の成果を取り入れるべく授業づくりを進めるよう心掛けてください。 教科専門科目を担当されている先生方に助言をもらい、学問研究の成果を取り入れるよう心掛けてください。	教育学関連	歴史学関連	社会学関連	–	中学校の教科書・資料集はこちらで準備します。	各自に割り当てられたテーマに関連する文献を、担当教員が紹介します。また、各自で必要となる文献・資料を収集してください。これらを活用しながら発展的な授業づくりを進めていきます。	演習への参加状況と提出物(学習指導案、レポート)によって総合的に評価します。	講義	講義及び演習方式	歴史学・地理学・政治学・社会学を担当している先生方にも積極的に助言をもらうよう心掛けてください。	小瑶:月曜日 13～14時	小瑶:f-kodama@hirosaki-u.ac.jp 篠塚:a-shino@hirosaki-u.ac.jp	特になし
330	330	人文社会科学部	【教職】社会科公民科授業構成論(Structural Theory of Civics Education)	3	教職関連科目	2	後期	火曜日3・4時限	篠塚明彦 小瑶史朗	–	レベル3	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	・中学校社会科の基礎的な教材研究力と指導技術を習得する。 ・社会科授業を分析する力を習得するとともに、教科指導における自己の成長と課題を把握する。	・中学校社会科の教材研究と指導計画の立案、授業の省察検討を、中学校Tuesday実習と関連付けながら行っていきます。 この授業では特に「津軽」に焦点化し、各分野の専門的知見をいかに社会科授業へ生かすか、生徒たちにとって意義ある学習は何かを、具体的な授業づくりを通じて学んでいきます。	1. オリエンテーション・教材研究Ⅰ(指導内容の立案) 2. 教材研究Ⅱ(学習指導案の完成) 3. 模擬授業:津軽塗り 4. 模擬授業:樹きみ 5. 模擬授業:ローカル鉄道 6. 模擬授業:地域医療 7. 模擬授業:学校統廃合 8. 模擬授業:東北の自然環境 9. 模擬授業:民次郎一揆 10. 模擬授業:菊池九郎 11. 模擬授業:陸軍第8師団 12. 模擬授業:まつり 13. 模擬授業:津軽三味線 14. 社会科の評価と試験問題 15. 振り返りとまとめ ＊3～7回は、中学校Ⅰ実習と関連したテーマとなる。8～10回はその他の受講生(小学校実習、人文学部生)向けのテーマとなる。 ＊受講者数によっては、授業計画が変更することもある。	・各グループにテーマを割り振り、共同で教材開発と授業づくりを進めます。授業内で進まない場合は、班員で連絡、集まって作業を進めてください。	教育学関連	–	–	実務教員	文部科学省『中学校社会科学習指導要領解説』	・グループごとに担当教員を訪問し、各資料の提供および指導案への助言を受けてください。	・平常点、提出物、模擬授業によって総合的に評価する。	講義	・模擬授業を中心に演習形式で進めます。	・他者と協同して授業づくりを進めることも、この授業の大切な狙いの一つです。グループ活動に積極的に参加してください。	水曜日10―11時(篠塚) 月曜日13―14時(小瑶)	a-shino@hirosaki-u.ac.jp f-kodaka@hirosaki-u.ac.jp	特になし
331	331	人文社会科学部	【教職】英語科教育法(English Language Teaching)	2	教職関係科目	2	前期	水曜日3・4時限	野呂徳治(教育学部)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力	英語教育の目的・目標・方法・内容について、その歴史的変遷を踏まえて理解を深めると共に、我が国における学校英語科教育の現状と課題、展望について実践的理解を深めることを目標とする。	英語教育の目的・目標・方法・内容について、学習指導要領を参照しながら概観し、これまで提案された外国語教授法について、その歴史的変遷を踏まえて理解を深めると共に、外国語コミュニケーション能力とその育成のあり方について検討する。その上で、我が国における学校英語科教育の現状と課題、展望について実践的理解を深める。	1回目:授業ガイダンス、英語教育の目的(1) 2回目:英語教育の目的(2) 3回目:学習指導要領にみる英語科の目標と内容(1) 4回目:学習指導要領にみる英語科の目標と内容(2) 5回目:外国語教授法(1) 6回目:外国語教授法(2) 7回目:外国語教授法(3) 8回目:中間試験 9回目:外国語教授法(4) 10回目:外国語教授法(5) 11回目:原理・原則に基づく外国語の指導(1) 12回目:原理・原則に基づく外国語の指導(2) 13回目:外国語コミュニケーション能力とその育成(1) 14回目:外国語コミュニケーション能力とその育成(2) 15回目:英語科教育の現状と課題 16回目:期末試験 なお、授業の進行状況等により上記の授業内容が異なる場合がある。	外国語教育並びに我が国の学校英語科教育について参考資料等を参照しながら理解を深めるとともに、授業で課されるパレポートや課題に取り組む。	教育学関連	言語学関連	–	–	望月昭彦(編著)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法第3版』(大修館書店) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語・外国語活動編』(開隆館出版) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』(開隆堂) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編』(開隆堂)	授業時に適宜指示する。	授業中の学習への取り組み、小レポート、課題、試験(中間試験・期末試験)等を基に総合的に評価する。	講義	講義	英語科における学習指導、授業のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。	水曜日5・6時限	Eメールアドレス. norotoku@hirosaki-u.ac.jp	特にありません。
332	332	人文社会科学部	【教職】英語科授業論(English Language Teaching Theory)	2	教職関係科目	2	後期	水曜日3・4時限	佐藤 剛(教育学部)	–	レベル2	CP・DP 3 学び続ける力	○学習指導要領の意義と意味を理解しそれを踏まえた学習指導案を作成すること ○作成した指導案をもとに、グループによる模擬授業実践を実践すること ○自分の授業実践とクラスメイトの模擬授業の観察から専門的な視点から授業分析をすること	○絵読みなど英語教師にとって必要となるスキルを練習し、習得する ○英語科における授業設計、授業実践、授業分析の方法について実践的学ぶ ○一単元分の指導案を作成する ○指導案に基づき、グループでマイクロティーチングを行い、省察する	1回目:授業ガイダンス、英語教育の目的と目標 2回目:モデル授業の観察と検討(1) 3回目:学習指導要領に見る英語科の目標と内容 4回目:四観点と単元の評価計画の立て方 5回目:授業設計(Warm-up) 6回目:授業設計(言語材料を扱うパート) 7回目:授業設計(教科書本文を扱うパート) 8回目:授業設計(応用・発展的な活動) 9回目:指導案作成(単元の目標と生徒の実態・教材観・指導観) 10回目:指導案作成(単元の指導計画) 11回目:指導案作成(グループによる検討) 12回目:マイクロティーチング(グループ1&2) 13回目:マイクロティーチング(グループ3&4) 14回目:マイクロティーチング(グループ5&6) 15回目:マイクロティーチング(グループ7&8) ※授業の進行状況により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	各回の授業について、以下の予習および復習を実施してください。(予習・復習は最低でも各1時間以上行う必要があります) 予習 ・じゃれマガ http://catchawave.jp/jm/に登録し、クラス全員の教で堂々と音読できるように練習してください。(授業のはじめ10分を使用して、音読のチェックを行います) ・指定されたテキストの範囲を、「読かに説明できるくらいの理解」まで読み込んでください。 復習 ・授業の感想を、その週の金曜日12:00	教育学関連	–	–	–	本多敏幸(著)『若手英語教師のためのよい授業をつくる30章』(教育出版) 望月昭彦(編)『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(大修館書店) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(東洋館出版社) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)	授業中適宜紹介します。	1. 平常評価:20%(授業への参加度、毎回の音読テストと授業の感想に基づく。単なる出席回数ではない) 2. 指導案:40% 3. マイクロティーチング:30% 4. Self Study:10%(研修会への参加、文献研修などと授業外での学習) 上記を合算し、	講義	①教官による講義により理論的な理解を深める ②作成した指導案をペアやグループディカッションで検討したり、グループによるマイクロティーチングを行うことで、実践力の育成を図ること の2点が授業の中心になります。	・ビデオで見る授業や、クラスメイトの模擬授業について理論的な視点からコメントやディスカッションができるように、主体的に授業に参加すること。 ・普段から多くの専門書をはじめ新聞・ネット・テレビなど「英語教育」に関する情報にアンテナを張り、その動向に関心を持っておくこと。 ・授業内外で紹介される研修会等に積極的に参加し、教員となるための資質向上に自主的に取り組むこと。 ・わからない・自信がないことはそのままにせず、その週のうちに質問に来るなどして解	月曜日:12:40～14:10 金曜日:12:40～14:10	satotsuyo＊hirosaki-u.ac.jp(＊を@に置き換えてください)	http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/cybouz/db.exe?page=DBRecord&id=1988&vid=718&rid=2823&text=%8D%B2%93%A1%81%40%8D%8A&Head=&hid=&aid=n&rev=0&ssid=

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(13)対応するCP/DP	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(19)実務経験のある教員による授業科目について	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
																までにメールで送付すること。 ・クラス全員の前で堂々とマイクロティーチングをすることができるように、教材の準備および練習をすること。					説 外国語編」(開隆堂) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(開隆堂)		上記を総合して成績評価を行います。		参加すること。	疑問点をなくしても解決すること。 ・指導案の作成には時間がかかります。早め早めの対応を心掛けるなど計画的に作業を進めること。			
333	333	人文社会科学部	【教職】商業科教育法Ⅰ(Teaching Methods for Commercial Education Ⅰ)	2	教職関係科目	2	前期	木曜日9-10時限	木田 孝夫(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	商業科教員として、高等学校の教理に立って聴することなく授業が出来る実力と対応力をつけることを到達目標とします。	商業教育全般について、商業の体系と各科目の構成やねらいを講義形式で行います。また模擬授業や、学習指導案の作成など、実際に教理に立つことをイメージした実践的な授業を実施します。	1商業教育の必要性と意義 ①高等学校における商業教育の必要性 ②商業教育の意義 2わが国の商業教育の歩み ①新制商業教育の開始まで ②学習指導要領(試案)から平成11年の改訂まで 3新学習指導要領とその理解 ①教育課程の編成方針 ②教科「商業」の理解 ③「総合的な学習の時間」の理解 4各科目の学習内容とそのねらい ①基礎的科目「ビジネス基礎」 指導内容の留意点 ②マーケティング分野 科目構成と目指す学力観 ③ビジネス経済分野 科目構成と目指す学力観 ④会計分野 科目構成と目指す学力観 ⑤ビジネス情報分野 科目構成と目指す学力観 ⑥総合的科目 科目構成と目指す学力観 ※(進捗状況に応じて変更もありえます)	教科書を中心に予習・復習してください。	経営学関連	経済学関連	–	実務教員	教科書:「教職必修 最新商業科教育法 新訂版」実教出版 教材:文部科学省「高等学校学習指導要領解説 商業編」	必要に応じて提示または配布します。	試験の他に、授業での取り組み姿勢、提出課題、出欠状況を含めて総合的に判断します。	講義	教科書等の説明は講義形式ですが、模擬授業では各人が教理に立ち教科指導の実際を学んでもらいます。	なし	授業前後時間帯	kida-takao@m01.asrn.ed.jp	なし
334	334	人文社会科学部	【教職】商業科教育法Ⅱ(Teaching Methods for Commercial Education Ⅱ)	2	教職関係科目	2	後期	木曜日9-10時限	木田 孝夫(非常勤講師)	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力	商業科教員として、高等学校の教理に立って聴することなく授業が出来る実力と対応力をつけることを到達目標とします。	教育課程の編成方法や実際の編成を講義形式で行います。また模擬授業や、学習指導案の作成など、実際に教理に立つことをイメージした実践的な授業を実施します。	1指導計画と授業展開 ①教育課程と学習指導 ②指導計画 ③指導形態と指導方法 ④年間指導計画作成の実際 ⑤学習指導案(授業計画案)作成の実際 ⑥プレゼンテーションと授業 2商業教育と人間形成 ①商業教育を通じて育成したい生徒像 ②商業教育と特別活動 ③商業教育と生徒指導 ④商業教育と進路指導・キャリア教育 3商業科教師への期待 ①新しい時代における教師の在り方 ②商業科教師に期待されること 4商業教育の課題と展望 ①魅力ある商業教育を目指して ②確かな学力の育成 ③商業教育の理解と啓発 ※(進捗状況に応じて変更もありえます)	教科書を中心に予習・復習してください。	経営学関連	経済学関連	–	実務教員	教科書:「教職必修 最新商業科教育法 新訂版」実教出版 教材:文部科学省「高等学校学習指導要領解説 商業編」 (教科書、教材は商業科教育法Ⅰで使用したもの)	必要に応じて提示または配布します。	試験の他に、授業での取り組み姿勢、提出課題、出欠状況を含めて総合的に判断します。	講義	教科書等の説明は講義形式であるが、模擬授業では各人が教理に立ち教科指導の実際を学んでもらう。	なし	授業前後時間帯	kida-takao@m01.asrn.ed.jp	なし
335	335	人文社会科学部文化創生専攻多文化共生コース	歴史基礎論B(2)(The Basics of History B)	2	選択必修	2	前期	水曜日5-6時限	林 明	–	レベル2	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 3 学び続ける力	インド史を学ぶ中で、人間や世の中の動きを見通す力を身に着けること インド史を学ぶことを含っかけにして、視野を大きく広げ色々な知の世界に好奇心を抱き、常に学び続ける姿勢を身に着けること	高校までのインド史は、事項の羅列が中心で、また細切れでした。それではインド史は理解できません。この授業では、インド史をどのように理解したらいいのかを講義します。諸民族・諸宗教の相剋と共存、思想・宗教がインド史の展開において果たした重要な役割に力点を置きながら、インド史を講義します。	第1回 ガイダンス インド史の特徴 インドにおける諸民族・諸宗教 第2回 インダス文明とそのインド史上における意味 第3回 ガンジス文明とバラモン教 第4回 仏教の成立とウパニシャッド哲学 第5回 中間試験(1)30分・マウリヤ朝 第6回 マウリヤ朝とその後のインド 仏教とヒンドゥー教 第7回 グプタ朝とヒンドゥー文化 第8回 ヒンドゥー諸王国とヒンドゥー教の展開 第9回 デリー・スルタン朝とイスラーム教 第10回 ムガル帝国の発展 第11回 中間試験(2)30分・ムガル帝国の瓦解理由 第12回 ヨーロッパ勢力の進出 第13回 イギリス植民地支配と分割統治 第14回 イギリス植民地支配とインドの社会改革 第15回 イギリス植民地支配への抵抗 第16回 期末試験60分	【予習】教科書で、各回の授業内容に沿った部分を読んでおくこと。 【復習】毎回の授業のノートをよく読んでおくこと。授業中に説明された歴史事項は、関連する部分について教科書を読んでおくこと。授業中の分からない語句は、辞書を引き調べておくこと。また、授業内容に関連する参考文献などを読んでおくと更に理解が深まります。	歴史学関連	–	–	–	辛島昇編『南アジア史(新版世界各国史7)』(山川出版社、2004年)	山崎元一・小西正捷編『世界歴史大系 南アジア史1 先史・古代』(山川出版社、2007年) 小谷汪之編『世界歴史大系 南アジア史2 中世・近世』(山川出版社、2007年) 辛島昇編『世界歴史大系 南アジア史3 南インド』(山川出版社、2007年)	中間試験(1)20%、中間試験(2)20%、期末試験60%によって評価します。	講義	講義によって進めます。板書をします。場合によっては、パワーポイント、映像資料、プリント等も活用します。	特になし	水曜日15時～16時	Eメールアドレス akirah(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えて下さい。	–